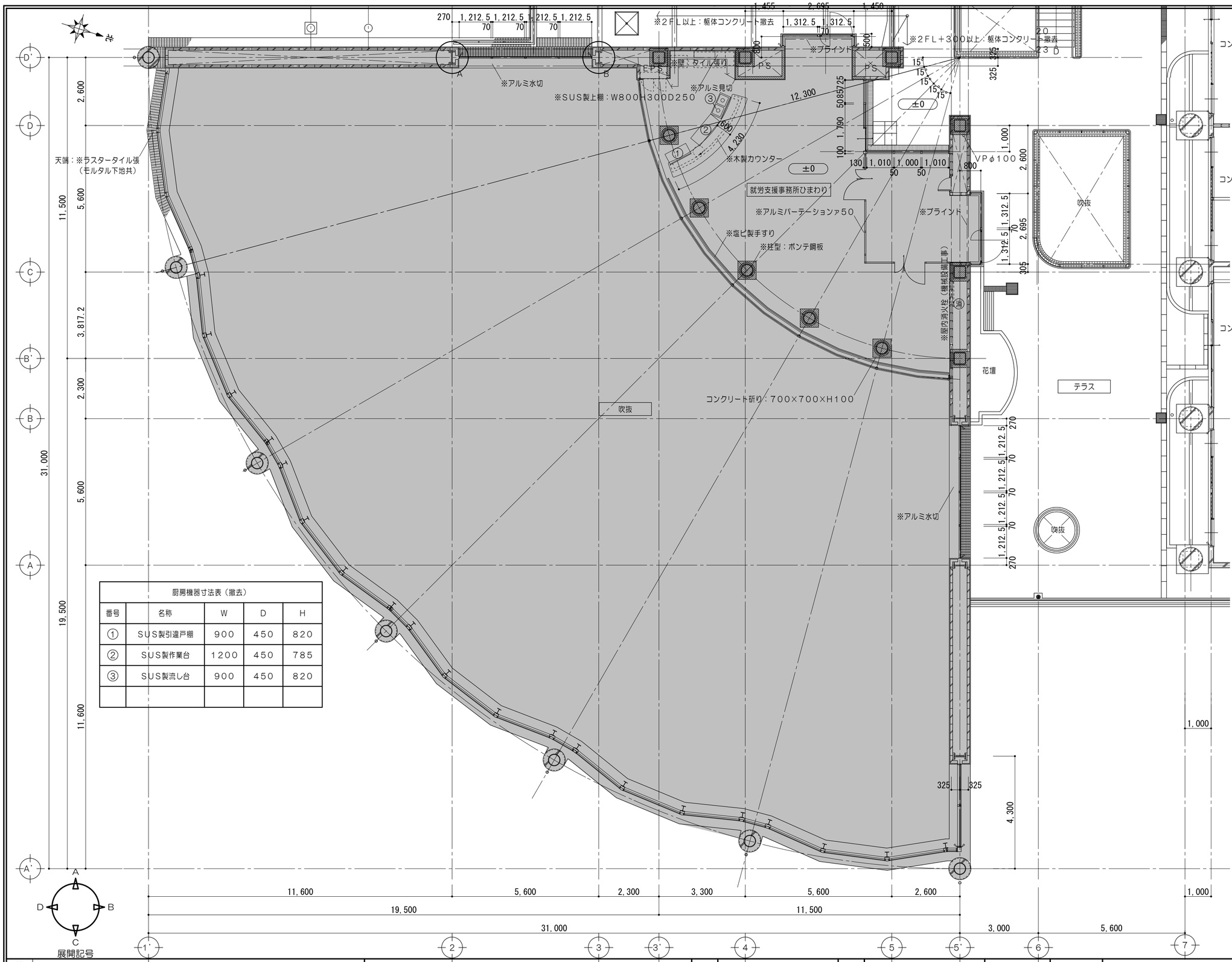
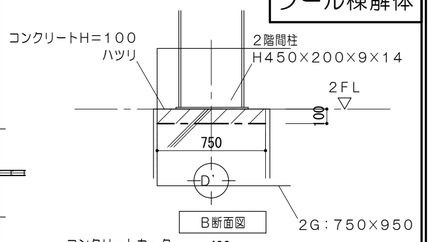
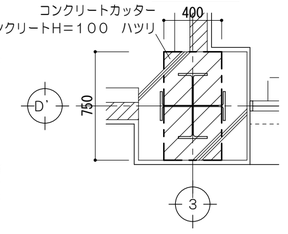
プール棟解体



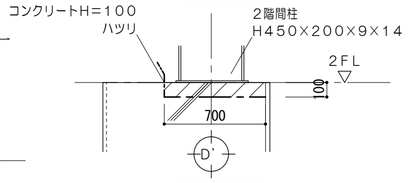
厨房機器寸法表（撤去）				
番号	名称	W	D	H
①	SUS製引違戸棚	900	450	820
②	SUS製作業台	1200	450	785
③	SUS製流し台	900	450	820



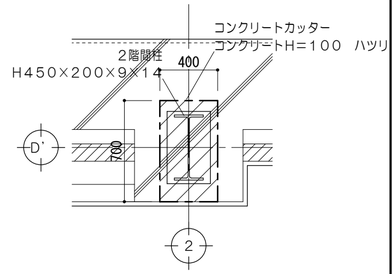
B断面図



B平面図



A断面図



A平面図

2階間柱撤去詳細図 1/30

凡　例	
±0	一般FLからの床仕上高さを示す
	解体部分を示す（着色部分は全て撤去、着色外は下記凡例による）
	コンクリート壁撤去を示す（建具共）
	コンクリートブロック壁撤去を示す（建具共）
	LGS壁撤去を示す
	ALC壁撤去を示す
——－——	コンクリートカッター切を示す
----------	モルタルカッター切を示す
※	解体撤去を示す

2階平面詳細図 1/100

展開記号

特記事項										
	一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-242
		担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 2階平面詳細図	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

プール棟解体

※笠木：アルミ製（シルバー）
※谷樋：ステンレスァ１．０　曲げ加工
※タラップ：SUS製H2150
※タラップ：SUS製H2150
※脱気筒
屋外機械スペース
立上り形状D
※タテ引きドレン
※庇：コンクリート製　ウレタン塗膜防水塗
※陸屋根：防水モルタル金コテの上ウレタン塗膜防水塗（X－１工法）
立上り形状E
※笠木：アルミァ２．０　シルバー
※脱気筒
※笠木：アルミ製（シルバー）
※屋根：ステンレス防水ァ０．４（三次曲面）溶接工法　フッ素樹脂塗装
アスファルト防水
イソシアヌレートフォーム（曲面アルミホイル張硬質ウレタン系断熱ボード）ァ２０
ゴムシートァ１．０
高圧木毛セメント板ァ２０（アクリル系塗装吹付）
※谷樋：ステンレスァ１．０　曲げ加工
※笠木：アルミ製（シルバー）
集水桝：（外部）ステンレスァ１．５曲げ加工
W400D350H400
（内部）ステンレスァ１．０（既製品）

D部詳細図　1/50

E部詳細図　1/50

F部詳細図　1/50

G部詳細図　1/50

機械基礎寸法表（撤去）

番号	W	D	H	立上り形状
①	1680	720	500	A
②	2470	700	500	A
③	2450	1400	500	A
④	2450	700	500	A
⑤	1720	700	500	A
⑥	1680	1250	470	B
⑦	1480	600	510	C
⑧	1480	600	510	C

立上りA

立上りB

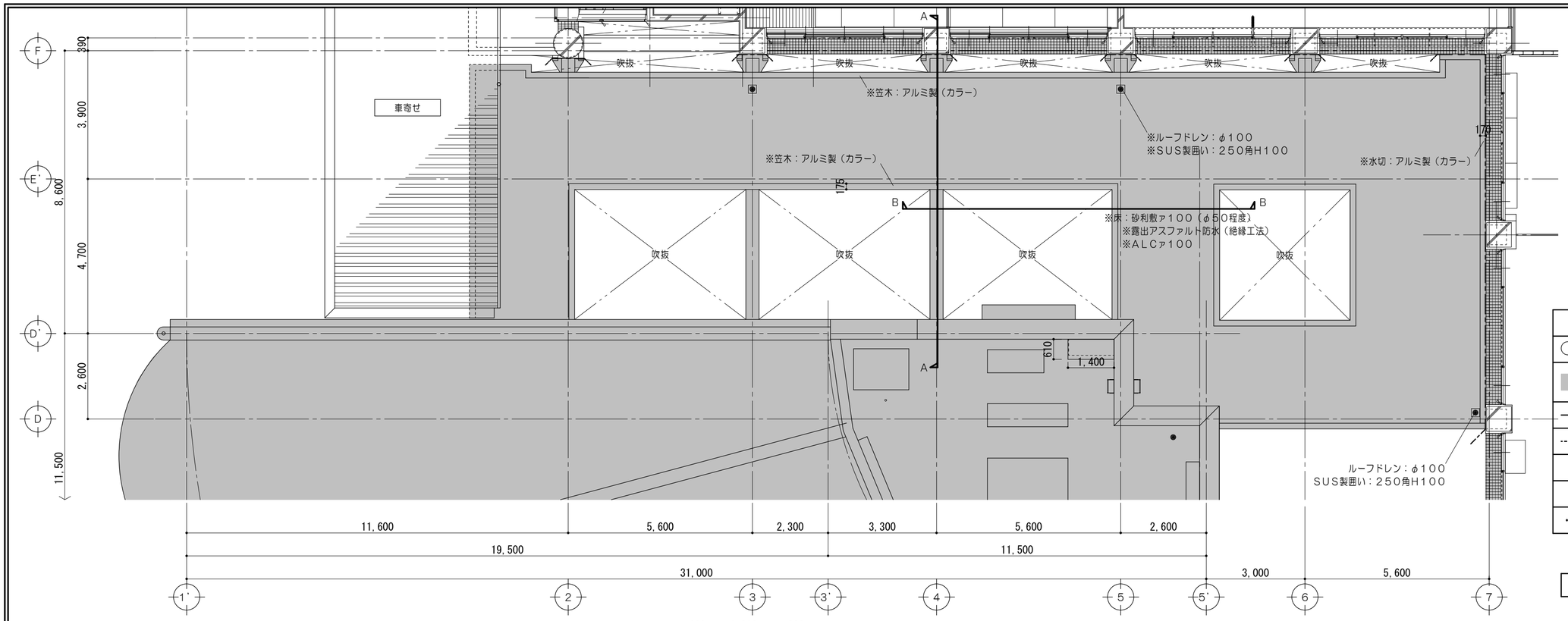
立上りC

凡　例	
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す
	解体部分を示す（着色部分は全て撤去、着色外は下記凡例による）
― － ―	コンクリートカッター切を示す
----------	モルタルカッター切を示す
※	解体撤去を示す

３階平面詳細図No.１　1/100

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-243
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 ３階平面詳細図No.１	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

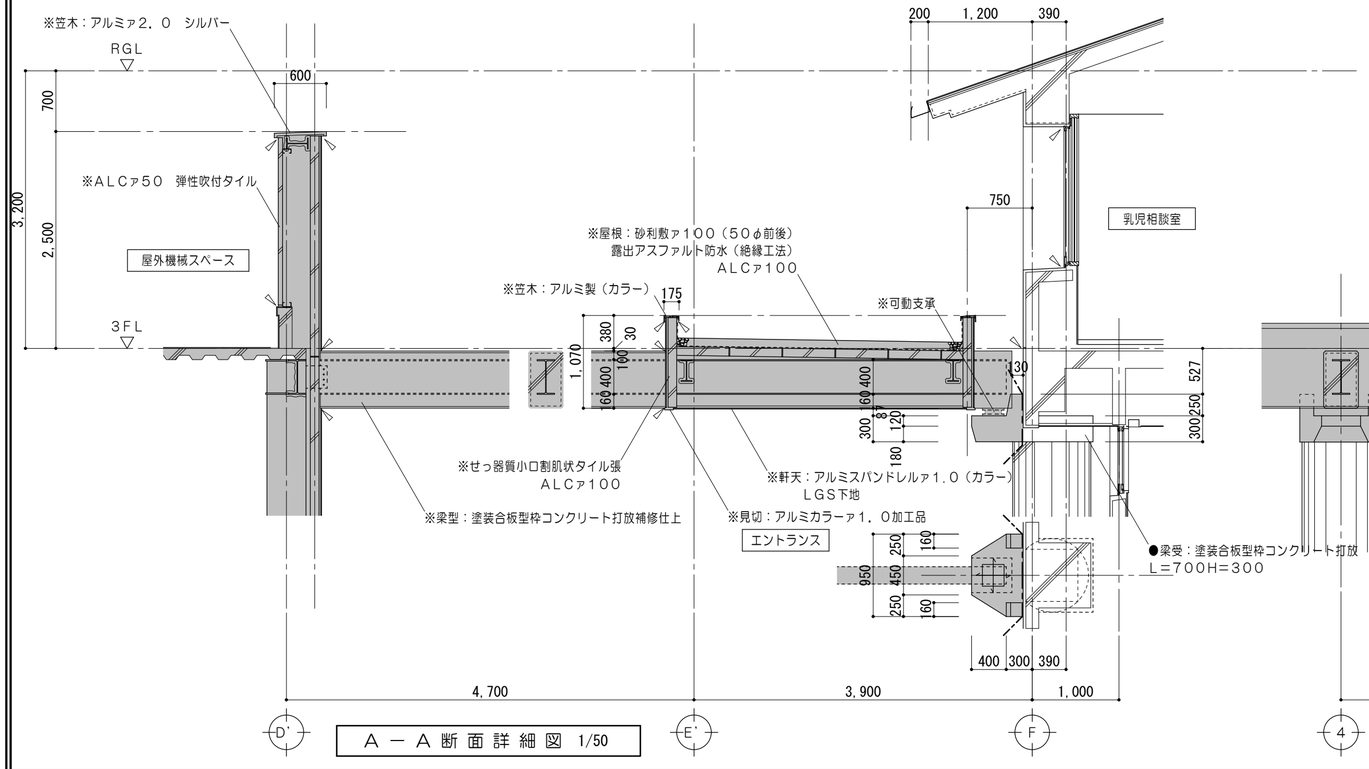
プール棟解体



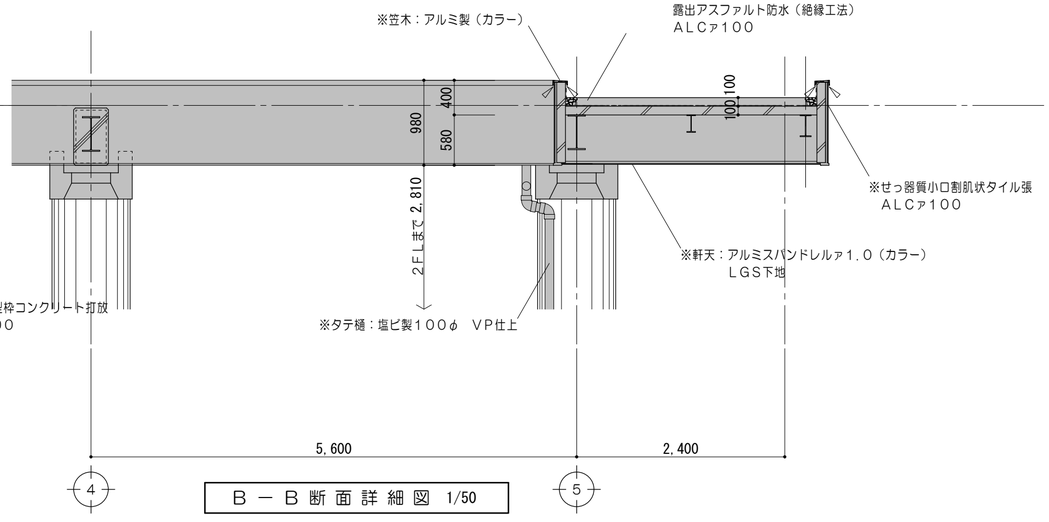
凡　例	
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す
	解体部分を示す （着色部分は全て撤去、 着色外は下記凡例による）
― ― ―	コンクリートカッター切を示す
----------	モルタルカッター切を示す
※	解体撤去を示す
●	既設のままを示す

・床の砂利敷については、撤去後プール東面通路にて再利用する。

３階平面詳細図№.２　1/100



Ａ－Ａ断面詳細図　1/50

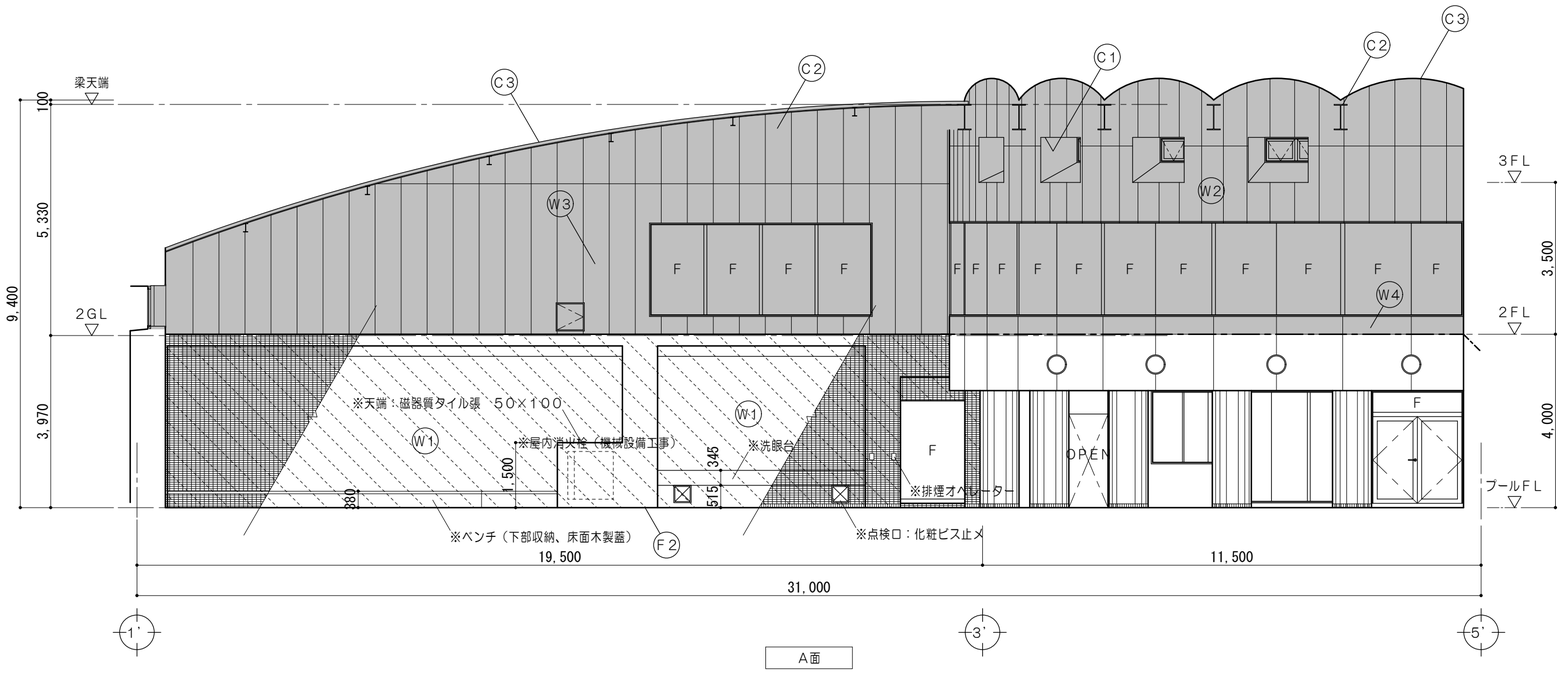


Ｂ－Ｂ断面詳細図　1/50

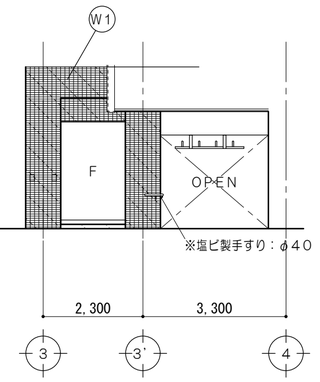
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-244
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 ３階平面詳細図No.２、断面詳細図	縮尺	A2：1/100、50 A3：1/141、71

1階プール

プール棟解体

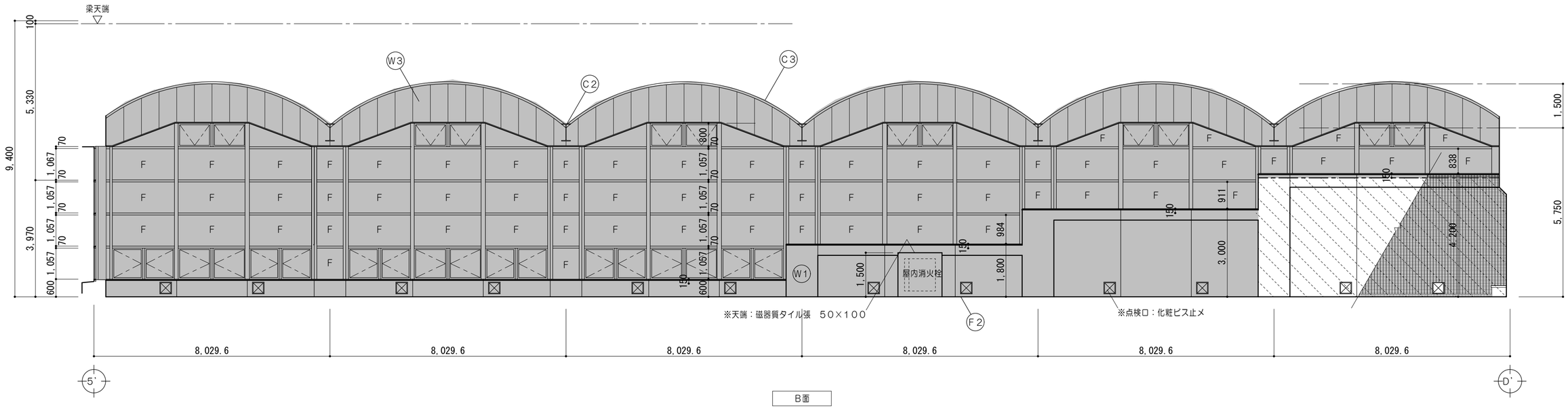


A面



シャワー入口

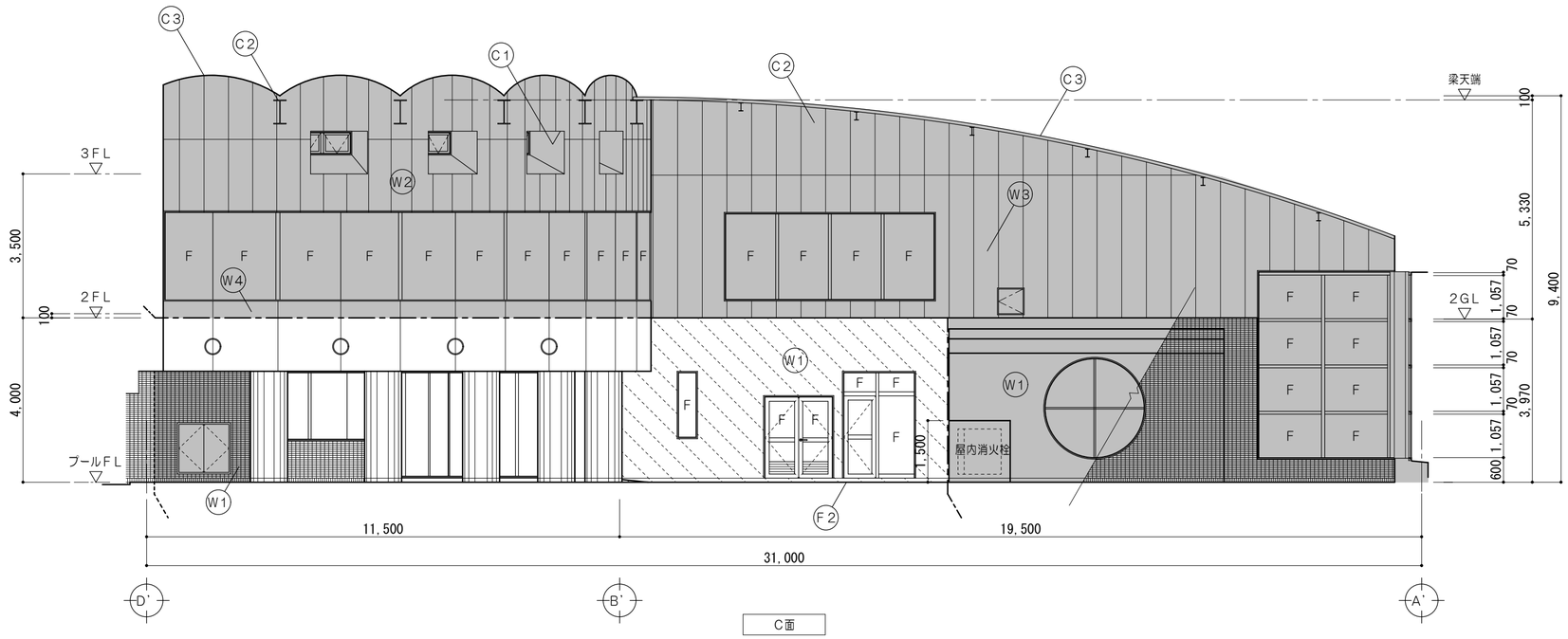
凡　例		
F1	床　：	プール用磁器タイル張　100×200 モルタル下地
F2	床　：	プールサイド用磁器タイル張　100×200 モルタル下地
F3	床　：	ビニル床シート張 モルタル金コテ押エ
FW1	巾木：	ビニル巾木　H=60
W1	壁　：	磁器質二丁掛タイル張　50×100 モルタル下地
W2	壁　：	弾性吹付タイル ALCァ50　LGS下地
W3	壁　：	弾性吹付タイル ALCァ100　鉄骨下地
W4	壁　：	弾性吹付タイル コンクリート打放補修
W5	壁　：	内装用吹付タイル　PBァ12．5 LGS下地
W6	壁　：	陶器質100角タイル張 モルタル下地
C1	天井：	ケイカル板ァ6　VP LGS下地
C2	天井：	鉄骨表シ塗装仕上 （亜鉛メッキ筋錆処理）
C3	天井：	高圧木毛セメント板ァ20 アクリル系塗装吹付
C4	天井：	ケイカル板ァ6　内装用吹付タイル LGS下地
	解体部分を示す	
	仕上材・下地材　撤去範囲を示す	
— — —	コンクリートカッター切を示す	
----------	モルタルカッター切を示す	
※	解体撤去を示す	



B面

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-245
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 1階展開図No.1（プール室）	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

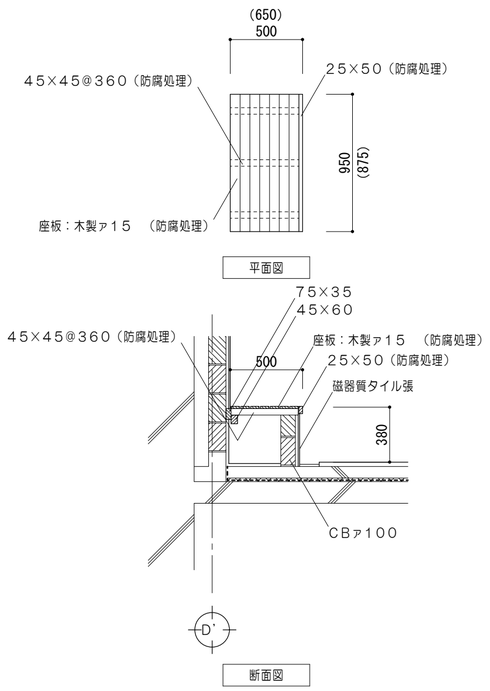
プール棟解体



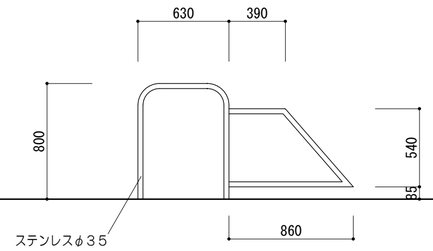
C面

凡　例		
F1	床 ：	プール用磁器タイル張　100×200 モルタル下地
F2	床 ：	プールサイド用磁器タイル張　100×200 モルタル下地
F3	床 ：	ビニル床シート張 モルタル金コテ押エ
FW1	巾木：	ビニル巾木　H＝60
W1	壁 ：	磁器質二丁掛タイル張　50×100 モルタル下地
W2	壁 ：	弾性吹付タイル ＡＬＣァ50　ＬＧＳ下地
W3	壁 ：	弾性吹付タイル ＡＬＣァ100　鉄骨下地
W4	壁 ：	弾性吹付タイル コンクリート打放補修
W5	壁 ：	内装用吹付タイル　ＰＢァ12．5 ＬＧＳ下地
W6	壁 ：	陶器質100角タイル張 モルタル下地
C1	天井：	ケイカル板ァ6　ＶＰ ＬＧＳ下地
C2	天井：	鉄骨表ジ塗装仕上 （亜鉛メッキ防錆処理）
C3	天井：	高圧木毛セメント板ァ20 アクリル系塗装吹付
C4	天井：	ケイカル板ァ6　内装用吹付タイル ＬＧＳ下地
		解体部分を示す
		仕上材・下地材　撤去範囲を示す
— － —		コンクリートカッター切を示す
----------		モルタルカッター切を示す
※		解体撤去を示す

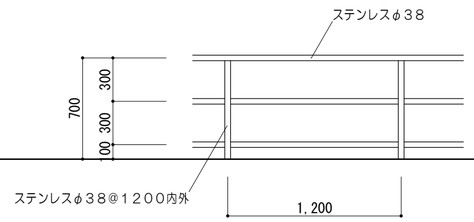
プール室ベンチ詳細図　1/30



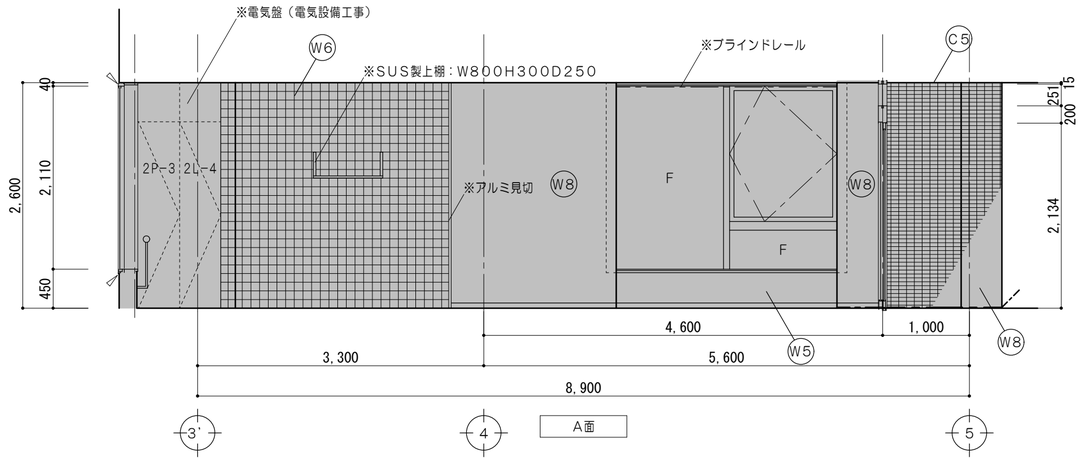
ジャグジー手すり詳細図　1/30

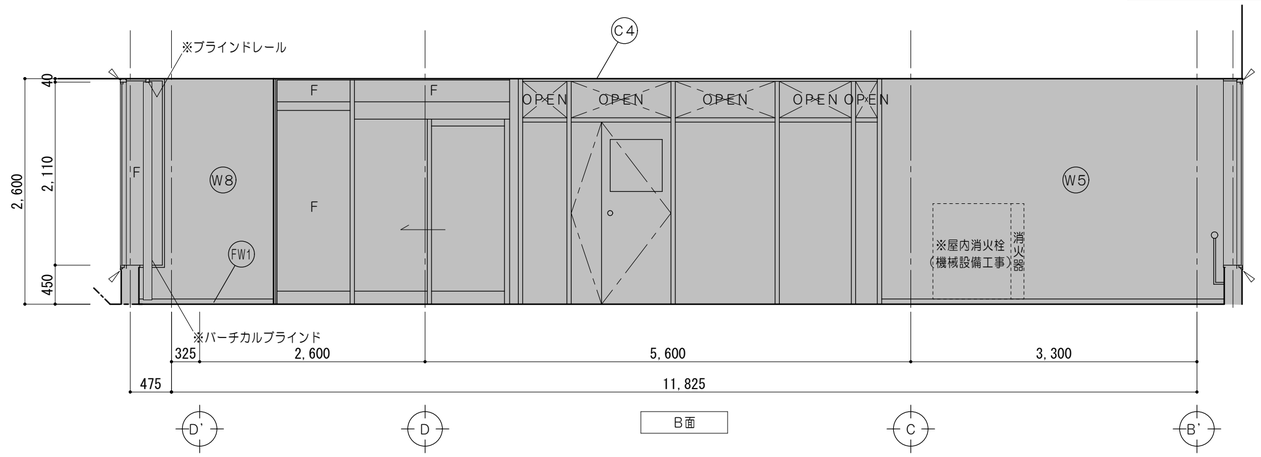


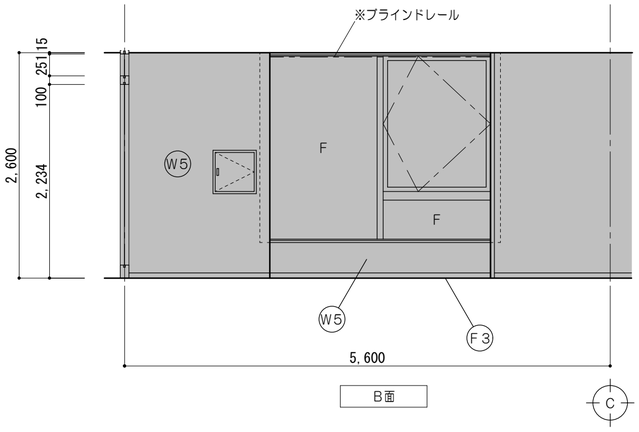
スロープ手すり詳細図　1/30

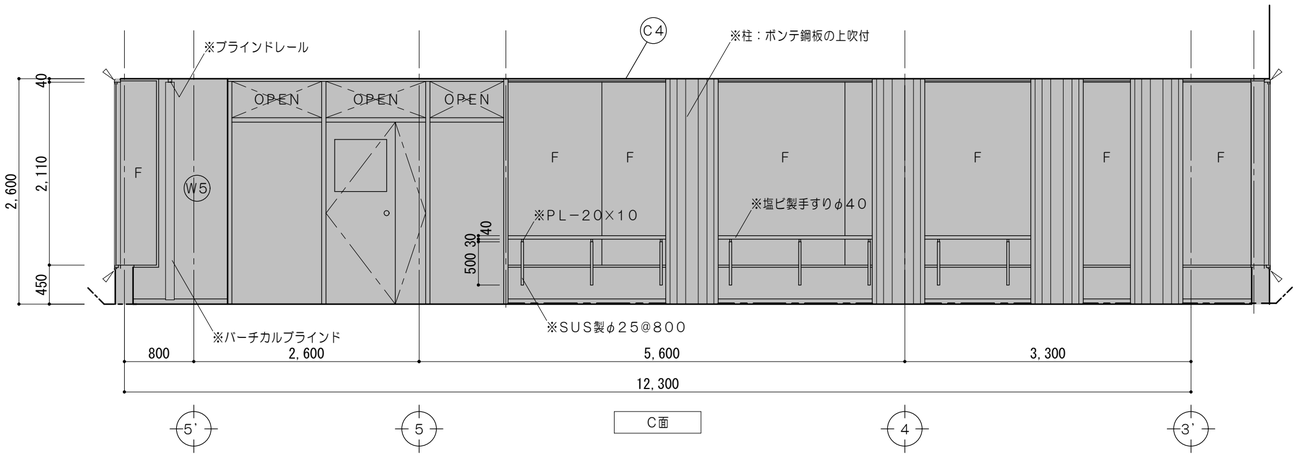


特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-246
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 １階展開図No.２（プール室）	縮尺	A2：1/100、30 A3：1/142、42

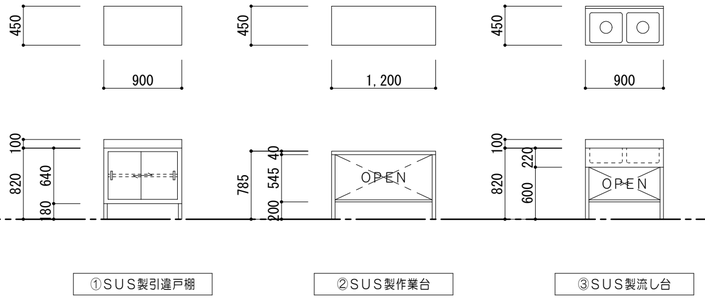




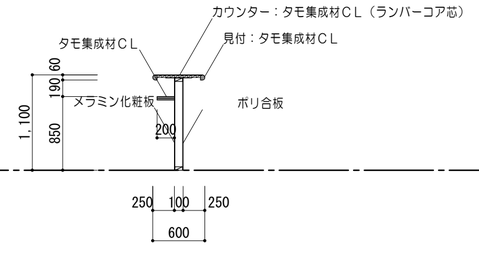




厨房機器詳細図　1/50



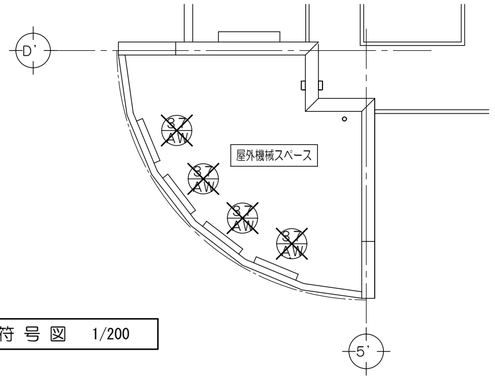
木製カウンター詳細図　1/50



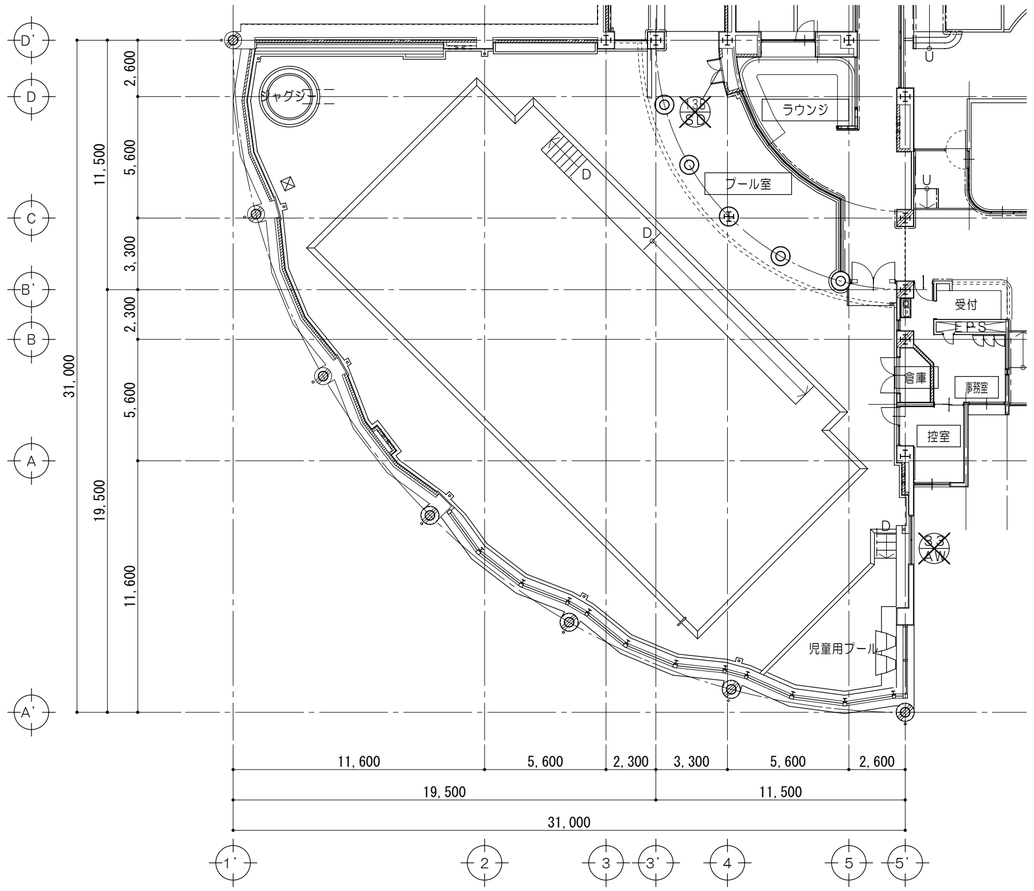
凡　例		
F3	床 ：	ビニル床シート張 モルタル金コテ押エ
FW1	巾木：	ビニル巾木　H＝６０
W5	壁 ：	内装用吹付タイル　PBァ１２．５ ＬＧＳ下地
W6	壁 ：	陶器質１００角タイル張 モルタル下地
W7	外壁：	４５二丁掛ラスタータイル張 ＡＬＣァ１００
W8	壁 ：	内装用吹付タイル　PBァ１２．５ ＣＢ下地
C4	天井：	ケイカル板ァ６　内装用吹付タイル ＬＧＳ下地
C5	天井：	アルミスパンドレルァ１．０ ＬＧＳ下地
	解体部分を示す	
	仕上材・下地材　撤去範囲を示す	
― － ―	コンクリートカッター切を示す	
----------	モルタルカッター切を示す	
※	解体撤去を示す	

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-247
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 ２階展開図（就労支援事業所ひまわり）	縮尺	A2：1/50 A3：1/71

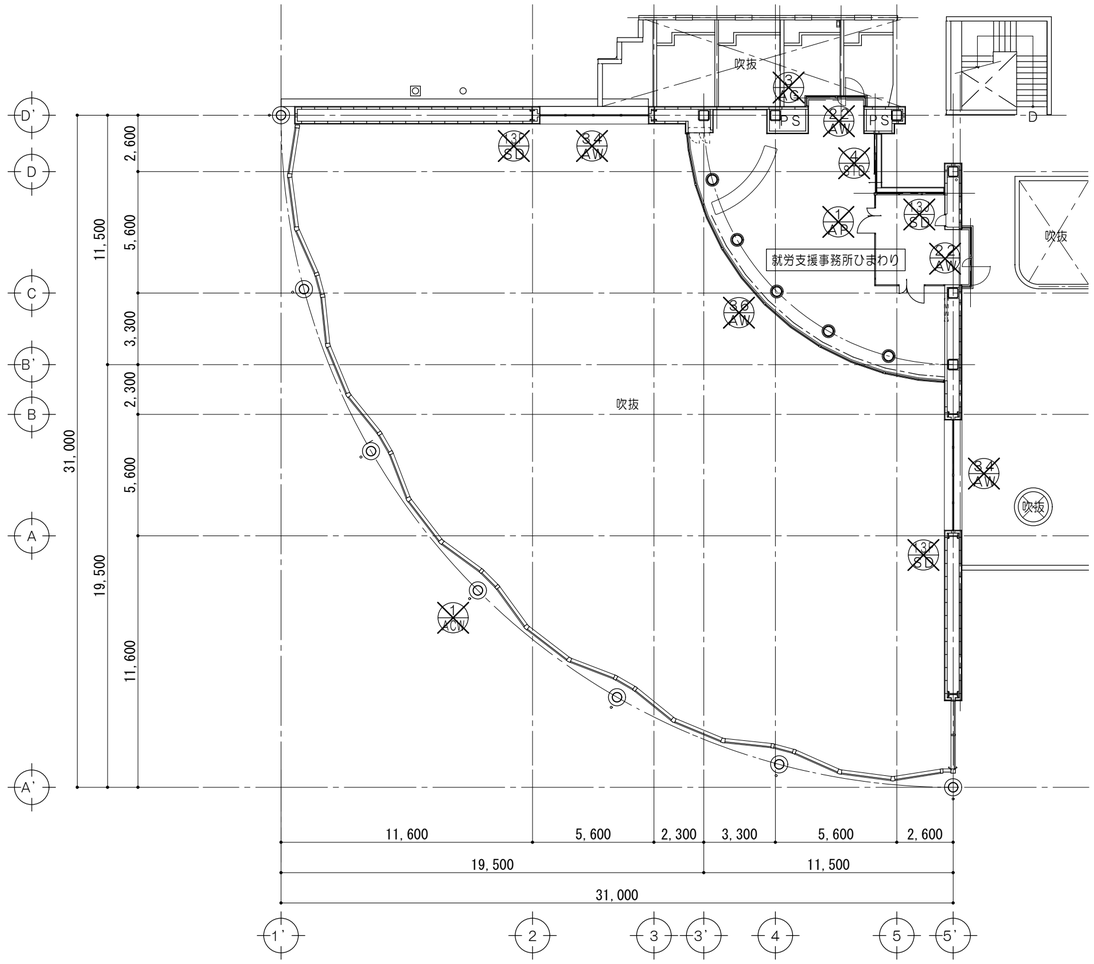
プール棟解体



3 階 建 具 符 号 図　1/200



1 階 建 具 符 号 図　1/200



2 階 建 具 符 号 図　1/200

凡 例	
⊗	撤去建具を示す

外部に面する建具は、
・建具周りシーリング（外部）撤去
・ガラス周りシーリング（内部・外部）撤去

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

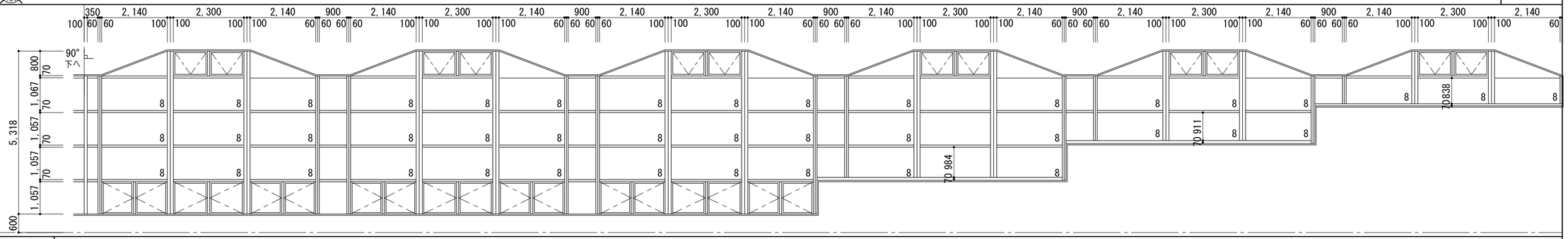
担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号　A-248
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 1～3階建具符号図	縮尺　A2：1/200 A3：1/282

建具表＜撤去＞　1/100

プール棟解体

符号	名称	数量
ACW	外倒シ・片開キ付ＦＩＸアルミカーテンウォール	1

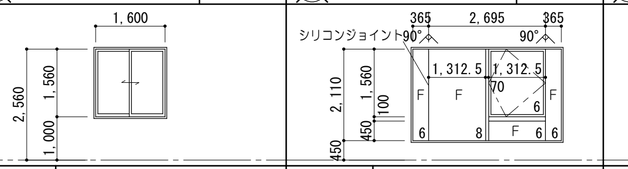
姿図

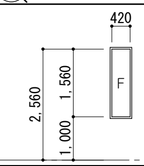


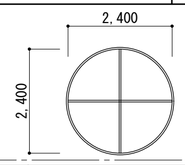
見込　硝子	１５０　フロートァ８（書き入れ以外ァ６）
仕　上	アルミ無着色酸化被覆１４μ以上
金　物	倒シ金物一式、アルミ額縁、電動オペレーター装置一式、樹脂網戸 レバーハンドル、開キ金具一式、付属金物一式
室　名	１階：プール

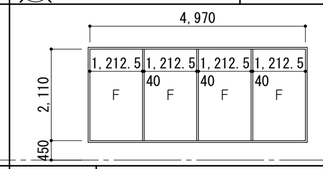
符号	名称	数量
AW	引違イアルミサッシ	1
AW	ＦＩＸ付回転アルミサッシ	2
AW	ＦＩＸアルミサッシ	1
AW	ＦＩＸアルミサッシ	1
AW	ＦＩＸアルミサッシ	2

姿図





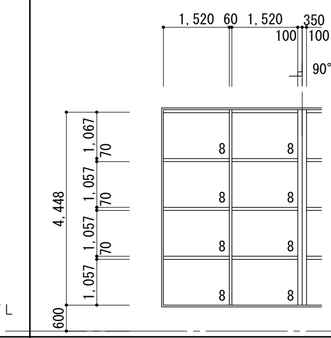


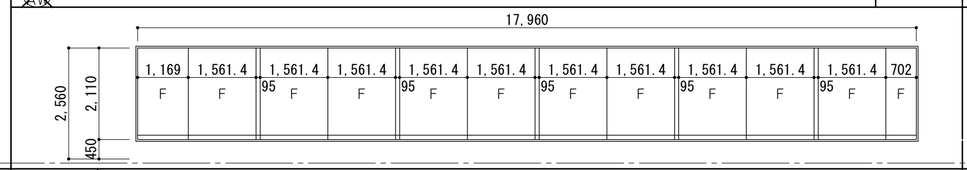


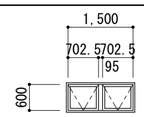
70	熱線吸収ァ５	70	フロート（厚みは書き入れによる）	70	フロートァ５	70	フロートァ８	70	フロートァ８
アルミ電解着色		アルミ電解着色		アルミ無着色酸化被覆１４μ以上		アルミ無着色酸化被覆１４μ以上　ジュラクロン		アルミ無着色酸化被覆１４μ以上	
クレセント、アルミ額縁、ステンレス網戸		回転金物一式、アルミ額縁		アルミ額縁		アルミ額縁		アルミ額縁	
１階：控室		２階：就労支援事務所ひまわり		１階：事務室		１階：プール		１階：プール上部	

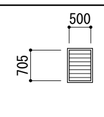
符号	名称	数量
AW	ＦＩＸアルミサッシ	1
AW	外倒シアルミサッシ（電動式）	4
AS	アルミ固定ガラリ	1
AD	ＦＩＸ付片開キアルミドア	1

姿図

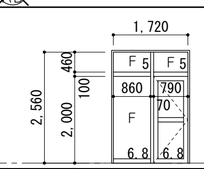








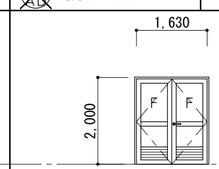
開口率：３０％

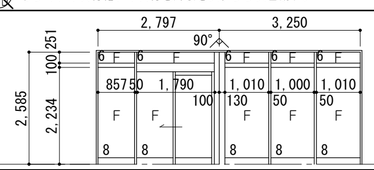


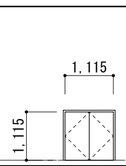
見込　硝子		70　フロートァ１２	70　フロートァ５	70　　70　フロートァ５ 網入りァ６，８
仕　上		アルミ無着色酸化被覆１４μ以上	アルミ無着色酸化被覆１４μ以上	アルミ電解着色　　アルミ無着色酸化被覆１４μ以上
金　物		アルミ額縁（４周）	倒シ金物一式、アルミ額縁、電動オペレーター装置一式 アルミ水切、内樹脂網戸	アングルピース、ＳＵＳ製防虫網　　ドアチェック、ＳＵＳ丁番、レバーハンドル、シリンダー錠 アルミ巾木、ＳＵＳ製沓摺、戸当り、アングルピース
室　名		２階：就労支援事務所ひまわり	１階：プール上部	２階：ＰＳ　　１階：控室

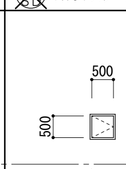
符号	名称	数量
AD	両開キアルミドア	1
AD	ランマＦＩＸ付袖ＦＩＸ付き片引きステンレス自動ドア	1
SD	両開キスチールドア	1
SD	片開キスチールドア	2
SD	片開キスチールドア	1
AS	アルミパーテーション	1

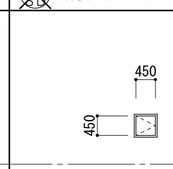
姿図

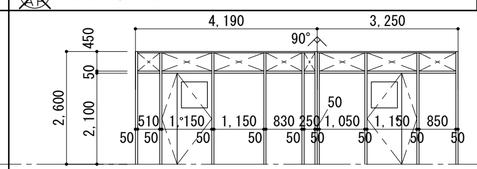












70　網入り型ァ６，８		50　ドア：強化ガラスァ８　ＦＩＸ：フロート（厚みは書き込みによる）	枠：１００ 扉：　４０	枠：１００ 扉：　４０	枠：１００ 扉：　４０	50
アルミ無着色酸化被覆１４μ以上		鏡面	スチール　ＦＰ	スチール　ＦＰ	スチール　ＦＰ	アルミ
ドアチェック、ＳＵＳ丁番、レバーハンドル、戸当り シリンダー錠、ＳＵＳ製沓摺、フランス落シ、アルミ額縁		自動ドア装置一式、ステンレス巾木（Ｈ１００）	ケースハンドル、シリンダー錠 ステンレス丁番、戸当り	シリンダー錠、ステンレス丁番	シリンダー錠、ステンレス丁番	付属金物一式
１階：倉庫		２階：就労支援事務所ひまわり	１階：プール	１階：プール	２階：就労支援事業所ひわまり	２階：就労支援事業所ひわまり

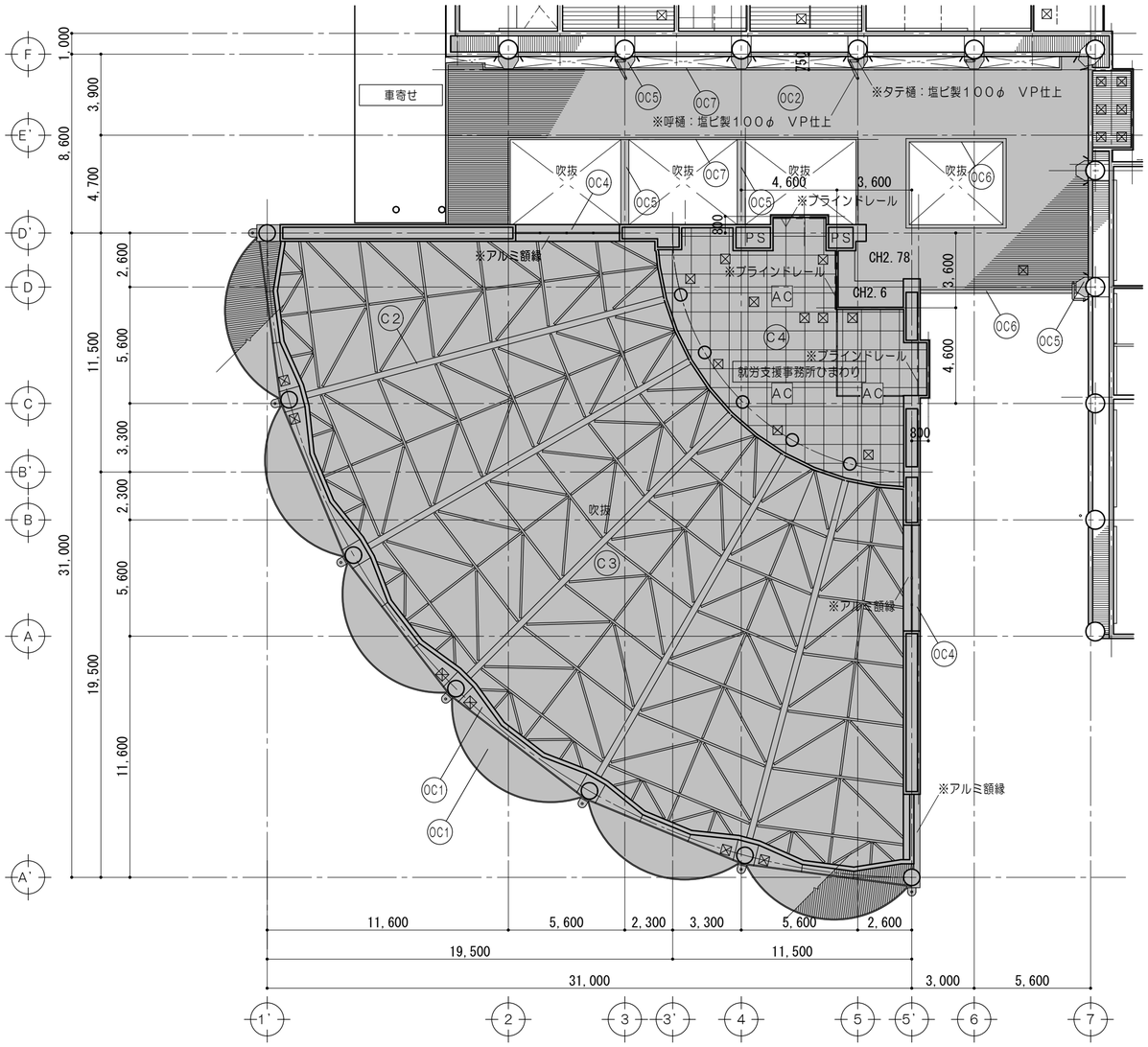
特記事項

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号　前野　初像	担当	一級建築士　第360917号　前田　祐作	設計年月日	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-249
担当	一級建築士　第307846号　三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号　加藤　早妃	令和4年6月24日	プール棟解体工事 建具表＜撤去＞	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

プール棟解体

1 階 天 井 伏 図　1/200



2 階 天 井 伏 図　1/200

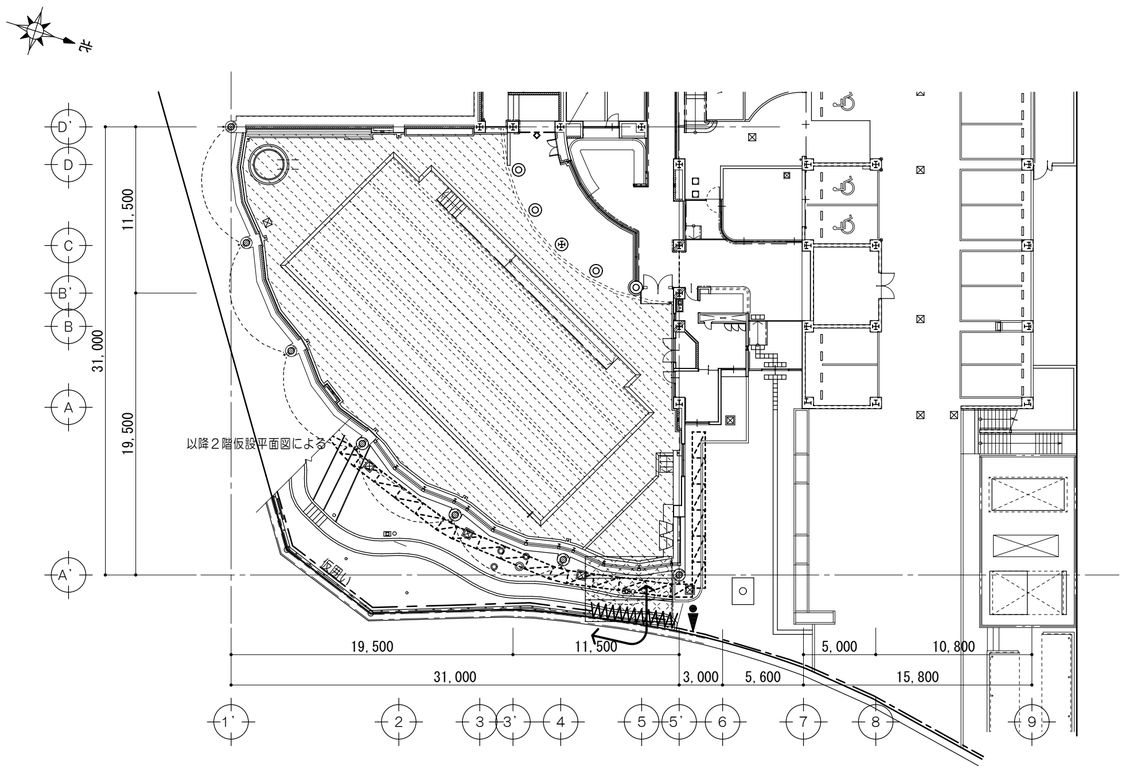
凡　例			
C1	ケイカル板ァ6　VP ＬＧＳ下地	OC5	塗装合板型枠コンクリート打放補修仕上
C2	鉄骨表シ塗装仕上 （亜鉛メッキ防錆処理）	OC6	小口平割れ肌タイル張
C3	高圧木毛セメント板ァ２０ アクリル系塗装吹付	OC7	アルミカラーァ１．０加工品
C4	ケイカル板ァ6　内装用吹付タイル ＬＧＳ下地		解体部分を示す
OC1	アルミスパンドレルァ１．０　（シルバー） ＬＧＳ下地	― － ―	コンクリートカッター切を示す
OC2	アルミスパンドレルァ１．０　（カラー） ＬＧＳ下地	※	解体撤去を示す
OC3	磁器質二丁掛タイル張（１００×２００）	☒	点検口：４５０角
OC4	アルミパネルァ２．０		

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-250
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 １、２階天井伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

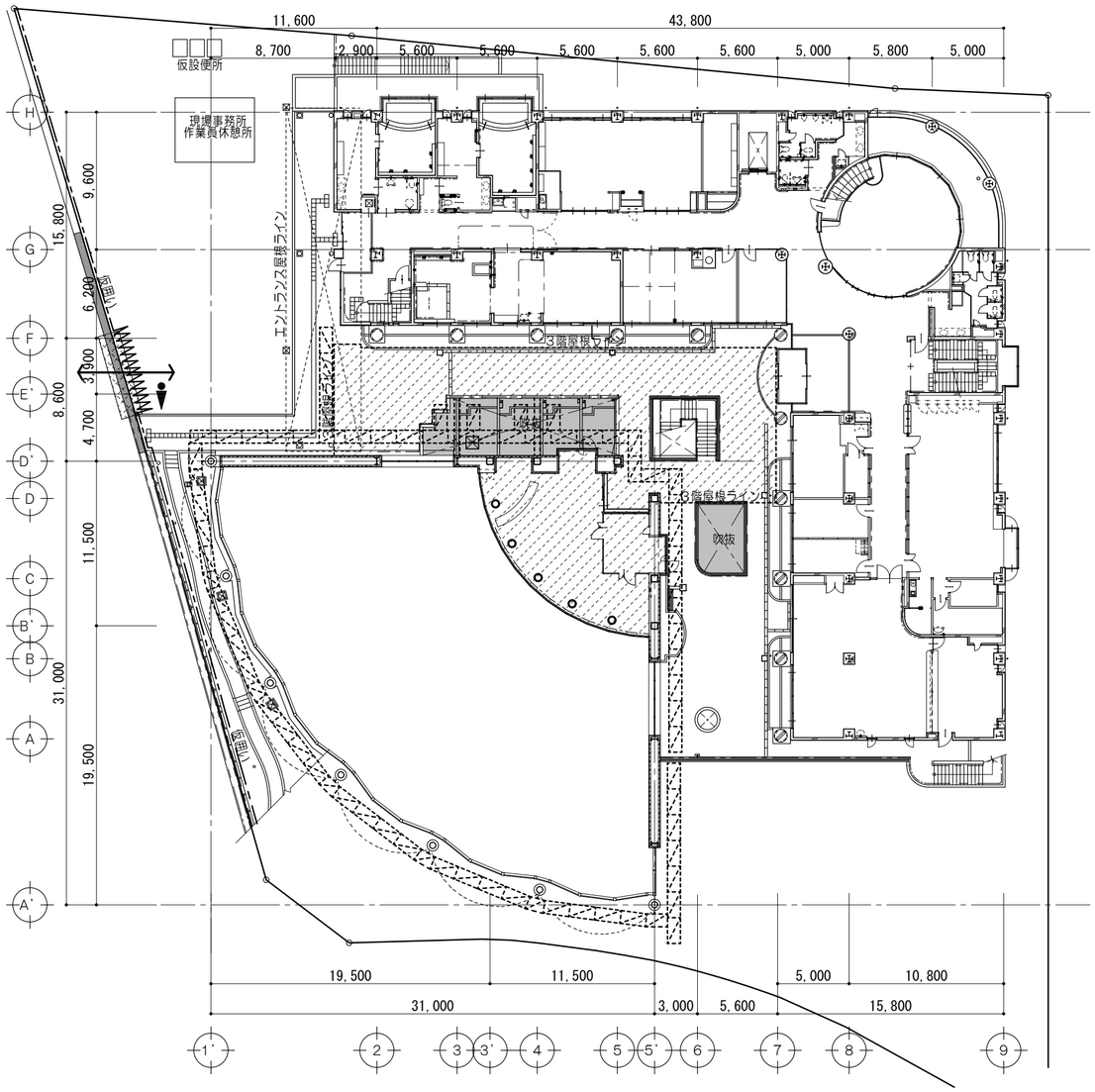
プール棟解体

＜参考図＞

凡　例			
WWWW	クロスゲート　W6，000		棚足場　H7200～5400
——··——	仮囲い：成形鋼板　H2，000		吹抜部床面　躯体養生程度
	足場：くさび緊結式足場（手すり先行方式）　建地W900 防音シート		
	交通誘導員配置（大型車両搬出入時） 資材搬出入による工事車両の通行が多い時、 交通誘導員は工事車両を工事現場まで誘導すること。	⟷	工事用動線
	仮設鉄板敷 ァ22　特記無き場合6，000×1，500		
	棚足場　H1800		
注記	※本仮設計画図に記載された仮設設備等は、発注者の積算上の考え方を示したものであって、施工条件として指定したものではないので、 受注者の責任のもとに十分検討のうえ、施工すること。		
	※道路側溝への鉄板養生については、受注者にて行政手続きを行い手続き完了後施工すること。		
	※側溝・樹等は工事車両通行時に破損しないよう、鉄板敷等養生をすること。		



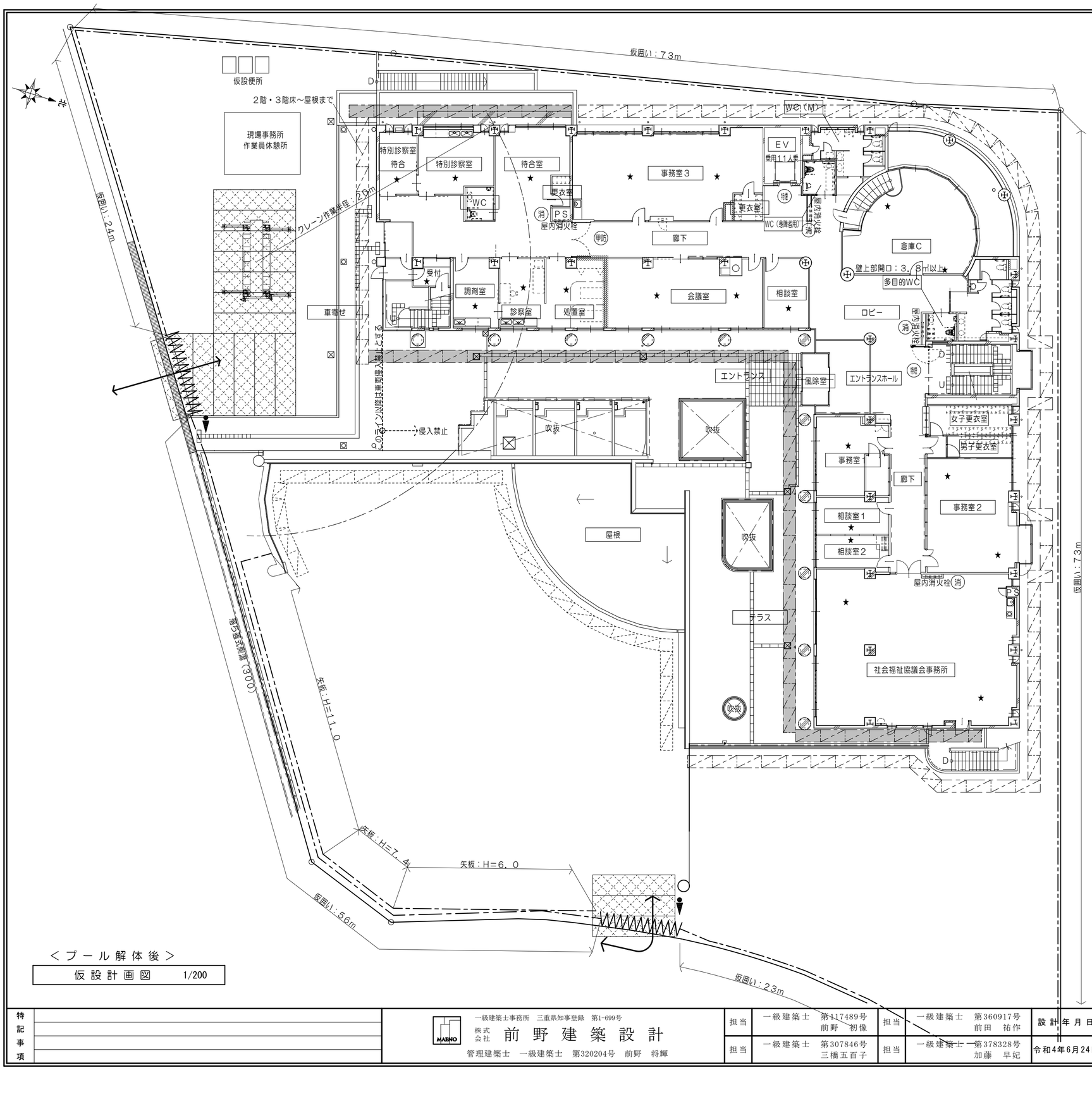
１階仮設計画平面図 1/300



２階仮設計画平面図 1/300

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-251
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	プール棟解体工事 仮設計画平面図＜参考＞	縮尺	A2：1/300 A3：1/423

<参考図>



凡　例	
WWW	クロスゲート　W6，000
—·—·—	仮囲い：成形鋼板　H2，000
	足場：枠組本足場　建地W900（1階～2階まで） 養生シート（防炎Ⅰ類）
	足場：枠組本足場　建地W900（1階～屋根まで） 養生シート（防炎Ⅰ類）
	足場：枠組本足場　建地W900（2階～屋根まで） 養生シート（防炎Ⅰ類）
⟷	工事用動線
	交通誘導員配置（大型車両搬出入時） 資材搬出入による工事車両の通行が多い時、 交通誘導員は工事車両を工事現場まで誘導すること。
	仮設鉄板敷　ァ22　特記無き場合6，000×1，500
外部サッシ	ガラス面は養生をすること。
矢板	間知ブロック積がＦＬ＋200となった段階で、矢板を引き抜くこと。
屋根面	屋根面に単管ステージ設置
注記	※本仮設計画図に記載された仮設設備等は、発注者の積算上の考え方を示したものであって、 施工条件として指定したものではないので、 受注者の責任のもとに十分検討のうえ、施工すること。
	※道路側溝への鉄板養生については、受注者にて行政手続きを行い手続き完了後施工すること。
	※側溝・桝等は工事車両通行時に破損しないよう、鉄板敷等養生をすること。

＜プール解体後＞

仮設計画図　1/200

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	A-252
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	仮設計画図（プール解体後）＜参考＞	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前

◆豆砂利舗装部分（１階、２階）は、施工前に路盤調査を行い
施工範囲を確認し、監督職員の承認を受けること。

凡　例	
	図中記入レベルは一般１ＦＬからの高さを示す
	豆砂利舗装ァ１２ 透水性アスコンァ３０ 砕石転圧ァ１５０
	砂利敷　２０～３０φ　Ｈ＝５０
	アスファルト舗装ァ５０ 砕石転圧ァ１５０
	土間コンクリートァ１５０金コテ押工　目地切 Ｄ１０@２００シングル　タテヨコ 砕石転圧ァ１５０
	撤去部分を示す
———	コンクリートカッター切を示す
- - - - -	アスファルトカッター切を示す
※	解体撤去を示す
●	既設のままを示す

外構平面図　1/200

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	G-001
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　外構工事平面図	縮尺	A2：1/200 A3：1/281

改修後

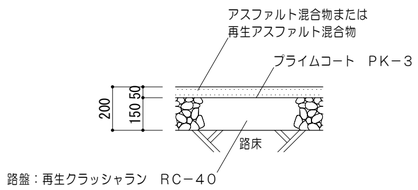
外構平面図　1/200

凡　例	
±0	図中記入レベルは一般１ＦＬからの高さを示す
±0 / -145	上段：改修後レベル（一般１ＦＬからのレベル） 下段：改修前レベル（一般１ＦＬからのレベル） プール部分のレベルは解体後のレベル
	モルタルァ３０刷毛引 既設コンクリート下地
	アスファルト舗装ァ５０ 砕石転圧ァ１５０
	土間コンクリートァ１５０木コテ押エ　目地切 φ６×１００×１００ 砕石転圧ァ１５０
	上層：粒調砕石（Ｃ－４０）ァ５０ 下層：切込砕石（ＲＣ－４０）ァ１００ 盛土　転圧 既設擁壁コンクリート基礎
	上層：粒調砕石（Ｃ－４０）ァ５０ 下層：切込砕石（ＲＣ－４０）ァ１００ 盛土　転圧
	既設エントランス屋根解体後の砂利流用 整地の上
———	コンクリートカッター切を示す
- - - - -	アスファルトカッター切を示す
	縁石：１５０×２００
目地板	避青繊維質板

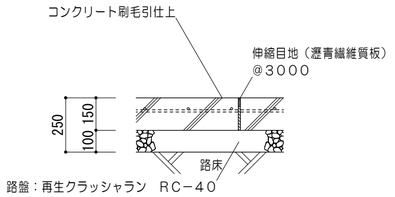
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	G-002
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃			図面名称	改修後　外構工事平面図	縮尺	A2：1/200 A3：1/281

外構工事詳細図

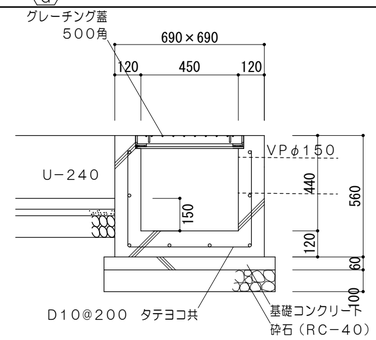
1G アスファルト舗装詳細図 1/20



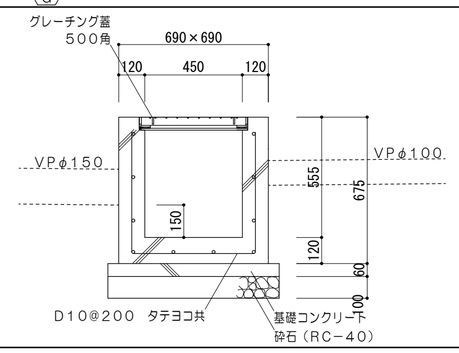
2G コンクリート舗装 1/20



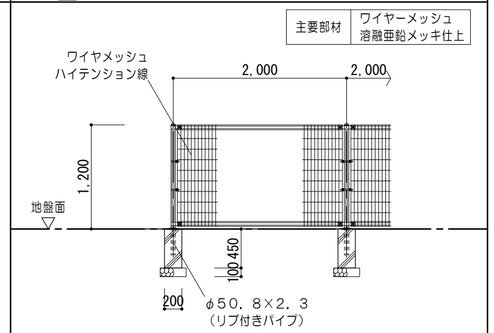
5G 集水桝Ａ詳細図 1/20



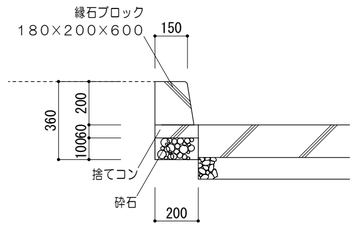
7G 集水桝Ｂ詳細図 1/20



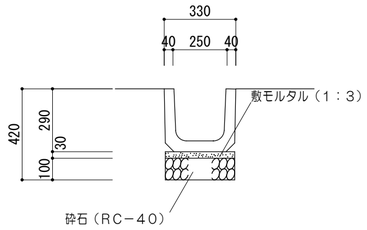
8G メッシュフェンス詳細図 1/50



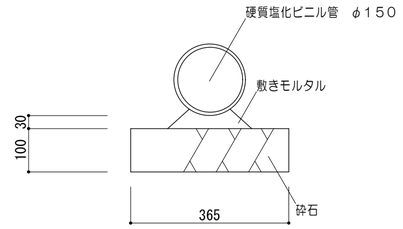
3G コンクリート製縁石ブロック 1/20



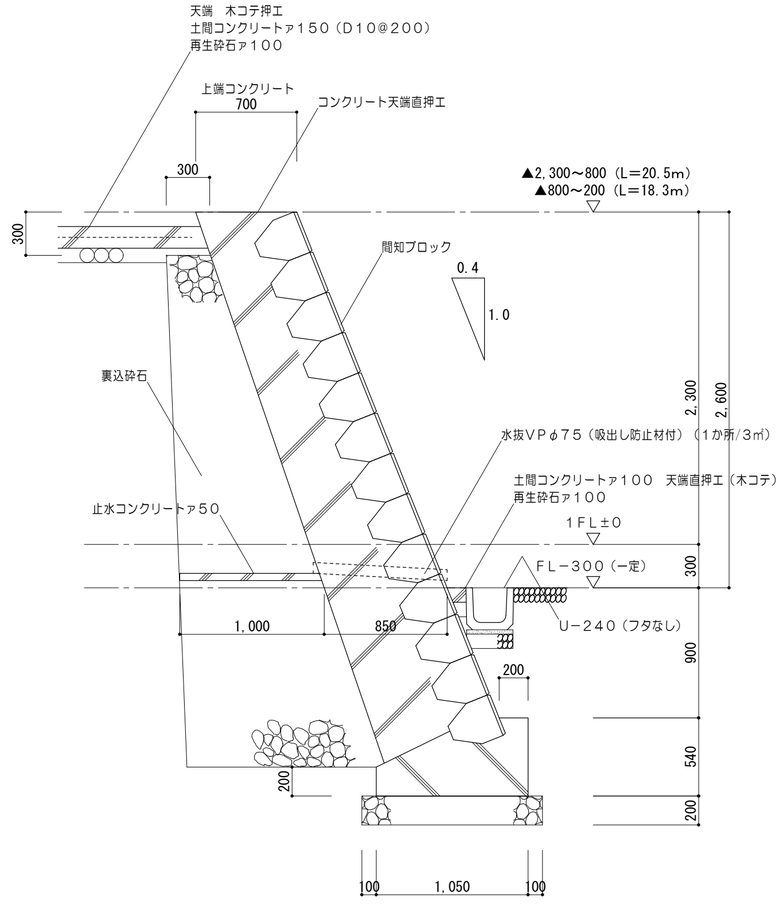
4G U字溝：U－２４０ 1/20



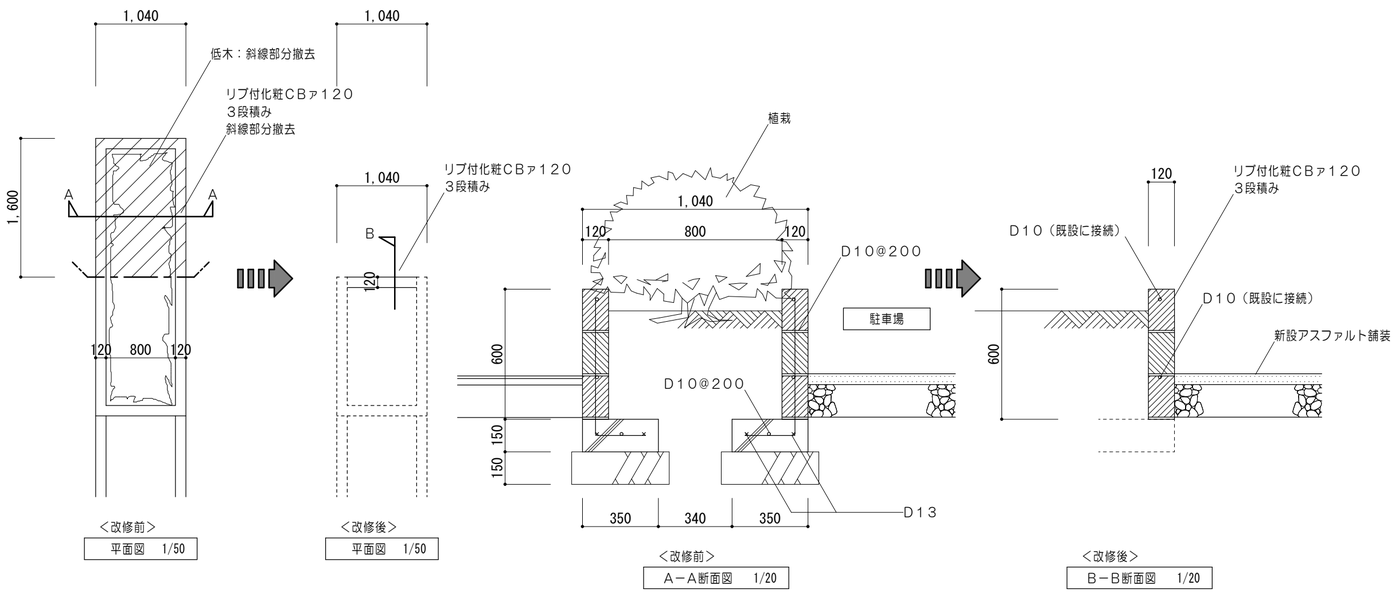
6G ＶＰ管 1/10



間知ブロック詳細図 1/30

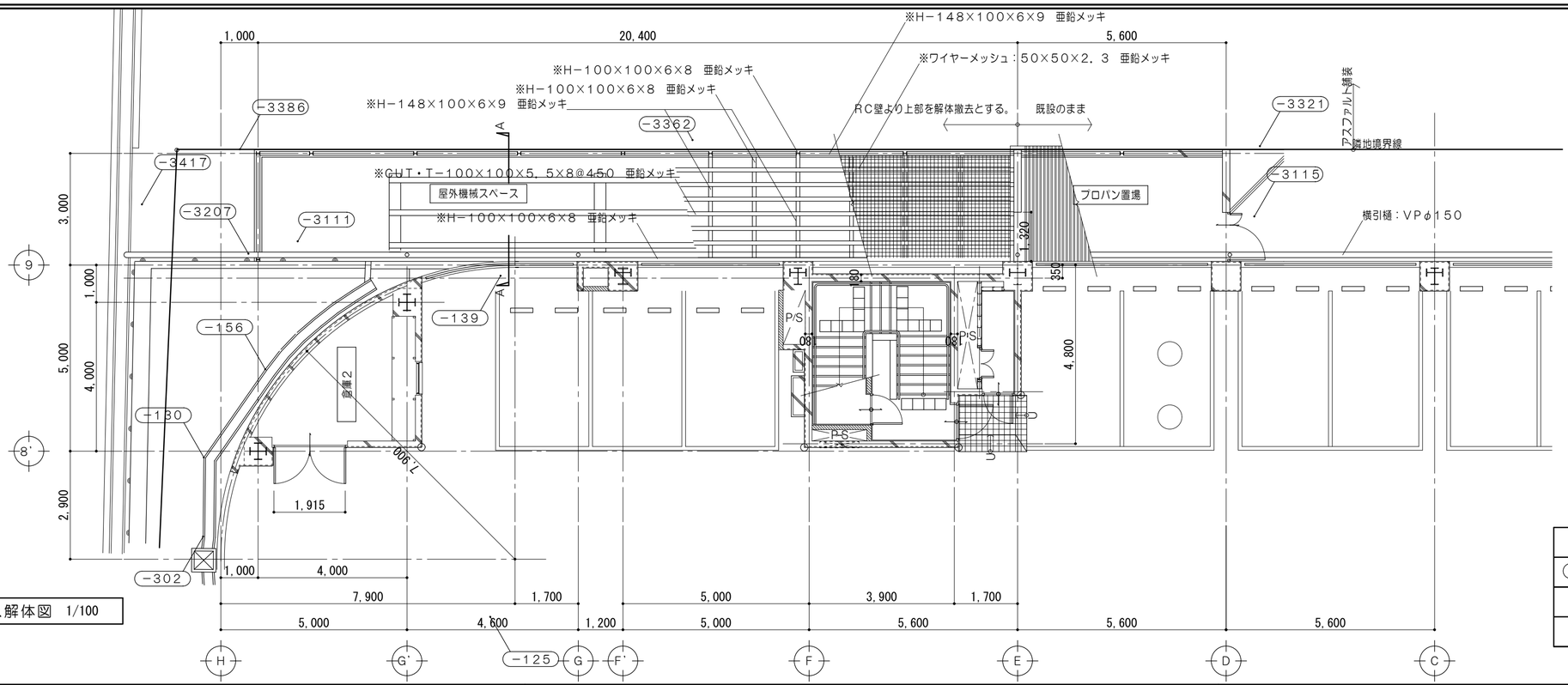


9G 花壇　撤去・復旧 1/50、1/20



特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	G-003
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	外構工事詳細図	縮尺	A2：1/20、50 A3：1/28、35

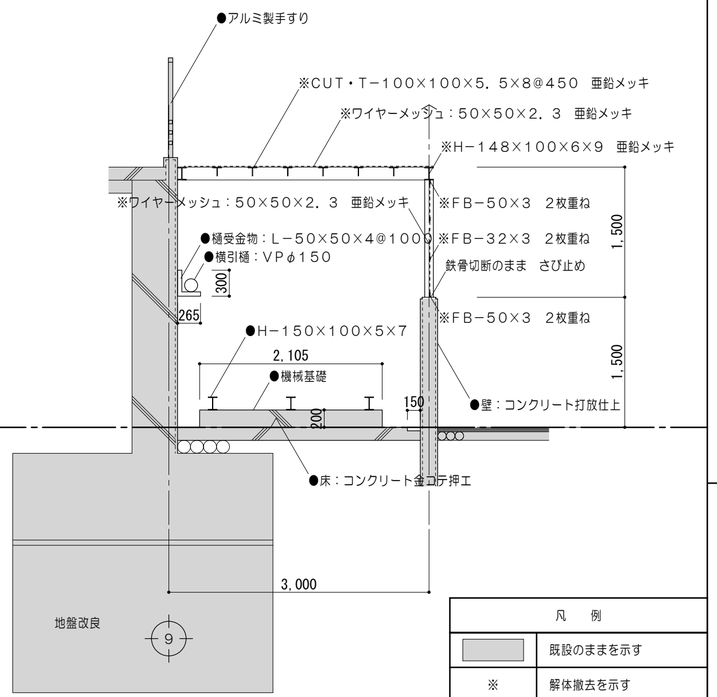
解体



屋外機スペース解体図　1/100

凡　例	
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す
※	解体撤去を示す
●	既設のままを示す

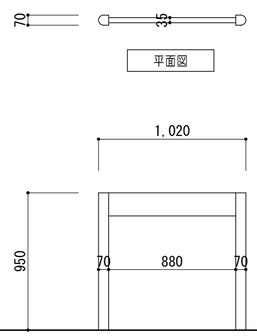
Ａ－Ａ断面図　1/50



凡　例	
	既設のままを示す
※	解体撤去を示す
●	既設のままを示す

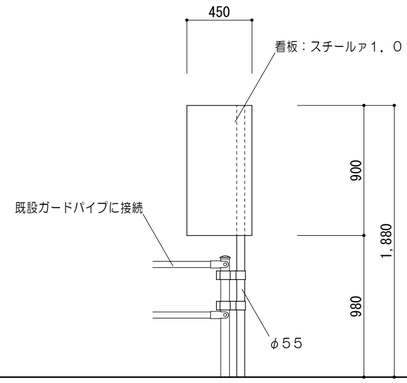
既設看板撤去　1/30

設置場所	数量
東道路側	2



既設看板撤去　1/30

設置場所	数量
東道路側	1



特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	G-004
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	外構解体詳細図	縮尺	A2：1/100、50、30 A3：1/141、71、42

構造特記仕様書

§１　一般事項　選択項目は◎印を選択する。◎印が複数有る場合は、共に適用する。

①　使用材料は原則としてＪＩＳ規格品、又は大臣認定品とする。

②　設計図書の優先順位は下記による。
1）本特記仕様書

2）設計図

3）標準図（◎ 鉄筋コンクリート構造配筋標準図　◎ 鉄骨工作標準図、溶接基準図　・ 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図　・ 高強度せん断補強筋施工仕様書　・ 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図　・ 木構造特記仕様書　・ 構造用集成材躯体仕様書）

4）仕様書（◎公共建築協会【H31年版】　・日本建築家協会【2018年版】）

5）日本建築学会標準仕様書、　ＪＡＳＳ５、　ＪＡＳＳ６

③　各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

④　構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（◎ 含む　・ 含まない）

⑤　設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

⑥　梁貫通位置、径、及び箇所数は（・ 意匠図　・ 構造図　◎ 設備図）による。

⑦　構造計算
1）重要度係数　◎ １．０　・ １．２５　・ １．５

2）計算ルート　X方向：・ ルート１　・ ルート１－２　・ ルート２　◎ ルート３
Y方向：・ ルート１　・ ルート１－２　・ ルート２　◎ ルート３

§２　仮設工事（別紙による）

§３　土工事

①　山留め（◎ 腐土　・ 存置）、根切り

鋼矢板等の抜き跡の処理　◎ 砂充てん　・（　　）

②　埋戻し土、盛土、残土処分

１）　埋戻し土　・ Ａ種　◎ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種　（良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする）

２）　盛土　・ Ａ種　◎ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種　（良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする）

３）　残土処分　・場内地均し　◎場外搬出処分（・ 自由　・ 指定場所（　　）　◎ 処分地未定（　　））

§４　地業工事

１　杭打地業共通事項
１）［・ 杭長決定用先行杭　・ 試験堀　・ 試験杭］　・行う（ ３箇所 ）　・ 行わない

２）　載荷試験　鉛直方向　・ 行う（　箇所、長期設計耐力の３倍を確認する）　・ 行わない
報告書　・提出部数（ ２部 ）　・ 記載事項（　　）
水平方向　・ 行う（　箇所、長期設計耐力の３倍を確認する）　・ 行わない
報告書　・提出部数（ ２部 ）　・ 記載事項（　　）

３）　ＳＬ塗布　・ 行う　・ 行わない

４）　杭の水平方向のずれ　・ １００mm　・ １２５mm　・ １５０mm　・（１００mm）とする場所は伏図による
※注　上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること

５）　杭の高止まり　・ ５０mm　・（　　）mm
※注　上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること
杭頭の処理方法　・ 外圧方式　・ ダイヤモンドカッター方式　・（　　）

６）　杭の低止まり　・ ５０mm　・（　　）mm
※注　上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること

７）　支持地盤　・ 構造図による

８）その他
・ 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。
国土交通省告示第468号　「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」（平成28年3月4日）
・ 受注者は、杭の施工期間中は１週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監理者または監督員に、工事打合簿を添付したうえで提出し確認を受けること。電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監理者または監督員の確認を受けること。
取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記すること。
共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料（施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等）は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第３１条第４項又は第５項（第３８条において これらの規定を準用する場合を含む。）の規定による引渡しを受けた日から１０年とする。また、発注者から請求があった場合は、速やかに これらを提出または提示しなければならない。

２　既製コンクリート杭
１）　杭種　・ ＰＨＣ杭　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・
・ ＳＴ杭　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・
・ ＳＣ杭　ｔ mm　・ ６　・ ９　・　　・
・ ＰＲＣ杭　・ Ⅰ種　・ Ⅱ種　・ Ⅲ種　・ Ⅳ種
・ 節付ＰＨＣ杭　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・
・ ＣＰＲＣ杭　・ Ⅰ種　・ Ⅱ種　・ Ⅲ種　・ Ⅳ種

２）　工法
・ 打撃工法　・ 油圧ハンマー　・ ディーゼルハンマー

・ 埋込み工法　※オーガー及び杭の支持層への掘削深さは図面による
・ プレボーリングセメントミルク注入工法（杭先端閉塞）　・ 中堀拡大根固め工法（認定工法）
・ プレボーリング根固め工法（杭先端開放）【α≧363（砂質、砂礫）、341（粘土質）】（認定番号：TACP-0465）同等以上
杭周固定液　・あり　・なし　（標準仕様書 4.3.4(6)(3)による管理を行う）
・ 回転埋設根固め工法（認定工法）　・ ケムン工法 先端開放（認定工法）

３）　杭径、設計耐力表

杭符号	杭径mm	長期 ｋN	短期 ｋN	終局 ｋN	備　考
P1	800	2,200	4,400		短期引抜耐力:200kN
P1A	800	2,200	4,400		短期引抜耐力:200kN
P1B	800	2,200	4,400		短期引抜耐力:200kN

４）　杭の構成表

杭符号	杭径 mm	第一杭 長さ	第一杭 種別	第二杭 長さ	第二杭 種別	第三杭 長さ	第三杭 種別	第四杭 長さ	第四杭 種別	第五杭 長さ	第五杭 種別	全長 (m)	本数
P1	800	6m	PHC杭 C種	7m	PHC杭 A種	7m	PHC杭 A種					20m	17本
P1A	800	6m	CPRC杭 Ⅰ種	7m	PHC杭 A種	7m	PHC杭 A種					20m	8本
P1B	800	6m	CPRC杭 Ⅱ種	7m	PHC杭 A種	7m	PHC杭 A種					20m	9本

５）　杭頭補強　・ かご筋　・ スタッド溶接(BCJ-審査証明-7)　・ 杭外周溶接　・（F.T.P.i.le同等品以上(BCJ評定-FD0141-04,05)）

６）　杭継手　・ 溶接継手　・ 機械式無溶接継手（建築基準法による認定を受けた工法）（認定番号:　　）同等以上

７）　杭先端形状　・ 開放　・ 閉塞　・

８）　施工管理技術者　・ 適用する　・ 適用しない

３　場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
１）　工法　・ アースドリル工法　・ 拡底アースドリル工法　・ リバース工法
・ オールケーシング工法（・ ベノト工法　・　　）・ ＢＨ工法　・

２）　杭径、設計耐力、本数表（拡底部は施工径を示す）

杭径（拡底部）mm	管厚mm	長期ｋN	短期ｋN	終局ｋN	本　数	備　考

３）　杭先端深さ　ＧＬ－　m

４）　孔壁測定（２方向）　・ 行う　（ ・ 全数 ・　%）　・行わない

５）　使用材料
コンクリート　Ｆｃ　（ ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントＢ種）

鉄筋　・ Ｄ16以下　SD295A ・ Ｄ19以上　SD345 ・ Ｄ32以上　SD390

鋼管（リブ付）　・ ＳＫＫ４００　・ ＳＫＫ４９０

６）　かぶり厚さ　・ １００mm　・ ２００mm

７）　スランプ　・ １８cm　・ ２１cm

８）　施工管理技術者　・ 適用する　・ 適用しない

９）　鋼管部分の材料　・（　　）

４　鋼管杭、その他特殊杭
１）　杭種　・ ＳＴＫ４００　・ ＳＴＫ４９０

２）　工法　・ 打撃工法　（ ・ 油圧ハンマー　・ ディーゼルハンマー ）　・ 埋込み工法

３）　杭径、設計耐力、本数表

杭径（拡底部）mm	鋼管mm	長期ｋN	短期ｋN	終局ｋN	本　数	備　考

４）　杭の構成表

杭径 mm	第一杭 長さ	第一杭 種別	第二杭 長さ	第二杭 種別	第三杭 長さ	第三杭 種別	第四杭 長さ	第四杭 種別	第五杭 長さ	第五杭 種別	全長 (m)	本数

５）　杭頭補強　・ かご筋　・ スタッド溶接(BCJ-審査証明-7)　・ 杭外周溶接　・（F.T.P.i.le同等品以上(BCJ評定-FD0141-04,05)）

６）　杭継手　・ 溶接継手　・ 機械式無溶接継手（建築基準法による認定を受けた工法）（認定番号:　　）同等以上

７）　杭先端形状　・ 開放　・ 閉塞　・

８）　施工管理技術者　・ 適用する　・ 適用しない

９）　杭頭の処理方法　・ ガス切断　・（　　）

⑤　基礎及びスラブ下地業　（単位mm）

場　所		捨てコンクリート厚さ	砂（1）　A：砂石　B：割栗石	厚　さ
基　礎	独立、布、杭	◎５０・６０・１００	◎A ・B	◎６０・１００・１５０
	ベ　タ	・５０・６０・１００	・A ・B	・６０・１００・１５０
地　中　梁		◎５０・６０・１００	◎A ・B	◎６０・１００・１５０
構造スラブ		・５０・６０・１００	・A ・B	・６０・１００・１５０
土間コンクリート	屋　内	・５０・６０・１００	◎A ・B	・６０・１００・１５０
	屋　外	・５０・６０・１００	◎A ・B	・６０・◎１００・１５０

※注（１）　アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
（２）　砕石、捨てコンクリート仕上りレベルを計測し、記録すること
（３）　端部ａは１００以上とする。

◎砂利の種類　◎ 再生クラッシャラン　・ 切込砂利　・ 切込砕石　・（　　）

◎木下防湿層（範囲は伏図による）　ポリエチレンフィルム厚さ ◎ ０．１５mm　・ 意匠図による
防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込み　◎ ２５０mm以上　・ 意匠図による

設計地耐力（直接基礎）　長期　kN/㎡　短期　kN/㎡　終局　kN/㎡

地耐力載荷試験　・ 行う（　箇所、長期設計耐力の３倍を確認する）　・ 行わない

地耐力試験の方法　・ 平板載荷試験　・

⑥　地盤改良（詳細は地盤柱状改良工事特記仕様書）
・ ラップルコンクリート地業　・ 締固め工法　・ ソイルセメント杭　・セメント系固化材攪拌
・ 圧密排水工法　・ 地盤柱状改良　・ 浅層混合改良工法

［・載荷試験　・ 一軸圧縮試験］　・行う　・ 行わない

［・六価クロム溶出試験　　］　・行う　・ 行わない

§５　鉄筋工事

①　材種（ＪＩＳＧ３１１２）

種　類	径	継　手	備　考
◎ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１６　以下	◎重ね継手　・スパイラル　・工場溶接	
◎ＳＤ３４５	Ｄ１９　以上	・重ね継手　◎溶接継手　・機械継手（　　級）	
・ＳＤ３９０	Ｄ　　以上	・溶接継手　・機械継手（　　級）	
・溶接金網	・φ４ ・φ５ ・φ６ ・（　　）	・重ね継手	寸法 ・１００×１００ ・１５０×１５０ 鉄線の形状 ・丸鉄線 ・異形鉄線（リブ） ・異形鉄線（インデント）
・高強度せん断補強筋	・１２７５級　P ・７８５級　K ・６８５級　UD　UR	・重ね継手　・スパイラル　・工場溶接	

②　内法直径

90°未満の折曲げの内法直径　◎ S-03 2-8 90度と同様　・図示（図面番号：　　）

③　継手

１）溶接継手　◎ ガス圧接　・ 突き合せ溶接（Ｄ１６以下は重ねアーク溶接でも可）

２）継手位置（一般梁）　◎ 配筋標準図による　・ 構造図による　・ 隣り合う接手を同一か所に設ける場合（先組み工法等）

３）継手位置（基礎梁）　◎ 配筋標準図４－２－１　◎ 配筋標準図４－２－２　・ 配筋標準図４－２－３　・ 構造図による
・ 隣り合う接手を同一か所に設ける場合（先組み工法等）

４）隣合う継手位置　◎ 配筋標準図による　・ 構造図による　・ 隣り合う接手を同一か所に設ける場合（先組み工法等）

５）定着　◎ 配筋標準図による　・ 構造図による

④　かぶり厚さ、間隔

１）かぶり厚さ　◎ 配筋標準図による（特別な増打が必要な場合構造図による）　・ 構造図による
増打が１０mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなす。

２）　耐久性上不利な部分（塩害を受けるおそれのある部分等）

施工箇所	設計用かぶり厚さに加える寸法

３）　その他
・ 軽量コンクリートで土に接する部分は、設計用かぶり厚さに１０mm加える
・ 高炉セメントＢ種を用いる部分は、設計用かぶり厚さに１０mm加える
◎ 鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
また、鋼製の地中梁受架台、バーサポート、スペーサーは、かぶり厚さ範囲に防錆処理を行ったものとする。
◎ 片持スラブ先端部のスラブ筋用のスペーサーは連続型バーサポートとする。

４）間隔　◎ 配筋標準図による　・ 構造図による

⑤　梁貫通補強

１）工法　・ 在来工法　◎ 工場製品（評定品）

２）高強度せん断補強筋　◎ 使用する　・ 使用しない

⑥　ガス圧接継手
１）　自動　・ 日本鉄筋継手協会認定に認定されたもの

２）　手動　・ 日本鉄筋継手協会認定に認定されたもの
・ 日本鉄筋継手協会認定がＪＩＳ　Ｚ　３８８１の試験に基づき認めた接置資格種別２種以上のもの
各機械式継手メーカーの、作業資格認定を受けたものが施工し、品質の確認方法、不良部の修正方法は各工法の施工管理基準などを元に定め、監理者、監督員の承諾をえること。

⑦　機械式継手
１）　適用箇所　・ 図示　・（　　）

２）　種類　・（　　）【性能（　　）】

２）　施工完了後の継手部の試験　・（　　）

４）　不合格となった継手部への措置　・（　　）

５）　鉄筋相互のあき　・ 呼び径の1.5倍以上、粗骨材径の1.25倍かつ25mm以上　・（　　）mm

⑧　溶接継手
１）　適用箇所　・ 図示　・（　　）

２）　種類　・（　　）【性能（　　）】

２）　施工完了後の継手部の試験　・（　　）

４）　不合格となった継手部への措置　・（　　）

５）　鉄筋相互のあき　・ 呼び径の1.5倍以上、粗骨材径の1.25倍かつ25mm以上　・（　　）

⑨　溶接部の検査（第三者機関による）
・ 抜取り検査
・ 引張り試験（ＪＩＳ　Ｚ　３１２０）　１検査ロットにつき　・ ３本　・
引張試験は原則として、公的機関とする。
引張試験片を採取したい箇所は、同種の鉄筋を圧接して次足す。ただし、Ｄ２５以下の場合は、監理者、監督員の承認を得た上で重ね継手とすることができる。

・ 超高音波探傷試験（ＪＩＳ　Ｚ　３０６２）　１検査ロットにつき　◎ ３０箇所　・ 全数
○不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また、残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
１検査ロットは１組の作業班が１日に施工した溶接箇所の数量で２００箇所以内

・ 全数検査（外観検査）

⑩　異形スタッド鉄筋　・ 下記以外については§７に準ずる

１）　材料　・ＫＳＷ４９０（形状及び機械的性質が鉄筋コンクリート用鋼棒（ＪＩＳ　Ｇ　３１１２）と同等であり、溶接性が頭付きスタッド（ＪＩＳ　Ｂ　１９９８）と同等である異形鉄筋スタッド）

２）　径及び長さ　・構造図による

３）　施工試験　・ 行う（日本建築学会『溶接工作基準Ⅷ・同解説　スタッド溶接』による）　・ 行わない

⑪　その他
◎ コンクリート打設後の差筋は行わない。
◎ 鉄筋の台直しは原則として行わない。やむを得ず台直しを行う場合、鉄筋周囲のコンクリートをはつり取り、勾配が１／６以下のできるだけ長い距離で修正する。
◎ コンクリートを２回打ち下る部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
◎ コンクリート打設前に監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。
◎ 鉄筋はＪＩＳＧ３１１２の規格品を標準とする。
◎ 各部配筋は「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

§６　コンクリート工事

①　設計基準強度、スランプ等　（N/mm²）

適用	種類	気乾単位容積質量 (t/m³)	設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	セメント	単位水量の上限値 (kg/m³)	水セメント比 (%)	試験の有無	適用箇所
◎1	普通	2．3	24	15	普通	185	65	◎有　・無	基礎・外構躯体
◎2			24	18	普通	185	65	◎有　・無	躯体・デッキ上
・3			27	15	普通	185	65	・有　・無	基礎・外構躯体
・4			27	18	普通	185	65	・有　・無	躯体・デッキ上
・5			21	18	普通	185	65	・有　・無	シンダーコン
◎6			18	15	普通	185	65	・有　◎無	土間・外構躯体以外
◎7			18	15	普通			・有　◎無	捨てコン
・8									
・9									
・10	軽量	1．9	18	18	普通	185	65	・有　・無	押エコン
・11									
・12		1．7	18	18	普通	185	65	・有　・無	
・13									

凡例　普通：普通ポルトランドセメント、高炉Ｂ：高炉セメントＢ種、低熱：低熱ポルトランドセメント、中庸熱：中庸熱ポルトランドセメント
エコ：普通エコセメント

※注　（1）普通コンクリートはＪＩＳ　Ａ　５３０８とする
（2）施工上の理由でスランプ値を変更する場合、監理者、監督員の承認を得ること。
（3）土間を柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする。
（4）上表【1～4】の調合管理強度は設計基準強度に下記§６　１０．及び§６　１１．の構造体強度補正値(S)を加えた強度とする。
上表【5、6】の調合管理強度は設計基準強度に構造体強度補正値(S)を（　・加えた　◎加えない）強度とする。
（5）調合強度は平成３０年改正ＪＡＳＳ５による。
（6）高強度コンクリート及びプレストレストコンクリート工事は別記特記仕様書による。
（7）上表【1～4】のセメント量は270kg/m³以上とする。
上表【5、6】のセメント料は270kg/m³以上と（　・する　◎しなくてもよい）。
上表【7】のセメント料は270kg/m³以上としない。
（8）上表【1、3、6】は常時土または水に直接接する部分である。

②　耐久設計基準強度（躯体）　（N/mm²）

計画供用期間の級	短　期	標　準	長　期	超 長 期
耐久設計基準強度（N/mm²）	・１８	◎２４	・３０	・３６

③　コンクリートの種別・仕上
１）　種別　◎ Ⅰ類　・ Ⅱ類　・

２）　仕上げ（合板せき板を用いる場合の打放仕上げの種別）　・ Ａ種　◎ Ｂ種　・ Ｃ種

３）　仕上の平坦さ　◎ ａ種　・ ｂ種　・ ｃ種

④　粗骨材

１）　粗骨材　◎ 砂利　◎ 砕石　・ 高炉スラグ骨材　・ 人工軽量骨材　・ 再生骨材　・特別な骨材（　　）

２）　最大径（mm）　◎ ２０　◎ ２５　・ ４０

３）　アルカリシリカ反応性による区分　◎ Ａ　・ Ｂ
（なお、Ａで規制できない場合はＢとし、標準仕様書[6.3.1]による対策を講じる）

⑤　混和材　◎ ＡＥ減水剤　◎ 高性能ＡＥ減水剤（呼び強度３３以上）　・ 躯体防水材　・ 膨張材

⑥　打継　位置　◎ 標準仕様書[6.6.4](1)　・ 図示（　　）

⑦　湿潤養生期間　◎ 標準仕様書[表6.7.1]
普通エコセメント使用の場合　・（　　）

⑧　試験　強度試験　◎ 行う　・ 行わない
コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。
20m³ 以下の場合の試験については、監督職員または監理者の指示による。
20～40m³ の場合は任意の一車より試料を採取し、各３個供試体を作成する。
40m³ 以上は 標仕6.9.3 による。
土間コンクリート等の躯体ではないコンクリートの試験方法は監督職員または監理者の指示による。
調合管理強度試験用の供試体は１台の運搬車から採取した資料で同時に３個の供試体を作成する。
強度試験は公的機関にて行い、各供試体の養生方法は以下の通りとする。

コンクリートの種類	寒中コンクリート以外のコンクリート			
試験の目的	調合管理強度用	型枠取外し時期の決定用	構造体コンクリート強度用	
養生方法	標準養生	現場水中養生または現場封かん養生	標準養生または現場水中養生	現場封かん養生
材　齢	２８日	必要に応じて定める	２８日	２８日及び２８日を超え９１日以内

コンクリートの種類	寒中コンクリート				
試験の目的	調合管理強度用	型枠取外し時期の決定用	初期養生の打ち切り時期の決定用	構造体コンクリート強度用	
養生方法	標準養生	現場封かん養生（建物の内側において行う）	現場封かん養生（建物の内側において行う）	現場封かん養生（建物の内側において行う）	
材　齢	２８日	必要に応じて定める	必要に応じて定める	２８日及び２８日を超え９１日以内	

※注（１）　特記なき場合、養生方法は標準仕様書[6.9.3(1)]による

１）　骨材　［ ◎ 塩分含有量　・ アルカリシリカ反応性 ］　◎ 行う　・ 行わない

２）　フレッシュコンクリート　［ ◎ スランプ　◎ 空気量　・ 単位水量　◎ 温度］　◎ 行う　・ 行わない

３）　コンクリートの強度試験
［ ◎ 調合管理強度の管理試験用　・ 型枠取外し時期の決定用　◎ 構造体コンクリートの圧縮強度推定用］　◎ 行う　・ 行わない

４）　コンクリートコア抜き取り圧縮試験　・ 行う　◎ 行わない

５）　マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析）　・ 行う　・ 行わない

６）　試し練り　・ 行う　◎ 行わない　・行う（マスコンクリート）

⑨　マスコンクリート　適用箇所は梁伏図、軸組図による
（マスコンクリートの計画に際しては、セメントの水和熱による温度上昇で有害なひび割れが発生しないように、打設時の温度解析等に基づき、セメントの種類の選定、影向計画、打設計画、養生計画を行い、監理者の承認を得ること。）

１）　セメントの書類　・ 中庸熱ポルトランドセメント　・ 低熱ポルトランドセメント　・ 高炉セメントＢ種
・ フライアッシュセメントＢ種　・ 普通ポルトランドセメント

２）　スランプ　・ １５cm　・（　　）

３）　混和剤　・ 標準仕様書[6.13.2](b)(1)　・（　　）

⑩　流動化コンクリート　適用箇所は梁伏図、軸組図による

⑪　無筋コンクリート　適用箇所は標準仕様書[6.13.2]及び梁伏図、軸組図による
（シンダーコンクリート、押エコンクリートには溶接金網φ６＠１００程度の補強を施す）

１）　設計基準強度　◎ Ｆｃ１８　・ Ｆｃ２１

２）　スランプ　◎ １５cm　・（　　）

２）　適用箇所　標準仕様書[6.14.1](4)　◎（ア）　◎（イ）　◎（ウ）　・（エ）　◎（オ）　・（カ）
・（　　）

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号　前野　初像	担当	一級建築士　第360917号　前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-001
担当	一級建築士　第307846号　三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号　加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	構造特記仕様書No.1	縮尺	A2：NS A3：NS

(12) 構造体補正強度（N／mm２） ⊙ 標準仕様書[6.3.2] ・（ ）

(13) 暑中コンクリート 構造体補正強度（N／mm２） ⊙ 6（適用期間は三重県生コン協会の指針による） ・（ ）

(14) 寒中コンクリート 適用期間及び構造体補正強度 ⊙ 6（適用期間は三重県生コン協会の指針による） ・（ ）

(15) 型枠

1） 材料 ⊙ 複合合板（厚み（mm） ⊙ １２ ・ ） ・（ ）

2） 打増厚さ（mm） 仕上面 ⊙ ２０ ・ ２５ ・ ３０ ・（ ）
その他 ・ 各伏図、軸組図による ・ デッキプレートのかかりしろとなる部分 １０mm

3） 誘発目地、打継目地、化粧目地の位置、形状、及び寸法 ⊙ 意匠図 ・ 構造図

4） フラットデッキ ・ 使用する ⊙ 使用しない

5） スリーブの材種 ・ 鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ つば付き鋼管
⊙ 紙チューブ ・（ ）
【スリーブに紙チューブ使用した場合、型枠取外し後に取除く】

5） スリーブの規格等 ⊙ 標準仕様書[表6.8.1] ・（ ）

6） 普通エコセメント使用の場合の型枠最小存置期間及び取外し ・（ ）

7） その他 ・ 断熱材の兼用 ・ MCR工法用シート

(16) せき板及び支柱の在置期間（普通ポルトランドセメントの場合）

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	１５℃以上	３ 日	１７ 日	２８ 日
	５℃以上	５ 日	２５ 日	
	０℃以上	８ 日	２８ 日	
圧縮試験による場合		５N/mm²	０．８５Fc または１２N/mm²	設計強度

コンクリート打込中及び打込後5日間はコンクリート温度が2度を下回らないようにし、かつ、
乾燥、振動等によってコンクリートの凝固及び硬化が妨げられないように養生すること

17 耐震スリット

1） 既成品の使用 ・ 有（大臣認定品） ・ 無

2） 耐火性能 ・ 有 ・ 無

3） 形状、設置箇所 ・ 構造図による ・

§７ 鉄骨工事

(1) 製作工場、施工管理技術者

1） 鉄骨製作工場 国土交通省大臣認定（グレード） ・ S ⊙ H ⊙ M ⊙ R ・ J

2） 施工管理技術者 ・ 適用する ⊙ 適用しない

3） 床書き原寸図 ・ 作成する ⊙ 作成しない

(2) 材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通しダイア	内ダイア	梁	斜材	間柱	胴縁母屋
一般構造用圧延鋼材（ＪＩＳＧ３１０１）	⊙ＳＳ４００ ・				○	○		
溶接構造用圧延鋼材（ＪＩＳＧ３１０６）	・SM４００Ａ ・SM４９０Ａ							
建築構造用圧延鋼材（ＪＩＳＧ３１３６）	・SN４００Ａ ・							
	・SN４００Ｂ ・SN４９０Ｂ							
	・SN４００Ｃ ・SN４９０Ｃ							
一般構造用角形鋼管（ＪＩＳＧ３４６６）	⊙STKR４００ ・STKR４９０						○	
冷間成形角形鋼管（MSTL－０１４１*）	・BCR２９５ ・							
（MSTL－０２７８*）	・BCP２３５ ・BCP３２５							
熱間成形角形鋼管（MSTL－００５１*）	・SHC４００Ｂ ・SHC４００Ｃ							
	・SHC４９０Ｂ ・SHC４９０Ｃ							
一般構造用炭素鋼管（ＪＩＳＧ３４４４）	・STK４００ ・STK４９０							
一般構造用軽量形鋼（ＪＩＳＧ３３５０）	⊙SSC４００ ・							○

※注 （1）同等品とする。
（2）形状、寸法は構造図による。
（3）特記なき場合、GH、TH、SHは柱、梁、ブレース等と同等以上の工材を使用する。

ＪＩＳＧ０９０１による、板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験を ・ 行う ⊙行わない

(3) 高力ボルト（ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による）

高力ボルトの種類		使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト （ＪＳＳ Ⅱ－０９）	⊙Ｓ１０Ｔ	全般
ＪＩＳ形高力ボルト （ＪＩＳ Ｂ １１８６）	・Ｆ１０Ｔ	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ形高力ボルト（大臣認定品）	・Ｆ ８Ｔ	母材が亜鉛メッキされている部分

1） すべり耐力等の確認方法 ⊙ 行わない ・ 行う 試験方法等 ・

2） ＪＩＳ形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの５倍を超える場合 ⊙ 標仕７．４．７（７） による

3） 溶融亜鉛メッキ形高力ボルトを使用場合の摩擦面の処理 ⊙ ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上） ⊙ リン酸塩処理

(4) 普通ボルト（ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による） ⊙六角ボルト、六角ナット
⊙ ダブルナット、スプリングワッシャ等による有効な戻止めを行う

普通ボルトの孔径（母屋または胴縁の取付）
⊙ ねじの呼び径＋10mm ・

(5) アンカーボルト（ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による）

1） 材質 ・ Ｄ２９５Ａ ・ ＳＤ３４５ ・ ＳＤ３９０ ・ ＳＤ４９０ ⊙ ＳＳ４００ ・ ＳＳ４９０
・ ＳＮＲ４００（・ ＡＢＲ４００ ・ ＡＢＳ４００） ・ ＳＮＲ４９０（・ ＡＢＲ４９０ ・ ＡＢＳ４９０）
（ＡＢＲ：ＪＩＳ Ｂ １２２０ 構造用転造両ネジアンカーボルトセット
ＡＢＳ：ＪＩＳ Ｂ １２２１ 構造用切削両ネジアンカーボルトセット）
・ 露出型弾性固定柱脚標準図による

2） 大臣認定柱脚（メーカー仕様による） ・ 使用する ⊙ 使用しない

3） アンカーフレーム ・ 使用する（ ・ 構造図 ・ 露出型弾性固定柱脚標準図） ⊙ 使用しない

2） 二重ナット ⊙ 適用する ・ 適用しない

(6) スタッドボルト

種類	径	長 さ（ｍｍ）	使 用 箇 所
・ 頭付きスタッド ・ ネジ付き溶接スタッド	１６φ	・８０・１００・１２０・１５０・	
	１９φ	・８０・１００・１２０・１５０・	
	２２φ	・１００・１２０・１５０・	

(7) ターンバックル（特記なき場合ＪＩＳ規格品とする）

1） 種類及びねじの呼び等 ・ φ１２ ・ φ１６ ・ φ１９ ・ φ２２

2） 建築用ターンバックル胴 ・ 割枠式 ・ パイプ式

3） 建築用ターンバックルボルト ・ 羽子板ボルト ・ 両ねじボルト

(8) デッキプレート（単位 mm）

1） 床用 高さ ・ ５０ 板厚 ・ １．２

2） 合成スラブ用 高さ ・ ５０ 板厚 ・ １．２ ・ １．６

3） 型枠用 高さ ・ 板厚 ・ 形版 タイプ

4） 防錆処理 ・ プライマー ・ 亜鉛メッキ（ ・ Ｚ１２ ・ Ｚ２７）

5） 耐火性能 ・ 意匠図による ・ 構造図による

6） 梁との接合方法 ・ 焼抜き栓溶接 ・ スタッドボルト
焼抜き栓溶接またはスタッドボルトのピッチ ・６００mm ・（３００）mm

(9) スカラップ形状 ・ スカラップ工法 ・ ノンスカラップ工法

(10) 継手

	柱		梁	
フランジ	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接

(11) 仮組 ・ 行う ・行わない

(12) 溶接一般

1） 溶接材料
アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

2） 溶接手法及び管理
使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の管理技術者により管理を行うこと。

3） エンドタブ 材料 ⊙ 固形エンドタブ ⊙ 鋼製エンドタブ
鋼製エンドタブは ⊙ 切除する（ ・すべて ⊙ 見掛りのみ ） ・ 切除しない
切断面の仕上 ⊙ 標準仕様書[7.6.7(1)(ｶ)(b)②仮設] ・ 図示（ ）

4） 技量付加試験 溶接作業における技能資格者の溶接作業の技量付加試験は ・ 行う ⊙ 行わない

5） 開先形状 ⊙ 溶接基準図による

6） 鋼製エンドタブに代わるその他の工法
鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ（セラミックタブ又はフラックスタブ）を用いたものとし、
工法の採用にあたっては、以下の項目を満足することを条件とし、監理者または監督員の承諾を受けること。
・ 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。
・ 溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習終了者（溶接技能者・A級以上）、
又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。
⊙ 溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。

7） 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ・有（図面番号： ） ⊙無

(13) 溶接部の検査（受入検査） ⊙ 行う ・ 行わない

1） 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による
2） 第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるＣＩＷ検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、
当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする
3） 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とする
4） 外観検査の合否判定は国土交通省告示１４６４号による。ただし告示に定めないものは日本建築学会「ＪＡＳＳ６ 6付則」鉄骨精度基準による
5） 超音波探傷検査は母材厚６mm以上の突合継手を対象とし、合否判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による
6） 溶接部の外観検査は全数検査とする
7） 工事現場に対し第三者検査機関による超音波探傷検査箇所数は平均出検品質限界（ＡＯＱＬ）・ ２．５％ ⊙ ４．０％による
検査水準は ・ 第１水準 ・ 第２水準 ・ 第３水準 ・ 第４水準 ・ 第５水準 ⊙ 第６水準とする

ＡＯＱＬの各検査水準に応じたロットの大きさは下表による。

AOQL(%) ＼ 検査水準	第１水準	第２水準	第３水準	第４水準	第５水準	第６水準
２．５	６０	７０	８０	１００	１３０	１９０
４．０	７０	８０	９０	１１０	１５０	２２０

サンプルの大きさは20とし、ロットの合否判定は下表による。

AOQL(%)	第一合格欠陥箇所数	第一不合格欠陥箇所数	第二合格欠陥箇所数	第二不合格欠陥箇所数
２．５	0	2	1	2
４．０	0	3	3	4

1回目の不合格欠陥箇所数が0の場合はそのロットを合格とし、第一不合格欠陥箇所数以上の場合不合格とする
第一欠陥箇所数未満の場合は2回目の抜き取り試験を行い、合計の不合格欠陥箇所数が第二合格欠陥箇所数以下の場合は合格とし、
第二合格欠陥箇所数以下の場合は不合格とする
合格ロットはそのまま受入、不合格ロットは残り全数を試験すし、いずれの試験でも、検出された不合格の溶接部はすべて補修を行い
再試験する

8） 現場溶接の場合は第三者機関による検査を１００％行う
9） ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・ 補強マニュアル」等を参考にする

(14) 錆止め塗装（耐火塗料を使用する場合、認定による錆止めを行う）

1） 錆止め塗料、素地ごしらえ

塗 用 室外	塗 用 室内	塗 料	塗付量（kg/㎡）	標準膜圧（μm）	素地ごしらえ	備 考
・	⊙	鉛、クロムフリーさび止めペイント（１種） ＪＩＳ Ｋ ５６７４	０．１０	３０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ⊙ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 見隠れ部 ⊙ Ｂ種
	・	鉛、クロムフリーさび止めペイント（２種） ＪＩＳ Ｋ ５６７４	０．１１	３０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 見隠れ部 ・ Ｂ種
	・	水系さび止めペイント ＪＡＳＳ １８ Ｍ－１１１	０．１１	３０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 見隠れ部 ・ Ｂ種
・	・	ＤＰ塗装部 （下塗り１回目）ジンクリッチプライマー（２種） ＪＩＳ Ｋ ５５５２ （下塗り２回目）構造物用さび止めペイント（Ａ種） ＪＩＳ Ｋ ５５５１ （下塗り３回目）構造物用さび止めペイント（Ａ種） ＪＩＳ Ｋ ５５５１	０．１４ ０．１４ ０．１４		重量鉄骨 ・ Ｂ種 軽量鉄骨 ・ Ａ種 ・ Ｃ種	

※注 （1）ＤＰ塗装の場合は塗布量による管理、その他については膜圧による管理を行うこと。
（2）特記なき場合、次の場所以外はすべて塗装する。
1. コンクリートに密着または埋込まれる部分
2. 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
3. 密閉される閉鎖型断面の内面
4. ピン、ローラー等接着する部分及び回転または摺同面で削り仕上した部分
5. 組立によって気合わせとなる場合

2） 塗装回数 ⊙ 現場１回、工場１回 ・ 現場２回 ⊙ 工場２回
接合部の未塗装部は汚れ、付着物、スパッター等を除去した後、錆止めを塗料を２回塗る。

3） 耐火被覆部への塗装 ⊙ 行う ・ 行わない

4） 貫通スリーブ内への塗装 ⊙ 行う（ ・ Ａ種 ・ Ｂ種） ・ 行わない

5） 膜圧検査 ⊙ 行う ・ 行わない

(15) 溶融亜鉛メッキ（適用箇所は ・ 意匠図 ⊙ 構造図）

1） 種類 ⊙ ２種ＨＤＺ５５ ⊙ ２種ＨＤＺ４５ ・ ２種ＨＤＺ３５

2） 錆止め塗料 ・ 行う ⊙ 行わない

塗 用 室外	塗 用 室内	塗 料	塗付量（kg/㎡）	標準膜圧（μm）	素地ごしらえ	備 考
・	・	一液形変成エポキシ樹脂さび止めペイント ＪＰＭＳ ２８	０．１０	３０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 見隠れ部 ・ Ｂ種
・	・	変成エポキシ樹脂プライマー ＪＡＳＳ １８ Ｍ－１０９	０．１４	４０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 見隠れ部 ・ Ｂ種
	・	水系さび止めペイント ＪＡＳＳ １８ Ｍ－１１１	０．１１	３０	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	見掛り部 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 見隠れ部 ・ Ｂ種

3） ボルト接合部
摩擦面の処理 ⊙ ブラスト処理(表面粗度５０μmRz以上) ⊙ りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法 ⊙ 行わない ・ 行う 試験方法等 ・
施工管理技術者 ・ 適用する ⊙ 適用しない
技能資格者による締付け作業 ・ 適用する ⊙ 適用しない

4） 検査 膜圧検査 ⊙ 行う ・ 行わない
外観検査 ⊙ 行う ・ 行わない

(16) 耐火被覆 ⊙厚み及び材質は（ ⊙ 意匠図 ・構造図）による

(17) アンカーボルト等の設置（材料は 5 アンカーボルト による）

1） 役割 ⊙ 構造用 ・ 建方用

2） 保持及び埋込方法 主要構造部 ・ Ａ種 ・ Ｂ種
その他部位 ・ Ａ種 ⊙ Ｂ種
（保持及び埋込方法がＡ種の場合のアンカーフレームは、アンカーボルトのサイズに相応した、形鋼などにより製作し、
アンカーボルトの位置および形状が確保できるものとする）

3） 柱底均しモルタル種類 ・ Ａ種 ⊙ Ｂ種

4） 柱底均しモルタル厚み ・ ５０mm ⊙ ３０mm

5） 無収縮モルタルの材料及び調合 ・ 標準仕様書［７．２．９］（ｂ） ・ 露出型弾性固定柱脚標準図

6） 無収縮モルタルの試験 圧縮強度試験 ・ 行う ・ 行わない
Ｊロート試験 ・ 行う ・ 行わない

(18) 軽量形鋼構造

1） 接合部（ボルト接合の場合） ⊙ 普通ボルト

令129 条の２の４、５の事項 ※ 設計が該当する場合には、口にチェックを記入する。

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

☑ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

☐ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、９０ｃｍ以下とすること。

☐ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが２５ｃｍ以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備（建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの）を除く。）は、

☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☐ 法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成１２年建設省告示第１３８９号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑ 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が１５ｋｇを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成１２年建設省告示第１３８８号第５に規定する構造方法によること。

特記事項														
		一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	担当	一級建築士 第117489号 前野 初像	担当	一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-002
			担当	一級建築士 第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士 第378328号 加藤 早妃	令和4年6月24日	図面名称	構造特記仕様書No.２	縮尺	A2：NS A3：NS

耐震改修特記仕様書

§１　一般事項

選択項目は⊙印を適用し、○印がない場合は＊印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1－1　工事内容

1）工事内容

⊙ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・ 鉄骨ブレースの新設工事
・ 柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
・ 柱補強工事(連続繊維補強工法)
・ 耐震スリット新設工事
・ 免震改修・制震改修工事

2）工事種別

⊙ 施工調査(施工計画調査、施工数量調査、調査のための破損部分の改修)
⊙ 撤去工事(設備機器配管及び仕上げの取り壊し、撤去(下地の一部又は 全てを含む)、構造体のはつり)
⊙ 鉄筋工事
⊙ あと施工アンカー工事
・ 鉄骨工事
⊙ グラウト工事
・ 連続繊維補強工事
・ スリット新設工事

1－2　使用材料は原則としてＪＩＳ規格品、又は大臣認定品とする。

1－3　設計図書の優先順位は下記による

1）本特記仕様書
2）設計図
3）標準図　⊙鉄筋コンクリート構造配筋標準図　⊙鉄骨工作標準図　・鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図　⊙鉄筋コンクリート補強標準図　・鉄骨ブレース補強標準図
4）既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説（日本建築防災協会）
5）仕様書（・公共建築協会　・日本建築家協会）
6）日本建築学会標準仕様書、　ＪＡＳＳ５、　ＪＡＳＳ６

1－4　各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1－5　構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ⊙含む　・含まない）

1－6　設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1－7　梁貫通位置、径、及び箇所数は（・意匠図　・構造図　⊙設備図）による。

1－8　施工計画調査

項　目	内　容	記録事項等
あと施工アンカー工事	既存柱梁、鉄筋探査	

1－9　その他

§２　仮設工事

§３　撤去工事

3－1　既存仕上げ等の撤去

1）既存仕上げ等の撤去
⊙ 撤去の範囲　※ 図示
・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分
・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分

2）既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置
⊙ 本工事の範囲　⊙ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分
※ 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。
⊙ 撤去の範囲　※ 図示

3－2　既存構造体の撤去

1）既存構造体の撤去
⊙ 撤去の範囲　※ 図示

2）撤去する既存コンクリート内にあった鉄筋及び鉄骨の処置
⊙ 既存コンクリート内の鉄筋の切断

鉄筋の切断	範　囲	記録事項等
⊙ 既存鉄筋は切断せず残す	※ 図示　・全ての撤去部分 ・　・適用なし	
⊙ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	※ 図示　・全ての撤去部分 ・　・適用なし	
⊙ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	※ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・	

3）はつり出した鉄筋の処置
※ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。　・（　　）
4）該当する既存コンクリート内にあった鉄骨の処置
※ コンクリート等を除去し鉄筋を表す。　・（　　）

3－3　既存構造体コンクリートの表層目荒らし

1）目荒らし範囲
※ 既存コンクリートとの打継ぎ面全面
※ 既存コンクリートとモルタ ル又はグラウト材の充填部の接合面
※ 図示　・新設壁部分の既存柱梁表面

2）目荒らし程度
※ 既存柱・梁に施すものは平均深さ5～10mm程度の回面を、合計が打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように全体にわたってつける。
※ 既存壁に施すものは平均深さ5～10mm程度の回面を、打継ぎ面の10～15%程度の面積となるように全体にわたってつける。
※ 図示　・（　　）

3－4　その他

1）既存コンクリートのはつりは最小限にとどめること。また、既設コンクリートのはつり・斫丸などによって既設の鉄筋を痛めないようにする。
2）既設コンクリートのはつり・斫丸などによって常時荷重に対する既設躯体の変形が大きくなる場合、適切な支持材を設置すること。
3）はつり後は、はつりくずや粉末などを十分除去し、モルタルまたはコンクリートを打ち継ぎ面の水湿しを行うこと。

§４　鉄筋工事

4－1　材種

種　類	径		継　手
⊙ ＳＤ２９５	Ｄ１６　以下		⊙重ね継手　・スパイラル　・工場溶接
⊙ ＳＤ３４５	Ｄ１９　以上		・重ね継手　⊙溶接継手　・機械継手（　　級）
・ ＳＤ３９０	Ｄ　　以上		・溶接継手　・機械継手（　　級）
・ 溶接金網			・重ね継手
・ 高強度せん断補強筋	・１２７５級	Ｐ	・重ね継手　・スパイラル　・工場溶接
	・　７８５級	Ｋ	
	・　６８５級	ＵＤ　ＵＲ	

溶接継手　⊙ ガス圧接　・ 突き合せ溶接（Ｄ１６以下は重ねアーク溶接でも可）

4－2　溶接部の検査（第三者機関による）

1）抜取り検査
・引張り試験（ＪＩＳＺ３１２０）
１検査ロットにつき　・ ３本　・
⊙超高音波探傷試験（ＪＩＳＺ３０６２）　・ 熱間押抜き試験
１検査ロットにつき　⊙ ３０箇所　・
○不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また、残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
１検査ロットは１組の作業班が１日に施工した溶接箇所の数量で２００箇所以内

4－3　割裂補強筋

種　類	材　料	材　種	径	本数、ピッチ（mm）	適用箇所
※ スパイラル筋	⊙ 鉄筋コンクリート用棒鋼 ・	⊙ ＳＲ２３５ ・	⊙ ６φ ・ ９φ ・	※ スパイラル筋の径（　） ※ スパイラル筋のピッチ（　）	※ 図示
・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼（異形鉄筋） ・	・ ＳＤ２９５Ａ ・	・ ６φ ・ ９φ ・	・ 壁内方向筋（　　） ・ 壁面方向筋（　　）	・ 図示

4－4　その他

1）　鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
2）　コンクリートを２回打ての箇材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
3）　コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。
4）　鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
5）　鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

§５　コンクリート工事

5－1　コンクリート工事一般事項

1）　コンクリートの種類及び強度

設計基準強度 Fc(N/mm²)	適　用　範　囲
・１８　・２１　⊙２４　・２７	ＳＯ１による
・１８　・２１　・２４　・２７	
・１８　・２１　・２４　・２７	

2）　軽量コンクリートの種類及び強度

設計基準強度 Fc(N/mm²)	適　用　範　囲
・１８　・２１　・２４　・２７	
・１８　・２１　・２４　・２７	
・１８　・２１　・２４　・２７	

3）　普通コンクリートの材料
⊙ セメント　※ 普通ポルトランドセメントＪＩＳＲ５２１０　・ 高炉セメントＢ種
・ 低熱ポルトランドセメントＪＩＳＲ５２１０　・
⊙ 骸骨材　※ 砂利　※ 砕石　・ 高炉スラグ骨材　・ 人工軽量骨材　・ 再生骨材
最大径（mm）※ ２０　・ ２５　・ ４０
4）　水　⊙ JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の付属書（規定）［レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水］による。
5）　混和材　⊙ＡＥ減水剤　・ 高性能ＡＥ減水剤　・ 躯体防水材　・ 膨張材
6）　その他

箇　所	基礎、地中梁	一　般			備　考
スランプ　ｃｍ	１５	１８			
水セメント比　％	６５	６０			６０以下
単位水量　ｋｇ/m³	１８５	１８５			１８５以下
単位セメント量ｋｇ/m³	２７０	２７０			２７０以上

5－2　試験　（躯体コンクリートの標準養生による調合管理強度試験、水中養生による材齢２８日圧縮強度推定試験または現場封かん養生による２８日超え９１日以内の圧縮強度推定試験は公的機関において行う）

1）　骨材　［ ⊙ 塩分含有量　・ アルカリシリカ反応性 ］　⊙ 行う　・ 行わない
2）　フレッシュコンクリート［ ⊙ スランプ　⊙ 空気量 ］　⊙ 行う　・ 行わない
3）　躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験　・ 行う　・ 行わない
4）　コンクリートコア抜き取り圧縮試験　・ 行う　⊙ 行わない
5）　マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析）　・ 行う　・ 行わない

5－3　調合強度はＪＡＳＳ５の両式を満足するものとする。

5－4　せき板及び支柱の在置期間（普通ポルトランドセメントの場合）

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁　下
コンクリートの材齢による場合	１５℃以上	３　日	１７　日	
	５℃以上	５　日	２５　日	２８　日
	０℃以上	８　日	２８　日	
圧縮試験による場合		５N/mm²	０．８５Fc または１２N/mm²、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで	圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで

5－5　場所打ちコンクリート壁 の増設工事、溶接 金網巻き工法及び 溶接閉鎖フープ巻き工法

1）　コンクリートの打込み工法等
・部位別のコンクリートの打設工法の指定

補　強　工　法	打　設　工　法	部　位
場所打ちコンクリート壁の増設工事	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁　・ 図示
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁　・ 図示
	⊙ 工法指定なし	⊙ 全ての増設壁　・ 図示
	・	
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法 溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁　・ 図示
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁　・ 図示
	⊙ 工法指定なし	⊙ 全ての増設壁　・ 図示
	・	

2）　柱頭柱脚の隙間部間の型枠　※ 発泡プラスチック保温材等を埋込む　・（　　）
3）　柱頭柱脚の隙間寸法　※ 図示　・（　　）
3）　あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ　※ 図示　・60mm　・（　　）

5－5　その他

§６　あと施工アンカー工事

6－1　種類

1）金属系　セットの方式　※ 本体打込み式（・ 改良型　・ 従来型 ）
埋込み深さ　※ 図示　・（　　）
引張耐力　※ 図示　・（　　）
せん断耐力　※ 図示　・（　　）
2）接着系　セットの方式　カプセル型　※ 有機系　・ 無機系
埋込み深さ　※ 図示　・（　　）
引張耐力　※ 図示　・（　　）
せん断耐力　※ 図示　・（　　）

6－2　あと施工アンカーの性能確認試験　・ 実施する　※ 実施しない
1）　試験方法　・（社）日本建築あと施工アンカー協会のあと施工アンカー標準試験法による　・（　　）
2）　試験対象のあと施工アンカー　※ 図示　・（　　）
3）　試験数　・（　　）

6－3　あと施工アンカーの施工確認試験　※ 実施する　・ 実施しない
1）　確認試験方法及び試験数　※ 改僧仕 8.12.7による　・ 引張試験 （１ロットに対し３本）　・ 打音試験 （全数）
2）　確認強度
※ アンカーの鋼材による引張荷重、またはコンクリート破壊による引張荷重（埋込み及び及びへりあきの影響を受ける場合は低減した荷重）の小さい方の値の2/3とする。（接着系の場合は、付着破壊の荷重も考慮し決定する。）
3）　事礼前の埋込み配置等の探査
・ 範囲　※ 図示　・ あと施工アンカー施工部分全て
・ 方法　※ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行なう。　・ はつり出しによる。

6－4　シアコネクター
1）　場所打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ
・ 種類　※ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー　・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー
・ 径（mm）　※ Ｄ１０　・（　　）
・ 間隔（mm）　※ ５００×５００　・（　　）
2）　シアコネクタとセパレーターの兼用　※ 兼用してもよい　・ 兼用しない　・（　　）

§７　鉄骨工事

7－1　材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通しダイア	内ダイア	大 梁	ブレース	小梁、他
一般構造用圧延鋼材	・ＳＳ４００　・						
溶接構造用圧延鋼材	・ＳＭ４００Ａ・ＳＭ４９０Ａ						
建築構造用圧延鋼材	・ＳＮ４００Ａ・ＳＮ４９０Ａ						
	・ＳＮ４００Ｂ・ＳＮ４９０Ｂ						
	・ＳＮ４００Ｃ・ＳＮ４９０Ｃ						
一般構造用角形鋼管	・ＳＴＫＲ４００・ＳＴＫＲ４９０						
冷間成形角形鋼管	・ＢＣＫ２９５　・						
	・ＢＣＰ２３５　・ＢＣＰ３２５						
熱間成形角形鋼管	・ＳＨＣ４００Ｂ・ＳＨＣ４００Ｃ						
	・ＳＨＣ４９０Ｂ・ＳＨＣ４９０Ｃ						
一般構造用炭素鋼管	・ＳＴＫ４００　・ＳＴＫ４９０						
一般構造用軽量形鋼	・ＳＳＣ４００　・						

7－2　高力ボルト

高力ボルトの種類		使　用　箇　所
トルシア形高力ボルト	・Ｓ１０Ｔ	全般
ＪＩＳ形高力ボルト	・Ｆ１０Ｔ	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ形高力ボルト	・Ｆ８Ｔ	母材が亜鉛メッキされている部分

7－3　普通ボルト、アンカーボルト
1）　材質　・ＳＳ４００　・ＳＳ４９０（Ｍ 以上）　・ＳＮＲ４００　・ＳＮＲ４９０（Ｍ 以上）
2）　大臣認定柱脚（メーカー仕様による）　・使用する　・使用しない

7－4　頭付きスタッド

径	長 さ（ｍｍ）	使 用 箇 所
１６φ	・８０・１００・１２０・１５０・	
１９φ	・８０・１００・１２０・１５０・	
２２φ	・１００・１２０・１５０・	

7－5　溶接材料
1）　アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2）　ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7－6　スカラップ形状　・スカラップ工法　・ノンスカラップ工法

7－7　継手

	柱		梁		ブレース	
フランジ	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接	・高力ボルト	・現場溶接

7－8　溶接手法及び管理
使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の管理技術者により管理を行うこと。

7－9　錆止め塗装（工場塗１回、現場塗１回を原則とする）
1）　素地こしらえ　・ケレン　・ブラスト
2）　錆止め塗料

適　用		塗　料	塗付量（ｋｇ/ｍ²）	
室外	室内		１　種	２　種
・	・	鉛、クロムフリー錆止め　ＪＩＳＫ５６７４	・０．１０	
・	・	一般用錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６２１	・０．０９	
・	・	鉛丹錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６２２	・０．１７	・０．１４
・	・	シアナミド鉛錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６２５	・０．１２	・０．１０

3）　溶融亜鉛メッキ　・行う　・行わない

7－10　溶接部の検査（受入検査）　・行う　・行わない
1）　受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による
2）　第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるＣＩＷ検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする
3）　受入検査は日視による外観検査と超音波探傷検査とする
4）　外観検査の合否判定は国土交通省告示１４６４号による。ただし告示に定めないものは日本建築学会「ＪＡＳＳ６　６付則」鉄骨精度基準による
5）　超音波探傷検査は母材厚６ｍｍ以上の突合継手を対象とし、合否判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による
6）　溶接部の外観検査は全数検査とする
7）　工事溶接に対し第三者検査機関による超音波探傷検査箇所数は平均出検品質限界(AOQL)・　２．５％　・　４．０％による
検査水準は　・　第１水準　・　第２水準　・　第３水準　・　第４水準　・　第５水準　・　第６水準とする
ＡＯＱＬの各検査水準に応じたロットの大きさは下表による。

AOQL(%) ＼ 検査水準	第１水準	第２水準	第３水準	第４水準	第５水準	第６水準
２．５	６０	７０	８０	１００	１３０	１９０
４．０	７０	８０	９０	１１０	１５０	２２０

サンプルの大きさは20とし、ロットの合否判定は下表による。

AOQL(%)	第一合格欠陥箇所数	第一不合格欠陥箇所数	第二合格欠陥箇所数	第二不合格欠陥箇所数
２．５	0	2	1	2
４．０	0	3	3	4

１回目の不合格欠陥箇所数が0の場合はそのロットを合格とし、第一不合格欠陥箇所数以上の場合不合格とする
第一欠陥箇所数未満の場合は２回目の抜き取り試験を行い、合計の不合格欠陥箇所数が第二合格欠陥箇所数以下の場合は合格とし、
第二合格欠陥箇所数以下の場合は不合格とする
合格ロットはそのまま受入、不合格ロットは残り全数を試験すし、いずれの試験でも、検出された不合格の溶接部はすべて補修を行い再試験する
8）　現場溶接の場合は第三者機関による検査を１００％行う
9）　ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人　建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・　補強マニュアル」等を参考にする

7－11　仮組
・仮組の実施　・ 実施する　（　　）　・ 実施しない

7－12　技能資格者
・溶接作業における技能資格者の技量付加試験　・ 実施する　（　　）　・ 実施しない

7－13　鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定（グレード）					
S	H	M	R	J	

7－14　耐火被覆材の種別及び性能
1）　耐火被覆材の種別

耐火被覆材の種別	使　用　箇　所
・ ラスモルタル塗り	・ 図示　・
・ 耐火材吹付け ・ 吹付けロックウール ・ 乾式　・ 半乾式 ・ 湿式ロックウール	・ 新設ブレース　・
・ 耐火版張り	・ 図示　・

2）　所要性能

所　要　性　能	使　用　箇　所
・ ３０分耐火	・ 図示　・
・ １時間耐火	・ 新設ブレース　・

§８　グラウト工事

8－1　モルタル及びグラウト材
1）　構造体用モルタル　※ 改僧仕 8.2.6による。
2）　無収縮モルタル材　※ 改僧仕 8.2.12による。
3）　グラウト材　※ 改僧仕 8.2.12による。(性能は、建築材料等品質性能表による)

8－2　既存構造体との取合部の処理方法
⊙増設の現場打ち鉄骨コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法

部　位	処　理　方　法	備　考
⊙ 増設壁の上部	※ グラウト材の注入 ・	※ 寸法は図示による ・
・	・	・

§９　連続繊維補強工事

9－1　連続繊維による補強、補修工事　※（財）建築防災協会の評価を受けた工法とする。　・

9－2　連続繊維の材料　・ 炭素繊維　・ アラミド繊維・　ガラス繊維

9－3　連続繊維の形状　※ 一方向繊維又は一方向シート　・ 一方向プレプリグ　・ 二方向繊維

9－4　炭素繊維の性質　・引張強度(含浸硬化後)　・ 3,400 Mpa 以上　・ 2,900 Mpa 以上
・ヤング係数(含浸硬化後)　・ 230 Gpa 以上

9－5　連続繊維シートの施工準備
1）　仕上げモルタルの除去　※ 既存構造躯体面まで除去する。　・ モルタル除去は行なわない。
2）　既存モルタルの圧縮強度測定　・ 行う（　　）　・ 行わない
3）　柱の隅角部の面取り　※ 工法の評価内容により、半径20mm又は30mmとする。

9－6　炭素繊維の目付量　※ 図示　・ 200g/m²　・ 300g/m²

9－7　炭素繊維シートの巻き数　※ 図示　・ １巻き　・ ２巻き

9－8　連続繊維補強材の強度試験
1）　引張強度試験　・ 実施する(JIS 7073に準拠する)　※ 実施しない
・ 試験数量(　　)
2）　付着強度試験　・ 実施する(JIS 6909に準拠する)　※ 実施しない
・ 試験数量(　　)

§９　スリット新設工事

9－1　耐震スリットの種類及び形状
1）　完全スリットの形状

記　号		一　般　型	一面せん断型	
形　状		※ 図示	※ 図示	
幅　W(mm)		※ 図示	※ 図示	
既存鉄骨の種類		・ 存置する ・ 既存鉄骨はつり出し ・ 切断してよい	・ 存置する ・ 切断してよい	

2）　部分スリットの形状

記　号		片側スリット	両面スリット	
形　状		※ 図示	※ 図示	
幅　W(mm)		※ 図示	※ 図示	
目地部の残存厚さ ts(mm)		・ 壁厚の1/2以上かつ70mm以上	・ 壁厚の1/2以上かつ70mm以上	
既存鉄骨の種類		・ 存置する ・ 既存鉄骨はつり出し ・ 切断してよい	・ 存置する ・ 切断してよい	

9－2　スリット部の配管等の調査
・範囲　※ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。　・ 図示
・方法　※ 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

9－3　スリットの透け位置
・壁上端部　・ 梁との接合部
・壁の柱まわり部　・ 柱の仕上げを透けたまわり部
・壁下端部　・ 床仕上げ部　・ 床体上部

§１０　その他

※ 免震改修、制震改修に関する仕様は図示する。

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-003
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	構造特記仕様書（耐震補強）	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.1

1　適用範囲

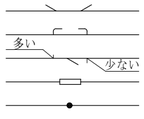
（a）本配筋標準図は、鉄筋コンクリート造における鉄筋の加工、組立の一般的な基準とする。
（b）本配筋標準図以外については設計図書及び監督職員の指示による。
（c）本配筋標準図で「図示」とあるのは、設計図面記載事項を意味する。
（d）本配筋標準図で「特記」とあるのは、「特記仕様書」の記載事項を意味する。
（e）設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　　また、本標準図に明記なき場合、公共建築工事標準仕様書(平成31年度版)及び日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2020)」、特記仕様書に指定した共通仕様書による。
（f）本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
（g）本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

2－1　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	◦	×	ø	●	○	◉	⊠	◎	⊕	⬢	⊗
呼び径d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合
・機械式継手表示
・溶接継手表示
　（ガス圧接、突き合せ溶接）



2－2　加工及び組立（一般事項）

（a）鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
（b）有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
（c）コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
（d）鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。

2－3　加　工

（a）鉄筋の切断は、シヤーカッター・直角切断機等によって行う。ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
（b）異形鉄筋の末端部のフックは、2－7（フック）により、以下の部分にはフックをつける。
　①柱の四隅にある主筋の重ね継手及び最上階の柱頭
　②柱の出隅及び下端の両済にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く）
　③煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
　④杭基礎のベース筋
　⑤帯筋、あばら筋及び幅止メ筋
（c）鉄筋の折曲げ形状及びその寸法は、2－8（鉄筋の折曲げ）による。

2－4　組　立

（a）鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。
　なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは原則として、鋼製とする。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

2－5　継　手

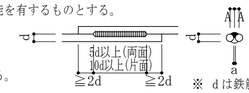
（a）鉄筋の継手は、重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（平成12年建設省告示1463号に適合したもの）とし、適用は特記による。
（b）鉄筋の溶接はアーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書7.6.5〔部材の組立〕（4）及び7.6.7〔溶接施工〕（1）による。また、溶接技能者は、後述の通りとする。
（c）重ね継手及び定着の長さは、2－9（重ね継手及び定着長さ）、隣り合う継手の位置は、2－10（隣り合う継手の位置）による。溶接金網、スパイラル筋の継手及び定着は、それぞれ2－11（溶接金網の継手及び定着）、2－12(スパイラル筋の継手及び定着）による。

2－6　溶　接

2－6－1　溶接材料の種類
　溶接棒、ワイヤ及びフラックスの種類は下表により、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種　類	規格番号	規　格　名　称
被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用 被覆アーク溶接棒
セルフシールドアーク溶接用鋼ワイヤ	JIS Z 3313	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接 フラックス入りワイヤ

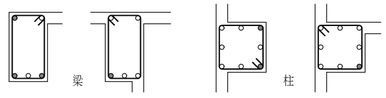
2－6－2　材料の取扱い
　溶接材料は、丁寧に取扱い、被覆材のはく脱、汚損、変質、吸湿、著しい錆のあるもの等は使用しない。吸湿の疑いがあるものは、その種類に応じた乾燥条件で乾燥する。
2－6－3　溶接技能者
（a）溶接技能者は、工事に相応した次に示す試験等により(社)日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
　(1) 炭素鋼の手溶接の場合は、JIS Z 3801（手溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
　(2) 炭素鋼の半自動溶接の場合は、JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
　(3) 自動溶接の場合は、上記(1)又は(2)のいずれかの試験。なお、技量を証明する主な工事経歴を、監督職員に提出すること。
　(4) 組立溶接の場合は、上記(1)又は(2)のいずれかの試験。
（b）溶接技能者の技量に疑いを生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し監督職員の承諾を受ける。
2－6－4　溶接施工
（a）溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
（b）溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
（c）溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
（d）材質、材厚、気温などを考慮の上、必要に応じて適切な溶接条件となるよう予熱を行う。
（e）溶接に支障となるスラグ及び溶接完了後のスラグは入念に除去する。
（f）著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは、除去する。
（g）アークストライクは行わない。ただし、アークストライクを起こした場合は、鋼材表面を平滑に仕上げる。
（h）溶接継手は『鉄筋の継ぎ手の構造方法を定める件』（平成12年5月31日　建設省告示第1463号）に基づく性能を有するものとする。
2－6－5　鉄筋のフレア溶接
　鉄筋のフレア溶接は右図による。



※　dは鉄筋の呼び径を示す。

2－7　フック

・下記の(1)～(9)に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
　(1) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋
　(2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
　(3) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



左図の●印の鉄筋の末端にはフックが必要。

　(4) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
　(5) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁をのぞく）
　(6) 杭基礎のベース筋
　(7) 丸鋼
　(8) 単純梁の支持端、片持梁及び片持スラブの先端
　(9) 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

2－8　鉄筋の折り曲げ

鉄筋の折曲げ形状・寸法は以下の通りとする。

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295A,SD295B,SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°	余長 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	余長 6d以上			
90°	余長 8d以上			
135°及び90°（幅止め筋）	余長 4d以上　余長 4d以上			

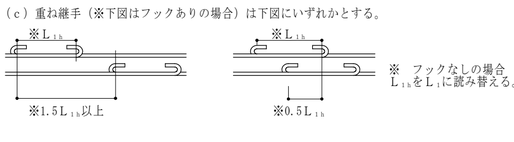
※注　片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

2－9　重ね継手及び定着長さ

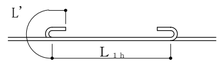
重ね継手及び定着の長さ、投影定着長さは下表による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c(N/mm²)	フックなし				フックあり				L_a	L_b
		L_1	L_2	L_3		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}			
				小梁	スラブ			小梁	スラブ		
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	－	20d	15d
	21	40d	35d			30d	25d			15d	15d
	24～27	35d	30d			25d	20d			15d	15d
	30～36	35d	30d			25d	20d			15d	15d
	39～45	30d	25d			20d	15d			15d	15d
SD345	18	50d	40d			35d	30d			20d	20d
	21	45d	35d			30d	25d			20d	20d
	24～27	40d	35d			30d	25d			20d	15d
	30～36	35d	30d			25d	20d			15d	15d
	39～45	35d	30d			25d	20d			15d	15d
SD390	21	50d	40d			35d	30d			20d	20d
	24～27	45d	40d			35d	30d			20d	20d
	30～36	40d	35d			30d	25d			20d	15d
	39～45	40d	35d			30d	25d			15d	15d

一般定着の直線L_2またはフック付きL_{2h}の図



※注(1)　L_1，L_{1h}：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
　　並びに下記(2)及び(3)以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　(2)　L_2，L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　(3)　L_3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　(4)　L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
　(5)　フックのある場合のL_{1h}、L_{2h}及びL_{3h}は、次図に示すように鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、末端のフック部分L'は定着長さに含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

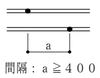


フックありの場合の重ね継手の長さ

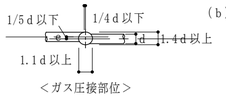
　(6)　軽量コンクリートの場合は表の値に5dを加えたものとする。
　(7)　柱に取り付ける梁の引張り鉄筋は、特記による。特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と上表の定着長さのうち大きい値とする。
　(7)　なお、梁主筋の柱内定着において、縦に折曲げて定着する場合は、下図に示すように柱せいの3／4倍以上のみ込ませる。ただし、折曲げた先の直線部の長さが8dに満たなくなる場合は、監督職員と協議する。
　(8)　仕口内に縦の折り曲げて定着する鉄筋の長さLがフック付き定着長さを確保できない場合は、全長を直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上）をのみ込ませる。

2－10　隣り合う継手の位置

（a）圧接継手

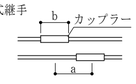


間隔：a≧400



＜ガス圧接部位＞

（b）機械式継手



間隔：a≧400
かつb+40

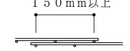
（c）重ね継手（※下図はフックありの場合）は下図にいずれかとする。

※　フックなしの場合L_{1h}をL_1に読み替える。

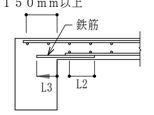
（d）　D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手は用いない。
（e）溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。
（f）なお、先組み工法等で柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

2－11　溶接金網の継手及び定着

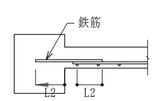
溶接金網の継手及び定着は下図による。
（a）重ね継手
　1節半以上かつ150mm以上



（b）定着（スラブの場合）
　1節半以上かつ150mm以上

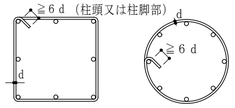


（c）定着（壁の場合）

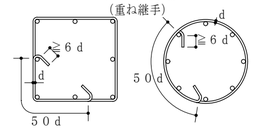


2－12　スパイラル筋の継手及び定着

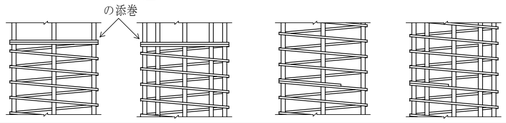
（a）末端部



（b）中間部（重ね継手）



1.5巻き以上の添巻



2－13　鉄筋のかぶり厚さ

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

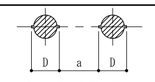
鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位			設計かぶり厚さ　※（　）内は最小かぶり厚さ	
			仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根・床スラブ・非耐力壁		30（20）	40（30）
	柱・梁・耐力壁	屋　内	40（30）	40（30）
		屋　外	40（30）	50（40）
	擁　壁		50（40）※1	50（40）※1
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁布基礎の立上り		※2 50（40）※2	
	基礎・擁壁		※3,5 70（60）※3,5	
煙突等高熱を受ける部分			70（60）	

※注(1)（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。
　(2)「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
　(3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
　(4) 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
　(5) 基礎の主筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。
　(6) 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。
　(7) 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。
（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（d）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（b）による。

2－14　鉄筋相互のあき

（a）鉄筋のあきaは原則として下記による。
　呼び名の数値dの1.5倍以上
　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上
　　｝かつ25mm以上



※注　D：鉄筋の最大外径

（b）隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍
（c）二段筋のあきは1.5dとする。
（d）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（a）による。

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-004
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	鉄筋コンクリート配筋標準図No.1	縮尺	A2：NS A3：NS

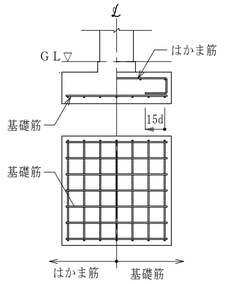
鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.2

3－1　基礎の配筋及び杭頭補強の方法

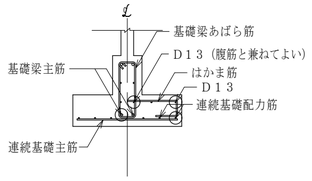
3－1－1　直接基礎

直接基礎の場合の配筋は下図による。

（a）独立基礎



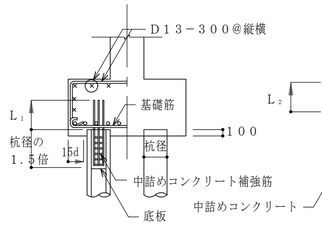
（b）連続基礎



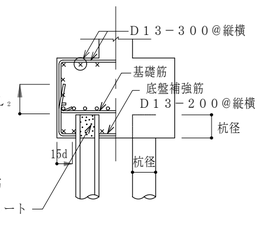
3－1－2　既製コンクリート杭基礎

既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図のA形、B形又は、A1形又はB1形とし、適用は特記による。なお、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。

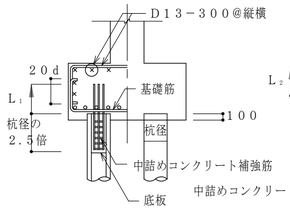
＜A形＞



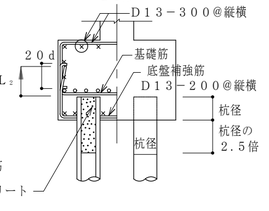
＜B形＞

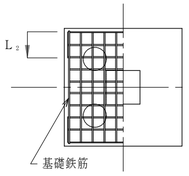


＜A1形＞



＜B1形＞

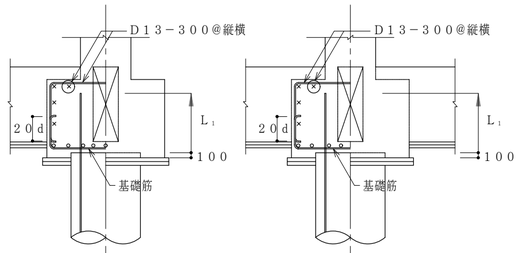




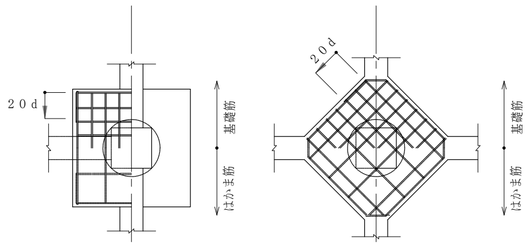
（注）1.中詰めコンクリート補強筋は、フックを付けない。
2.中詰め補強筋は、図示による。
3.基礎筋には、フックを付ける。

3－1－3　場所打ち杭基礎

場所打ち杭基礎の配筋は、下図による。

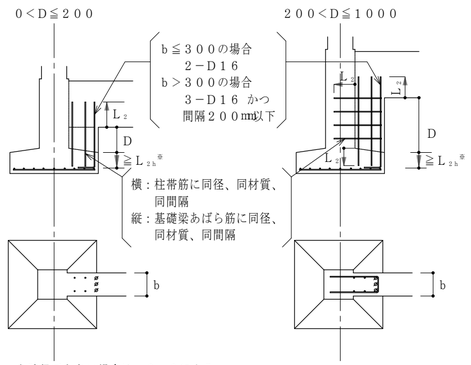


（注）基礎筋には、フックを付ける。



3－2　基礎接合部の補強

基礎接合部の補強配筋は下図による。



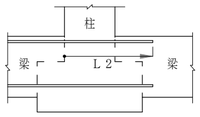
※L_{2b}を確保できない場合は、2－9による。

4－1　基礎梁主筋の継手及び定着

（a）上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。

（b）梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

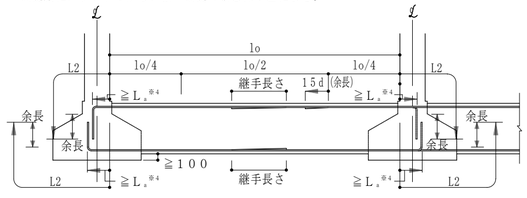
（c）梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。



4－2　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

4－2－1　基礎梁にスラブがつかない独立基礎

基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6［大梁］による。

(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。

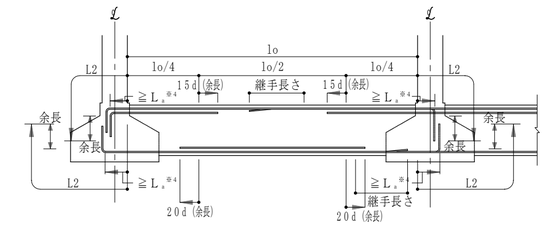
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。

(4) L_aは原則として柱せいの3／4倍以上とする。

4－2－2　基礎梁にスラブがつく独立基礎

基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合は下図による。

ただし、耐圧スラブがつく場合は、4－2－3による。



※注(1) 上図にない事項は、6［大梁］による。

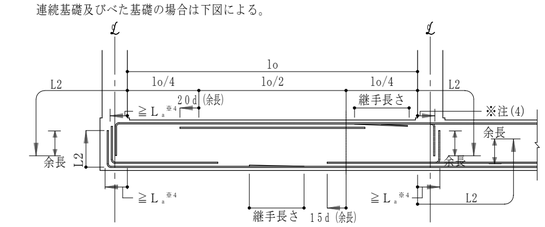
(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。

(3) 破線は柱内定着の場合を示す。

(4) L_aは原則として柱せいの3／4倍以上とする。

4－2－3　連続基礎及びべた基礎

連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6［大梁］による。

(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。

(3) 破線は柱内定着の場合を示す。

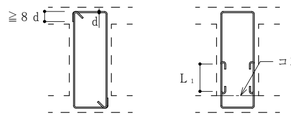
(4) L_aは原則として柱せいの3／4倍以上とする。

4－3　基礎梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

4－3－1　あばら筋

（a）あばら筋の径及び間隔は図示による。

（b）あばら筋組立ての形及びフックの位置は、6－4による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は下図によることができる。



4－3－2　あばら筋の割付け

あばら筋の割り付けは、6－6による。

4－3－3　腹筋及び巾止め筋

腹筋及び巾止め筋は、6－3及び6－5による。ただし、梁せいが 1.5mを超える場合は特記による。

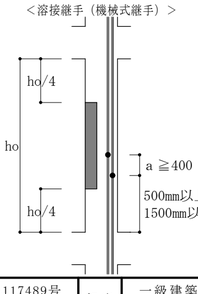
5－1　柱主筋の継手、定着及び余長

5－1－1　柱主筋の継手

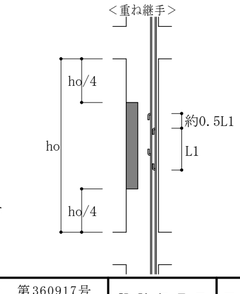
（a）継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ3／4ho（hoは柱の内法高さ）以下とする。

（b）重ね継手長さはL_1とし、定着及び余長は5－1－2による。

＜溶接継手（機械式継手）＞



＜重ね継手＞



※注(1)　═══ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。

(2) 2－5で定めた鉄筋には、フックをつける。

(3) 隣合う継手の位置は2－10による。

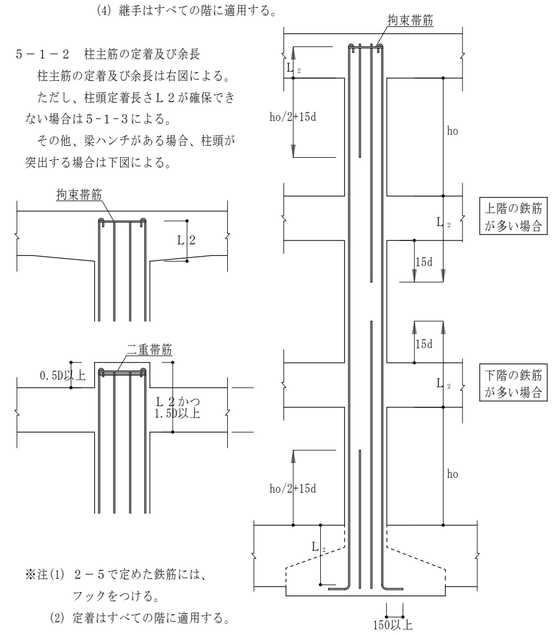
(4) 継手はすべての階に適用する。

5－1－2　柱主筋の定着及び余長

柱主筋の定着及び余長は右図による。

ただし、柱頭定着長さL_2が確保できない場合は5-1-3による。

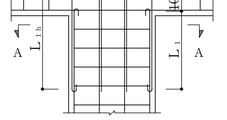
その他、梁ハンチがある場合、柱頭が突出する場合は下図による。

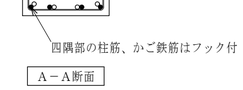


※注(1) 2－5で定めた鉄筋には、フックをつける。

(2) 定着はすべての階に適用する。

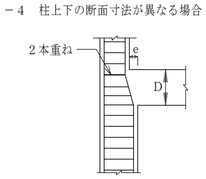
5－1－3　柱頭定着長さL_2が確保できない場合

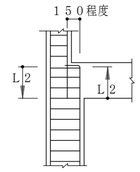




A－A断面

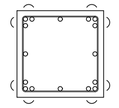
5－1－4　柱上下の断面寸法が異なる場合





5－1－5　柱2段配筋

2段筋のスペーサーは下図による。



・図中の⌒印のあるものは2段配筋とする。

・aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25mmの最大のものとする。

6φ@1500
かつ、各階2カ所以上

6φ@750千鳥
かつ、各階2カ所以上

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	図面名称	鉄筋コンクリート配筋標準図No.2

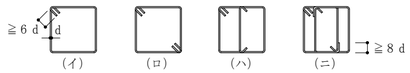
工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-005
		縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.３

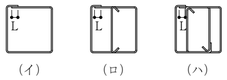
５－２　帯　筋

（ａ）帯筋の種類及び間隔は、図示による。
（ｂ）帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。
(1) Ｈ形を標準とする。
(2) Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ｉ形とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とする。フレア溶接要領は２－５［溶接］による。

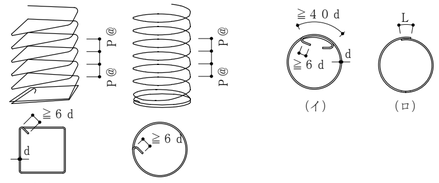
Ⅰ．Ｈ形



Ⅱ．Ｗ－Ｉ形（注）溶接は、鉄筋の組立前に行う。

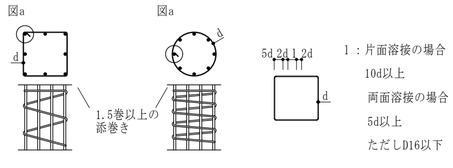


Ⅲ．ＳＰ形(スパイラル筋)　　Ⅳ．丸形

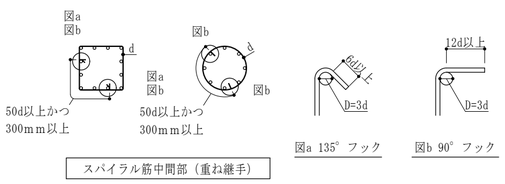


※注　ＳＰ形において柱頭及び柱脚の端部は１．５巻以上の添巻を行う。（ｄ）参照。

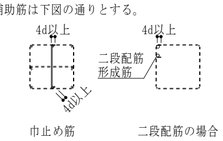
（ｃ）フック及び継手の位置は、交互とする。
（ｄ）スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
(1) 末端は1.5巻以上の添巻きをし、図aのフックをつける。
(2) 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。



l：片面溶接の場合
10d以上
両面溶接の場合
5d以上
ただしD16以下



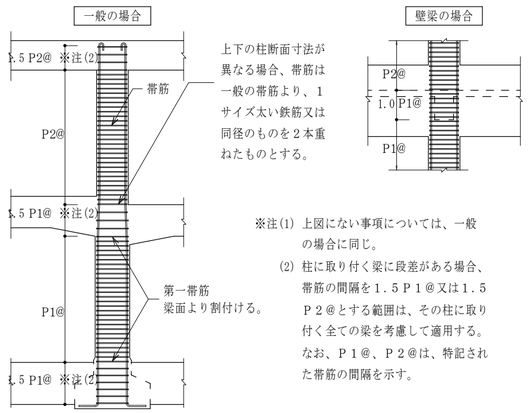
（ｅ）補助筋は下図の通りとする。



※注　補助筋はD10をピッチ600以内割り付ける。

５－３　帯筋の割り付け

帯筋の割り付けは設計図による。設計図に指示がなければ、下図による。

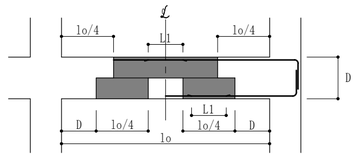


上下の柱断面寸法が異なる場合、帯筋は一般の帯筋より、１サイズ太い鉄筋又は同径のものを２本重ねたものとする。

※注(1) 上図にない事項については、一般の場合に同じ。
(2) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を１．５Ｐ１@又は１．５Ｐ２@とする範囲は、その柱に取り付く全ての梁を考慮して適用する。なお、Ｐ１@、Ｐ２@は、特記された帯筋の間隔を示す。

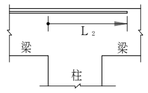
６－１　大梁主筋の継手及び定着（一般事項）

（ａ）継手中心位置は下記による。



※注(1) ▭ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。
(2) 継手長さはＬ１とし、定着長さ及び余長は６－２による。

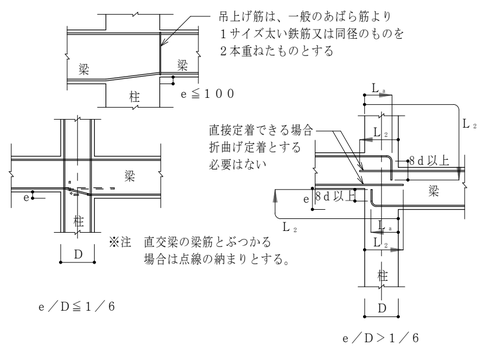
（ｂ）梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。



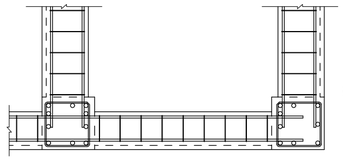
（ｃ）前項（ｂ）の梁主筋を柱内に定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、２－９［重ね継手及び定着長さ］による。
上　端　筋　：曲げ降ろす。
下端筋（一般）：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。

（ｄ）梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、１：４とする。

（ｅ）段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、下図によることができる。

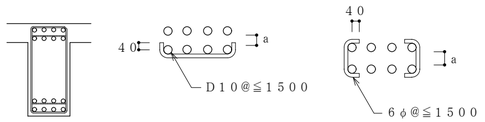


（ｇ）柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。
ただし、梁のフカシが発生する場合、フカシ量については設計図による。
設計図にない場合は、監督職員と協議する。



※注　梁の主筋は柱の主筋の内側に配筋する。この場合、スターラップの幅を狭めて加工する。

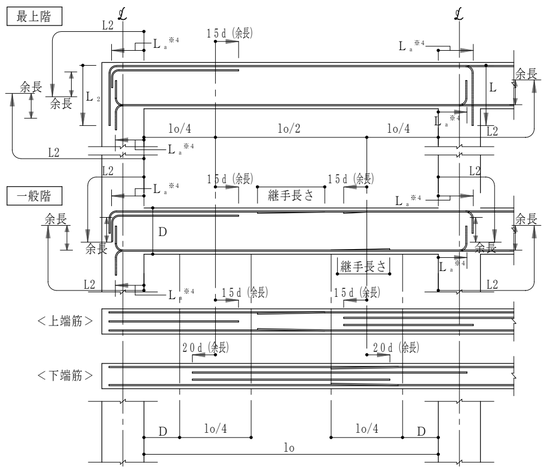
（ｆ）２段筋のスペーサーは下図による。



※注　ａは１．５ｄかつ粗骨材の最大寸法の１．２５倍かつ２５ｍｍの最大のものとする。

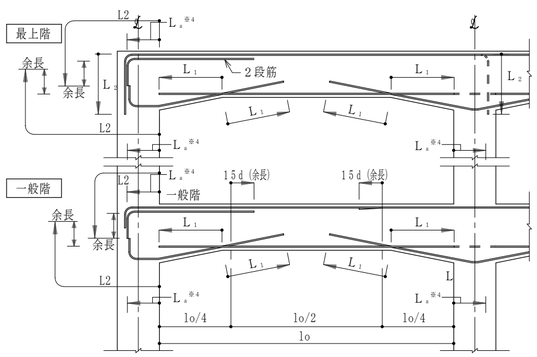
６－２　大梁筋の継手、定着及び余長

６－２－１　ハンチのない場合
ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は下図による。



※注(1) ２－５で定めた鉄筋には、フックをつける。
(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。
(4) Ｌ。は原則として柱せいの３／４倍以上とする。

６－２－２　ハンチのある場合
ハンチのある場合の定着及び余長は下図による。



※注(1) ２－５で定めた鉄筋には、フックをつける。
(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。
(4) Ｌ。は原則として柱せいの３／４倍以上とする。

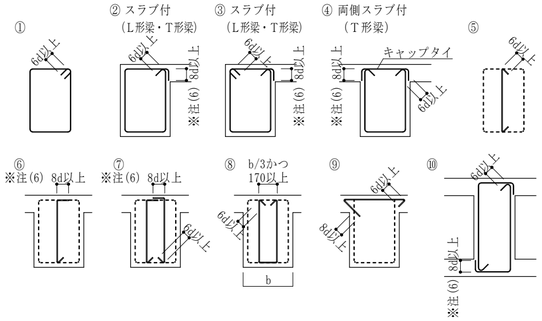
※注(1) ２－５で定めた鉄筋には、フックをつける。
(2) ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
(3) 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、－ － － のように引き通すことができる。
(4) Ｌ。は原則として柱せいの３／４倍以上とする。
(5) 破線は柱内定着の場合を示す。

６－３　あばら筋、腹筋及び巾止め筋（一般事項）

（ａ）あばら筋の種類，径及び間隔は、設計図による。
（ｂ）巾止め筋及び受け用巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合はＤ１０@１０００程度とする。
（ｃ）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０ｍｍ程度とする。
（ｄ）壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければＬ２とする。

６－４　あばら筋の組立ての形及びフックの位置

（ａ）あばら筋（副あばら筋を含む）の組立ての形及びフックの位置については下図の通りとする。

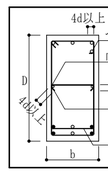


※注(1) あばら筋の加工は上図①による。なお、②③④⑥⑦⑨⑩は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
(2) ⑩⑪は梁せいの大きい場合とする。
(3) ⑨はピッチ2pで交互配置とする。
(4) 溶接継手は５－２［帯筋］を参照とする。
(5) ⑪は、溶接継手又は重ね継手のどちらかとする。
(6) 柱面より梁せい１．５Ｄの範囲は、180°又は135°フックとする。

（ｂ）フックの位置は、①の場合は交互とし、②の場合はＬ形ではスラブの付く側、Ｔ形では交互とする。なお、③の場合は、スラブの付く側を９０°折曲げとする。

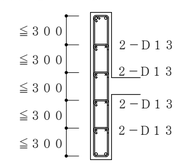
６－５　補助筋

（ａ）腹筋及び巾止め筋・その他補助筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。



腹　筋	D＜600　不要
	600≦D＜900　2-D10（１段）
	900≦D＜1200　4-D10（２段）
	1200≦D　D10@300以内
巾止筋	D10@1000以内で割り付ける。
受　筋 つり筋	D10@1000以内で割り付ける。

（ｂ）壁梁の場合の腹筋及び巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。



※注　３００ピッチ以内に２－Ｄ１３の腹筋を導入する。
巾止め筋は上記（ａ）と同様とする。

特記事項				設計年月日	令和4年6月24日	図面番号	S-006
				工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	縮尺	A2：NS A3：NS
				図面名称	鉄筋コンクリート配筋標準図No.３		

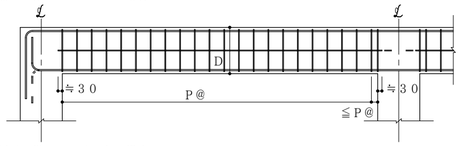
一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当　一級建築士　第117489号　前野　初像
担当　一級建築士　第307846号　三橋五百子
担当　一級建築士　第360917号　前田　祐作
担当　一級建築士　第378328号　加藤　早妃

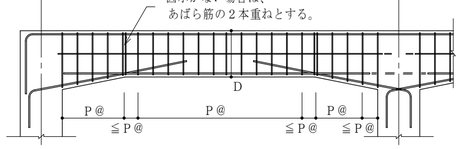
鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.4

6－6　あばら筋の割り付け

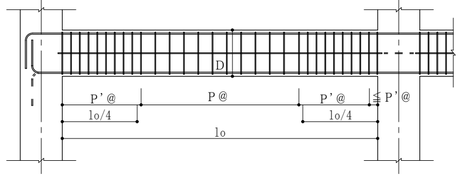
（a）間隔が一様でハンチのない場合



（a）間隔が一様でハンチのある場合



（c）梁の端部で間隔の異なる場合

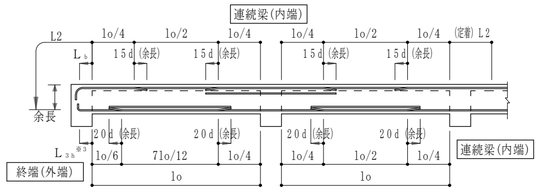


※注(1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
(2) 図中のP@，P'@は、図示されたあばら筋の間隔を示す。

7－1　小梁主筋の継手、定着及び余長

7－1－1　連続小梁の場合

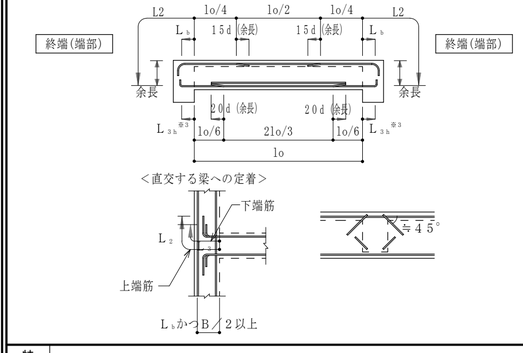
連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



※注(1) 印は、余長位置を示す。
(2) 上図にない事項は、4［基礎梁］及び6［大梁］による。
(3) L_{3b}を確保できない場合は、2－9による。

7－1－2　梁の端部で間隔の異なる場合

梁の端部で間隔の異なる小梁の継手、定着及び余長は下図による。

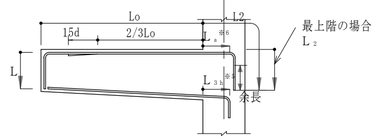


※注(1) 印は、余長位置を示す。
(2) 上図にない事項は、4［基礎梁］及び6［大梁］による。
(3) L_{3b}を確保できない場合は、2－9による。

7－2　片持ち梁主筋の定着及び余長

7－2－1　先端に小梁のない場合

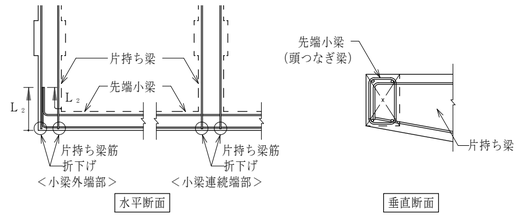
先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6［大梁］による。
(2) 印は、余長位置を示す。
(3) 先端の折曲げの長さLは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
(4) 最上階は通し配筋として、隣接する梁へ定着する場合は設計図の特記による。その場合、柱頭部に拘束筋を配筋する。
(5) L_{3b}を確保できない場合は、2－9による。
(6) L_aは原則として柱せいの3／4倍以上とする。

7－2－2　先端に小梁のある場合

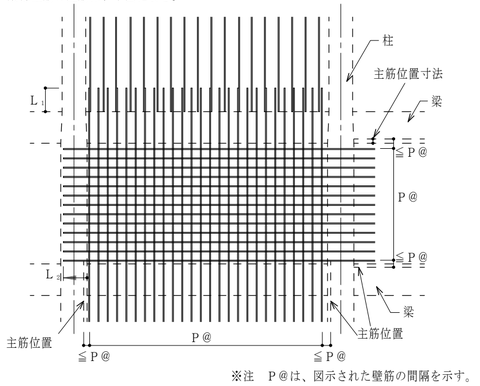
先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、前項7－2－1による。
(2) 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
(3) 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

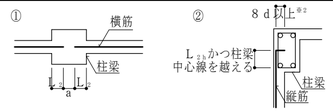
8－1　壁配筋（一般事項）

（a）一般部壁筋の配筋は、下図による。



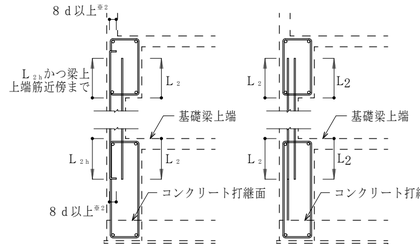
※注　P@は、図示された壁筋の間隔を示す。

（b）特記なき場合は壁配筋の重ね継手はL_1、定着の長さはL_2とする。
（c）巾止め筋は、縦，横ともD10@1000程度とする。
（d）原則として、柱・梁の中には壁筋の継手は設けない。
（e）横筋を、1スパンごとに柱に定着させてもよいが、柱と同一面に壁がある場合には、外側の鉄筋は直線定着長さが確保できる場合でも、先端を90°に折曲げ150mm程度のみこませる。
（f）柱・梁への壁筋定着詳細については下図①～②による。



※注(1) a区間の部分は通し配筋でもよい。
(2) 耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さを8dかつ150mm以上とする。

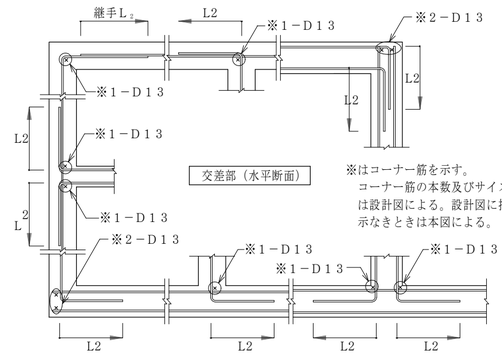
（h）地下外壁の壁配筋の定着は、下図による。



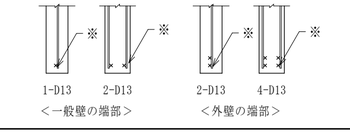
※注(1) 地下外壁の外側鉄筋は、耐圧スラブ上端まで下げる。
(2) 耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さを8dかつ150mm以上とする。

8－2　壁の交差部および端部の配筋

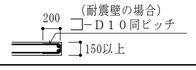
壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。



垂直及び水平断面　コーナー筋は設計図による。

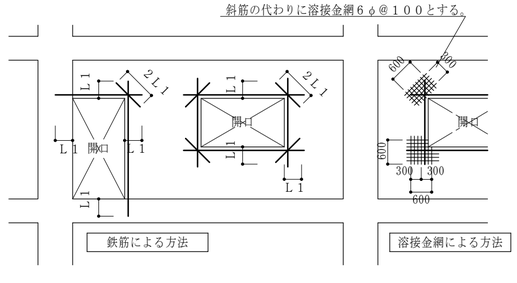


※注　耐震壁の場合、シングル配筋の場合はフック付とする。
ダブル配筋の場合は、下図による。



8－3　壁開口部の補強

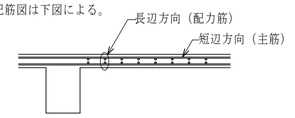
（a）壁開口部の補強は、設計図による。
（b）壁開口部の補強の定着長さは、下図による。



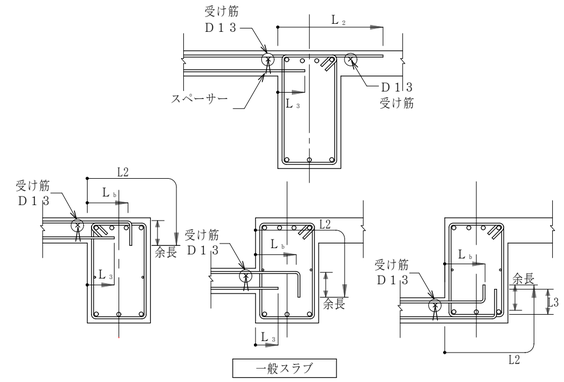
（c）開口部が柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9－1　スラブの配筋（一般事項）

（a）スラブの配筋は設計図による。
（b）スラブの基準配筋図は下図による。

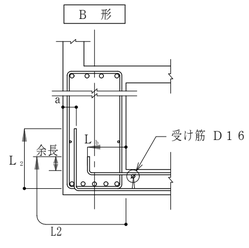


（c）配筋は中央から割付け、端部は定められた間隔以下とする。
（d）重ね継手長さは、L1とする。
（e）定着長さ及び受け筋は、下図（上段）による。ただし、引き通すことができない場合は、下図（下段）により、梁内に定着する。なお、片持ちスラブの場合は9－4による。

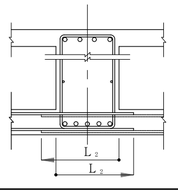


9－2　耐圧スラブの配筋

9－2－1　最終端



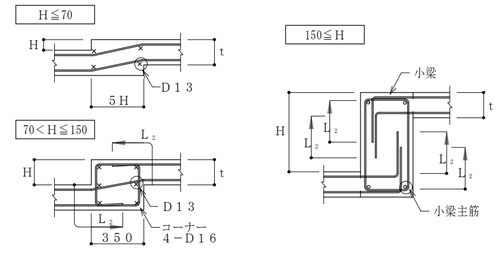
9－2－2　連続端



※注(1) 上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。下端筋は連続して引き通すか、または基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。
(2) 基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の1／2以上は連続させる。

9－3　段差のあるスラブの補強

段差のあるスラブの補強は、下図による。



特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

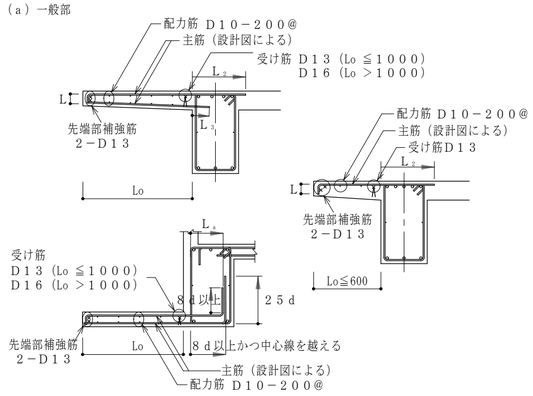
担当	一級建築士　第117489号　前野　初像	担当	一級建築士　第360917号　前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-007
担当	一級建築士　第307846号　三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号　加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	鉄筋コンクリート造配筋標準図	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.5

9－5　片持ちスラブの配筋

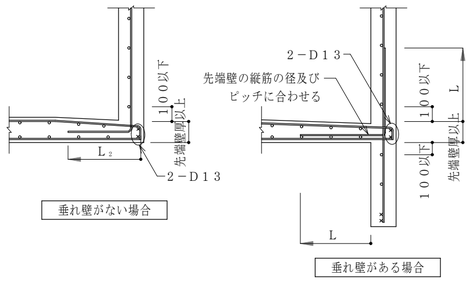
片持ちスラブの配筋は下記による。

（a）一般部

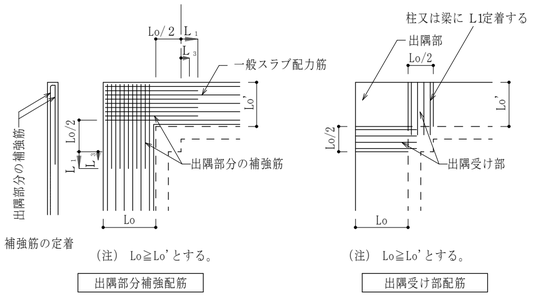


※注(1) 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
(2) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着長さとする。

（b）先端に壁が付く場合

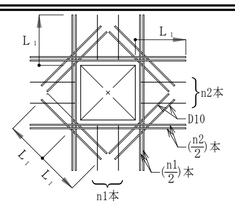


（c）出隅部
(1) 補強の配筋は図示による。図示がなければD10@100ダブルとする。
配筋方法は、下図による。
(2) 出隅受け部（下図のハッチ部分）の配筋は図示による。



9－6　スラブ開口部の補強

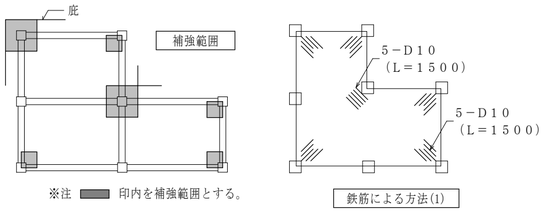
スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。
（a）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2－D13（L＝2L1）シングルを上下筋の内側に配筋する。

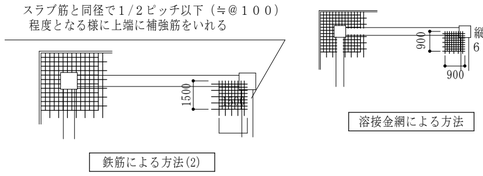


（b）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9－7　屋上スラブの補強筋

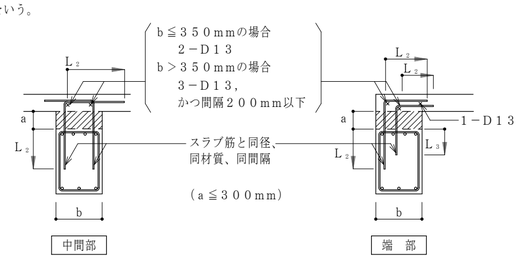
（a）屋上スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を配置する。
（b）下図鉄筋による方法(1)による場合、補強筋は上端筋の下側に配置する。
（c）鉄筋による方法(1)によると、スラブ筋が密となり施工が難しいと判断された場合は、下図の鉄筋による方法(2)とする。





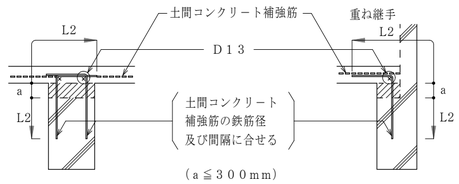
9－8　土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土（捨てコンクリート等の場合を含む）に接する構造スラブをいう。

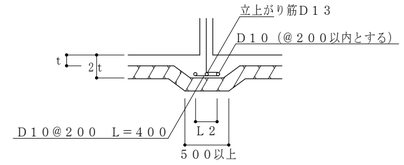


9－9　土間コンクリートの補強筋

（a）土間コンクリートの補強筋（土間配筋）は設計図による。
（b）基礎梁との接合部は下図による。



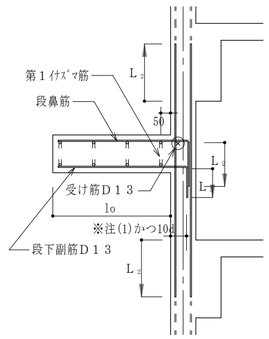
（c）雑壁下に基礎梁（基礎小梁を含む）がない場合、特記なき限りは下図による。



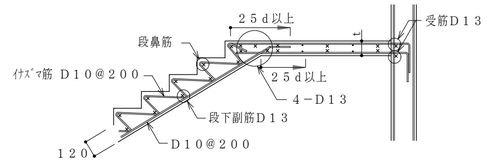
10－1　階段の配筋

階段の配筋は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準配筋及び下表による。

10－1－1　片持ちスラブ形（SS－A）



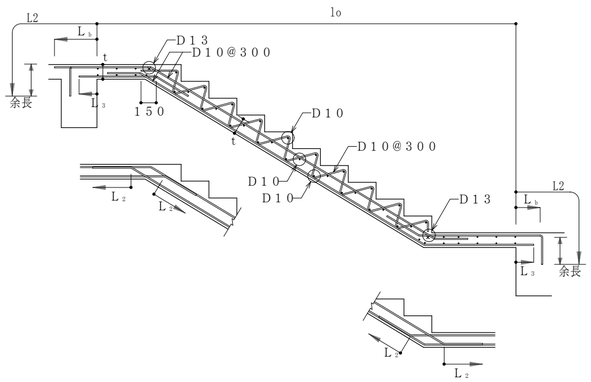
※注(1) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
(2) 踊場主筋，配力筋の継手及び定着の長さは、9－2による。
(3) 段鼻筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ、下表による。



＜階段配筋リスト（片持ちスラブ形）＞

設計条件：積載荷重3500N／㎡　　片持ち先端手摺自重考慮				
符　号	段鼻筋	踊　場		スパンlo（mm）
		ｽﾗﾌﾞ厚(t)	主筋・配力筋（上，下端筋）	
SSA1	2－D13	150	D10D13 交互 @200	lo ≦1500
SSA2	2－D16	150	D13@200	1500＜ lo ≦2000

10－1－2　二辺固定スラブ形（SS－B）

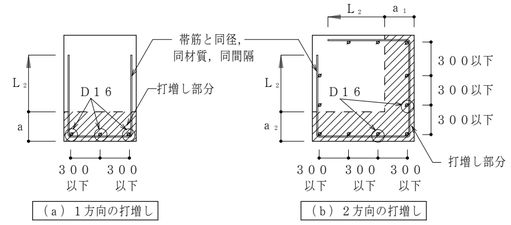


＜階段配筋リスト（二辺固定床版形）＞

設計条件：積載荷重3500N／㎡　　手摺自重無視				
符　号	ｽﾗﾌﾞ厚(t)	主　筋	配力筋（踊場）	スパンlo（mm）
		上，下端筋	上，下端筋	
SSB1	180	D16－125@	D13－200@	4000＜ lo ≦5000
SSB2	200	D16－100@	D13－200@	5000＜ lo ≦6000

11－1　柱の打増し補強

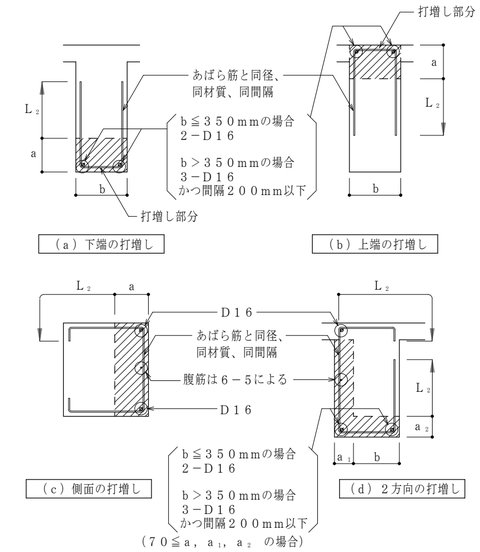
柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（70≦a，a1，a2≦200　の場合）

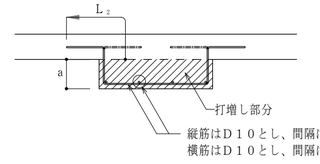
11－2　梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。
なお、小梁，耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



11－3　壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50mm以上に適用する。



特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

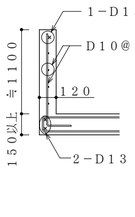
担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-008
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	鉄筋コンクリート造配筋標準図No.5	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造配筋標準図　No.６

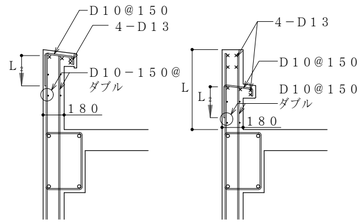
１２－１　手すり及びパラペットの配筋

手すり及びパラペットの配筋は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す配筋による。

手すりの配筋



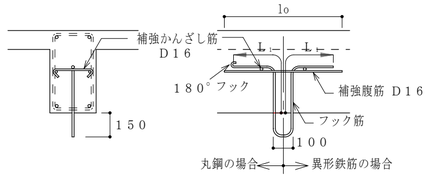
パラペットの配筋



（ｈ≦１５００）

１２－２　機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、下記による。



１３－１　補強コンクリートブロック造

１３－１－１　一般事項

下記に定める以外の事項は１～１２による。

（ａ）壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、臥梁、基礎等に定着する。
なお、壁縦筋に継手を設けてはならない。

（ｂ）壁横筋は、壁端部縦筋に１８０°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。

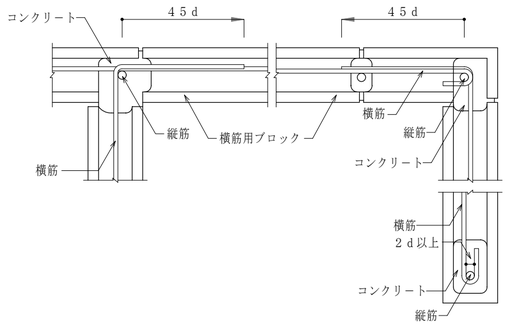
（ｃ）壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、２０ｍｍとする。ただし、ブロックフェイスシェルは、かぶり厚さに含まない。

（ｄ）壁鉄筋の重ね継手長さは４５ｄとし、定着長さは４０ｄとする。

１３－１－２　各部の配筋

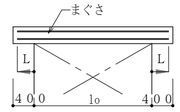
（ａ）各部の配筋は、設計図による。

（ｂ）設計図に指示がなければ交差部，端部（開口部）の配筋は、下図による。

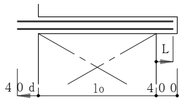


（ｃ）まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下図による。
なお、既製まぐさを使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

（Ⅰ）一般の場合



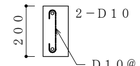
（Ⅱ）開口部が鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



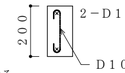
※注　Ｌはかぶり厚さを除いた長さを示す。

まぐさの配筋

（４００＜ ｌｏ ≦１０００の場合）



（１０００＜ ｌｏ ≦２０００の場合）



※注　まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

１４－１　コンクリートブロック帳壁

１４－１－１　一般事項

（ａ）主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。
なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面５ｄ以上又は片面１０ｄ以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。

（ｂ）壁横筋は、壁端部縦筋に１８０°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。

（ｃ）壁鉄筋の重ね継手長さは４０ｄとし、定着長さは下記による。

(1) 帳壁配力筋の構造体部分への定着長さは２５ｄとする。
ただし、係員の承諾を受けて、あと施工アンカーとすることができる。

(2) (1)以外の定着長さは４０ｄとする。

（ｄ）ブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

ブロック厚さ	スパン及び高さ
１００	２５００
１５０	３５００

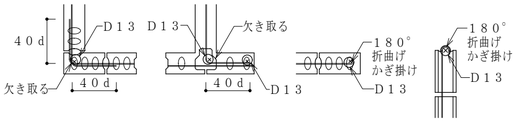
１４－１－２　各部の配筋

（ａ）壁の配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下表による。

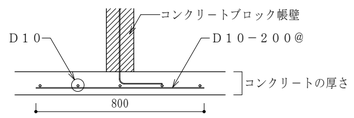
＜壁の配筋＞

縦　筋	横　筋	開口補強筋（縦横筋）	端部補強筋
Ｄ１０@４００	Ｄ１０@４００	１－Ｄ１３	１－Ｄ１３

（ｂ）帳壁の交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。



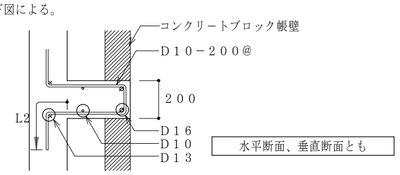
（ｃ）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



（ｄ）コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配置は、設計図による。

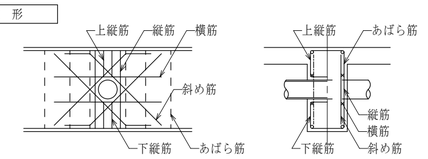
(2) 配筋は、下図による。



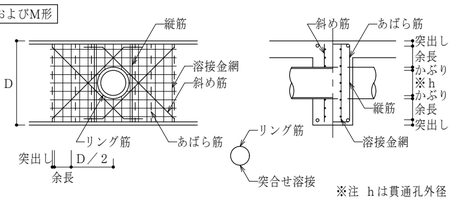
１５－１　梁貫通孔の補強（一般事項）

（ａ）梁貫通孔の補強は下記による。
梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

Ｈ　形



ＭＨ形およびＭ形



※注　ｈは貫通孔外径

（ｂ）孔の径は、梁せいの１／３以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

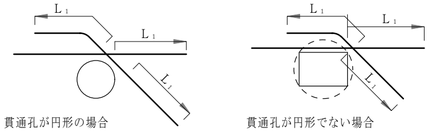
（ｃ）孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部か端は梁下端より１／３Ｄの範囲には設けてはならない。

（ｄ）孔は、柱面から、原則として、１．５Ｄ（Ｄは梁せい）以上離す。但し、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

（ｅ）孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の３倍以上とする。

（ｆ）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

（ｇ）補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



（ｈ）孔の径が梁せいの１／１０以下、かつ、１５０ｍｍ未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略する。

（ｉ）溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは１０ｍｍ以上とする。

（ｊ）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋１－１３φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。

（ｋ）溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

（ｌ）その他、高強度梁貫通補強筋を使用する場合は、大臣認定または日本建築センターの技術審査証明を受けた工法とすること。

１５－２　補強の形式と種類

補強形式は下表により、配筋種別は設計図（または、右表）による。

１５－２－１　Ｈ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	配　筋　図
Ｈ１	2-2-D13	なし	なし	なし	
Ｈ２		2-2-D13			
Ｈ３	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
Ｈ４	4-2-D16				
Ｈ５	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
Ｈ６	4-2-D19				
Ｈ７	4-2-D22				

※注　－－－は一般部分のあばら筋を示す。

１５－２－２　Ｍ形配筋

配筋種別	縦　筋	溶接金網	リング	配　筋　図
Ｍ１	2-2-D13	なし	なし	
Ｍ２	4-2-D13			
Ｍ３	4-2-D13	2-6φ@100	１３φ	
Ｍ４	6-2-D13			

※注　－－－は一般部分のあばら筋を示す。

１５－２－３　ＭＨ形配筋

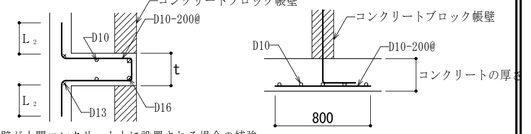
配筋種別	斜め筋	縦　筋	溶接金網	リング	配　筋　図
ＭＨ１	2-2-D13	なし	なし	なし	
ＭＨ２		2-2-D13			
ＭＨ３	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	１３φ	
ＭＨ４	4-2-D13				
ＭＨ５	4-2-D16				
ＭＨ６	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	１３φ	
ＭＨ７	4-2-D19				

１５－２－４　補強配筋種別と使用部位・数量

階	梁記号	スリーブ外径	補強配筋種別	スリーブ材質	数量
	※　使用部位、スリーブ外径、数量は設計図による。				
	補強配筋種別は、大臣認定または日本建築センターを受けた				
	高強度梁貫通補強筋を使用するものとする。				

１６　コンクリートブロック帳壁との取合い

（ａ）控壁の配筋
控壁の配筋は、水平、垂直とも左下図による。



（ｂ）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強
帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は右上図による。

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号　前野　初像	担当	一級建築士　第360917号　前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-009
担当	一級建築士　第307846号　三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号　加藤　早妃			図面名称	鉄筋コンクリート造配筋標準図№６	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造壁補強標準図　No.1

1　適用範囲

（a）本標準図は新設耐震壁、増打ち耐震壁、開口閉塞壁及び新設袖壁の増設壁工事に適用する。
（b）本配筋標準図以外については設計図書及び監督職員の指示による。
（c）本配筋標準図で「図示」とあるのは、設計図面記載事項を意味する。
（d）本配筋標準図で「特記」とあるのは、「特記仕様書」の記載事項を意味する。
（e）設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また、本標準図に明記なき場合、既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説（2001年改訂版）、公共建築工事標準仕様書(平成28年度版)、特記仕様書に指定した共通仕様書による。
（f）本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
（g）本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

2－1　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	＊	×	⌀	●	○	◉	⊠	◎	⊕	◆	⊗
呼び径d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合　（多い／少ない）
・機械式継手表示
・溶接継手表示（ガス圧接、突き合せ溶接）

2－2　加工及び組立（一般事項）

（a）鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
（b）有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
（c）コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
（d）鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。

2－3　加　工

（a）鉄筋の切断は、シヤーカッター・直角切断機等によって行う。ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
（b）異形鉄筋の末端部のフックは、2－6（鉄筋の折り曲げ）による。
（c）鉄筋の折曲げ形状及びその寸法は、2－7（重ね継手及び定着長さ）による。

2－4　組　立

鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは原則として、鋼製とする。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

2－5　継　手

（a）鉄筋の継手は、重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（平成12年建設省告示1463号に適合したもの）とし、適用は特記による。
（b）鉄筋の溶接はアーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書7.6.5〔部材の組立〕（d）及び7.6.7〔溶接施工〕（a）による。また、溶接技能者は、公共建築工事標準仕様書7.6.3〔技能資格者〕に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
（c）重ね継手及び定着の長さは、2－8（重ね継手及び定着長さ）による。
（d）隣り合う継手の位置は、2－9（隣り合う継手の位置）による。
（e）溶接金網、スパイラル筋の継手及び定着は、それぞれ2－10（溶接金網の継手及び定着）、2－11（スパイラル筋の継手及び定着）による。

2－6　溶　接

2－6－1　溶接材料の種類
溶接棒、ワイヤ及びフラックスの種類は下表により、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

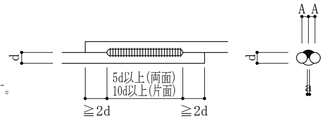
種　類	規格番号	規　格　名　称
被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用、被覆アーク溶接棒
セルフシールドアーク溶接用鋼ワイヤ	JIS Z 3313	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

2－6－2　材料の取扱い
溶接材料は、丁寧に取扱い、被覆材のはく脱、汚損、変質、吸湿、著しい錆のあるもの等は使用しない。吸湿の疑いがあるものは、その種類に応じた乾燥条件で乾燥する。

2－6－3　溶接技能者
（a）溶接技能者は、工事に相応した次に示す試験等により(社)日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
(1) 炭素鋼の手溶接の場合は、JIS Z 3801（手溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
(2) 炭素鋼の半自動溶接の場合は、JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
(3) 自動溶接の場合は、上記(1)又は(2)のいずれかの試験。なお、技量を証明する主な工事経歴を、監督職員に提出すること。
(4) 組立溶接の場合は、上記(1)又は(2)のいずれかの試験。
（b）溶接技能者の技量に疑いを生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し監督職員の承諾を受ける。

2－6－4　溶接施工
（a）溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
（b）溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
（c）溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
（d）材質、材厚、気温などを考慮の上、必要に応じて適切な溶接条件となるよう予熱を行う。
（e）溶接に支障となるスラグ及び塗装下地となる部分のスパッタは、除去する。
（f）著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは、除去する。
（g）アークストライクは行わない。ただし、アークストライクを起こした場合は、鋼材表面を平滑に仕上げる。

2－6－5　鉄筋のフレア溶接
鉄筋のフレア溶接は右図による。
※ dは鉄筋の呼び径を示す。



2－7　鉄筋の折り曲げ

鉄筋の折曲げ形状・寸法は以下の通りとする。

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D） SD295A, SD295B, SD345 D16以下	SD295A, SD295B, SD345 D19～D38	SD390 D19～D38
180°	余長 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	余長 6d以上			
90°	余長 8d以上			
135°及び90°（幅止め筋）	余長 4d以上 / 余長 4d以上			

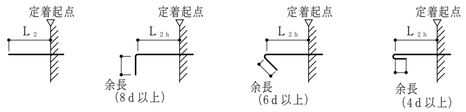
※注　片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

2－8　重ね継手及び定着長さ

重ね継手及び定着の長さ、投影定着長さは下表による。

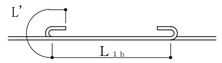
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c(N/mm²)	フックあり L_1	フックあり L_2	フックあり L_{1h}	フックあり L_{2h}	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d	20d	15d
	21	40d	35d	30d	25d	15d	15d
	24～27	35d	30d	25d	20d	15d	15d
	30～36	35d	30d	25d	20d	15d	15d
	39～45	30d	25d	20d	15d	15d	15d
SD345	18	50d	40d	35d	30d	20d	20d
	21	45d	35d	30d	25d	20d	20d
	24～27	40d	35d	30d	25d	20d	15d
	30～36	35d	30d	25d	20d	15d	15d
	39～45	35d	30d	25d	20d	15d	15d
SD390	21	50d	40d	35d	30d	20d	20d
	24～27	45d	40d	35d	30d	20d	20d
	30～36	40d	35d	30d	25d	20d	15d
	39～45	40d	35d	30d	25d	15d	15d

一般定着の直線L_2またはフック付きL_{2h}の図



直線定着　90°フック付き定着　135°フック付き定着　180°フック付き定着

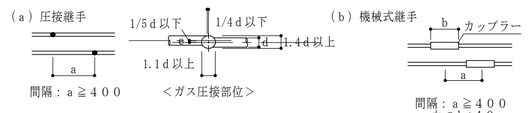
※注(1)　L_1，L_{1h}：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
並びに下記(2)及び(3)以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
(2)　L_2，L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
(3)　フックのある場合のL_{1h}、L_{2h}及びL_{3h}は、次図に示すように鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、末端のフック部分L'は定着長さに含まない。また、中間部での折曲げは行わない。



フックありの場合の重ね継手の長さ
(4)　軽量コンクリートの場合は表の値に5dを加えたものとする。

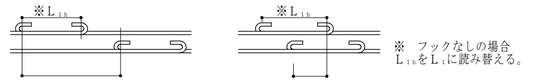
2－9　隣り合う継手の位置

（a）圧接継手　（b）機械式継手



間隔：a≧400　＜ガス圧接部位＞　間隔：a≧400 かつb+40

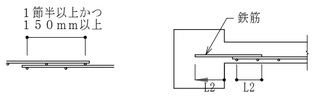
（c）重ね継手（※下図はフックありの場合）は下図にいずれかとする。



※　フックなしの場合L_{1h}をL_1に読み替える。
（d）　D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手は用いない。
（e）溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。
（f）なお、先組み工法等で柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

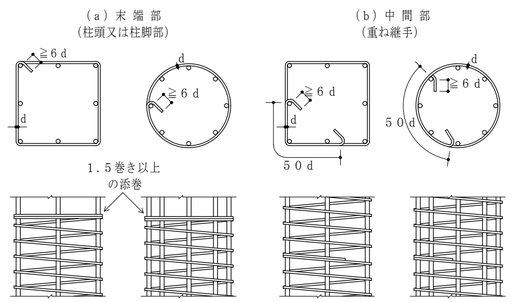
2－10　溶接金網の継手及び定着

溶接金網の継手及び定着は下図による。
（a）重ね継手　（b）定着（壁の場合）



2－11　スパイラル筋の継手及び定着

（a）末端部（柱頭又は柱脚部）　（b）中間部（重ね継手）



2－12　鉄筋のかぶり厚さ

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

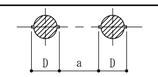
鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位			設計かぶり厚さ ※（　）内は最小かぶり厚さ 仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	スラブ		30（20）	40（30）
	柱・梁・補強壁	屋内	40（30）	40（30）
		屋外	40（30）	50（40）
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		※2 50（40） ※2	
	基礎		※3,5 70（60） ※3,5	

※注(1)（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。
(2)「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
(3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(4) 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
(5) 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。
(6) 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。
（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（d）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（b）による。

2－13　鉄筋相互のあき

（a）鉄筋のあきaは原則として下記による。
呼び名の数値dの1.5倍以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上
} かつ25以上



※注　D：鉄筋の最大外径

（b）隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍
（c）二段筋のあきは1.5dとする。
（d）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（a）による。

3－1　あと施工アンカー打設

（a）特記なき場合接着系アンカーを使用する。
また、接着系アンカーの接着剤（主材）には、有機系（エポキシアクリルレート系、ポリエステル系、エポキシ系、ビニルウレタン系）を用いる。
（b）頭部ナット付きとする場合は、アンカー筋のねじ山が2以上ナットから出ることとする。

3－2　穿孔

（a）アンカーの種類、径及び長さ、施工条件等を勘案し、適切な機械を選定する。
（b）穿孔は、既存骨組に有害な影響を与えないように行う。
（c）埋込み配管等に当たった場合は、ただちに穿孔を中止し、監督員に報告し、指示を受ける。
（d）鉄筋等に当たった場合は、穿孔を中止し、付近の位置に再穿孔を行う。中止された孔は、モルタルで充填する。
（e）穿孔された構内に水があることが確認された場合は、監督員に報告し、指示を受ける。
（f）穿孔された孔は、所定の深さがあることを確認する。
（g）穿孔後、切粉が残らないようブロウ、ブラシ等で孔内を清掃する。

3－3　固着作業

（a）作業に用いる埋込み機械は、アンカーに対して適切なものとする。
（b）取付けボルト又はアンカー筋には、埋込み深さを示すマーキングを施す。
（c）接着剤が使用期限内であること及び主材が固まっていないことを確認する。
（d）取付ボルト又はアンカー筋は、マーキングの位置まで埋込み、適切に攪拌を行う。
（e）上向き作業の場合は、接着剤の漏出防止及び取付けボルト又はアンカー筋の脱落防止処理を行う。
（f）作業後は目視・接触により全数固着状況を確認する。

3－4　養生

養生期間は所定の強度が発現するまでとする。

特記事項

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

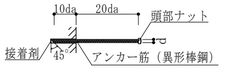
担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-010
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	鉄筋コンクリート構造補強壁配筋標準図No.1	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄筋コンクリート構造壁補強標準図　No.2

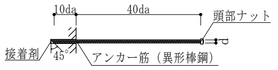
3－5　形状

あと施工アンカーの形状は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準による。

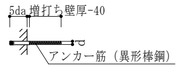
（a）接着系アンカー（補強壁との接続面に使用する場合）



（b）接着系アンカー（補強壁との接続面で、開口補強筋及びそで壁の端部筋に使用するする場合）



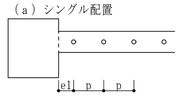
（c）金属系アンカー（シアコネクターに使用する場合）



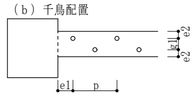
3－6　ピッチ及び呼称

あと施工アンカーのピッチは設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準による。

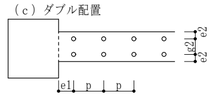
（a）シングル配置



（b）千鳥配置



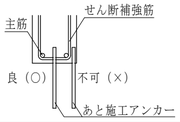
（c）ダブル配置



e1：はしあき　≧　5da
e2：へりあき　≧　2.5da
g1：ゲージ　≧　4da
g2：ゲージ　≧　5.5da
p　：ピッチ　≦　7.5daかつ300

3－7　配置位置

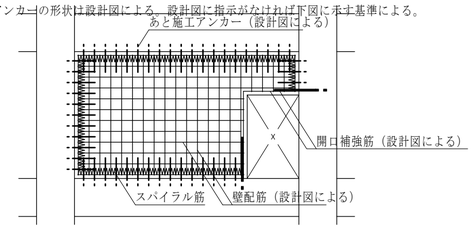
あと施工アンカーの配置位置は以下に示すとおりとし、主筋の内側に配置する。

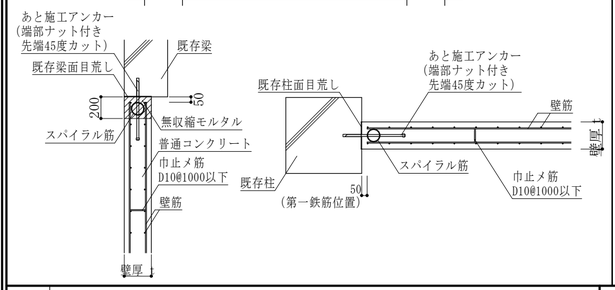


4－1　補強壁の配筋標準図

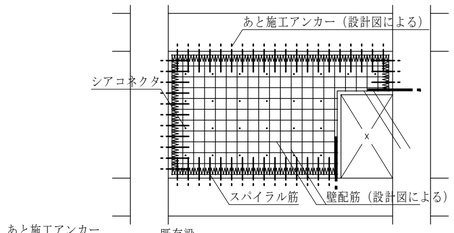
（a）増設補強壁

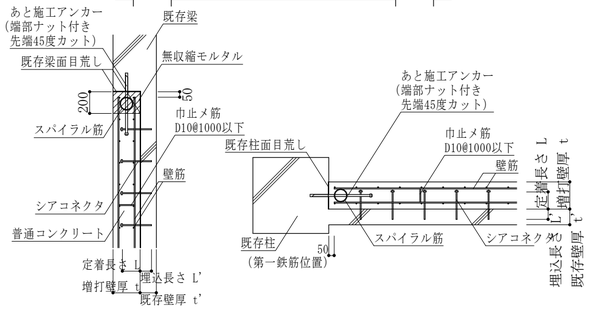
あと施工アンカーの形状は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準による。





（b）増打補強壁





シアコネクター

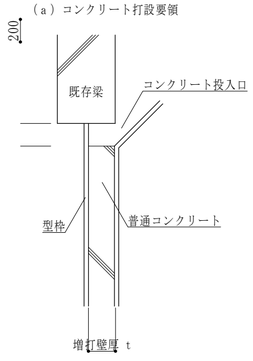
アンカーの種類	間　隔	定着長さ L	埋込長さ L' （ ）は既存壁t20の場合
接着系アンカー	D13-@500クロス	260	95(80)
金属系アンカー	φ13-@500クロス	増打ち壁厚-40	65

スパイラル筋

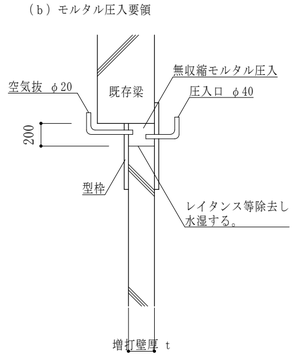
壁　厚	径	外　径	ピッチ	備　考
120、150	6φ、D6	80	@50	
180	6φ、D6	100	@50	
200	6φ、D6	120	@50	
250	6φ、D6	150	@50	
300	6φ、D6	180	@50	

4－2　コンクリート打設及び無収縮モルタル圧入

（a）コンクリート打設要領

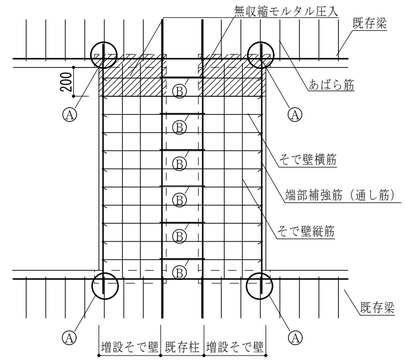


（b）モルタル圧入要領

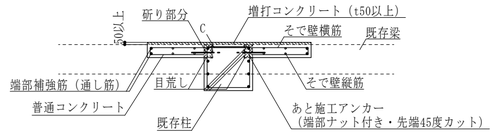


4－3　そで壁の増設

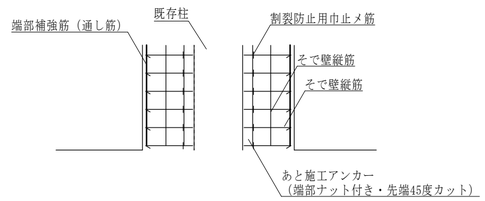
（a）そで壁の鉄筋を既存躯体の鉄筋と溶接する場合

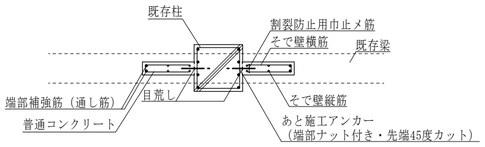


Ⓐ　そで壁の端部補強筋の末端は、既存のスターラップに十分溶接する。
Ⓑ　ピッチ500mm以下毎にそで壁横筋と既存柱のフープ筋を溶接する。



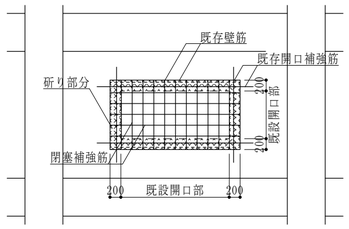
（b）そで壁の鉄筋を既存躯体にあと施工アンカーによって接合する場合

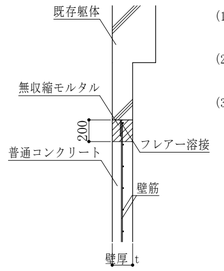




4－4　開口の閉塞

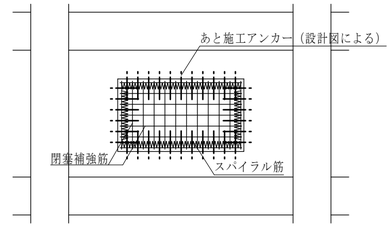
（a）開口周囲の鉄筋をはつり出し接合する場合

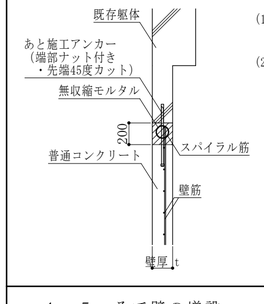




(1) 閉塞補強筋は既存鉄筋と同径、同ピッチの異形鉄筋とする。
(2) 既存鉄筋と閉塞補強筋はフレアー溶接とし、溶接長は片面10d以上または両面5d以上とする。
(3) 斫り部分はカッターで目地切りを行った上、手斫りとし、既存鉄筋は残す。

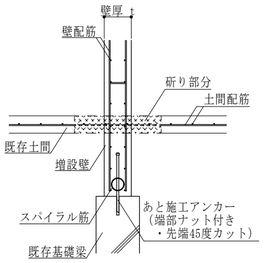
（a）開口周囲にあと施工アンカーを使用する場合





(1) 既存壁が比較的厚く、複配筋である場合のみ行うことができる。
(2) 閉塞補強筋は既存鉄筋と同径、同ピッチの異形鉄筋とする。

4－5　そで壁の増設



(1) 斫り部分はカッターで目地切りを行った上、手斫りとし、原則として既存鉄筋は残す。
(2) 土間コンクリートの復旧は、増設壁を設けた後に土間コンクリートを打設する。
(3) 鉄筋を切断する場合、増設壁を設けた後に土間配筋をフレア溶接継手等で復旧して土間コンクリートを打設する。

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-011
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	鉄筋コンクリート構造補強壁配筋標準図No.2	縮尺	A2：NS A3：NS

鉄骨規準図

1　一般事項

（a）本規準図は、鉄骨造に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
（b）本規準図及び設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２８年版」及び「建築構造設計基準及び同解説／平成２２年版」による。
（c）社内検査の検査成績書には、社内超音波探傷試験の結果を添付する。
（d）構造図中、特記のない場合、各部材記号は下表による。

記　号	部　材	記　号	部　材
DPL	ダイアフラム	GPL	ガセットプレート
SPL	スチフナープレート	BPL	ベースプレート
SpPL	スプライスプレート	HTB	高力ボルト
FPL	フィラープレート	ABolt	アンカーボルト
CPL	チェッカープレート	FB	フラットバー

2　材料及び検査

建築工事特記仕様書（構造関係）による。

3　工作一般

（a）鉄骨製作及び施工の要領をまとめた「鉄骨工事施工計画書」を提出し、係員の承諾を得る。
（b）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
（c）ひずみの矯正は、材質を損なわない矯正法とする。

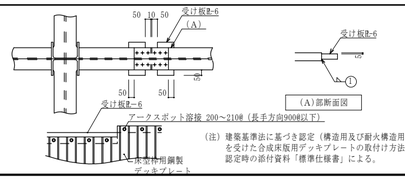
4　高力ボルト接合

本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

5　仕口部及び柱脚詳細

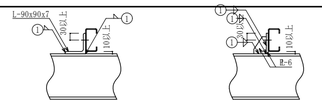
（a）H形柱の柱通し形式の仕口部に設ける水平スチフナの形状及び大きさは、右図を標準とし、材料は取付く梁フランジ材の強度と同等以上の強度を有するものを用い、材質は梁フランジと同材質以上でかつSN材B種材以上とする。板厚は、梁フランジ厚以上かつ9mm以上とする。但し、柱頭部のトッププレートは下記の（b）に準ずる。なお、梁幅が300mm以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。
（b）鋼管柱及びH形柱の梁通し形式の仕口部に設けるダイアフラムの形状及び大きさは、仕口部および柱脚詳細を標準とし、通しダイアフラムの場合の材料は、取付く梁フランジ材及び柱材のうち、強度の最も優れたものと同一のものを用い、材質は原則としてSN材C種かつワンランク上の材質とする。
板厚は同じレベルに集まる梁フランジのうち最大厚さの２サイズ上の厚さ以上とする。
また、内ダイアフラムの場合の材料は取付く梁フランジ材の強度と同等以上の強度を有するものを用い、材質は梁材のワンランク上かつSN材B種材以上とする。板厚は同じレベルに集まる梁フランジのうち最大厚さの１サイズ上の厚さ以上かつ9mm以上とする。
鋼管柱のダイアフラム中心部には最上部を除いて空気穴（約30mm程度）を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスカラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。
（c）鋼管柱の仕口部に設ける柱の材質は上下柱のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。
（d）板厚が１サイズ上と表現してある板厚は+3mm、２サイズ上と表現してある板厚は+6mm以上とする。
（f）冷間成形角形鋼管における溶接材料は、加工後の角形鋼管材の強度と同等な強度になるものを選定する。
400N/mm²級の冷間成形角形鋼管に対しては490N/mm²級の溶接材料、
490N/mm²級の冷間成形角形鋼管に対しては 540N/mm²級以上の溶接材料を使用する。

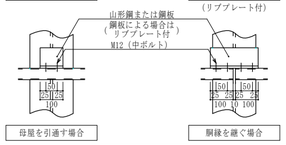
デッキプレートの取付け



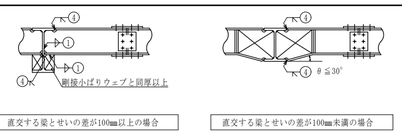
（注）建築基準法に基づき認定（構造用及び耐火構造用）を受けた合成床版用デッキプレートの取付け方法は、認定時の添付資料「標準仕様書」による。

母屋・胴縁の接合

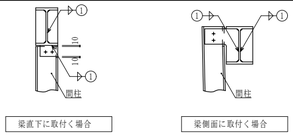




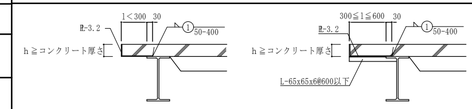
小ばりの剛接合



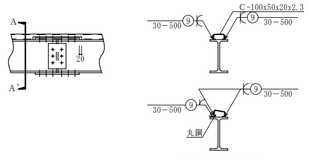
間柱の接合



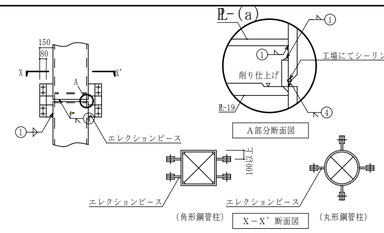
コンクリート止め（デッキスラブ部分）



折版受材の取付け

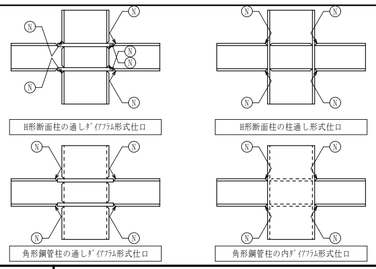


鋼管柱のＪＯＩＮＴ詳細



（注）Rｰ(a)は厚さ9mm以上とし、柱径400mm以下の場合は省略してもよい。

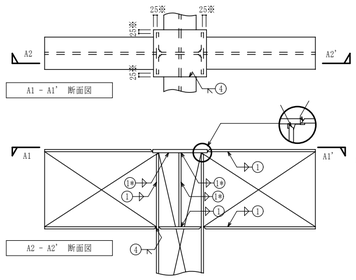
ノンスカラップ工法の適用個所（Ⓝと表示した個所）



仕口部および柱脚詳細

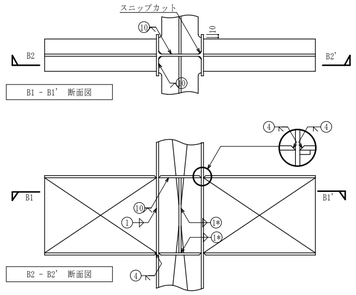
H 形 柱

柱頭部



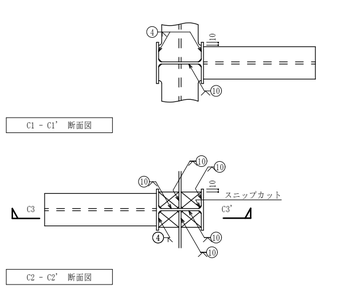
（注）1．柱部分の通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とするが、柱フランジの板厚が28mm以上の場合は30mm以上かつダイアフラム厚以上とする。
2．⑲：ウェブ厚が16mm以上のものについては⑩とする。

一般部



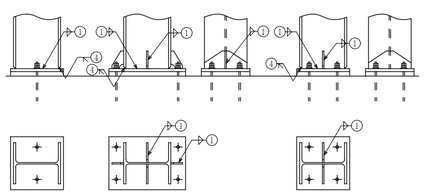
（注）1．⑲：ウェブ厚が16mm以上のものについては⑩とする。
2．⑩：水平スチフナ厚が12mm以下の場合は①とする。

段差部



（注）1．⑨※：ウェブ厚が16mm以上のものについては⑩とする。
2．⑩：水平スチフナ厚が12mm以下の場合は⑧とする。

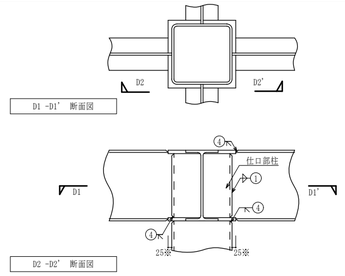
柱脚部



（注）⑨※：露出型柱脚とする場合は①とする。ただし、埋込み型および根巻き型柱脚でフランジ厚が12mm以下の場合は⑧、13mm以上の場合は⑩とすることができる。

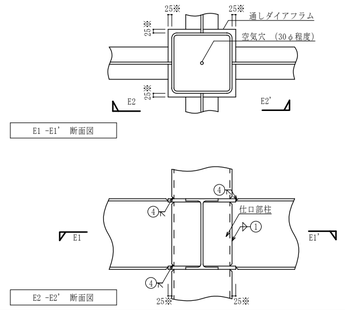
角 形 鋼 管 柱

柱頭部



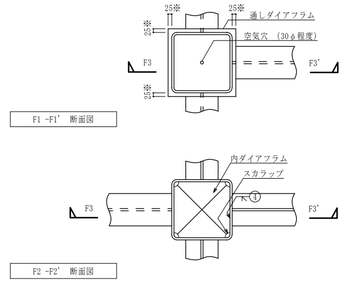
（注）25※部分の通しダイアフラムの出寸法は、25mmを標準とするが、柱フランジの板厚が28mm以上の場合は30mm以上かつダイアフラム厚以上とする。

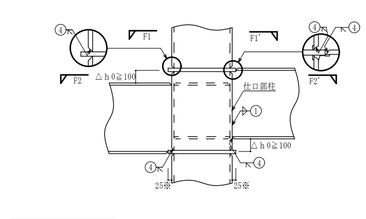
一般部



（注）25※部分の通しダイアフラムの出寸法は、25mmを標準とするが、柱フランジの板厚が28mm以上の場合は30mm以上かつダイアフラム厚以上とする。

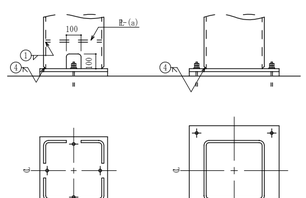
段差部





（注）25※部分の通しダイアフラムの出寸法は、25mmを標準とするが、柱フランジの板厚が28mm以上の場合は30mm以上かつダイアフラム厚以上とする。

柱脚部



（注）1．図(a)は、埋込み型ならびに根巻き型に使用し、露出型に使用する場合はRｰ（a）厚さ6mm程度を取付ける。
2．図（b）は、露出型に適用する。
3．③：柱板厚が6mm以下の場合は⑦とすることができる。
4．一般構造用炭素鋼鋼管柱の柱脚部溶接は角形鋼管柱に倣う。

特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	図面名称	鉄骨規準図

工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-012
縮尺			A2：NS A3：NS

溶接規準図

1　一般事項

1. 本規準図及び設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書建設大臣官房官庁営繕部（建築工事編）平成２８年版」及び「建築構造設計基準及び同解説／平成３０年版」による。監修「建築鉄骨設計基準及び同解説平成10年版」による。

2. 溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。

3. 部材の板厚の適用範囲は40mm以下とする。

4. 冷間成形角形鋼管による製作は、日本建築センター「冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル（改訂版）」（平成３０年）による。

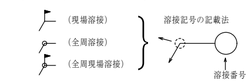
2　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 セルフガスシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		ＥＳ
	アークスタッド溶接		ＳＷ
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		ＦＬ
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接（注）		2
	その他		3

（注）両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

3　溶接記号の記載方法

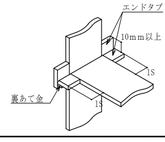
溶接記号の記載方法は、下図による。



（注）基準線及び引出し線は、溶接記号（JIS Z 3021-87）に準ずる。

4　エンドタブ

完全溶込溶接及び部分溶込み溶接の場合は、原則として溶接部の始端及び終端部に鋼製エンドタブを用いる。エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は母材と同厚・同開先のものを用い、長さは下表による。ただし、あらかじめ溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合はこの限りではない。
見え隠れとなるエンドタブは、5~10mm残して切断し、グラインダー掛けにより、粗さ100μmRz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。見え掛りとなる部分は切除の上、部材断面を欠損しないように切断面をグラインダー掛けにより粗さ100μmRz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。

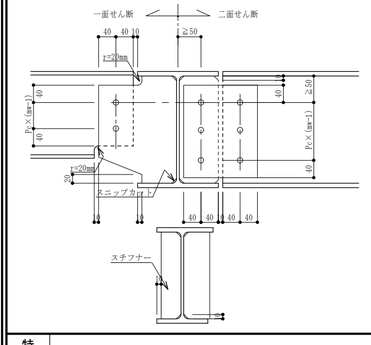


エンドタブの長さ（単位ｍｍ）

溶接工法	1S
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

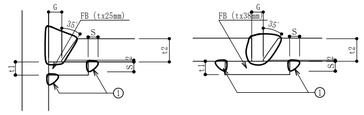
5　ガセットプレート、スチフナー

ガセットプレート、スチフナー端部を、取り付けるフランジのこば面から控えて、まわし溶接を行う。



6　裏当て金

（1）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図による。
裏当て金の組立溶接は、「3）裏当て金の組立溶接位置」による。



（2）裏当て金の厚さ及び隅肉溶接のサイズは、下表により、材質は、原則として、母材と同等以上のものとする。

裏当て金の厚さ　（単位：ｍｍ）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

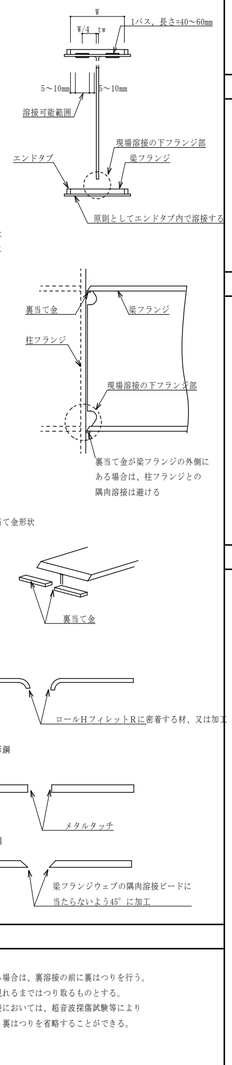
溶接のサイズ　（単位：ｍｍ）

裏当て金の厚さ	S
t1 ≦ 9	5
t1 ＞ 9	9

溶接のサイズ　（単位：ｍｍ）

母材の厚さ	G
t2 ≦ 6	t1
t2 ＞ 6	7

（3）裏当て金の組立溶接位置



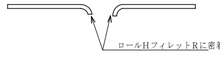
エンドタブの仮付け溶接は裏当て金に溶接し、母材に溶接してはならない

裏当て金が梁フランジの外側にある場合は、柱フランジとの隅肉溶接は避ける

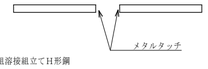
（4）ノンスカラップ工法の裏当て金形状

裏当金の形状

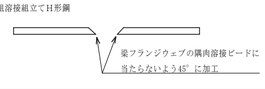
1．圧延H形鋼



2．同時組溶接組立てH形鋼



3．先組溶接組立てH形鋼



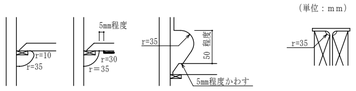
7　裏はつり

完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏溶接の前に裏はつりを行う。
裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取るものとする。
但し、サブマージアーク自動溶接においては、超音波探傷試験等により良好な溶込が確認できた場合は、裏はつりを省略することができる。

8　スカラップ

原則としてノンスカラップ工法とする。
ノンスカラップ工法を適用しない個所のスカラップ形状は下記とする。
スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。
スカラップ内のウェブフィレット部に回し溶接をしてはならない。

（単位：ｍｍ）



（圧延H形鋼）　（組立てH形鋼）
（a）柱・梁端接合部　（b）現場溶接の下フランジ部　（c）その他

9　スニップカット

溶接の交差部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は溶接により埋めることとする。
ただし、既製形鋼のスニップカットは Sc=r+2 により求めるものとする。

スニップカット　（単位：ｍｍ）

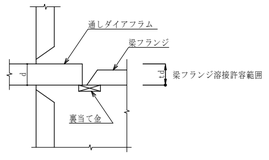
t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

10　溶接板の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合は、下図による。

11　通しダイアフラムと梁フランジの突合わせ溶接継手の食い違い

通しダイアフラムと梁フランジの突合わせ溶接継手にあっては、梁フランジは通しダイアフラムの板厚内で溶接しなければならない。



12　余盛り

完全溶込み溶接（突合わせ継手、かど継手）、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行う。余盛りの高さの限度は、下表による。
完全溶込み溶接（Ｔ形継手）の溶接部は、ビード表面が滑らかになるように仕上げる。

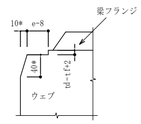
余盛りの高さの限度　（単位：ｍｍ）

溶接継手	溶接工法	余盛りの高さの限度
突合わせ継手 かど継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接	3
	半自動溶接	3

13　梁通しタイプノンスカラップ工法（工場溶接）

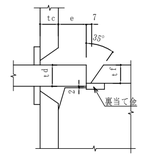
（1）裏当て金方式の場合
（a）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合　（b）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

・BH組立て



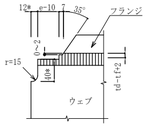
（注）10*,40*：柱板厚により変化する。

・大組立て，裏当て金取付け



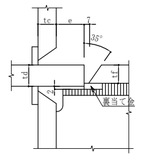
（注）e：通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とするが、柱フランジ厚 tc が28mm以上の場合は、30mm以上かつ通しダイアフラム厚 td 以上とする。

・開先加工



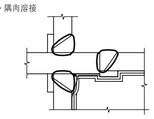
（注）12*,40*：柱板厚により変化する。

・大組立て、裏当て金取付け

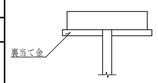


（注）e：通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とするが、柱フランジ厚 tc が28mm以上の場合は、30mm以上かつ通しダイアフラム厚 td 以上とする。

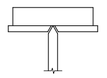
・隅肉溶接



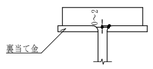
・裏当て金形状（一般の場合）



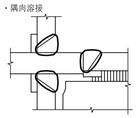
（ウェブに開先がある場合）



・裏当て金形状（一般の場合）



・隅肉溶接

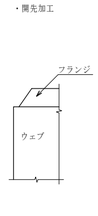


14　柱通しタイプノンスカラップ工法（工場溶接）

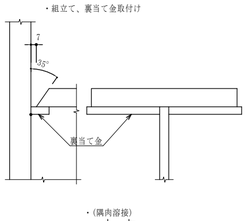
※(a-1)，(b-1) を標準とする

(a-1) 同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

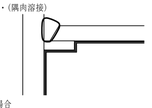
・開先加工



・組立て、裏当て金取付け

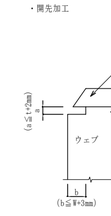


・(隅肉溶接)

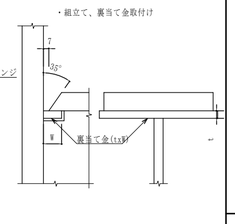


(a-2) 同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

・開先加工

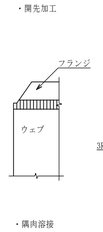


・組立て、裏当て金取付け

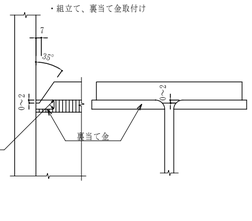


(b-1) 先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

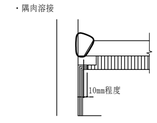
・開先加工



・組立て、裏当て金取付け

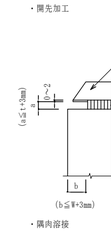


・隅肉溶接

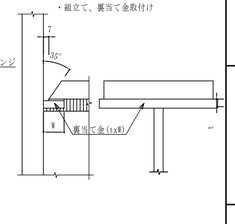


(b-2) 先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

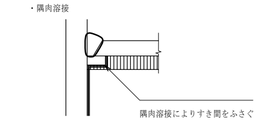
・開先加工



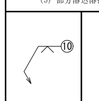
・組立て、裏当て金取付け



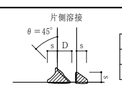
・隅肉溶接



(5) 部分溶込溶接



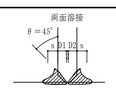
片側溶接



t ＞16mm					
t	12	16	19	22	25
D	10	11	12	13	13

・1/4t≦S≦10

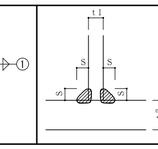
両面溶接



D1=(t-2)/2
D2=(t-2)/2
・1/4t≦S≦10

15　溶接規準図

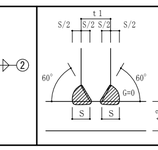
(1) 隅肉溶接　（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長（単位ｍｍ）



t ≦16mm					
t	6	9	12	14	16
S	6	7	9	10	12

・但し片面溶接の場合はS＝ｔとする。
・ｔはｔ1、ｔ2の小なる方とする。
余盛は（1+0.15）ｍｍ以下とする。
・軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とすることが望ましい。

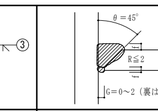
(2) 異型隅肉溶接（使用箇所に注意）



t ＞16mm					
t	19	22	25	28	32
S	11	13	15	17	19

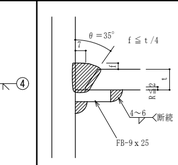
・ｔはｔ1、ｔ2の小なる方とする。

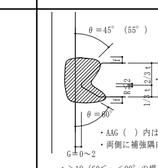
(3) 完全溶込み溶接（平継手、Ｔ継手）



f ≦ t/4	
t	6＜ t ＜19mm

・両側に補強隅肉溶接を付加する。　AAG



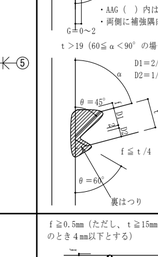


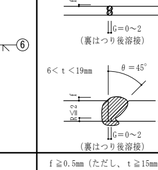
f ≦ t/4
T形突合せ継手余盛

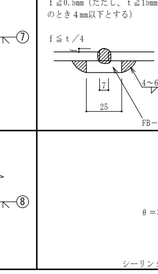
のど厚　t mm	余盛の高さmm
t ≦4	1
4＜ t ≦12	2
12＜ t ≦19	3
t ＞19	4

t	t ≧19mm

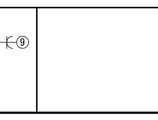
・AAG（　）内はGCでF、Bの場合
・両側に補強隅肉溶接を付加する。







(4) フレアー溶接

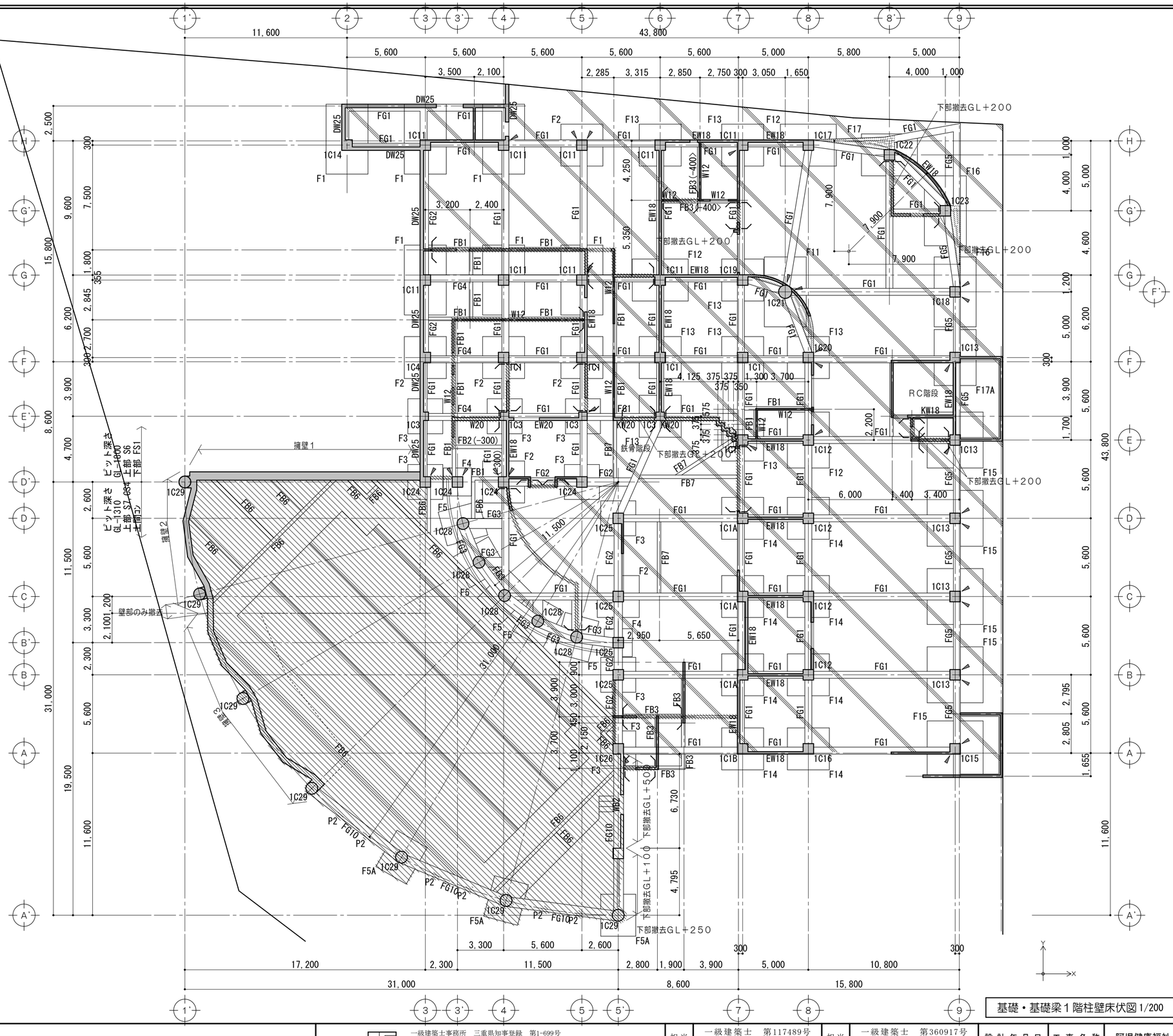


特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社　前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

担当	一級建築士　第117489号　前野　初像	担当	一級建築士　第360917号　前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-013
担当	一級建築士　第307846号　三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号　加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	溶接規準図	縮尺	A2：NS A3：NS

改修前



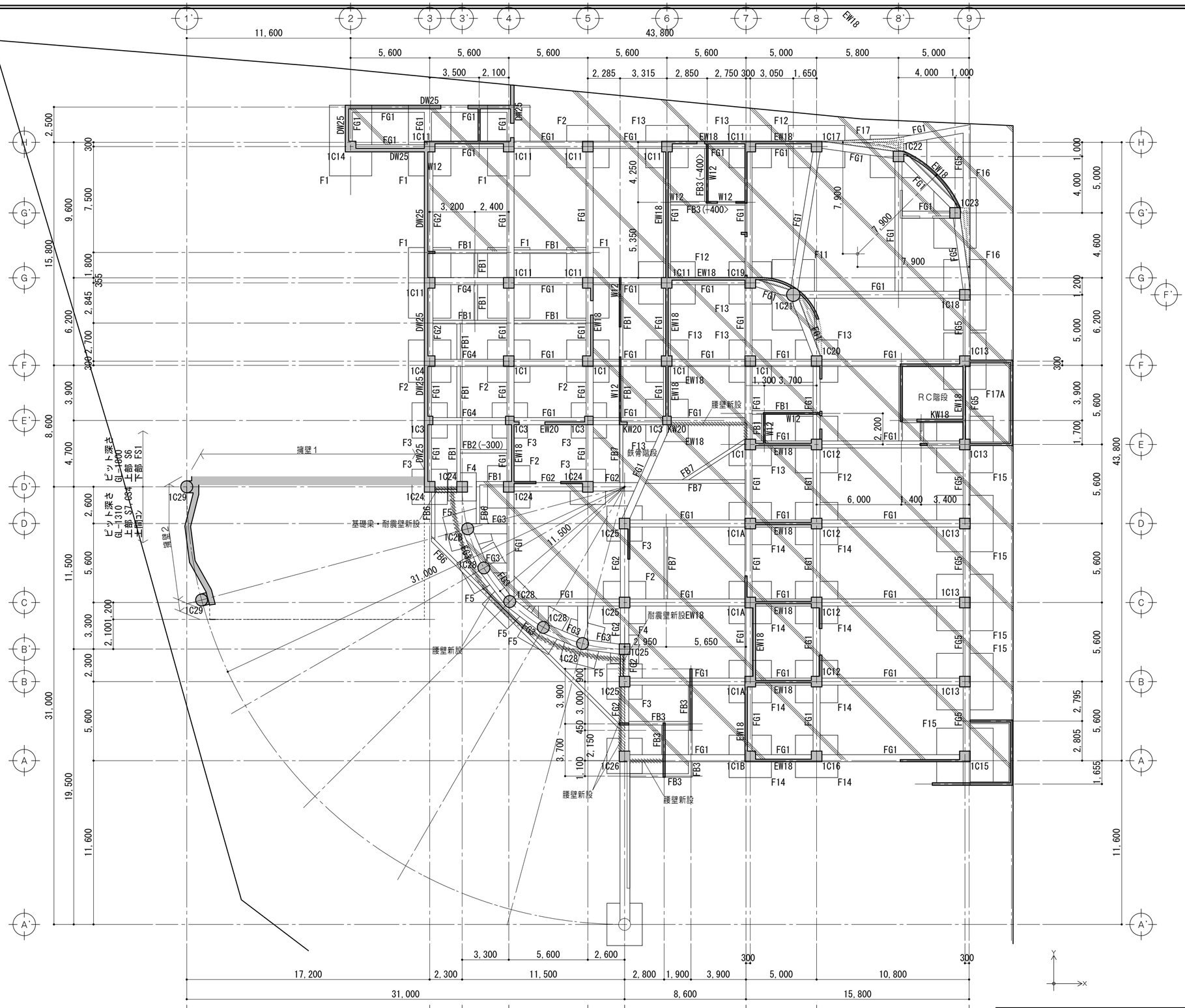
凡　例	
	土間コンクリートｔ150 D10@150　シングル　タテヨコ共
FGx(-xxx)	（　）内は設計GLから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計GL−200
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットW30
	壁コンクリートカッター切を示す
	撤去範囲を示す 特記なき場合、壁撤去範囲は 土間・スラブ天端～梁下またはスラブ下とする

基礎・基礎梁１階柱壁床伏図 1/200

※註記：特記なき場合、壁はW15とする
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-014
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　基礎・基礎梁１階柱壁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



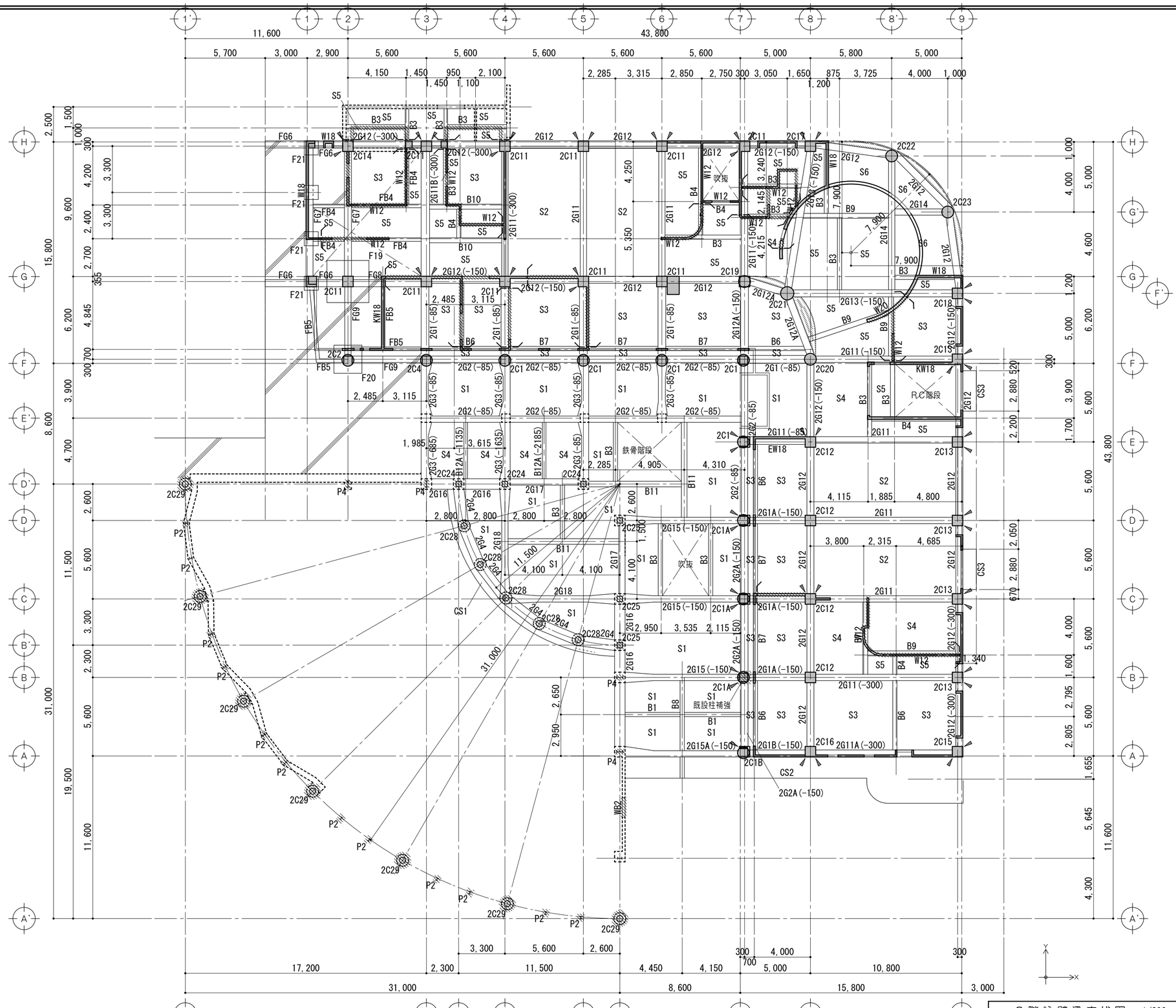
凡　例	
	土間コンクリートｆ１５０ Ｄ１０@１５０　シングル　タテヨコ共
FGx(-xxx)	（　　）内は設計ＧＬから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計ＧＬ－２００
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットＷ３０
	新設範囲を示す

基礎・基礎梁１階柱壁床伏図 1/200

※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-015
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　基礎・基礎梁１階柱壁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前

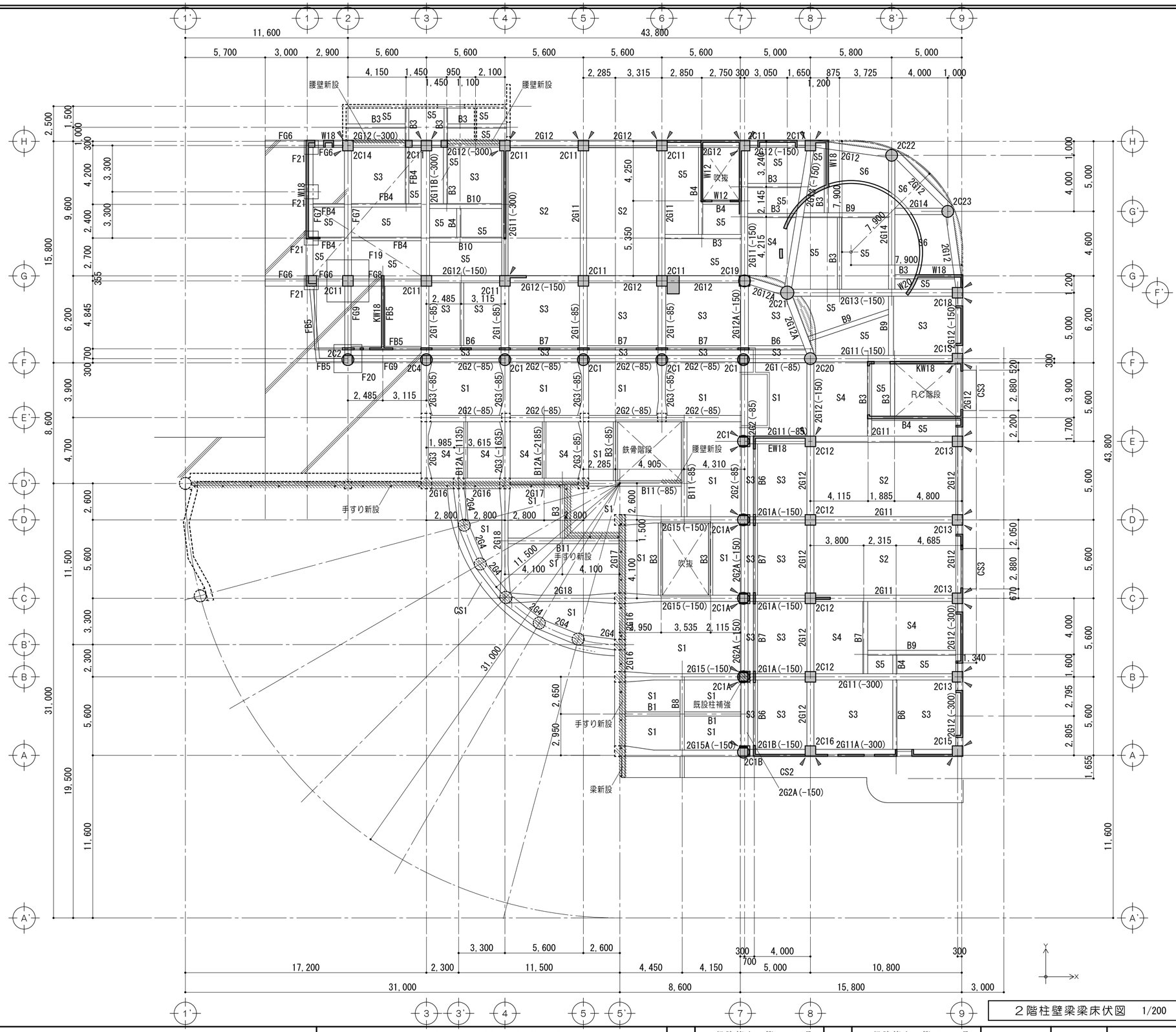


２階柱壁梁床伏図　1/200

※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-016
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　２階柱壁梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



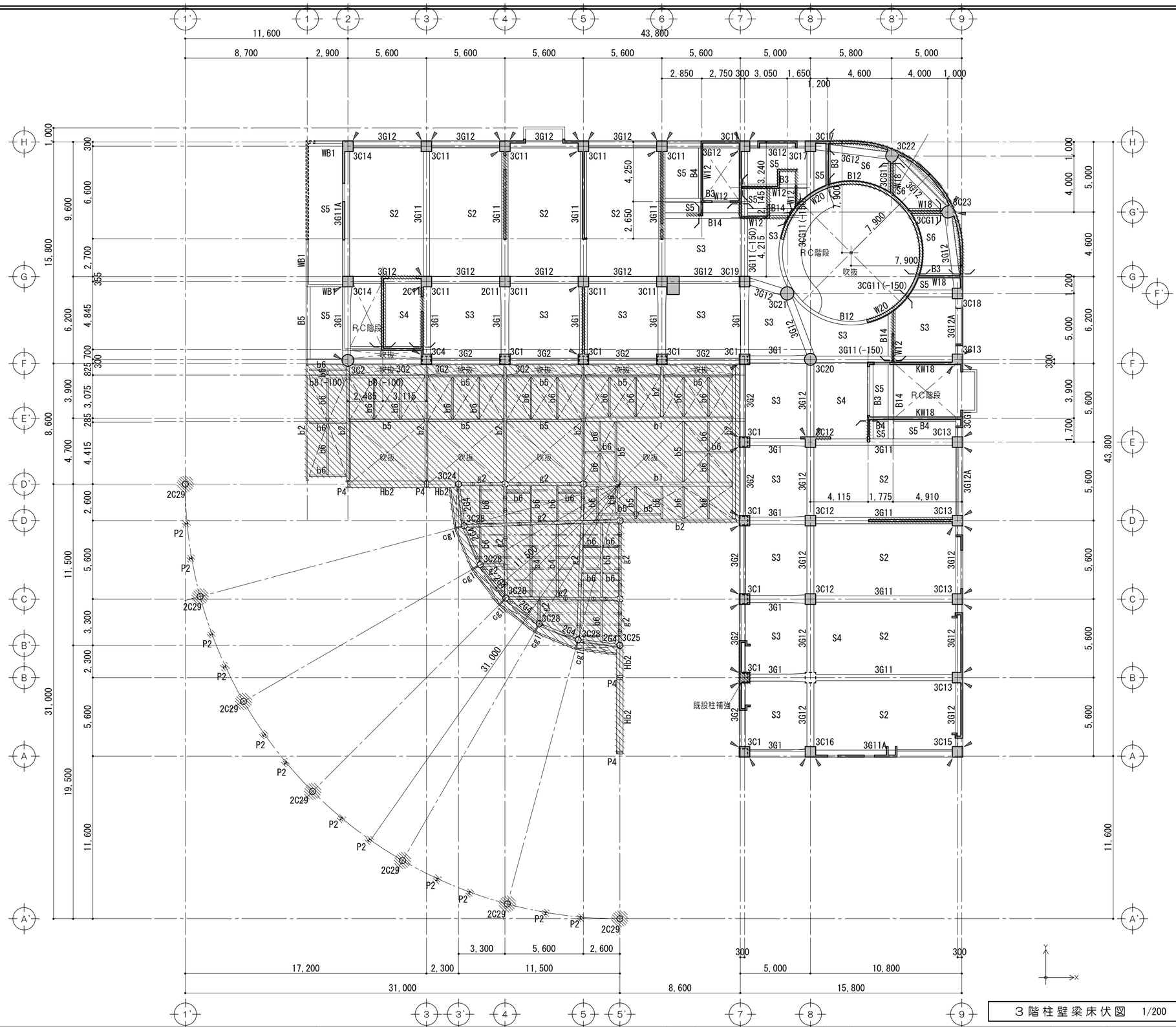
凡　例	
2Gx(-xxx)	（　）内は設計ＧＬから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計ＧＬ－２００
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットＷ３０
	新設範囲を示す

２階柱壁梁梁床伏図　1/200

※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-017
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　２階柱壁梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前

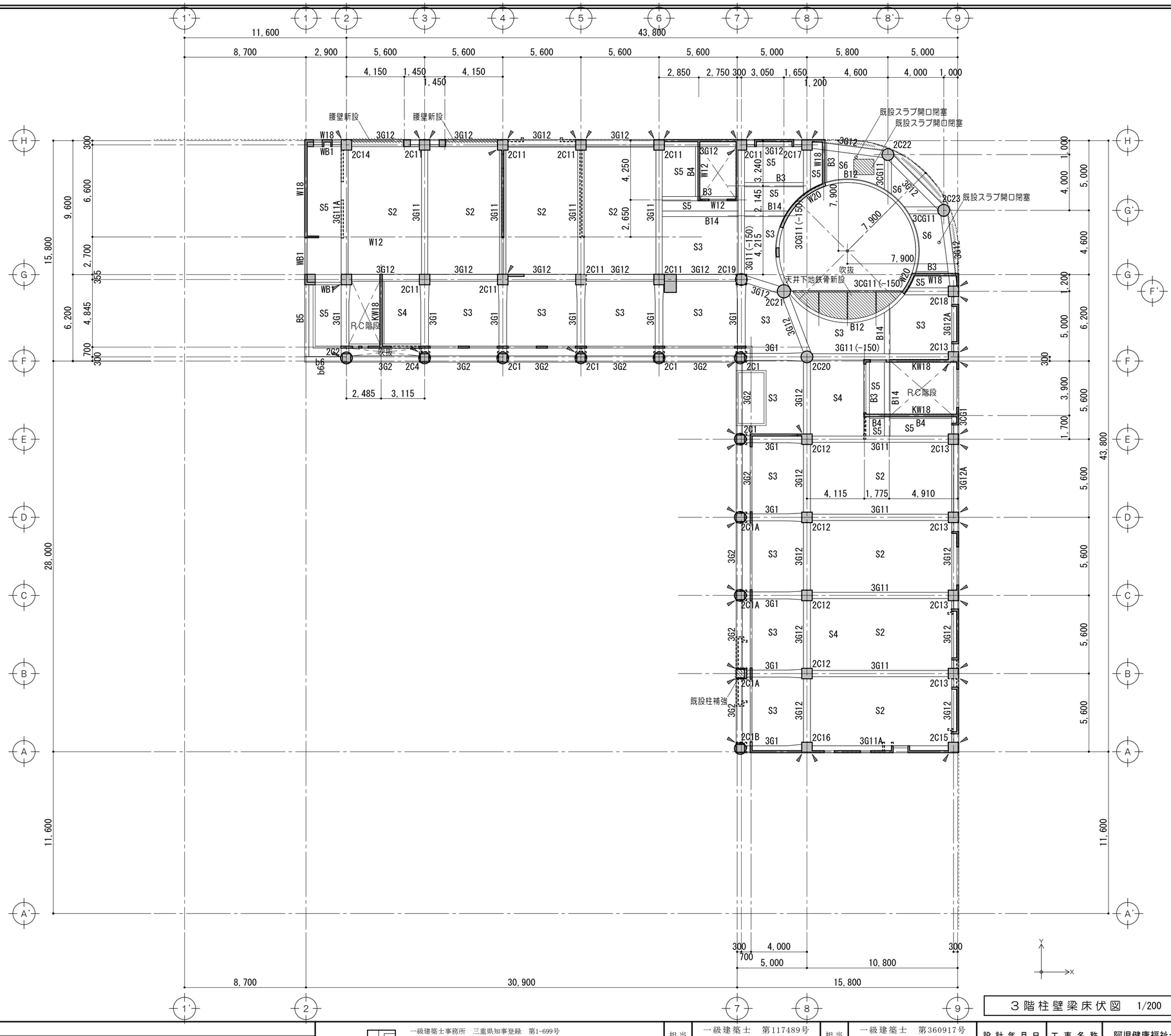


3階柱壁梁床伏図 1/200

※註記：特記なき場合、壁はW15とする
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

特記事項		株式会社 前野建築設計 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	担当	一級建築士 第117489号 前野 初像	担当	一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-018
			担当	一級建築士 第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士 第378328号 加藤 早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前 3階柱壁梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



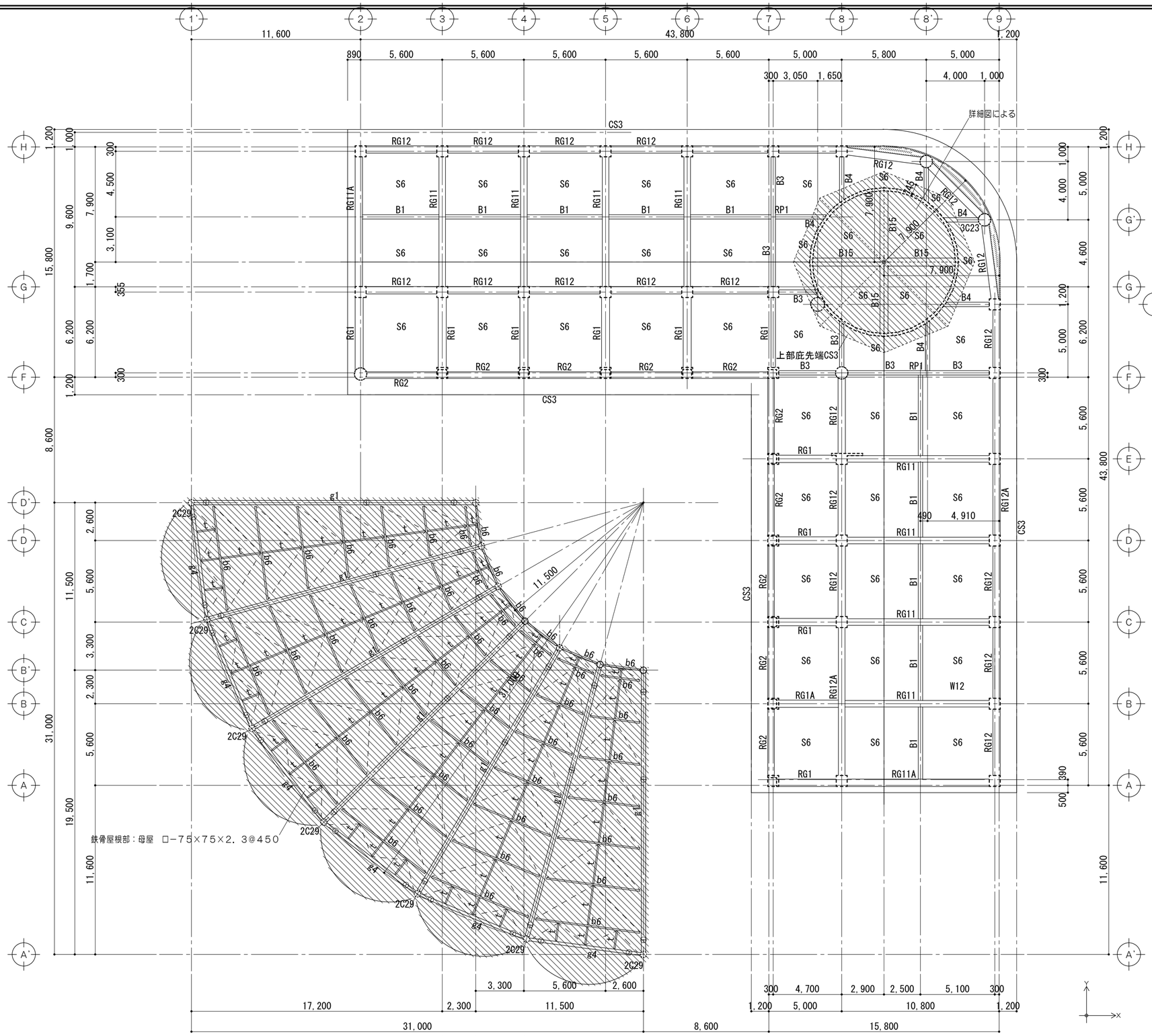
凡　例	
3Gx(-xxx)	（　）内は設計ＧＬから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計ＧＬ－２００
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットＷ３０
	水平ブレースを示す 特記なき場合、Ｖ２とする
	壁コンクリートカッター切を示す
	撤去範囲を示す 特記なき場合、壁撤去範囲は スラブ天端～梁下またはスラブ下とする

３階柱壁梁床伏図　1/200

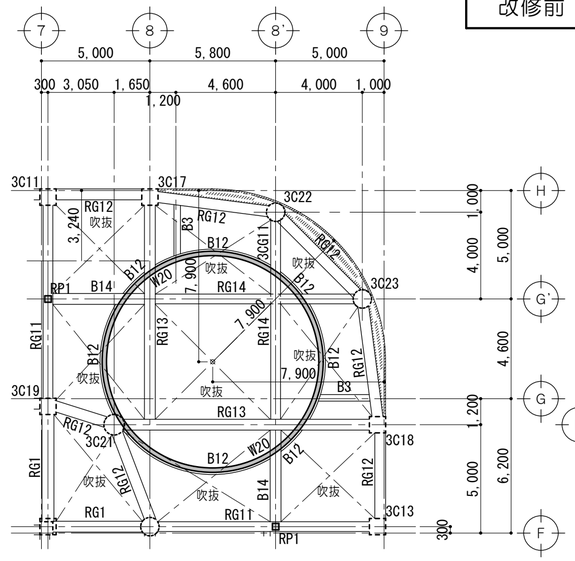
※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする

特記事項		株式会社 前野建築設計 一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-019
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　３階柱壁梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

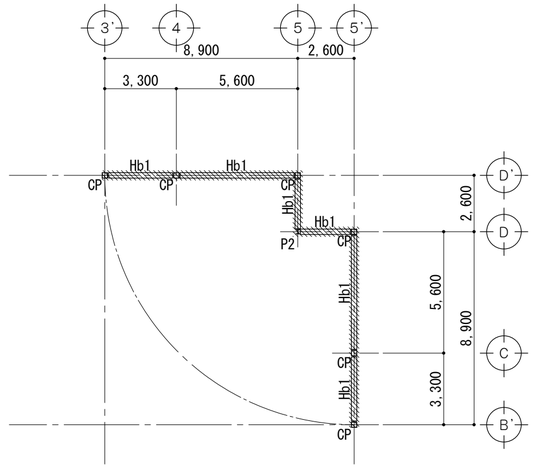
改修前



R階梁伏図（水平部）　1/200



R階梁伏図（上部鉄骨）　1/200



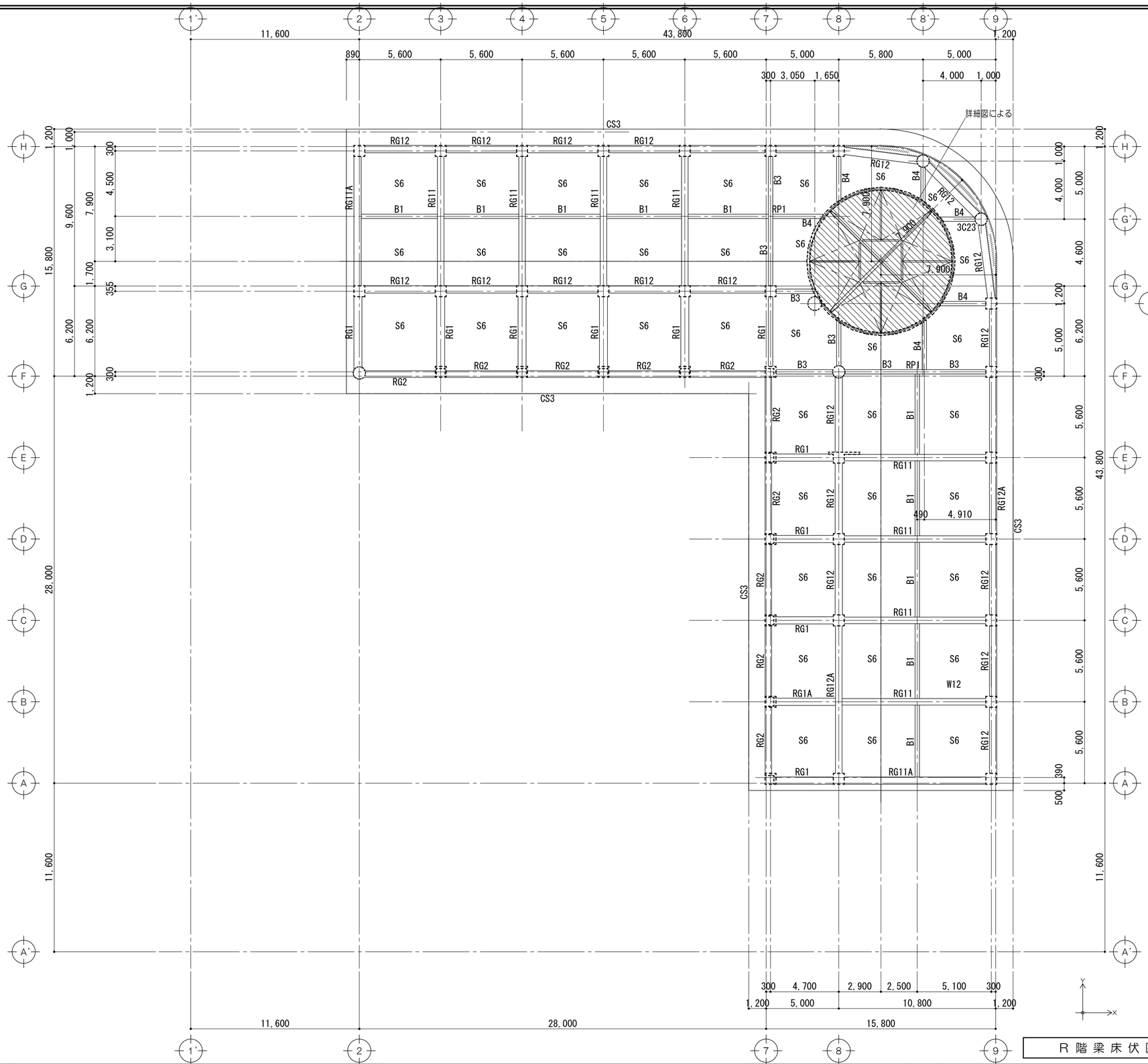
凡　例	
RGx(-xxx)	（　）内は設計ＧＬから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計ＧＬ－２００
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットＷ３０
	水平ブレースを示す 特記なき場合、Ｖ１とする
	壁コンクリートカッター切を示す
	撤去範囲を示す 特記なき場合、壁撤去範囲は スラブ天端～梁下またはスラブ下とする

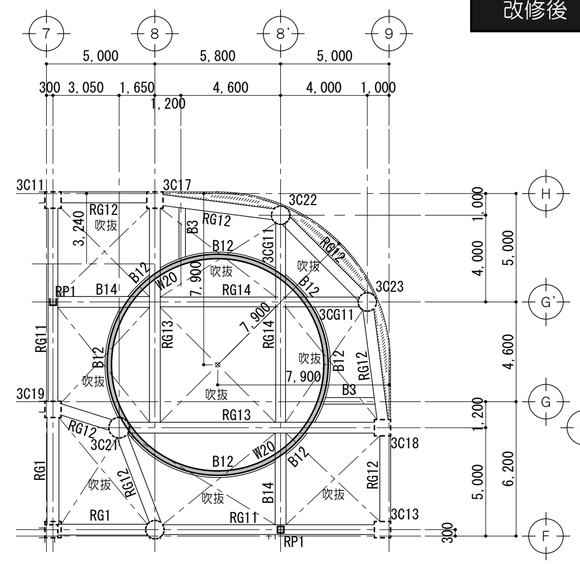
R 階 梁 床 伏 図　1/200

※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-020
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　R階梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後





R階梁伏図（水平部）　1/200

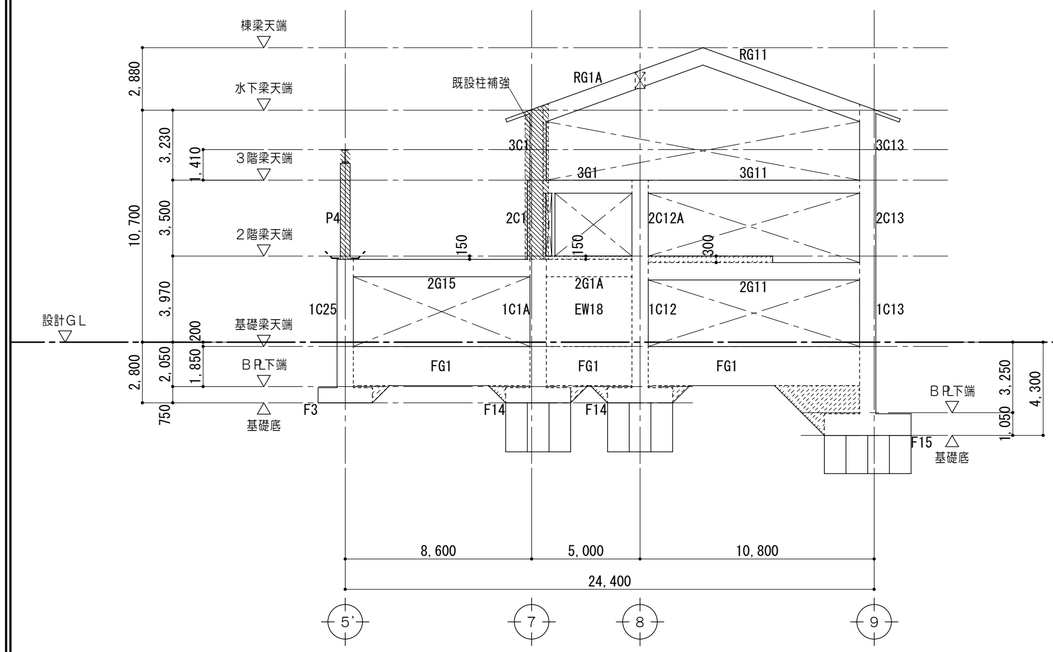
凡　例	
RGx(-xxx)	（　）内は設計ＧＬから基礎梁天端までの距離を示す 特記なき場合、設計ＧＬ－２００
	梁幅方向増打を示す
	完全スリットＷ３０
	新設範囲を示す

R 階 梁 床 伏 図　1/200

※註記：特記なき場合、壁はＷ１５とする

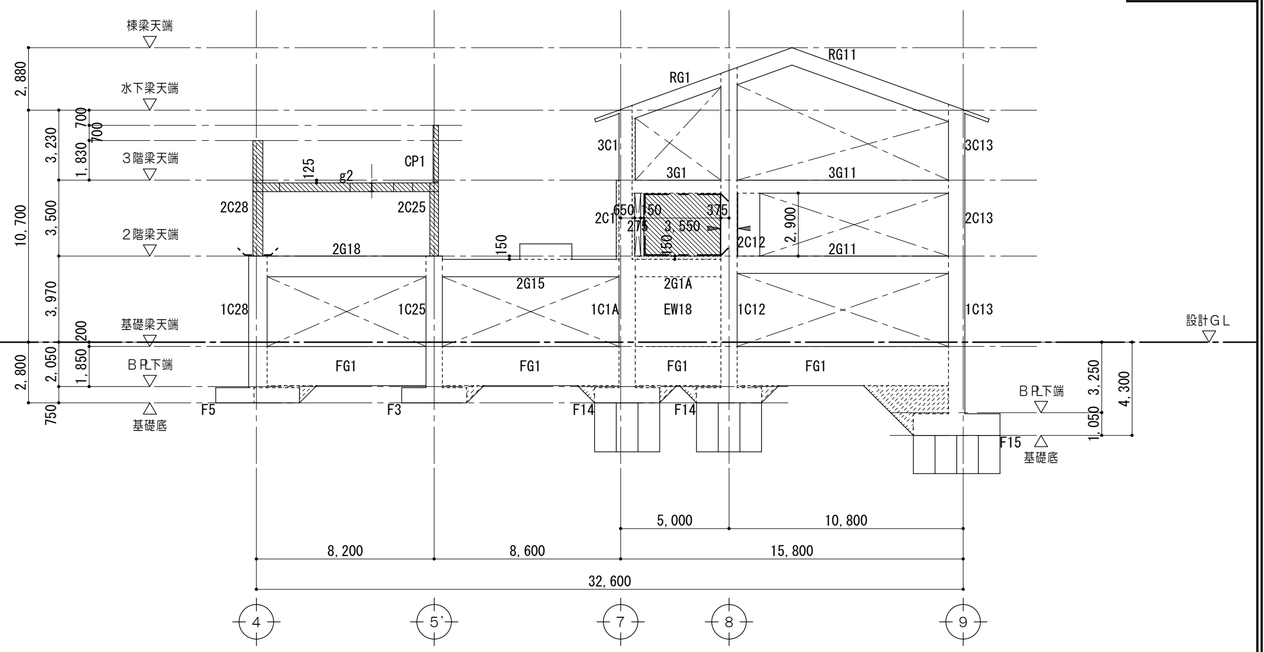
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-021
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　R階梁床伏図	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前



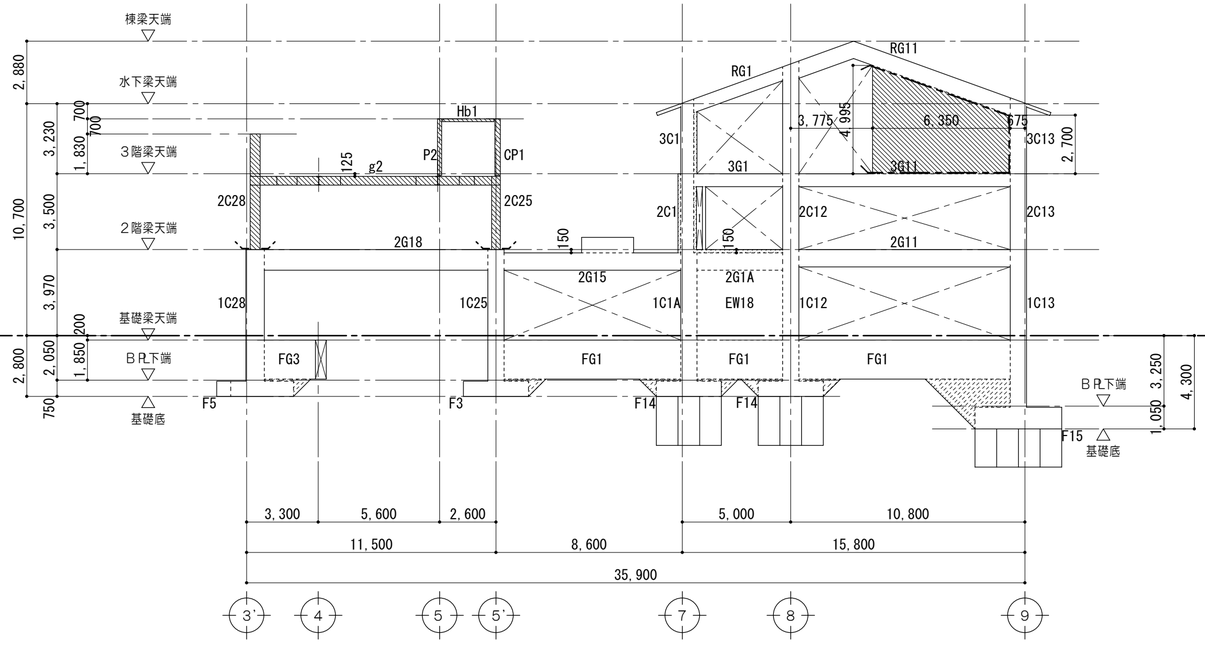
Ｂ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



Ｃ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



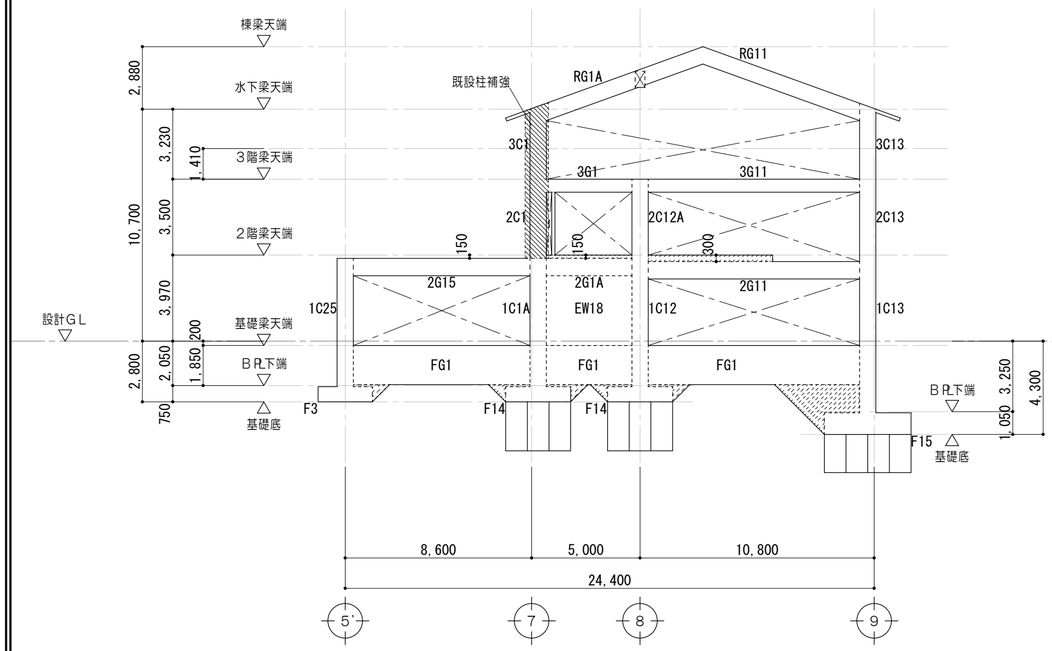
Ｄ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットＷ３０
	コンクリート増打を示す
	壁コンクリートカッター切を示す
	鉄骨切断を示す
	撤去範囲を示す

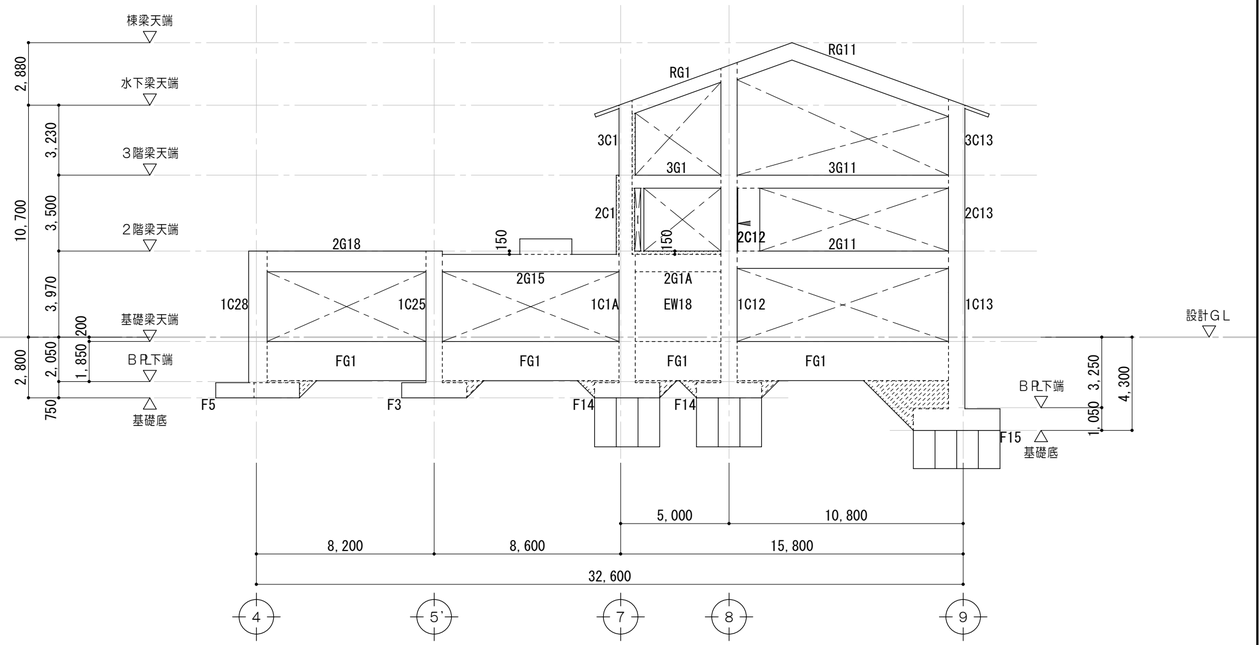
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-022
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　軸組図No.１	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



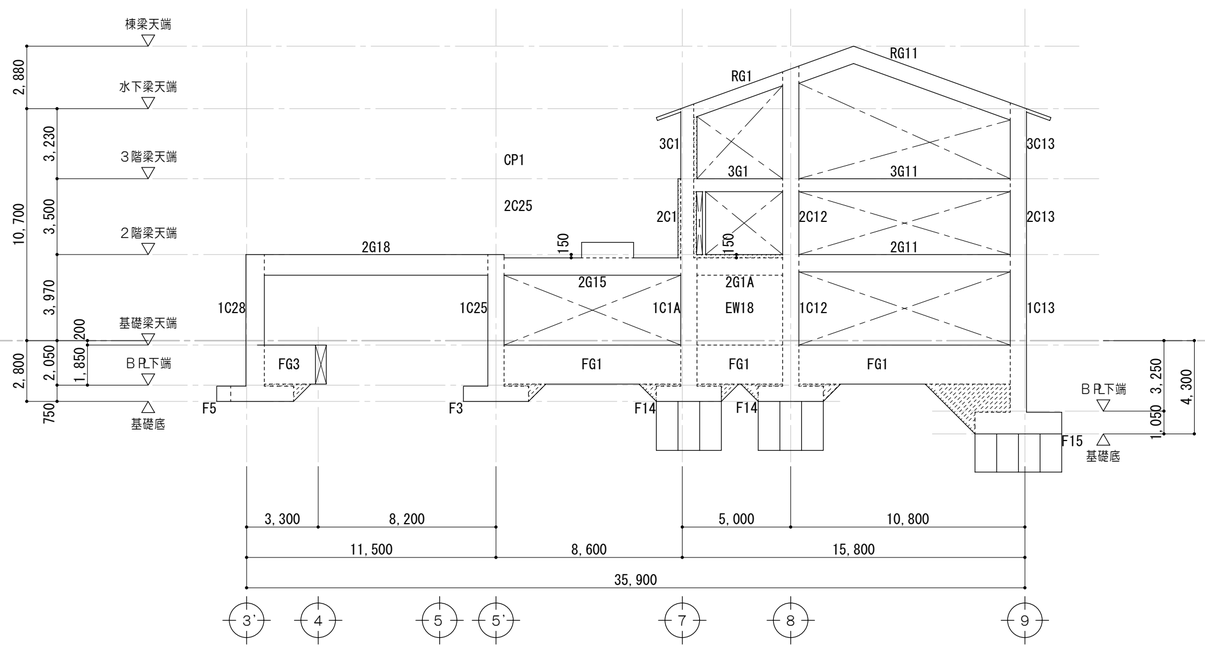
Ｂ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



Ｃ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



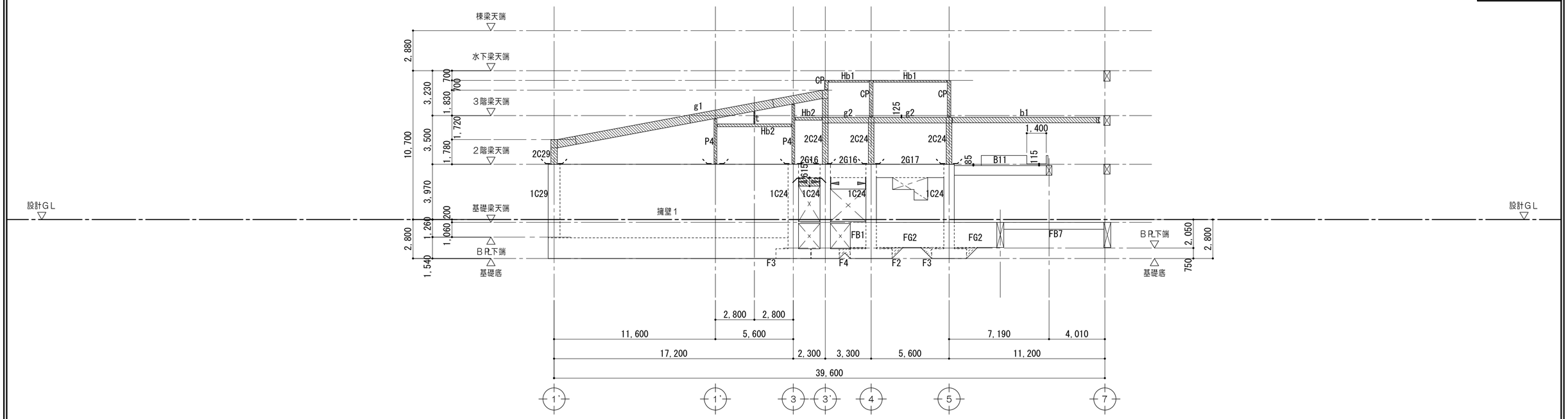
Ｄ 通 軸 組 図　　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットＷ３０
	コンクリート増打を示す
	改修範囲を示す

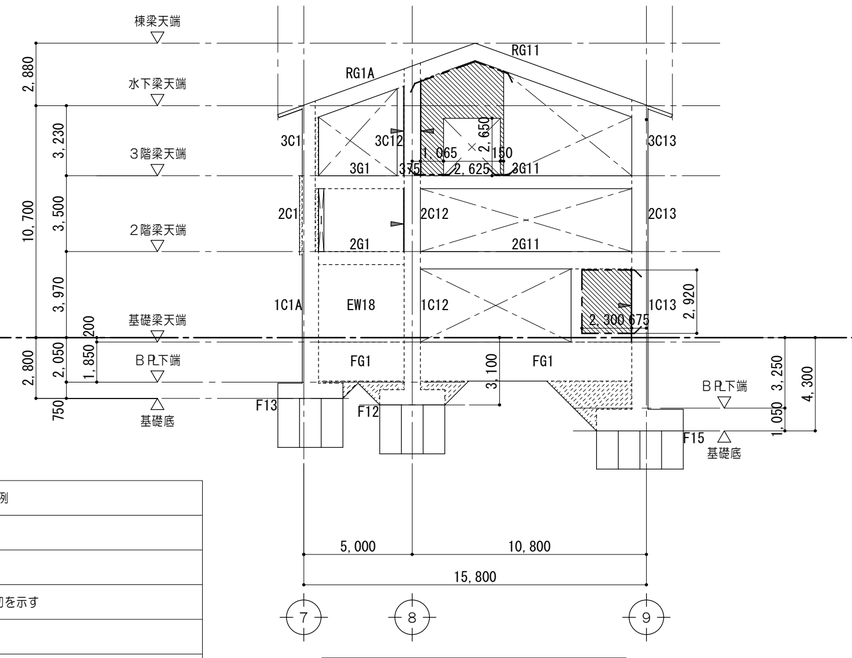
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-023
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　軸組図No.１	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前



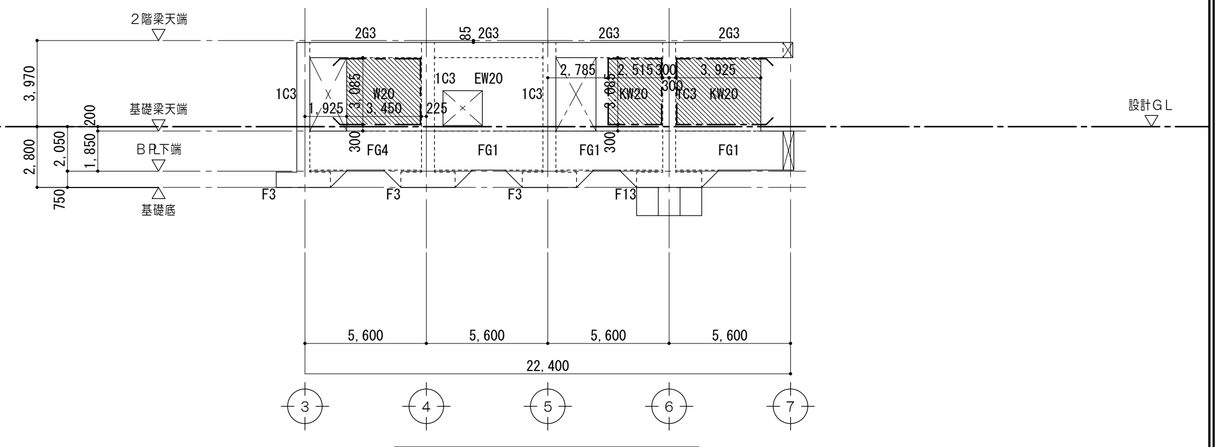
D ' 通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



E 通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



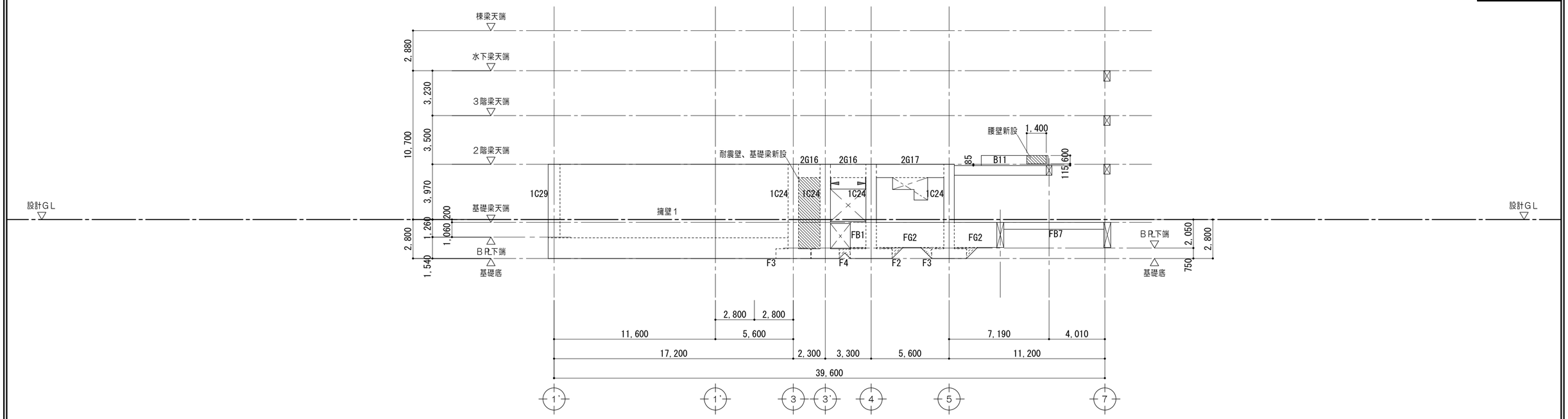
E ' 通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットW30
	コンクリート増打を示す
	壁コンクリートカッター切を示す
	鉄骨切断を示す
	撤去範囲を示す

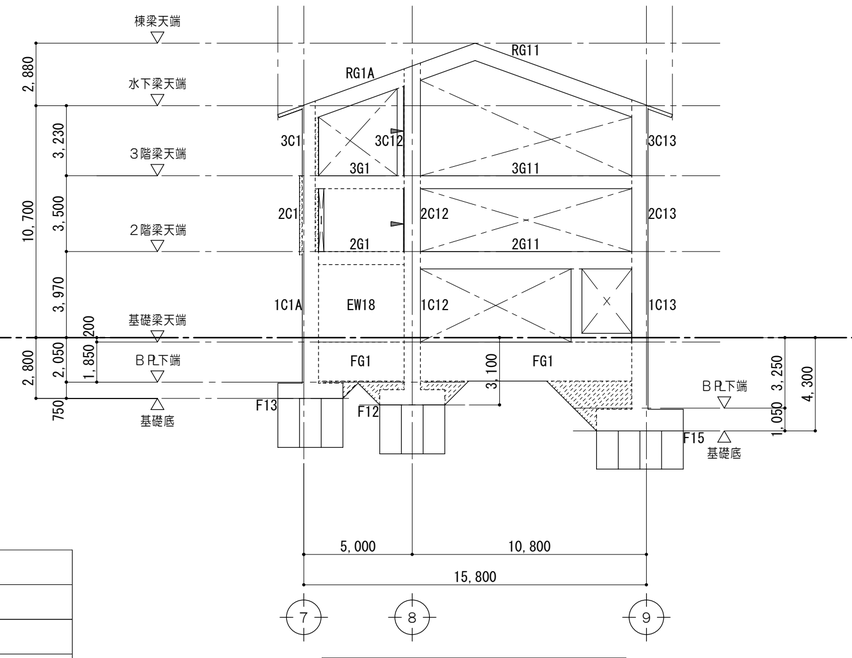
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号　S-024
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　軸組図No.2	縮尺　A2：1/200 A3：1/282

改修後



D ' 通軸組図　1/200

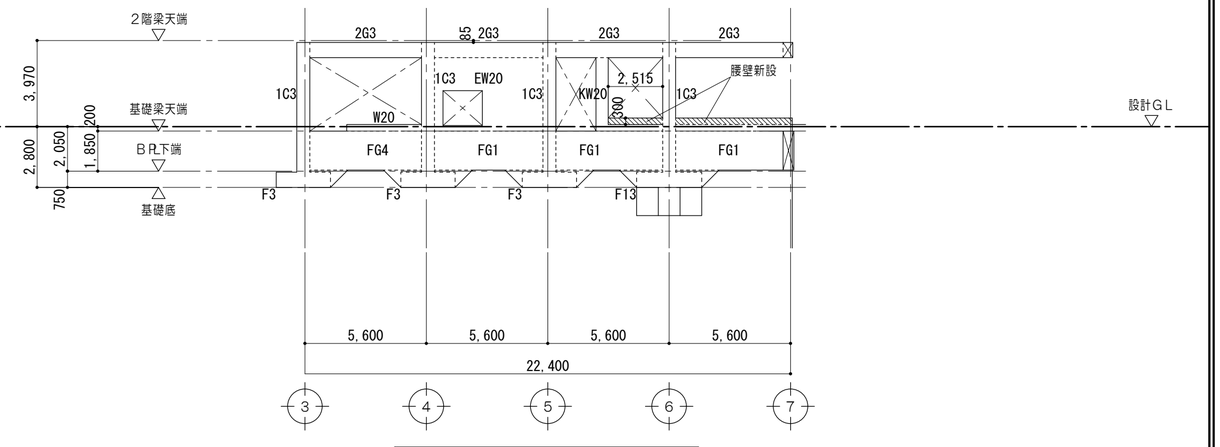
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



凡　例	
	完全スリットW30
	コンクリート増打を示す
	改修範囲を示す

E 通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

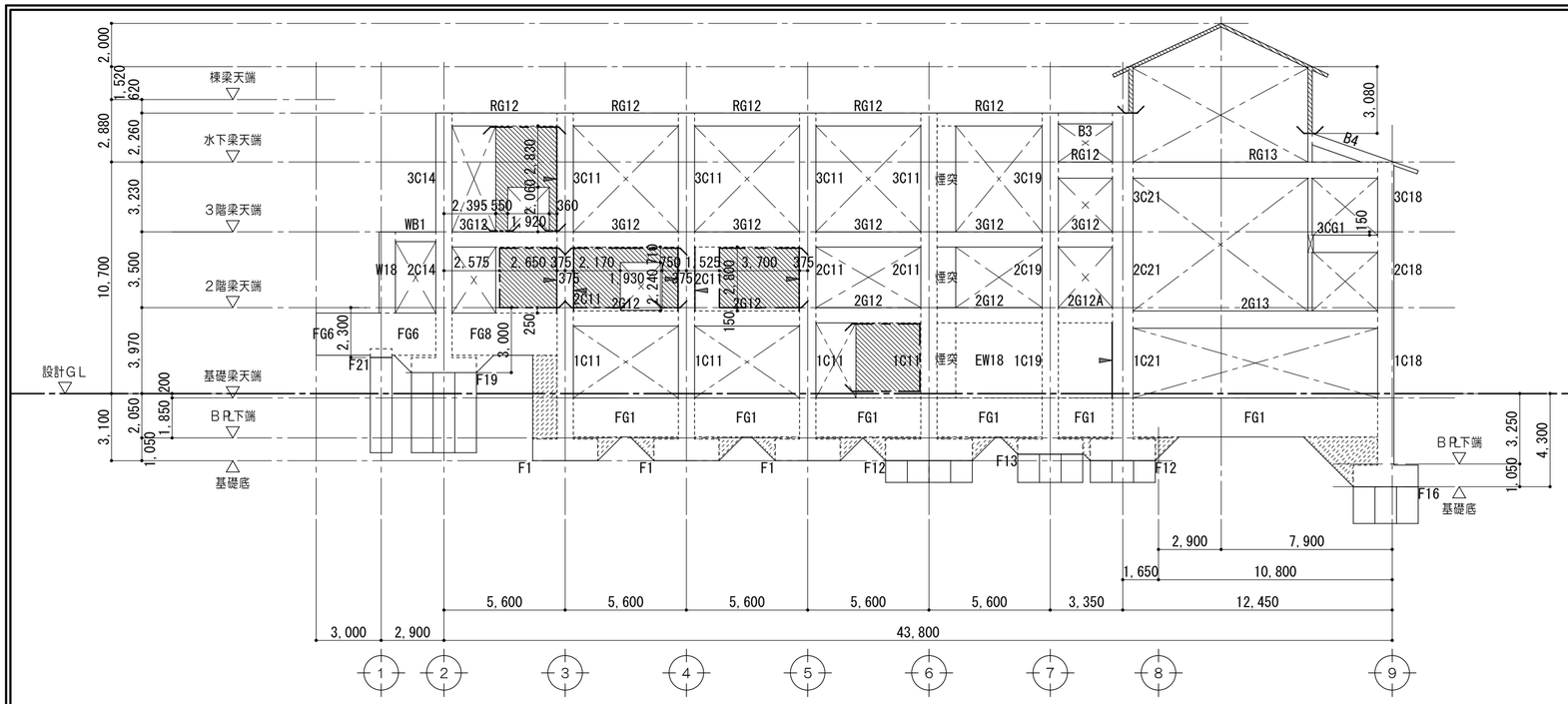


E ' 通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

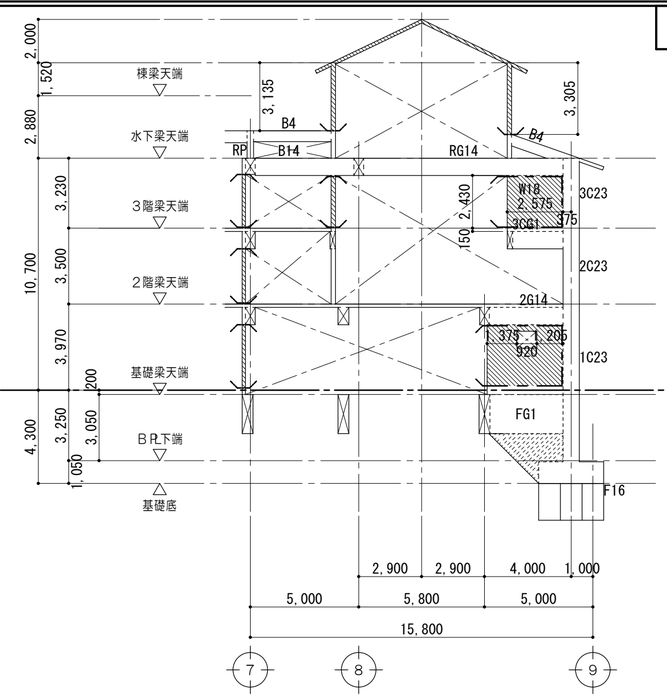
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-025
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　軸組図No.2	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前



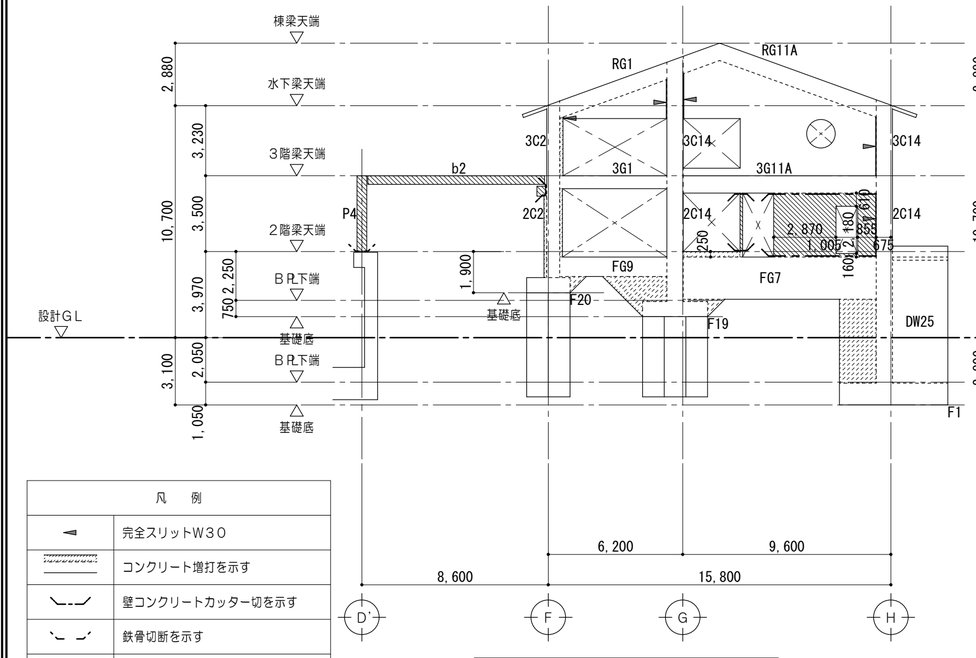
G－F’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



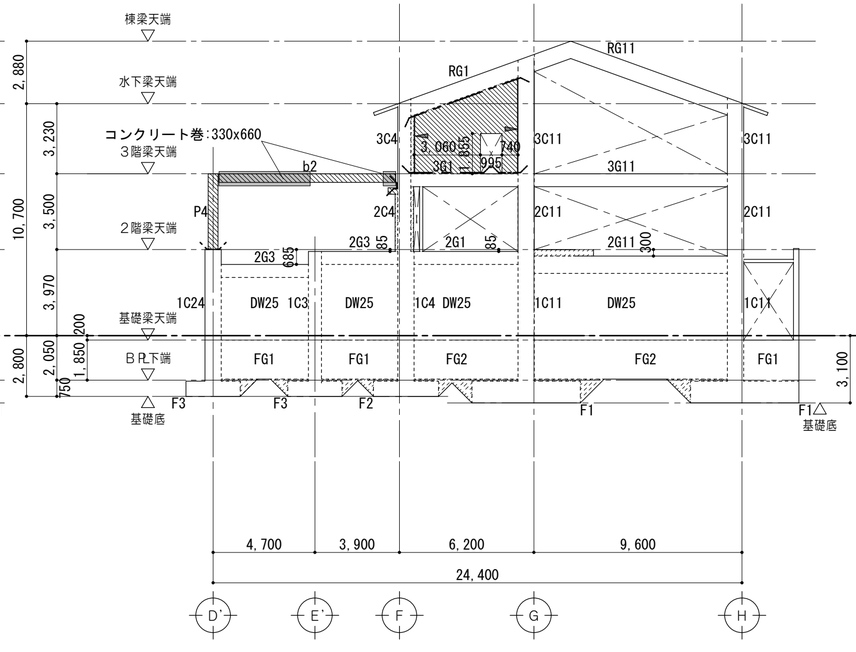
G’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



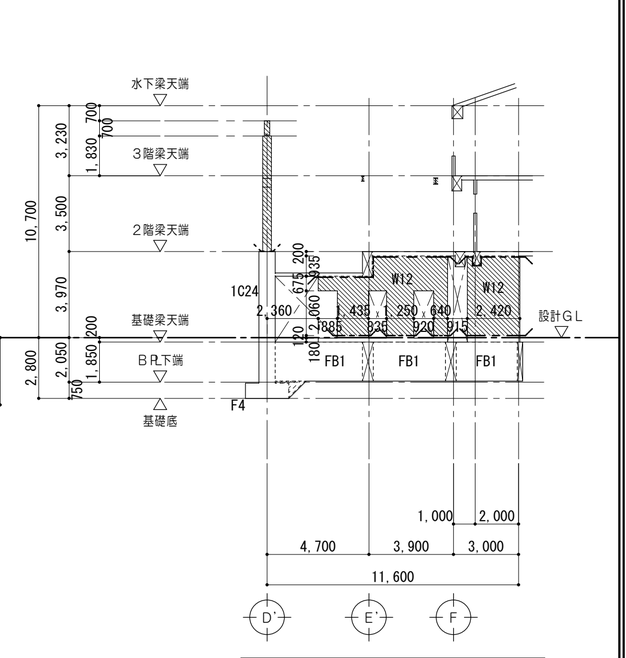
2通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



3通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



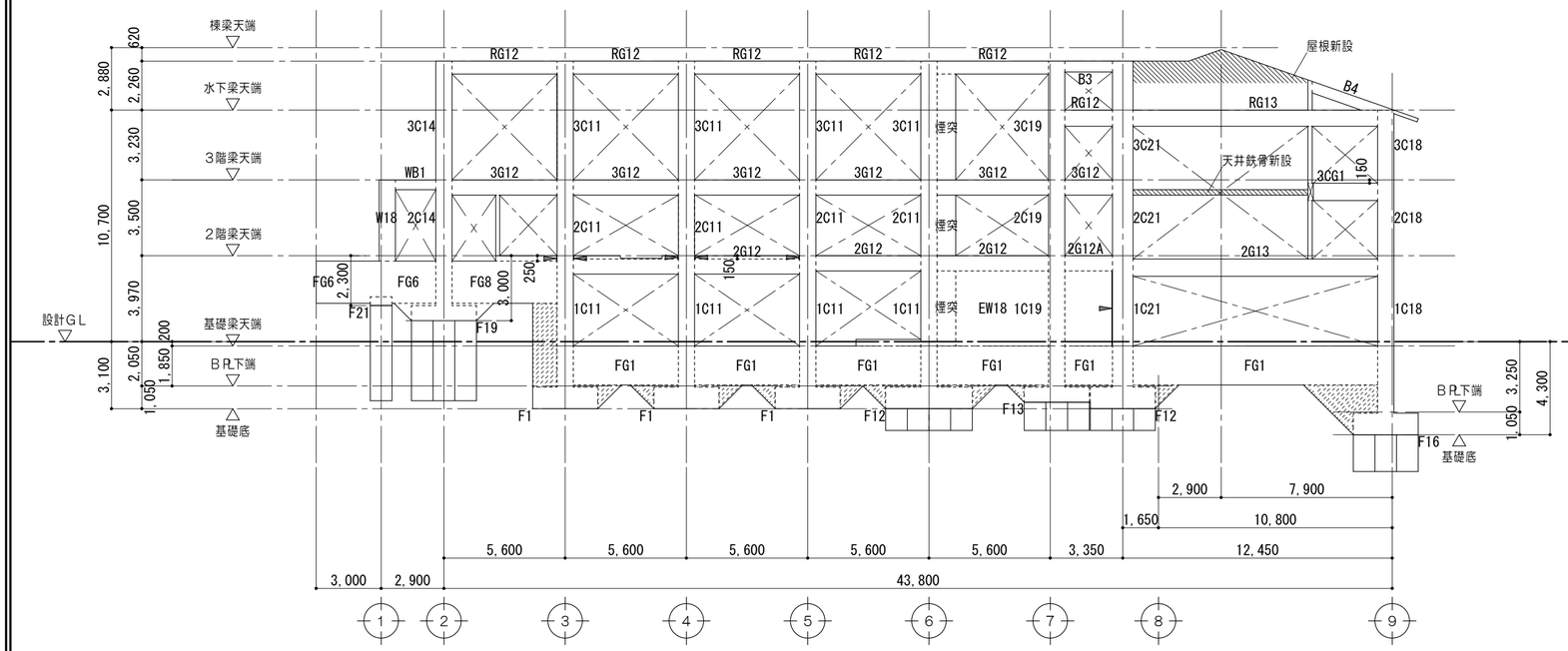
3’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットW30
	コンクリート増打を示す
	壁コンクリートカッター切を示す
	鉄骨切断を示す
	撤去範囲を示す

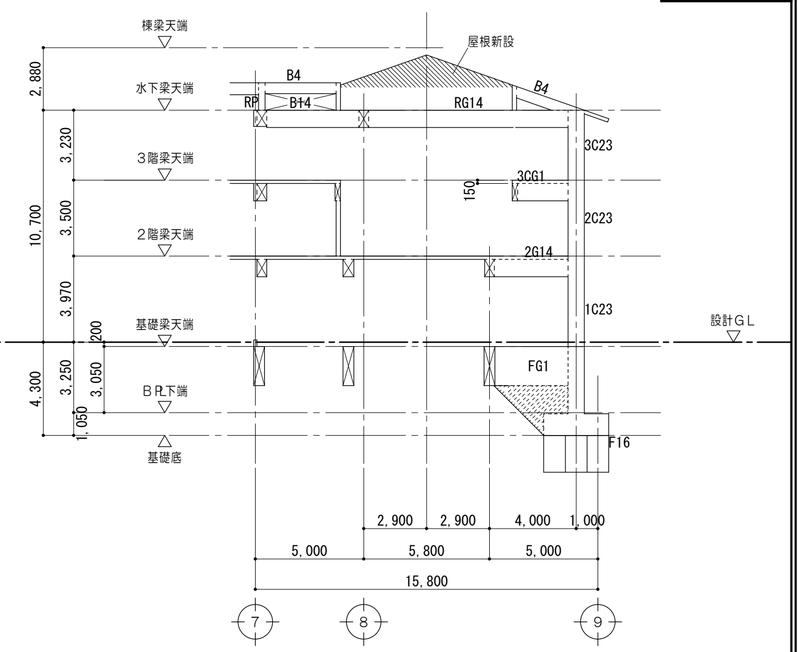
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-026
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　軸組図No.３	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



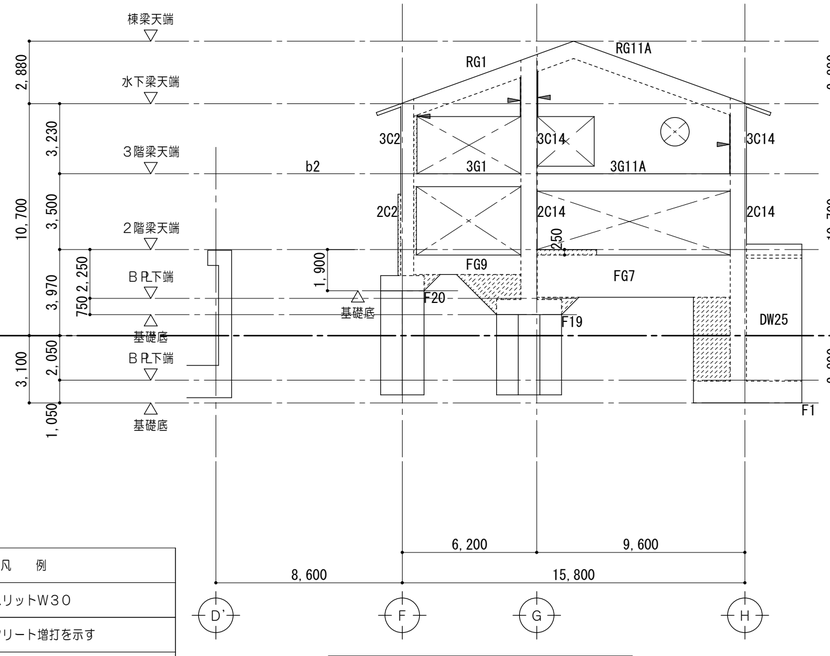
G－F’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



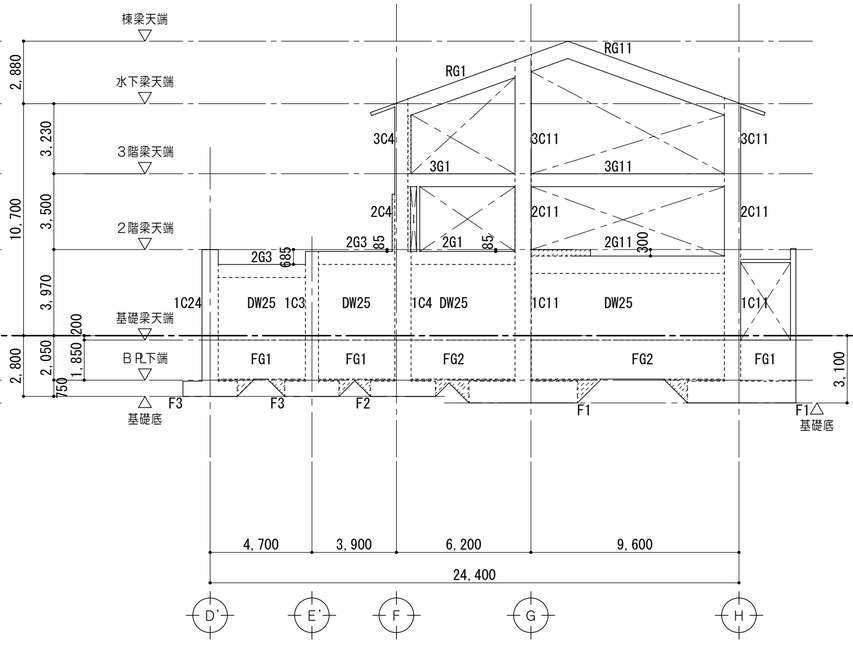
G’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



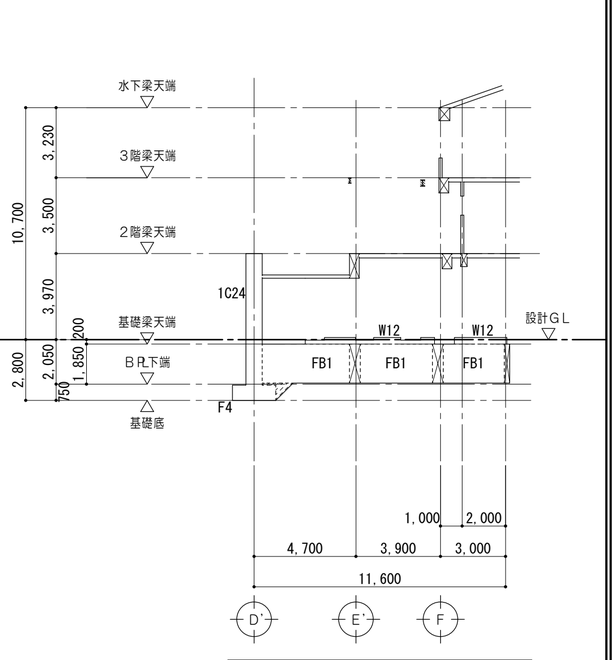
２通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



３通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



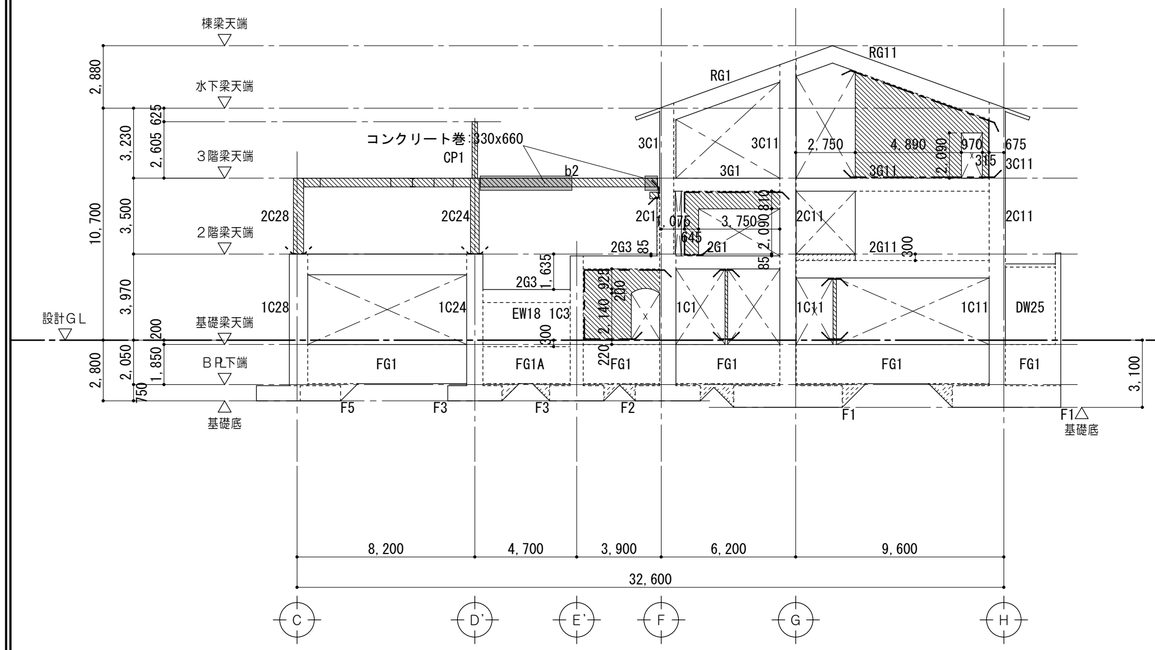
３’通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットW３０
	コンクリート増打を示す
	改修範囲を示す

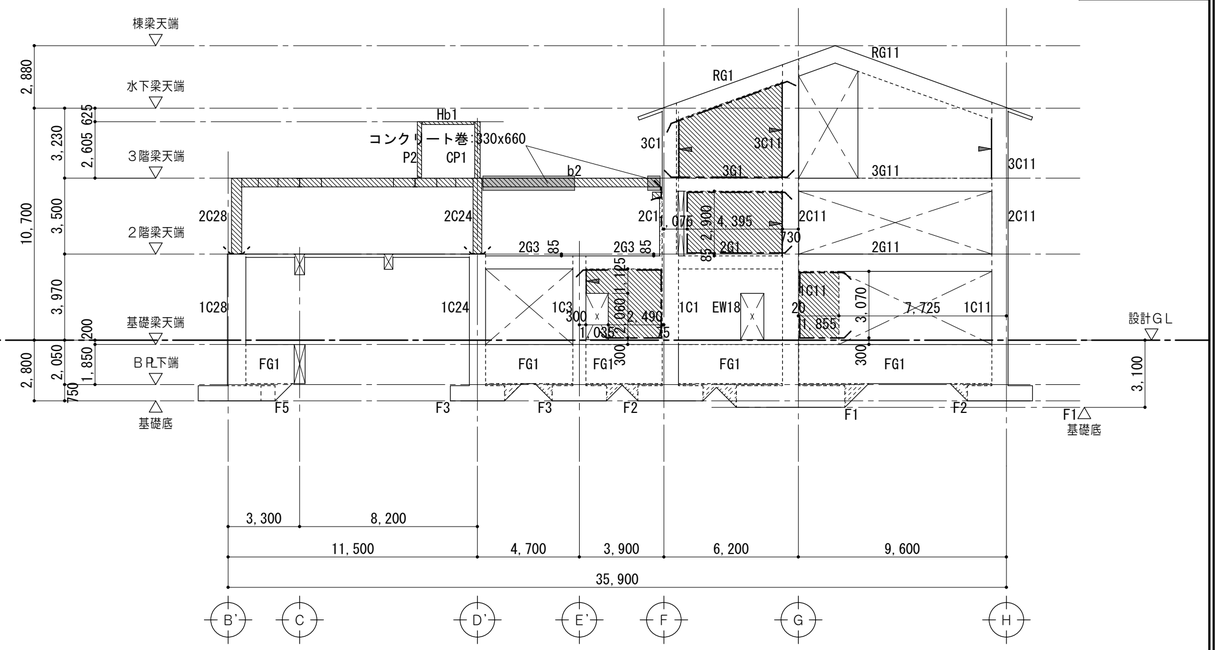
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-027
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　軸組図No.３	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前



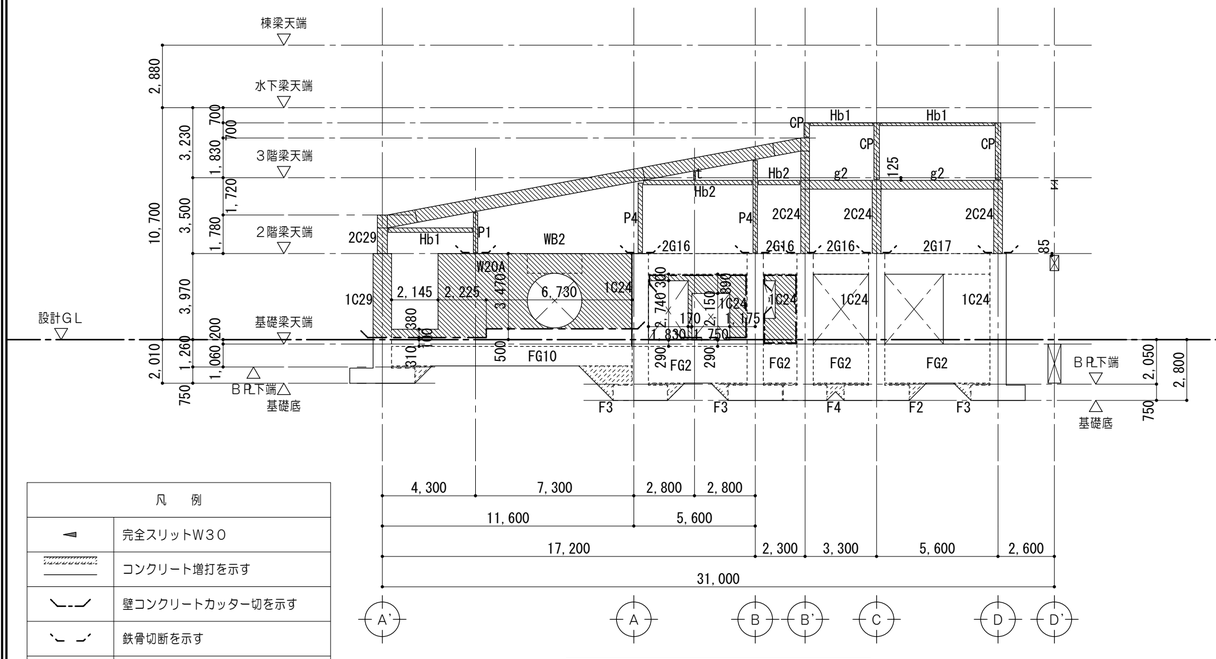
4 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



5 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

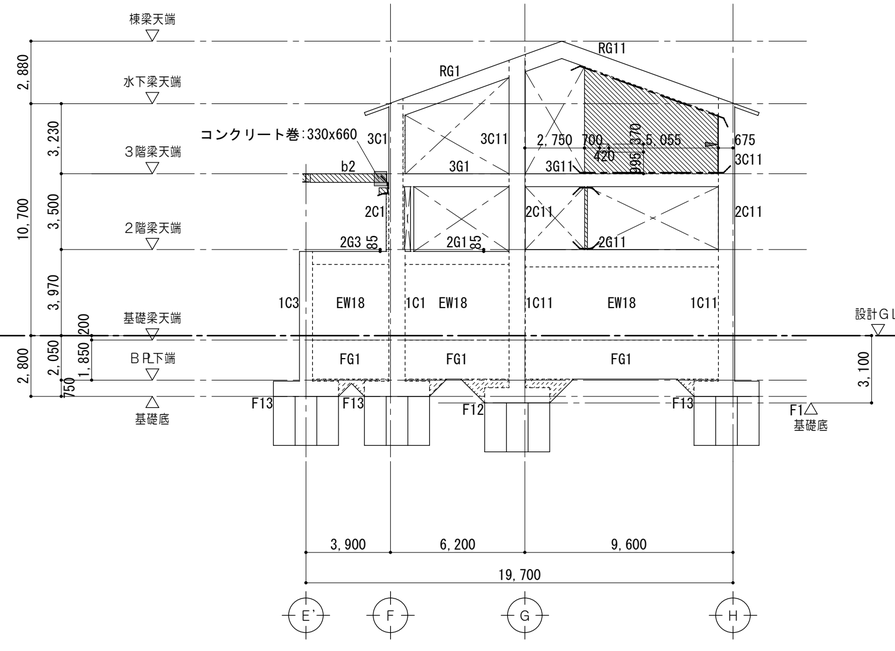


凡　例

	完全スリットW30
	コンクリート増打を示す
	壁コンクリートカッター切を示す
	鉄骨切断を示す
	撤去範囲を示す

5' 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

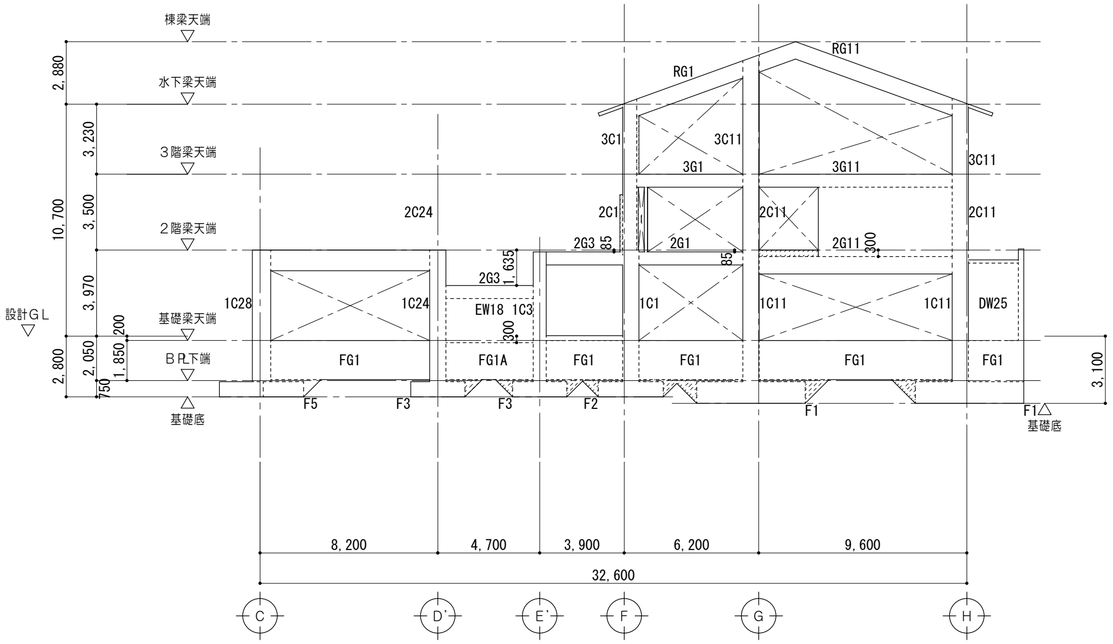


6 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

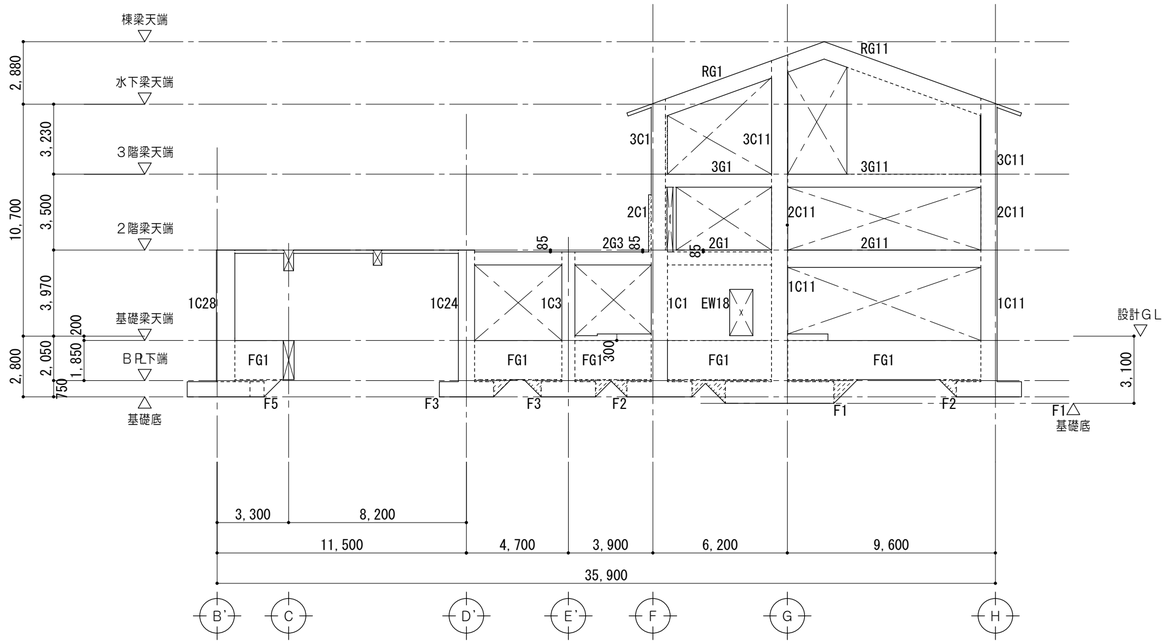
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-028
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　軸組図No.4	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



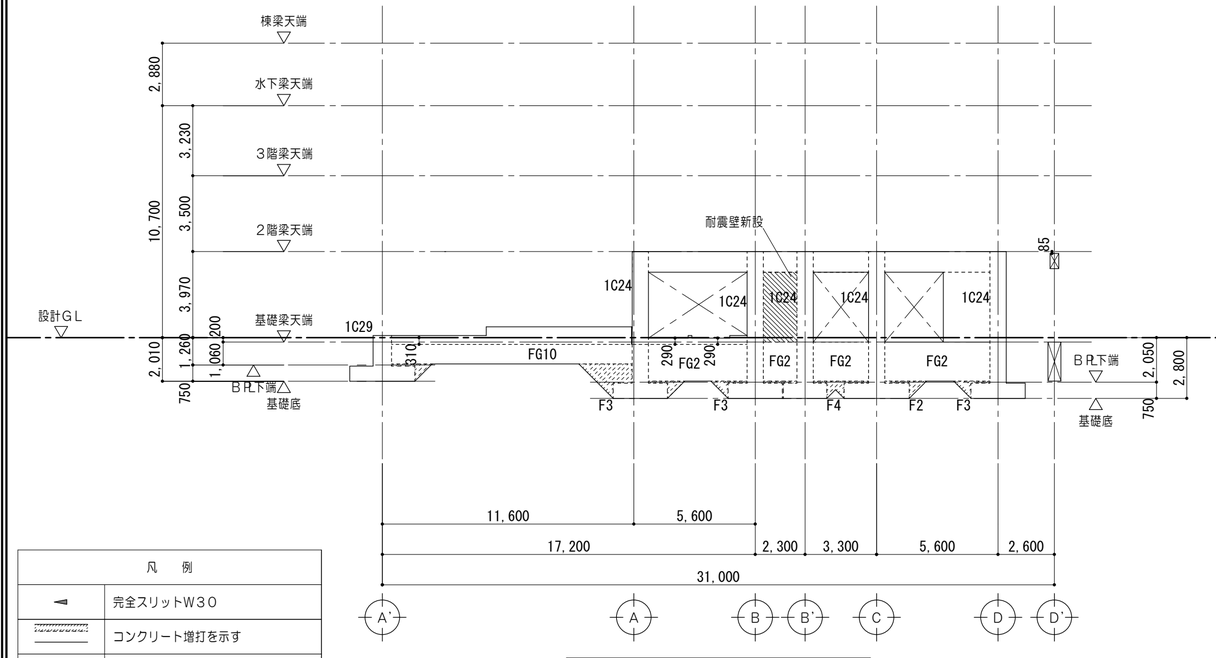
４ 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



５ 通 軸 組 図　1/200

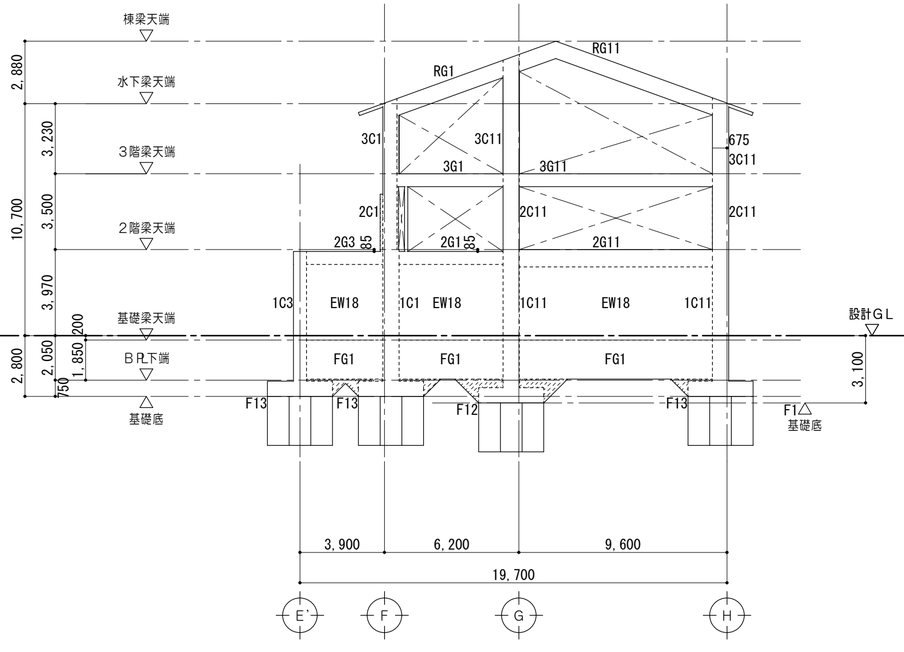
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



５' 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

凡　例	
	完全スリットＷ３０
	コンクリート増打を示す
	改修範囲を示す

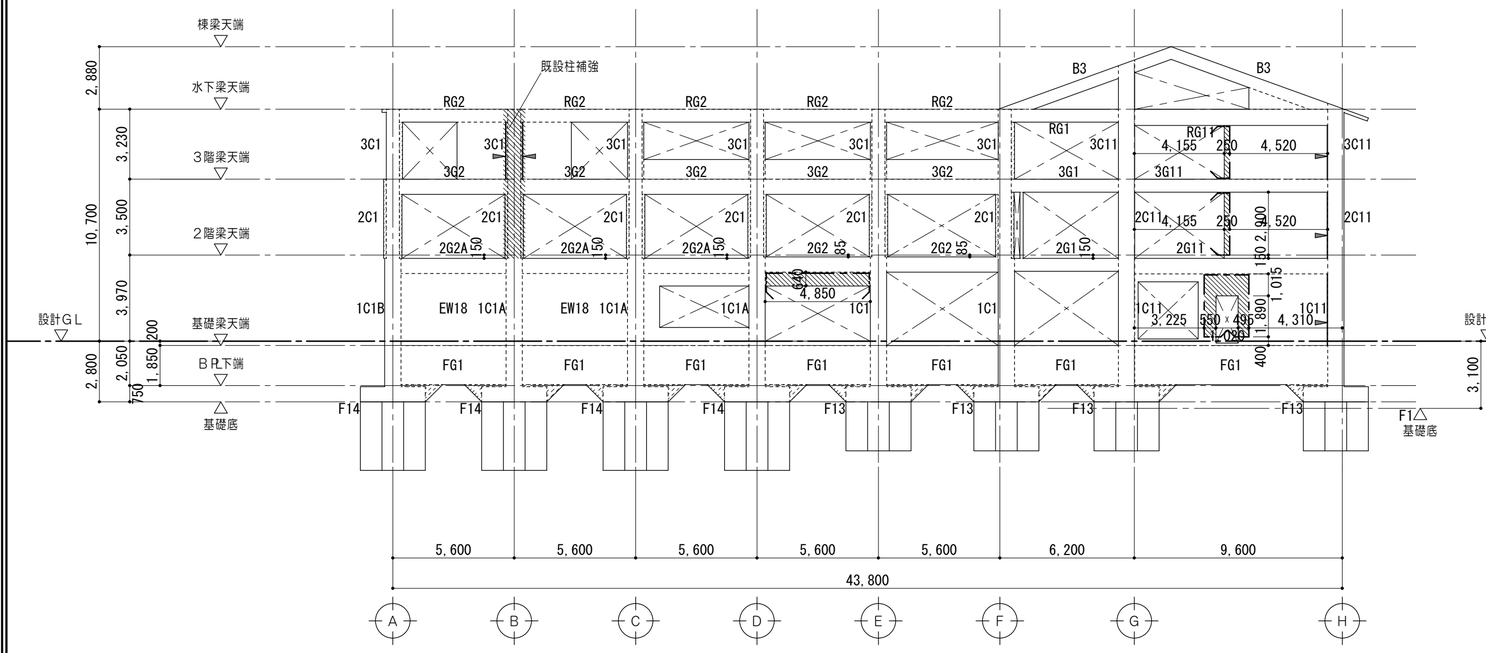


６ 通 軸 組 図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

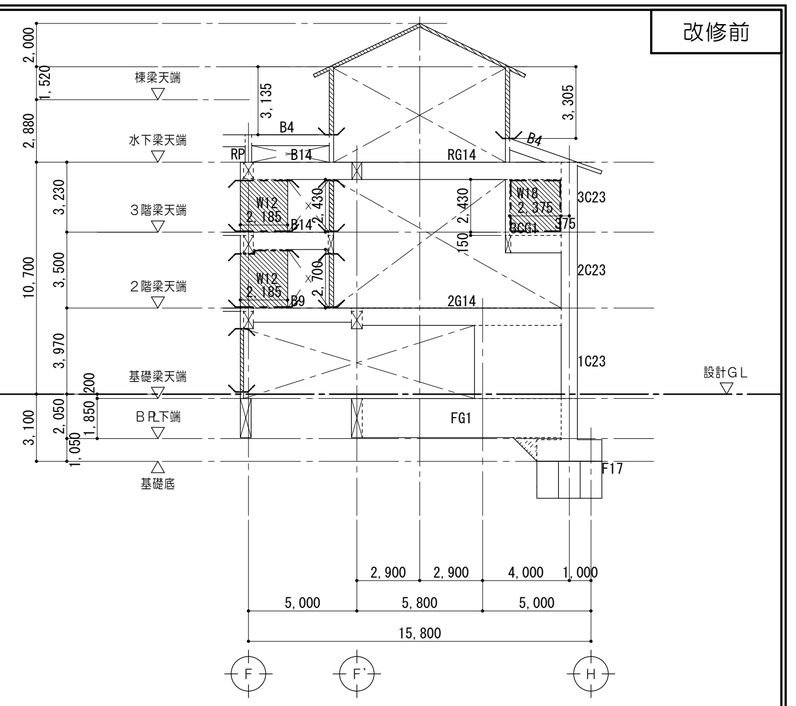
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-029
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　軸組図No.４	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前



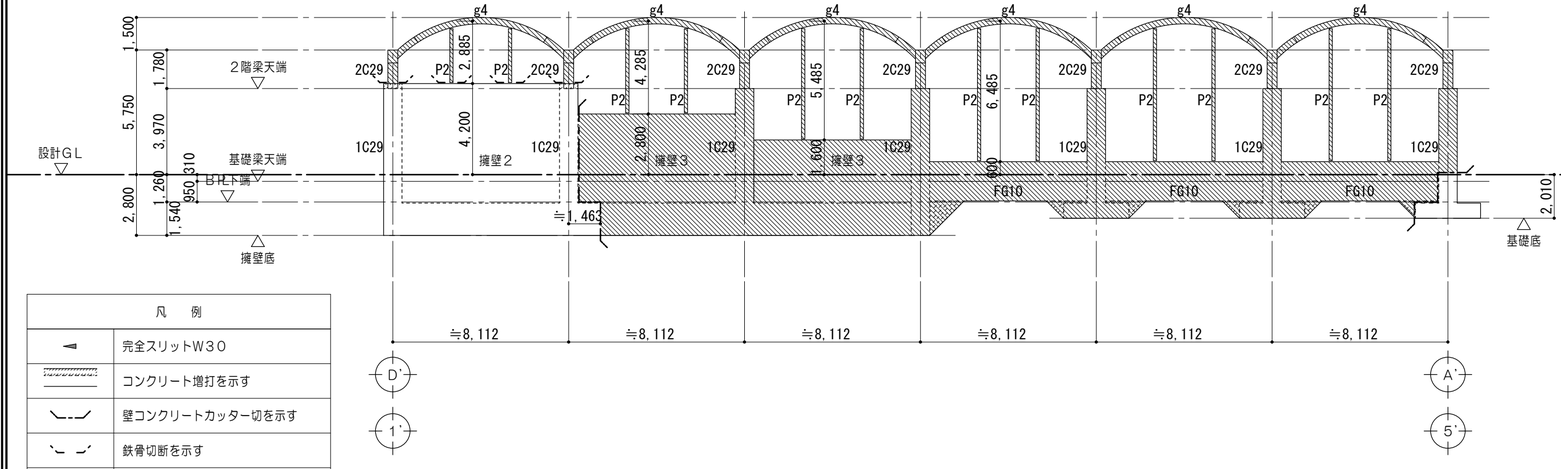
７通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



８’通軸組図　1/200

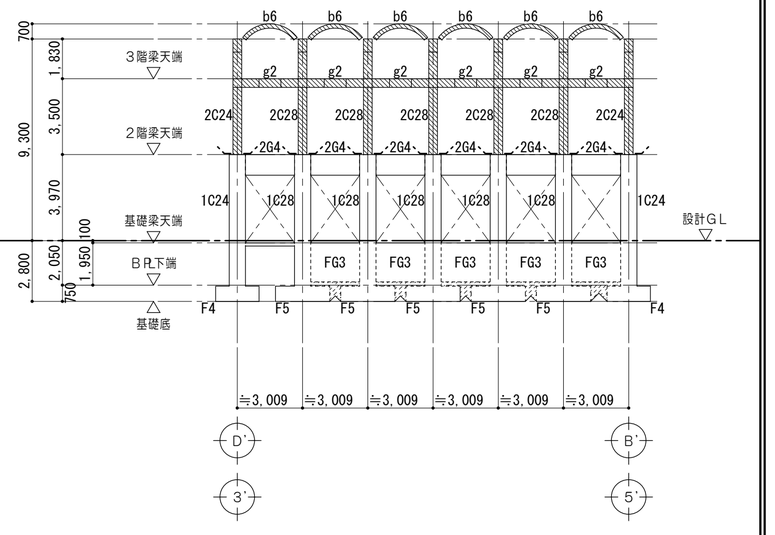
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



凡　例	
	完全スリットＷ３０
	コンクリート増打を示す
	壁コンクリートカッター切を示す
	鉄骨切断を示す
	撤去範囲を示す

プール軸組図No.１　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

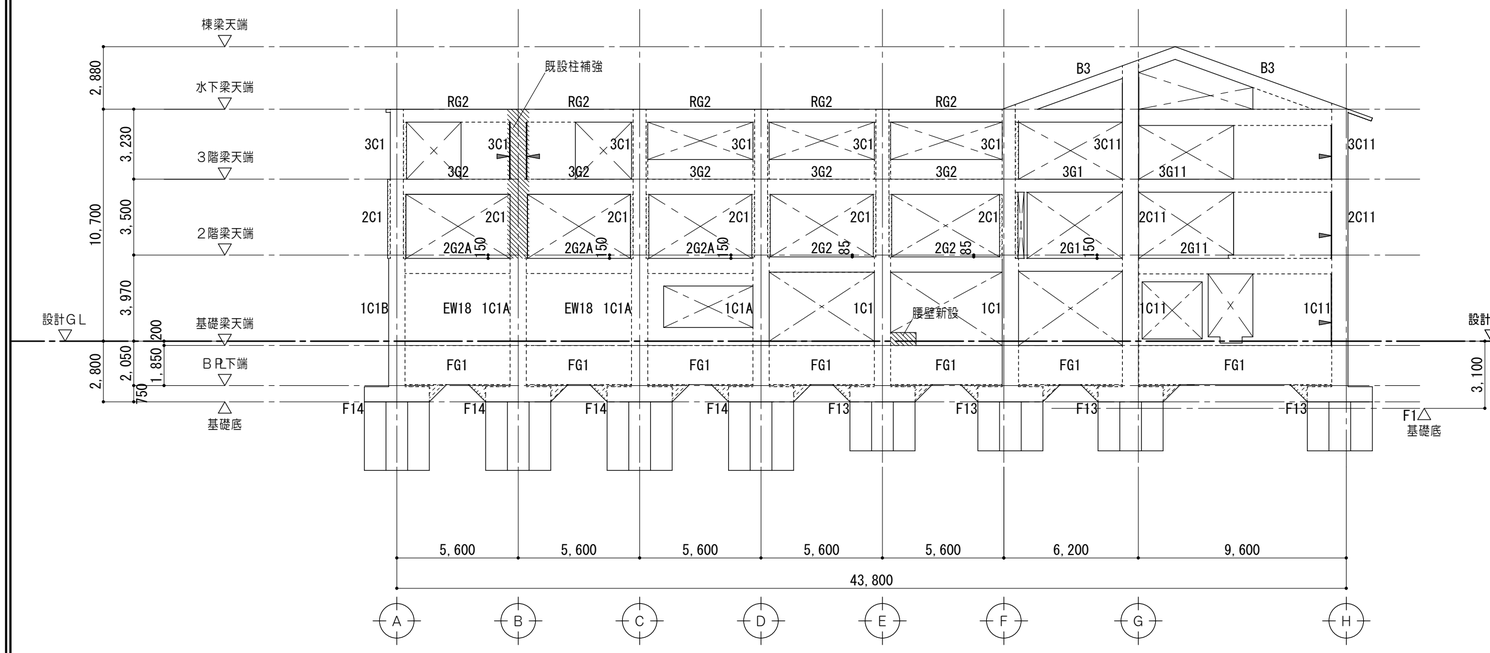


プール軸組図No.２　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

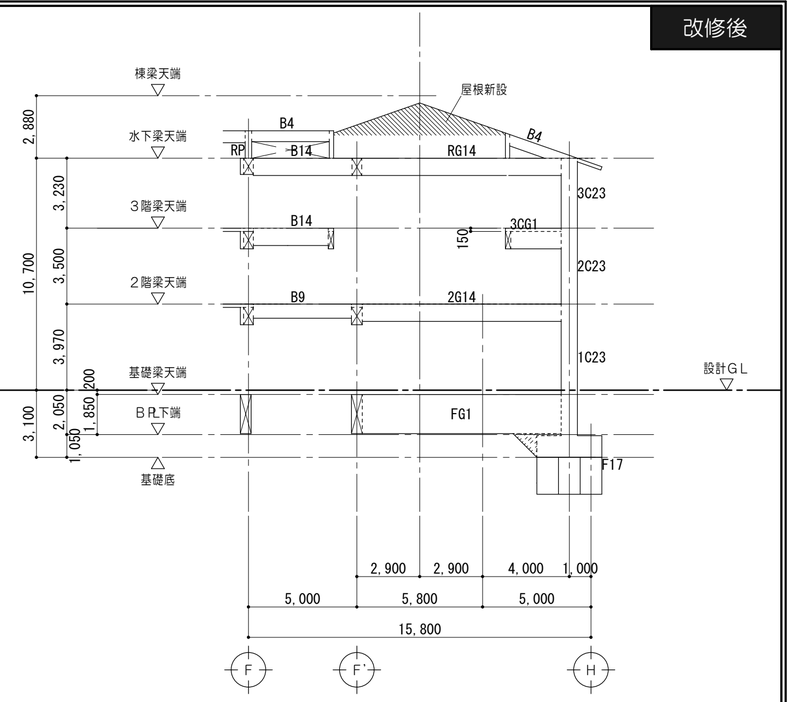
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-030
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　軸組図No.５	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修後



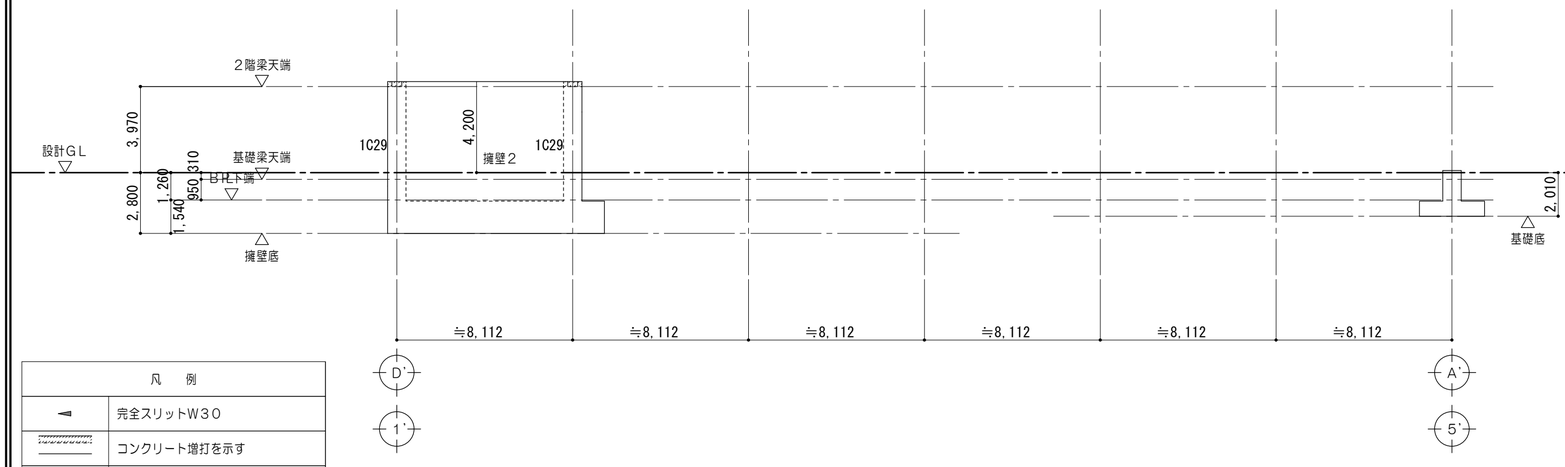
７通軸組図　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



８’通軸組図　1/200

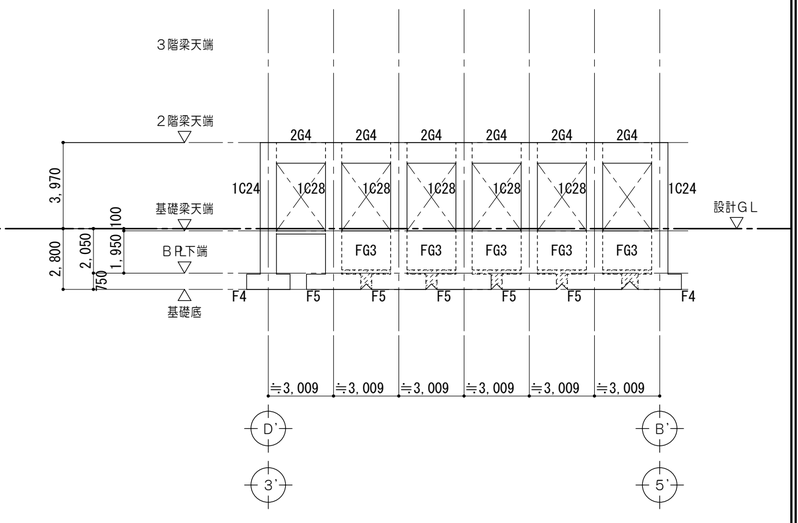
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



凡　例	
	完全スリットＷ３０
	コンクリート増打を示す
	改修範囲を示す

プール軸組図No.１　1/200

※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する



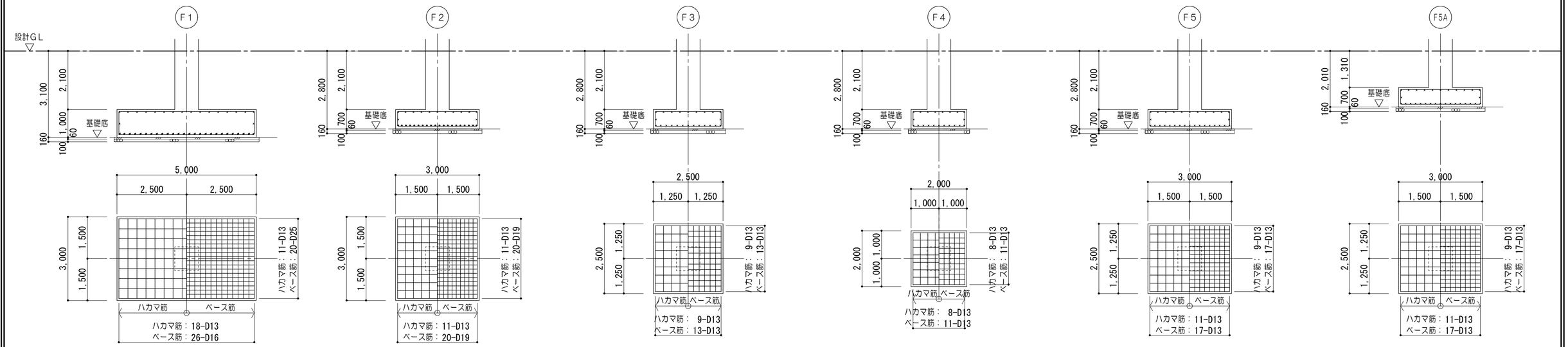
プール軸組図No.２　1/200

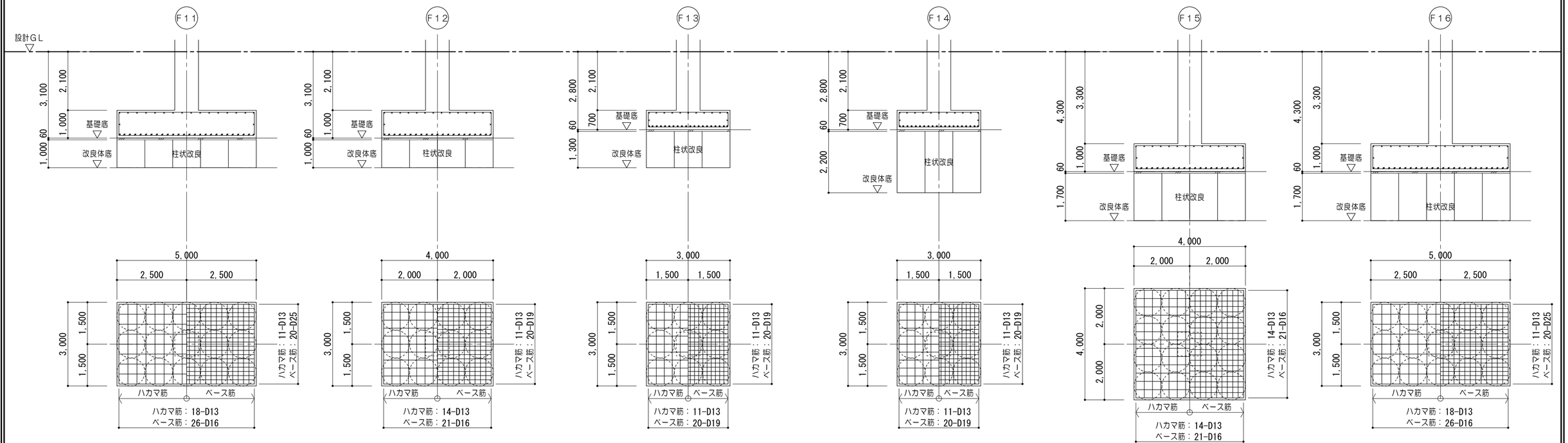
※註記：撤去の際には、躯体の断面欠損が生じないように留意する

特記事項											
		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社　前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-031
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修後　軸組図No.５	縮尺	A2：1/200 A3：1/282

改修前

基礎詳細図　1/100

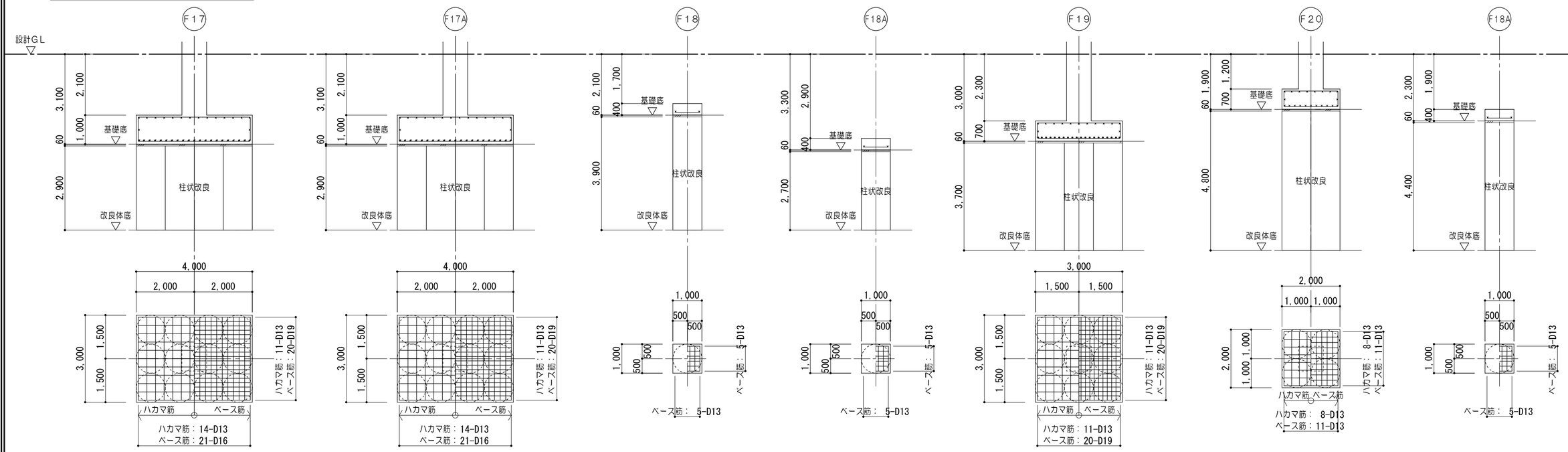




特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-032
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　基礎詳細図No.1	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

改修前

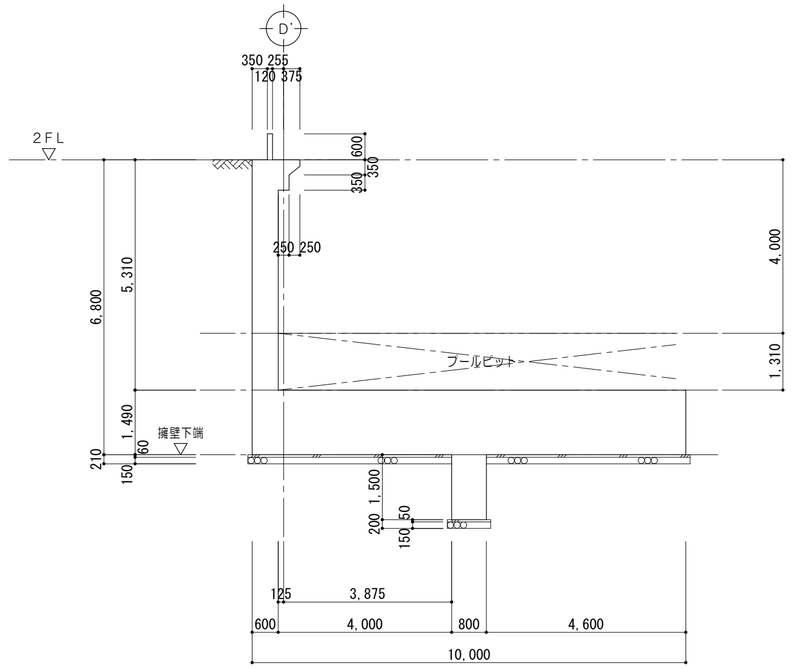
基礎詳細図　1/100



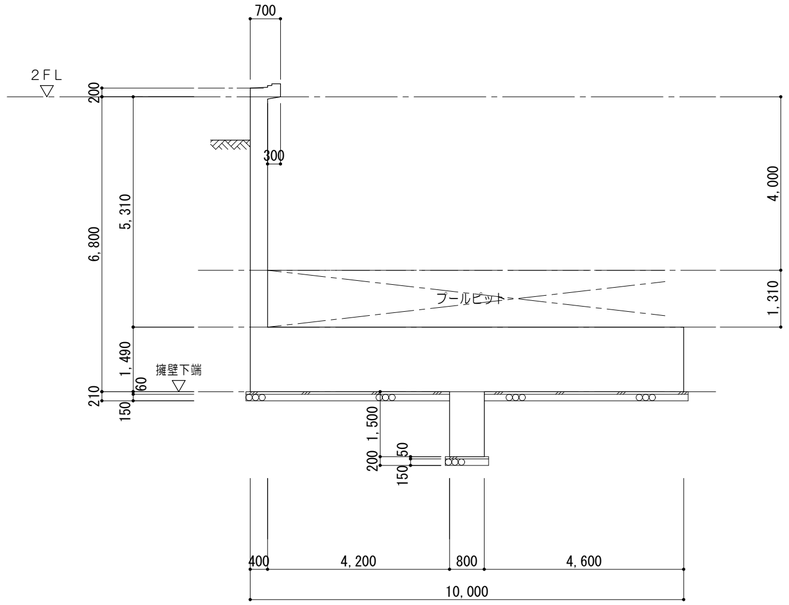
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-033
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　基礎詳細図№.2	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

改修前

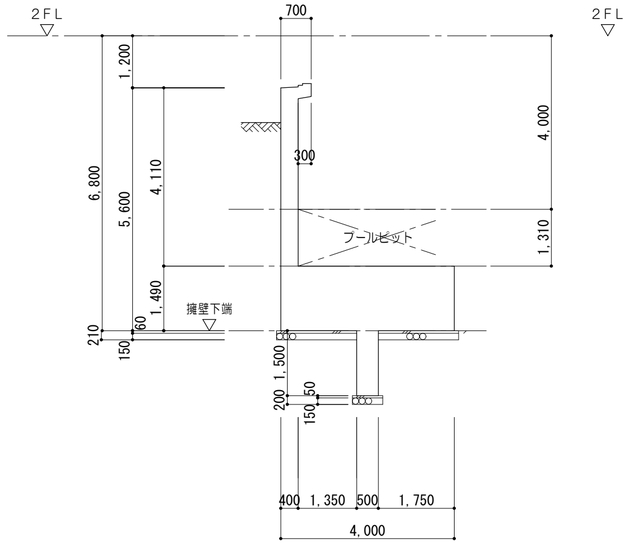
擁壁詳細図　1/100



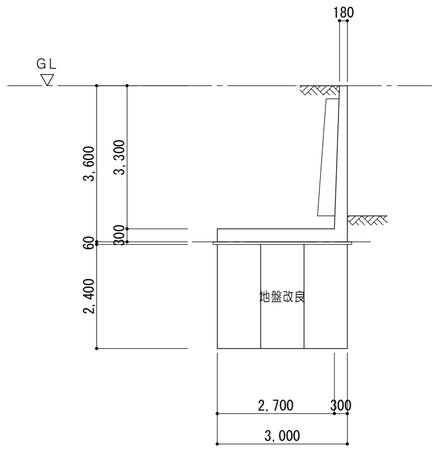
擁壁（1）



擁壁（2）



擁壁（3）



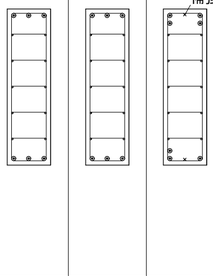
擁壁（4）

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-034
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　擁壁詳細図	縮尺	A2：1/100 A3：1/141

改修前

基礎梁リスト　1/50

※註記：特記なき場合、基礎梁天端＝設計ＧＬ－２００とする

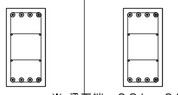
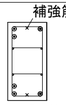
符号		FG1			FG1A			FG2	FG3	FG4			FG5	FG6	FG7		FG8		
Ｂ×Ｄ		500×1800			500×1700			600×1800	700×1800	500×1800			500×3000	500×1950	500×1950		500×1950		
位置		端部	中央	SRC柱端	端部	中央	SRC柱端	全断面	全断面	３通端	中央	４通端	全断面	全断面	両端	中央	２通端	中央	３通端
基礎梁断面図																			
主筋	上端筋	4-D25	3-D25	2-D25 2-D25	4-D25	3-D25	2-D25 2-D25	2-D25 2-D25	2-D25 2-D25	4-D25 2-D25	4-D25	4-D25	2-D25	2-D25	4-D25 1-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25 3-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	1-D25 2-D25	3-D25	3-D25	3-D25	2-D25 2-D25	2-D25 2-D25	2-D25 4-D25	4-D25	3-D25	2-D25	2-D25	4-D25	1-D25 5-D25	4-D25	5-D25	3-D25 4-D25
ＳＴＰ		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		
腹筋		10-D10			8-D10			10-D10	10-D10	10-D10			18-D10	10-D10	10-D10		10-D10		
巾止メ筋		D10@1000			D10@1000			D10@1000	D10@1000	D10@1000			D10@1000	D10@1000	D10@1000		D10@1000		

補強筋D13

※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０

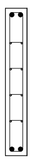
※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０

※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０

符号		FG9		FG10
Ｂ×Ｄ		450×900		750×900
位置		両端	中央	全断面
基礎梁断面図				
		※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０		※ 梁天端＝ＧＬ－３１０
主筋	上端筋	4-D25	4-D25	2-D25 1-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	1-D25 2-D25
ＳＴＰ		□-D13@200		□-D13@150
腹筋		4-D10		4-D10
巾止メ筋		D10@1000		D10@ 900

補強筋D13

基礎小梁リスト　1/50

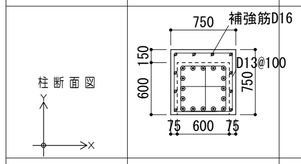
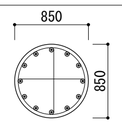
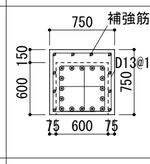
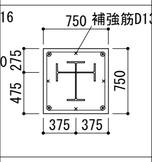
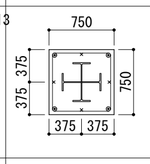
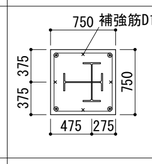
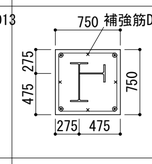
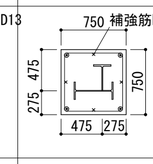
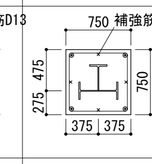
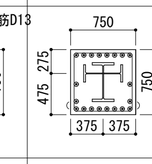
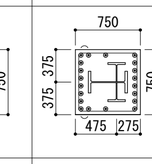
符号		FB1	FB1A	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6	FB7	
Ｂ×Ｄ		250×1800	250×3000	250×1700	250×1100	250×1950	250×900	250×1150	250×500	
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
基礎小梁断面図										
				※ 梁天端＝２ＳＬ－３００	※ 梁天端＝２ＳＬ－４００	※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０	※ 梁天端＝２ＳＬ－２５０	※ 梁天端＝２ＳＬ－３１０	※ 梁天端高さは基礎伏図による	
主筋	上端筋	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	
	下端筋	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	
ＳＴＰ		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	
腹筋		10-D10	18-D10	8-D10	4-D10	10-D10	4-D10	4-D10		
巾止メ筋		D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000		

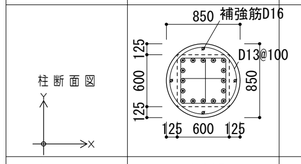
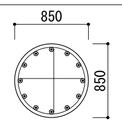
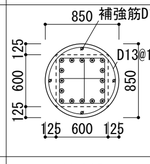
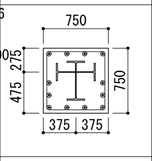
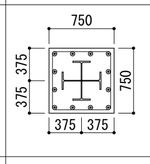
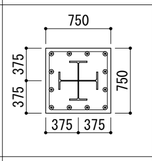
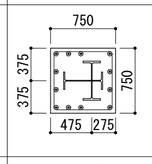
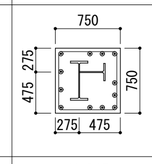
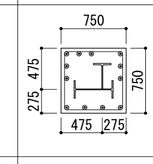
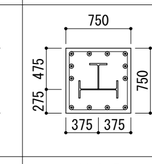
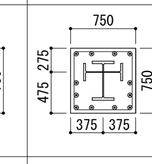
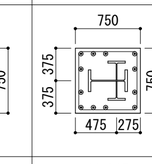
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日	図面番号	S-035
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	縮尺	A2：1/ 50 A3：1/ 71
							図面名称	改修前　基礎梁・基礎小梁リスト		

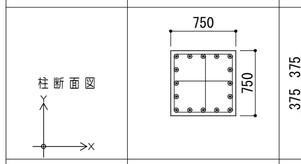
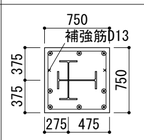
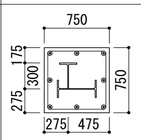
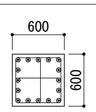
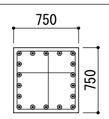
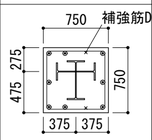
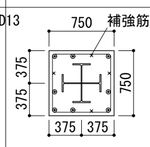
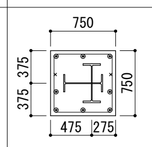
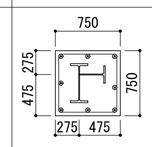
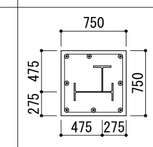
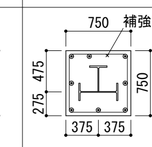
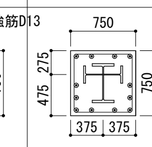
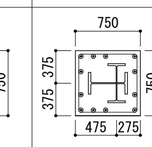
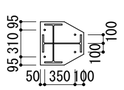
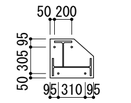
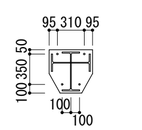
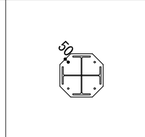
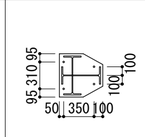
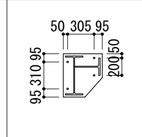
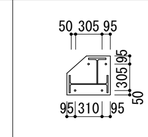
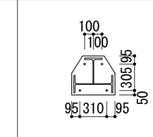
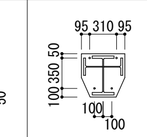
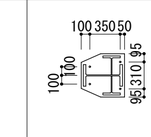
改修前

柱 リ ス ト　1/50

※註記：SRC柱鉄骨はSRL−6×50@600にて補強する

符　号	3C1			3C2		3C4	3C11	3C12		3C13	3C14	3C15	3C16	3C17	3C18
位　置	全断面			全断面		全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
B × D	650×650			φ850		650×650	750×750	750×750		650×650	650×650	650×650	650×650	750×750	750×750
柱断面図															
主　筋	16−D25			12−D25		16−D25	4−D25	4−D25		4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	18−D25	18−D25
HOOP	⊞−D13@100			⊕−D10@100		⊞−D13@100	□−D10@100	□−D10@100		□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100
X方向鉄骨							H−450×200× 9×14	H−450×200× 9×14		H−450×200× 9×14	CT−300×200×11×17	CT−300×200×11×17	H−450×200× 9×14	2CT−225×200× 9×22	SH−450×250×12×28
Y方向鉄骨							2CT−225×200× 9×14	2CT−225×200× 9×14		2CT−225×200× 9×14	H−450×200× 9×14	H−450×200× 9×14	CT−300×200×11×17	SH−450×250×12×28	2CT−225×200× 9×22

符　号	2C1			2C2		2C4	2C11	2C12	2C12A	2C13	2C14	2C15	2C16	2C17	2C18
位　置	全断面			全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
B × D	600×600			φ850		600×600	750×750	750×750	750×750	650×650	650×650	650×650	650×650	750×750	750×750
柱断面図															
主　筋	16−D25			12−D25		16−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25	12−D25
HOOP	⊞−D13@100			⊕−D10@100		⊞−D13@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100
X方向鉄骨							H−450×200× 9×14	H−450×200× 9×14	SH−450×200× 9×19	H−450×200× 9×14	CT−300×200×11×17	CT−300×200×11×17	H−450×200× 9×14	2CT−225×200× 9×22	SH−450×250×12×28
Y方向鉄骨							2CT−225×200× 9×14	2CT−225×200× 9×14	2CT−225×200× 9×14	2CT−225×200× 9×19	SH−450×200× 9×22	H−450×200× 9×14	CT−300×200×11×17	SH−450×250×12×28	2CT−225×200× 9×22

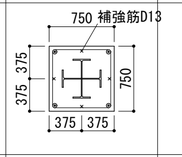
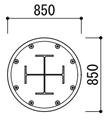
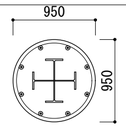
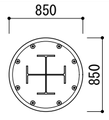
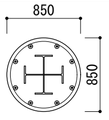
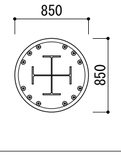
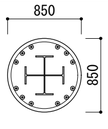
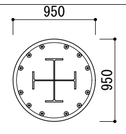
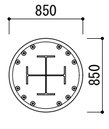
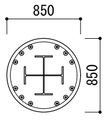
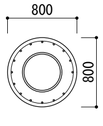
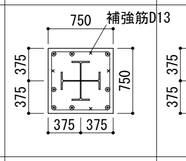
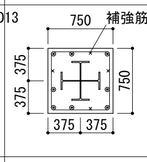
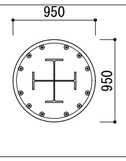
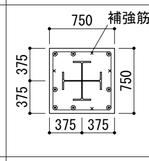
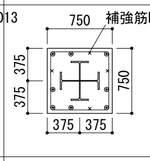
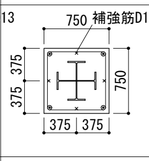
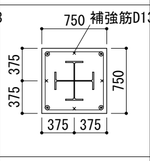
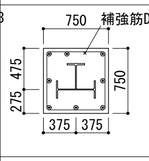
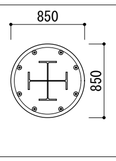
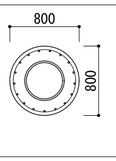
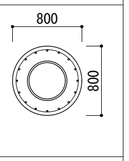
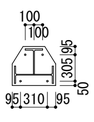
符　号	1C1	1C1A	1C1B		1C3	1C4	1C11	1C12		1C13	1C14	1C15	1C16	1C17	1C18
位　置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
B × D	750×750	650×650	750×650		600×600	750×750	750×750	750×750		650×650	650×650	650×650	650×650	750×750	750×750
柱断面図															
主　筋	16−D25	8−D25	8−D25		16−D25	18−D25	8−D25	8−D25		8−D25	8−D25	8−D25	8−D25	8−D25	8−D25
HOOP	⊞−D13@100	□−D13@100	□−D13@100		⊞−D13@100	⊞−D13@100	□−D10@100	□−D10@100		□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100	□−D10@100
X方向鉄骨		H−450×200× 9×14	H−450×200× 9×14				2CT−225×200× 9×14	H−450×200× 9×14		H−450×200× 9×14	CT−300×200×11×17	H−450×200× 9×14	H−450×200× 9×14	2CT−225×200× 9×22	SH−450×250×12×28
Y方向鉄骨		2CT−225×200× 9×14	CT−300×200×11×17				H−450×200× 9×14	2CT−225×200× 9×14		2CT−225×200× 9×19	SH−450×200× 9×22	CT−300×200×11×17	CT−300×200×11×17	SH−450×250×12×28	2CT−225×200× 9×22
柱脚															
ベースプレート		PL−500×500×25	PL−500×500×25				PL−500×500×25	PL−500×500×25		PL−500×500×25	PL−500×500×25	PL−500×500×25	PL−500×500×25	PL−500×500×25	PL−500×500×25
アンカーボルト		4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット				4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット		4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット	4−M16 L=125 Wナット

特記事項														
		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1−699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S−036
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　柱リストNo.1	縮尺	A2：1/ 50 A3：1/ 71

改修前

柱 リ ス ト　1/50

※註記：SRC柱鉄骨はSR−6×50@600にて補強する

符　号	3C19	3C20	3C21	3C22	3C23						
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面						
B × D	750×750	φ850	φ950	φ850	φ850						
柱断面図											
主　筋	4-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25						
HOOP	□-D10@100	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100						
X方向鉄骨	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	H-500×200×10×16	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14						
Y方向鉄骨	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	2CT-250×200×10×16	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14						
符　号	2C19	2C20	2C21	2C22	2C23	2C24	2C25		2C27	2C28	2C29
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面
B × D	φ850	φ850	φ950	φ850	φ850						φ800
柱断面図											
主　筋	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25						17-D10
HOOP	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100						○-D10@100
X方向鉄骨	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	H-500×200×10×16	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	□-400×400×19	□-400×400×19		○-457.2×19	○-457.2×19	○-457.2×19
Y方向鉄骨	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	2CT-250×200×10×16	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14						
符　号	1C19	1C20	1C21	1C22	1C23	1C24	1C25	1C26	1C27	1C28	1C29
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
B × D	750×750	750×750	φ950	750×750	750×750	750×750	750×750	650×650	φ850	φ800	φ800
柱断面図											
主　筋	8-D25	8-D25	12-D25	8-D25	8-D25	4-D25	4-D25	8-D25	8-D25	18-D10	17-D10
HOOP	□-D10@100	□-D10@100	○-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	○-D10@100	○-D10@100	○-D10@100
X方向鉄骨	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	H-500×200×10×16	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	H-450×200× 9×14	H-450×200× 9×14	○-457.2×19	○-457.2×19
Y方向鉄骨	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	2CT-250×200×10×16	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	H-450×200× 9×14	2CT-225×200× 9×14	CT-300×200×11×17	2CT-225×200× 9×14		
柱　脚											
ベースプレート	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-550×550×25	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-500×500×25	PL-φ500×25	PL-φ500×25
アンカーボルト	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット	4-M16 L=125 Wナット

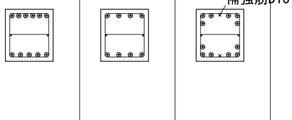
鉄 骨 継 手 リ ス ト

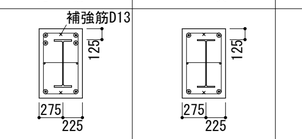
符号	部　材	継手・端部接合部			備　考
			PL (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	
C1A・C11	H-450x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	2PL-12x200x410	18-M22	
	2CT-225x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	4PL- 9x140x290	32-M22	
C18・C15	H-450x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	2PL-12x200x410	18-M22	
	CT-300x200x11x17	F	PL-16x195x530 2PL-16x 70x530	32-M22	
		W	2PL- 9x200x290	12-M22	
C12・C19・C20 C22・C23・C24 C25・C27	H-450x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	2PL- 9x140x290	32-M22	
	2CT-225x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	4PL- 9x140x290	32-M22	
C13	H-450x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	2PL-12x200x410	18-M22	
	2CT-225x200x9x19	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	
		W	4PL- 9x140x290	32-M22	
C14	H-450x200x9x22	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	
		W	2PL-12x200x410	18-M22	
	CT-300x200x11x17	F	PL-16x195x530 2PL-16x 70x530	32-M22	
		W	4PL- 9x200x290	12-M22	
C16・C26	H-450x200x9x14	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	
		W	2PL-12x140x290	32-M22	
	CT-300x200x11x17	F	PL-16x195x530 2PL-16x 70x530	32-M22	
		W	2PL- 9x200x290	12-M22	
C17・C18	H-450x200x12x28	F	2PL-19x195x530 4PL-19x 95x530	48-M22	
		W	2PL-12x200x410	18-M22	
	2CT-225x200x9x22	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	
		W	4PL- 9x140x290	16-M22	
C21	H-500x200x10x16	F	2PL-12x195x530 4PL-12x 70x530	32-M22	
		W	4PL- 9x140x410	48-M22	
	2CT-250x200x10x16	F	2PL-12x195x530 4PL-12x 70x530	32-M22	
		W	4PL- 9x140x410	48-M22	
C28・C29	○-457.2×19		現場溶接		

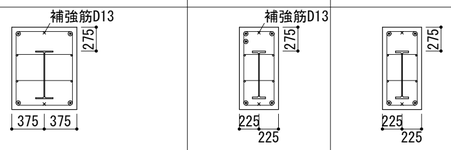
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-037
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　柱リストNo.2	縮尺	A2：1/ 50 A3：1/ 71

改修前

梁リストNo.1　1/50

符号		2G1			2G1A	2G1B	2G2		2G2A	2G3		2G4	2G11	
B × D		550×600			450×800	500×800	450×700		500×700	750×600	500×600	750×950	450×800	
位置		F通・7通端	中央	G通・8通端	全断面	全断面	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	両端	中央
大梁断面図														
主筋	上端筋	6-D25	4-D25	4-D25 2-D25	2-D25	2-D25	5-D25 1-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25 2-D25	2-D25 2-D25	2-D25
	下端筋	5-D25	4-D25	2-D25 4-D25	2-D25	2-D25	4-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	3-D25 4-D25	2-D25	2-D25
STP		□-D13@100			□-D10@250	□-D10@250	□-D13@100		□-D10@250	□-D13@100		□□-D13@100	□-D10@250	
腹筋		2-D10			2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		4-D10	2-D10	
巾止メ筋		D10@1000			D10@1000	D10@1000	D10@1000		D10@1000	D10@1000		D10@1000	D10@1000	
鉄骨					SH-550×200×9×12	SH-550×200×9×12			H-400×200×8×13				SH-550×200×9×19	SH-550×200×9×12

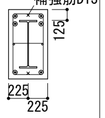
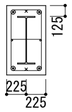
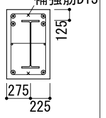
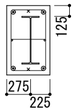
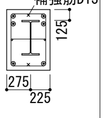
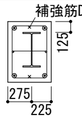
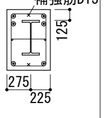
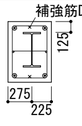
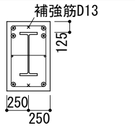
符号		2G11A		2G11B	2G12		2G12A	2G13		2G14		2G15		2G15A	
B × D		500×800		600×700	500×700		500×700	500×800		450×800		750×800	450×800	750×800	450×800
位置		両端	中央	全断面	全断面		全断面	両端	中央	H通・9通端	中央・他端	5'通端	中央・他端	5'通端	中央・他端
大梁断面図											※8'通端、F'通端 ピン接合 GR-12 2SR-12 6-M22				
主筋	上端筋	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 1-D25	2-D25 1-D25	2-D25 1-D25	2-D25 1-D25
	下端筋	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25
STP		□-D10@250		□-D10@200	□-D10@250		□-D10@250	□-D10@250		□-D10@250		□-D10@150		□-D10@150	
腹筋		2-D10		2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	
巾止メ筋		D10@1000		D10@1000	D10@1000		D10@1000	D10@1000		D10@1000		D10@900		D10@900	
鉄骨		SH-550×200×9×19	SH-550×200×9×12	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13		SH-400×200×9×22	SH-550×250×12×22		SH-500×250×12×25	SH-500×250×12×19	SH-550×200×9×12		SH-550×200×9×12	

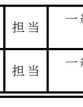
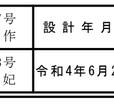
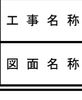
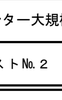
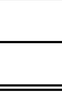
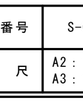
符号		2G16		2G17		2G18		2CG1	2CG2	2CG11			
B × D		750×950		450×950		750×950	450×950	500×700	400×700	500×800			
位置		全断面		両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	全断面			
大梁断面図													
主筋	上端筋	2-D25 1-D25		2-D25 1-D25	2-D25	2-D25 1-D25	2-D25	2-D25 1-D25	3-D25	2-D25 2-D25			
	下端筋	2-D25		2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25			
STP		□-D10@150		□-D10@250		□-D10@150		□-D13@200	□-D13@200	□-D10@250			
腹筋		4-D10		4-D10		4-D10		2-D10	2-D10	2-D10			
巾止メ筋		D10@900		D10@1000		D10@900		D10@1000	D10@1000	D10@1000			
鉄骨		SH-550×200×9×12		SH-550×150×9×19		SH-550×200×9×12				SH-500×250×12×25			

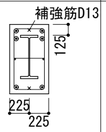
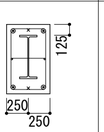
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号　S-038
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　大梁リストNo.1	縮尺　A2：1/ 50 A3：1/ 71

改修前

梁リストNo.２　1/50

符号		3G1			3G2		3G11		3G11A		3G12		3G12A		3CG2	3CG11
B × D		550×600		650×600	450×700		450×800		500×800		500×700		500×700		400×700	500×800
位置		F通・7通端	中央	G通・8通端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面		全断面		全断面	全断面
大梁断面図																
主筋	上端筋	6-D25 1-D25	4-D25	6-D25 2-D25	5-D25 1-D25	4-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25	3-D25	2-D25 2-D25
	下端筋	5-D25	4-D25	2-D25 6-D25	4-D25	4-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25
S T P		□-D13@100			□-D13@100		□-D10@250		□-D10@250		□-D10@250		□-D10@250		□-D13@200	□-D10@250
腹筋		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10
巾止メ筋		D10@1000			D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000	D10@1000
鉄骨							SH-550×200×9×16	SH-550×200×9×12	SH-550×200×9×16	SH-550×200×9×12	SH-400×200×9×16	H-400×200×8×13	SH-400×200×9×22	SH-400×200×9×16		SH-500×250×12×25

符号		RG1			RG1A	RG2		RG11	RG11A	RG12		RG12A	RG13	
B × D		550×600			450×750	500×600		450×750	500×750	500×600		450×750	500×750	
位置		F通・7通端	中央	G通・8通端	全断面	両端	中央	全断面	全断面	全断面		全断面	8通・9通・H通端	中央・F'通端
大梁断面図								 ※B通 8通端 ピン接合 GR-12 2SR-9 5-M22						 ※F'通端 ピン接合 GR-12 2SR-9 5-M22
主筋	上端筋	5-D25	3-D25	2-D25 2-D25	4-D25	4-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25 1-D25	2-D25	2-D25	2-D25 2-D25	2-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	1-D25 2-D25	4-D25	3-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25
S T P		□-D13@200			□-D13@200	□-D13@100		□-D10@250	□-D10@250	□-D10@250		□-D10@250	□-D10@250	
腹筋		2-D10			2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	
巾止メ筋		D10@1000			D10@1000	D10@1000		D10@1000	D10@1000	D10@1000		D10@1000	D10@1000	
鉄骨								H-500×200×10×16	H-500×200×10×16	H-294×200×8×12		H-500×200×10×16	SH-500×250×12×28	SH-500×250×12×22

符号		RG14	
B × D		450×800	
位置		H通・9通端	中央・他端
大梁断面図			 ※8'通端、F'通端 ピン接合 GR-12 2SR-12 5-M22
主筋	上端筋	2-D25 2-D25	2-D25
	下端筋	2-D25	2-D25
S T P		□-D10@250	
腹筋		2-D10	
巾止メ筋		D10@1000	
鉄骨		SH-500×250×12×25	SH-500×250×12×19

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-039
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前　大梁リストNo.２	縮尺	A2：1/ 50 A3：1/ 71

改修前

小梁リスト 1/50

符号		B1			B2		B3		B4	B5	B6			B7		B8		B9		B10		
B × D		300×550			300×550		300×550		300×500	300×600	300×600			300×600		300×600		350×600		350×600		
位置		外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	外端	中央	内端
大梁断面図																						
主筋	上端筋	3-D19	2-D19	4-D19	3-D19	2-D19	4-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19 2-D19	4-D19 1-D19	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22 1-D22
	下端筋	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19	2-D19	4-D19	1-D19 4-D19	4-D19	4-D19	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	1-D22 4-D22	3-D22	3-D22	3-D22
STP		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200		□-D13@100		□-D10@200		□-D10@150		
腹筋										2-D10	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		
巾止メ筋										D10@1000	D10@1000			D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		

符号		B11		B12	B12A	B12B	B13	B14	B15		WB1	WB2	
B × D		400×700		250×800	250×650	250×1300	500×750	400×800	550×400	550×1000	180×※(≧450)	200×※(≧450)	
位置		両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面	
大梁断面図											※	※	
主筋	上端筋	4-D22	4-D22	3-D19	3-D19	3-D19	4-D25	5-D22	4-D19	4-D19	2-D16	2-D16	
	下端筋	4-D22	2-D22 5-D22	3-D19	3-D19	3-D19	4-D25	5-D22	4-D19	7-D19	2-D16	2-D16	
STP		□-D10@150		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D10@150	□-D10@150	
腹筋		2-D10		2-D10	2-D10	6-D10	2-D10	2-D10	4-D10		D10@150	D10@150	
巾止メ筋		D10@1000		D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000		D10@ 900	D10@ 900	

スラブリスト

符号	版厚	位置	主筋（短辺方向） 端部	主筋（短辺方向） 中央	配力筋（長辺方向） 端部	配力筋（長辺方向） 中央	備考
S1	200	上筋	D13 @100		D13 @100		
		下筋	D13 @100		D13 @100		
S2	200	上筋	D13 @100		D10D13交互 @150		
		下筋	D13 @100		D10D13交互 @150		
S3	200	上筋	D10D13交互 @200		D10D13交互 @200		
		下筋	D10D13交互 @200		D10D13交互 @200		
S4	150	上筋	D10D13交互 @200		D10 @200		
		下筋	D10D13交互 @200		D10 @200		
S5	150	上筋	D10D13交互 @200		D10 @200		
		下筋	D10 @200		D10 @200		
S6	150	上筋	D10D13交互 @200		D10D13交互 @200		
		下筋	D10D13交互 @200		D10D13交互 @200		
S7	150	上筋	D13 @150		D13 @150		
		下筋	D13 @150		D13 @150		
CS1	200	上筋	D13 @100		D13 @100		
		下筋	D13 @100		D13 @100		
CS2	180	上筋	D13 @100		D10 @200		
		下筋	D13 @100		D10 @200		
CS3	150	上筋	D10D13交互 @100		D10 @200		
		下筋	D10 @100		D10 @200		
CS4	150	上筋	D13 @150		D13 @150		
		下筋	D13 @150		D13 @150		
FS1	200	上筋	D13 @200		D13 @200		
		下筋	D13 @200		D13 @200		

壁リスト 1/50

符号		EW20	EW18	W20	W20A	W18	W15
壁厚		200	180	200	200	180	150
断面							
タテ筋		D10 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 W	D13 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 ﾁﾄﾞﾘ
ヨコ筋		D10 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 W	D10 @150 ﾁﾄﾞﾘ
巾止メ筋		D10 @ 900	D10 @ 900	D10 @ 900	D10 @ 900	D10 @ 900	D10 @1000
開口補強	タテ筋	4-D22	4-D22	2-D16	2-D16	2-D16	2-D13
	ヨコ筋	4-D22	4-D22	2-D16	2-D16	2-D16	2-D13
	斜筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13

符号		W12	W10	KW20	KW18	DW25	
壁厚		120	100	200	180	250	
断面							
タテ筋		D10 @200 S	D10 @200 S	D13 @150 W	D13 @150 W	D13 @150(内側) D16 @150(外側)	
ヨコ筋		D10 @200 S	D10 @200 S	D10 @150 W	D10 @150 W	D13 @200(内側) D16 @200(外側)	
巾止メ筋				D10 @ 900	D10 @ 900	D10 @1000	
開口補強	タテ筋	1-D13	1-D13	2-D16	2-D16	2-D19	
	ヨコ筋	1-D13	1-D13	2-D16	2-D16	2-D19	
	斜筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	

特記事項

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

担当 一級建築士 第117489号 前野 初像
担当 一級建築士 第307846号 三橋五百子
担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作
担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃

設計年月日 令和4年6月24日

工事名称 阿児健康福祉センター大規模改修工事

図面名称 改修前 小梁・スラブ・壁リスト

図面番号 S-040

縮尺 A2：1/ 50

改修前

SRC梁継手リスト

部材	継手・端部接合部	PL（厚×幅、高さ×長さ）	HTB	TYPE	Pc	備考
SH-550x200x12x25	F	2PL-19x195x650 4PL-19x 70x650	40-M22	C	60	
	W	2PL-12x380x170	12-M22			
SH-550x200x12x19	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	C	60	
	W	2PL- 9x380x170	12-M22			
SH-550x200x9x12	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	C	90	
	W	2PL- 6x440x170	10-M22			
SH-550x250x12x22	F	2PL-16x245x650 4PL-16x 95x650	40-M22	C	60	
	W	2PL-12x320x170	10-M22			
SH-500x200x12x19	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	C	60	
	W	2PL-12x320x170	10-M22			
SH-550x150x9x19	F	2PL-16x145x530 4PL-16x 55x530	32-M20	C	90	
	W	2PL- 6x440x170	10-M20			
SH-400x200x9x22	F	2PL-16x195x530 4PL-16x 70x530	32-M22	C	90	
	W	2PL- 9x260x170	6-M22			
SH-400x200x9x16	F	2PL-12x195x410 4PL-12x 70x410	24-M22	C	90	
	W	2PL- 9x260x170	6-M22			
H-500x200x10x16	F	2PL-12x195x530 4PL-16x 70x530	32-M20	C	60	
	W	2PL- 9x320x170	10-M20			
H-400x200x8x13	F	2PL- 9x195x410 4PL-12x 70x410	24-M20	C	60	
	W	2PL- 9x260x170	8-M20			
H-294x200x8x12	F	2PL- 9x195x410 4PL- 9x 70x410	24-M20	C	60	
	W	2PL- 6x200x170	6-M20			
SH-550x250x12x22	F	2PL-16x245x650 4PL-16x 95x650	40-M22	C	60	
	W	2PL-12x380x170	12-M22			

鉄 骨 大 梁 リ ス ト

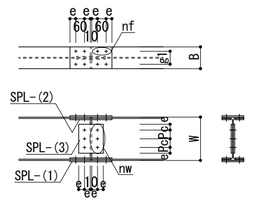
符号	部材	継手・端部接合部	PL（厚×幅、高さ×長さ）	HTB	TYPE	Pc	備考
g1	H-588x300x12x20	F	2PL-16x295x440 4PL-16x105x440	32-M22	E	90	
		W	2PL- 9x440x170	10-M22			
g2	H-400x200x8x13	F	2PL- 9x195x410 4PL-12x 70x410	24-M20	C	90	
		W	2PL- 9x260x170	6-M20			
g3	H-350x175x7x11	F	2PL- 9x170x290 4PL- 9x 65x290	16-M20	C	120	
		W	2PL- 9x200x170	4-M20			
g4	H-294x200x8x12	F	2PL- 9x195x410 4PL- 9x 70x410	24-M20	C	120	
		W	2PL- 6x200x170	4-M20			

鉄骨小梁・雑リスト

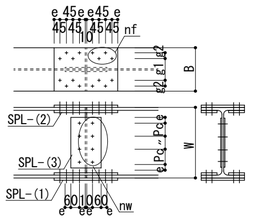
符号	部材	継手・端部接合部	PL（厚×幅、高さ×長さ）	HTB	TYPE	Pc	備考
b1	H-390x300x10x16	W	GPL-12	4-M20	G	60	
b2	H-400x200x8x13	W	GPL- 9	4-M20	G	60	
b3	H-350x175x7x11	W	GPL- 9	3-M20	G	60	
b4	H-300x150x6.5x9	W	GPL- 9	2-M20	G	60	
b5	H-250x125x6x9	W	GPL- 9	2-M20	G	60	
b6	H-200x100x5.5x8	W	GPL- 9	2-M16	G	60	
b7	H-148x100x6x9	W	GPL- 9	2-M16	H	60	
b8	H-294x200x8x12	W	GPL- 9	3-M20	G	60	端部
		F	2PL- 9x195x410 4PL- 9x 70x410	24-M20	E	120	中間継手
		W	2PL- 6x200x170	4-M20			
cg1	H-200x100x5.5x8		基端溶接				
cg2	H-148x100x6x9		基端溶接				
cg3	H-250x125x6x9		基端溶接				
cg4	H-294x200x8x12		基端溶接				端部
		F	2PL- 9x195x410 4PL- 9x 70x410	24-M20	E	120	中間継手
		W	2PL- 6x200x170	4-M20			
t	○-89.1x3.2	W	GPL- 6	2-M16	G	60	
Hb1	H-250x125x6x9	W	GPL- 9	2-M20	G	60	横使い
Hb2	H-450x200x9x14	W	GPL- 9	4-M20	G	60	横使い
V1	○-89.1x3.2	W	GPL- 6	2-M16	G	60	
V2	1-M16	W	GPL- 6	1-M20	G	60	ターンバックル付
V3	1-M13	W	GPL- 6	1-M20	G	60	ターンバックル付
母屋	□-75x75x2.3						@450
P1	H-300x150x6.5x9		BPL-12x350x250	2-M16 L=500			柱脚 アンカーボルト Wナット
			GPL- 9	3-M20			その他
P2	H-194x150x6x9		BPL-12x250x250	2-M16 L=500			柱脚 アンカーボルト Wナット
			2PL- 9x260x170	6-M20			その他
P3	○-216.3x8		BPL-19x400x400	4-M20 L=600			柱脚 アンカーボルト Wナット
			2PL- 9x200x170	4-M20			その他
P4	H-450x200x9x14		BPL-12x500x300	2-M20 L=600			柱脚 アンカーボルト Wナット
			2PL- 6x200x170	4-M20			その他
CP1	□-250x250x6		基端溶接				

継手・端部接合部詳細図　1/30

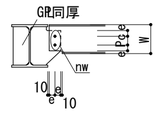
TYPE-C



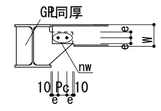
TYPE-E



TYPE-G



TYPE-H



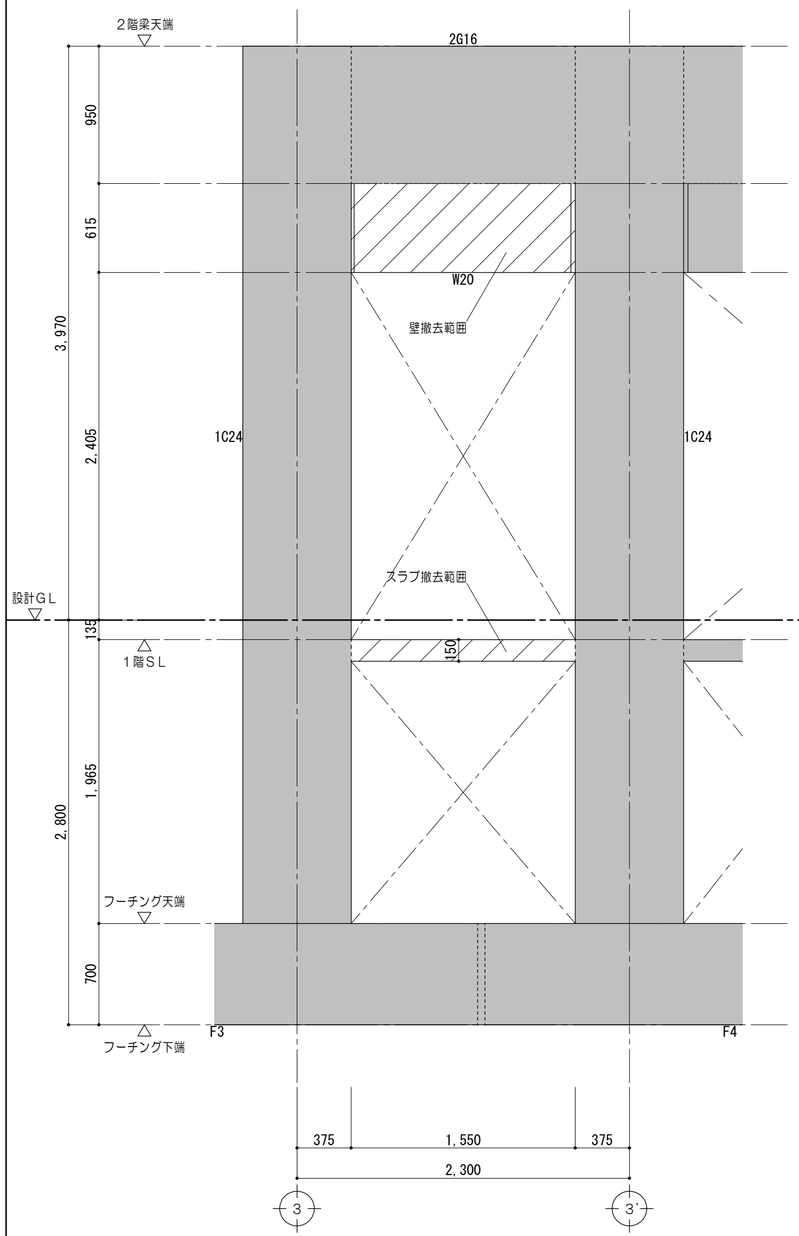
ボルトピッチ（各TYPE共通）

B	e	g1	g2	B	e	g1	g2
150ｼﾘｰｽﾞ	40	90		200ｼﾘｰｽﾞ	40	120	
175ｼﾘｰｽﾞ	40	105		300ｼﾘｰｽﾞ	40	150	40

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-041
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	改修前 鉄骨部材リスト	縮尺	A2：1/ 30 A3：1/ 42

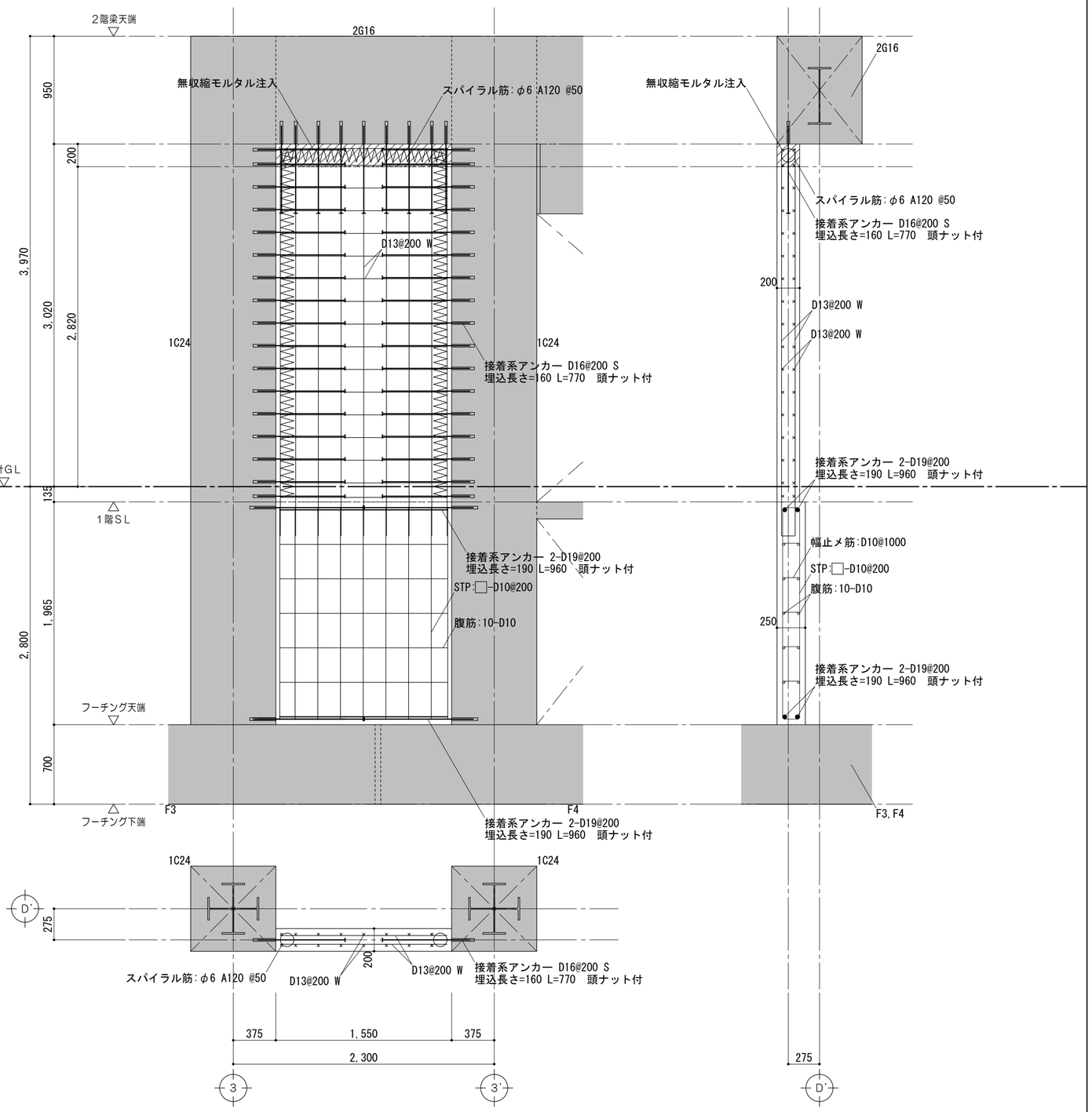
註記：補強部材接合箇所は目荒らしを行う（壁撤去箇所を除く）

改修前



改修後

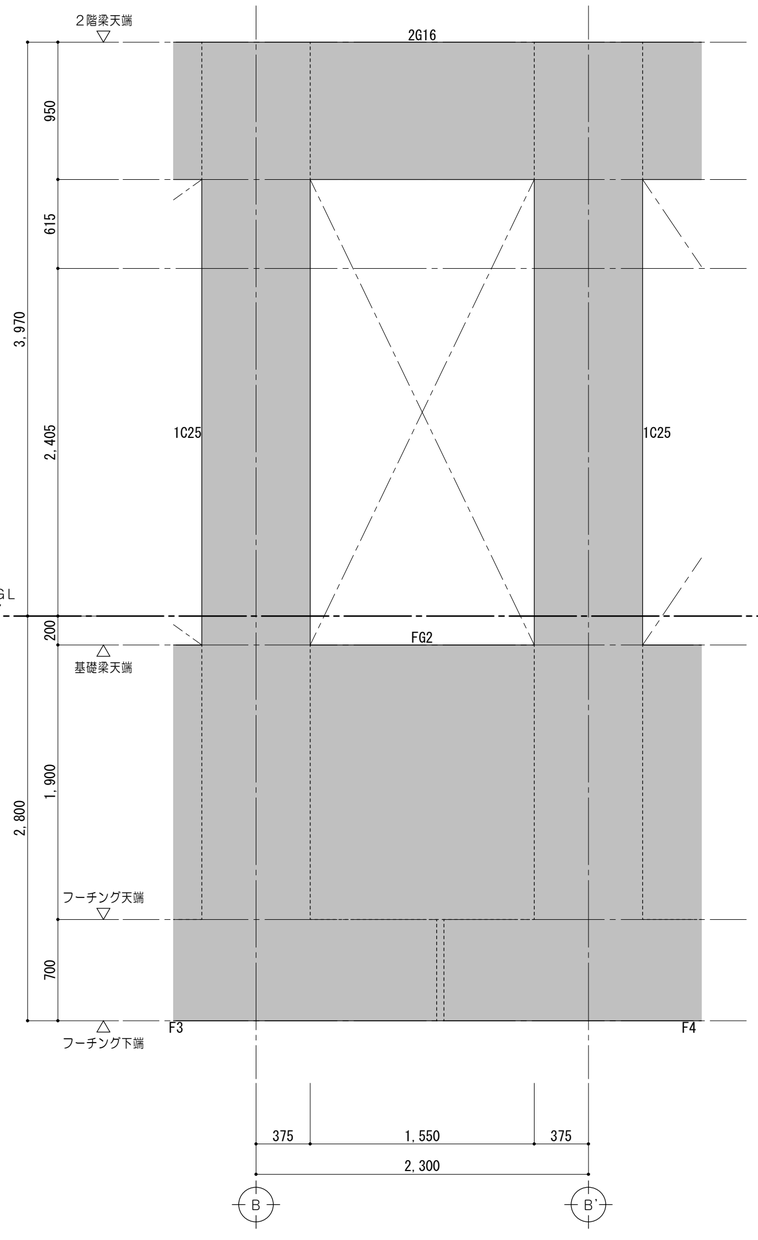
許容引張耐力　D16：46kN
D19：67kN



特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-042
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	各部詳細図No.1	縮尺	A2：1/30 A3：1/42

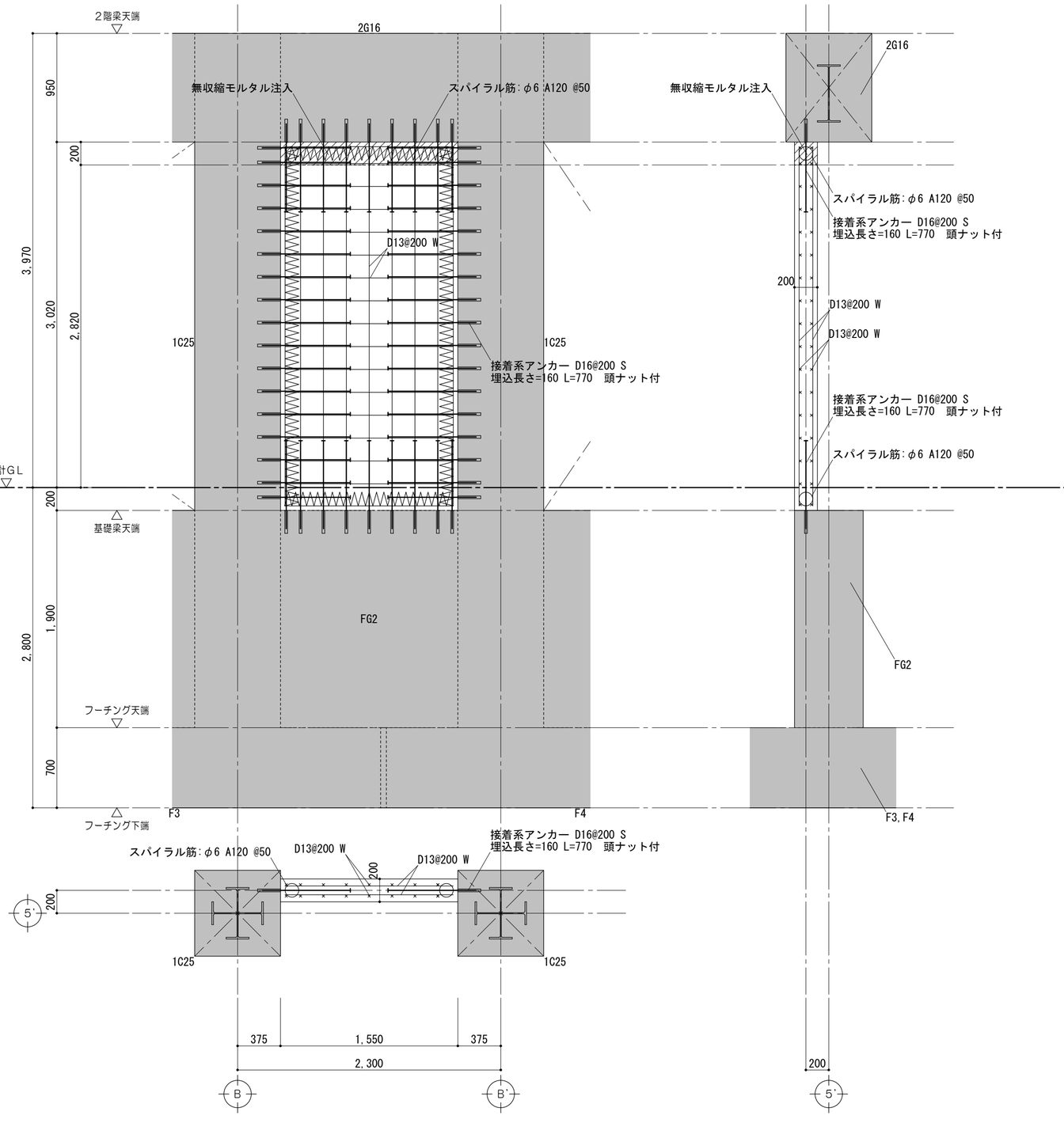
註記：補強部材接合箇所は目荒らしを行う（壁撤去箇所を除く）

改修前



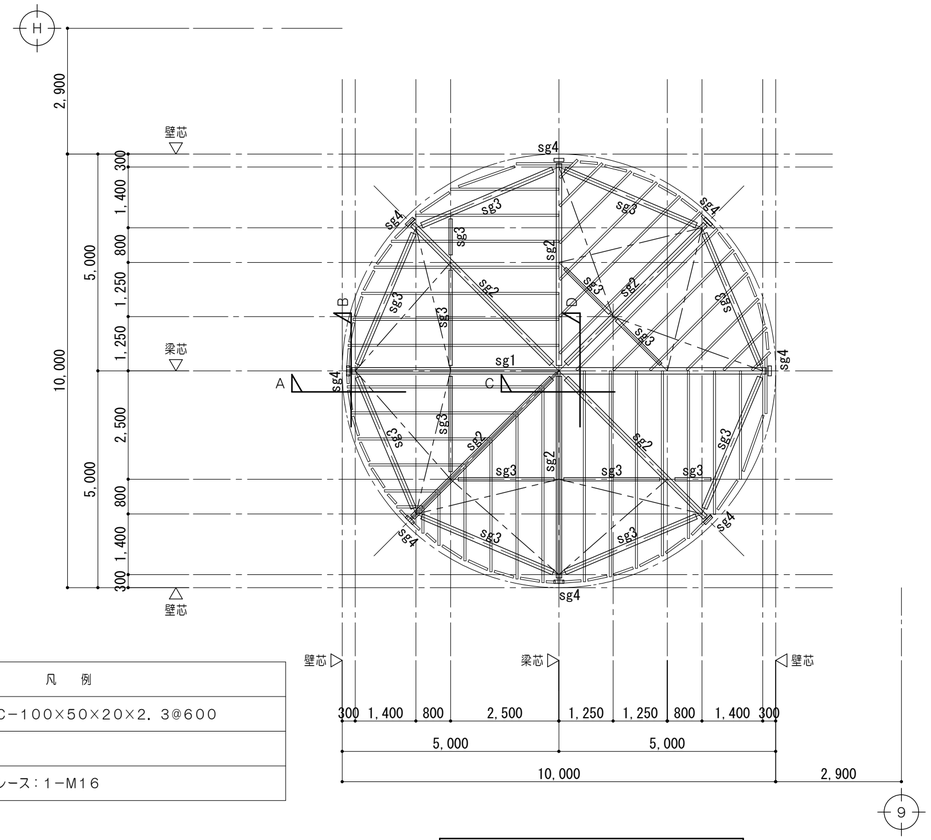
改修後

許容引張耐力 D16：46kN



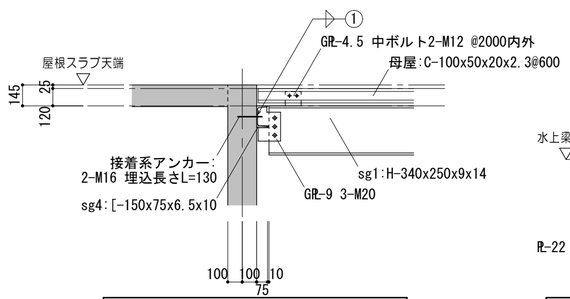
特記事項		一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	担当	一級建築士 第117489号 前野 初像	担当	一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-043
			担当	一級建築士 第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士 第378328号 加藤 早妃	令和4年6月24日	図面名称	各部詳細図No.2	縮尺	A2：1/30 A3：1/42

許容引張耐力　M16：36kN

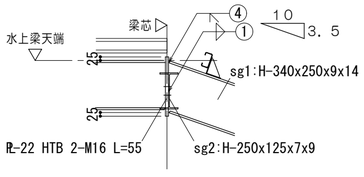


凡　例	
═══	母屋：C－100×50×20×2．3@600
― － ―	水平ブレース：1－M16

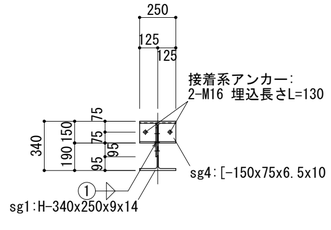
新設屋根鉄骨伏図　1/100



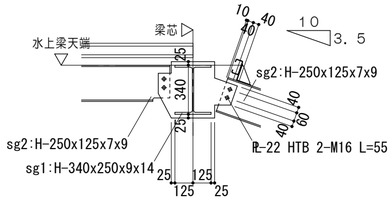
A 断面詳細図　1/30



C 断面詳細図　1/30



B 断面詳細図　1/30



D 断面詳細図　1/30

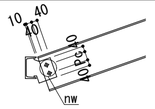
小梁・雑部材リスト

使用材料　型鋼・鋼板：ＳＳ４００　軽量型鋼：ＳＳＣ４００
ＨＴＢ：Ｓ１０Ｔ　中ボルト：強度区分４．６

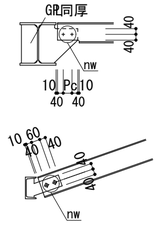
符　号	部　材	接合部 RL（厚×幅×長さ）	接合部 HTB	接合部 TYPE	接合部 Pc	備　考
sg1	H-340x250x9x14	GR-9	3-M20 L=50	G	60	頂部は詳細図による
sg2	H-250x125x6x 9	GR-6	2-M16 L=40	H	60	
sg3	H-150x 75x5x 7	GR-6	2-M16 L=40	H	60	
sg4	[-150x 75x6.5x10		2-M16 L=130			接合部：接着系アンカー SS400
母屋1	C-100x50x20x2.3	GR- 4.5,RR-4.5	2-M12 L=40		50	接合部：中ボルト
水平ブレース	1-M16	GR- 9	1-M16 L=45			ＪＩＳ型

梁継手リスト　1/30

TYPE－G



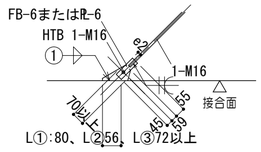
TYPE－H



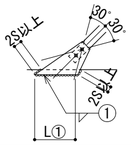
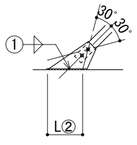
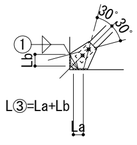
ブレース接合部詳細図　1/30

1-M16

FB-6の場合：e2=25
RL-6の場合：e2=28



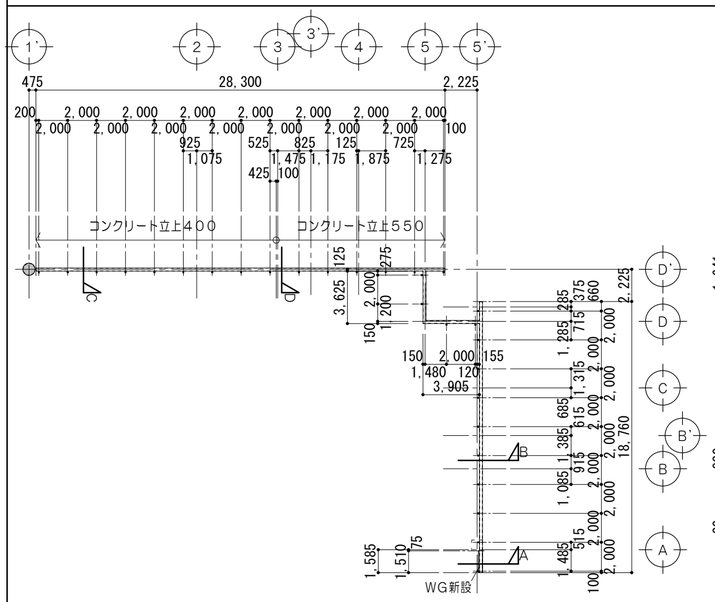
ガセットプレートの種類

L①	L②	L③
		

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	令和4年6月24日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-044
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	図面名称	各部詳細図No.3	縮尺	A2：1/30.100 A3：1/42.141

手すり新設詳細図

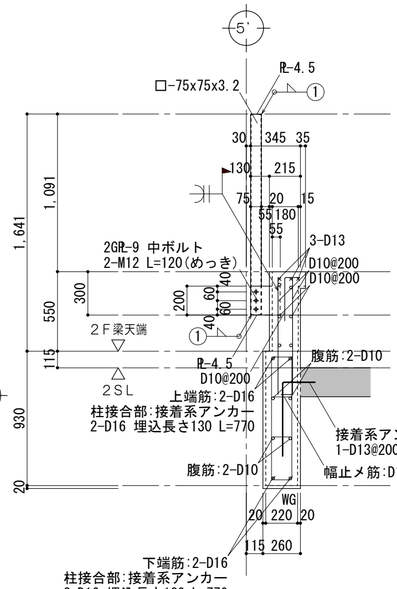
1/300.1/30



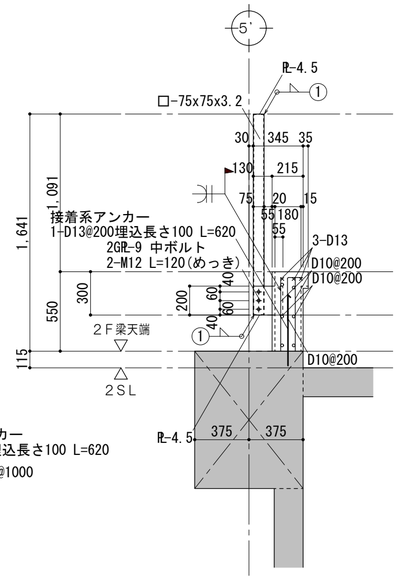
手すり伏図　1/300

※注記：GPLの取付精度が求められるため、コンクリート打設時に仮止め等を行うこと
仮止め材例　主材　：ロ－７５×７５×２．３
ツナギ材：Ｌ－３０×３０×３
※注記：鉄骨材はすべて溶融亜鉛めっき、ボルトは溶融亜鉛めっき中ボルトとする

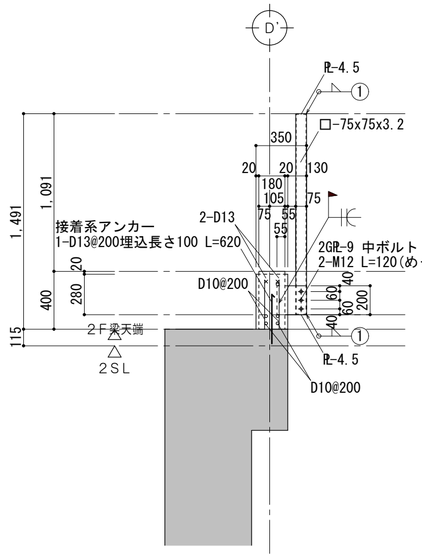
許容引張耐力　D13：29kN



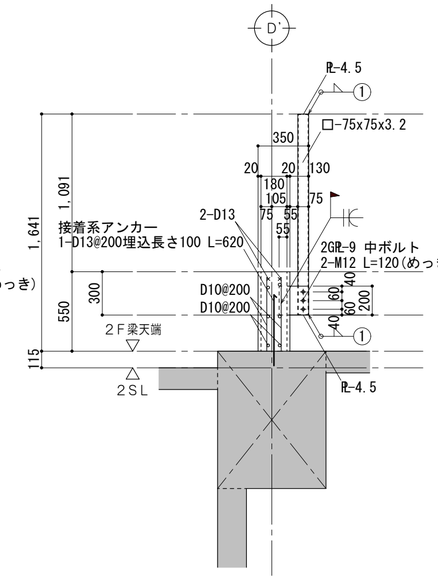
A断面図



B断面図



C断面図

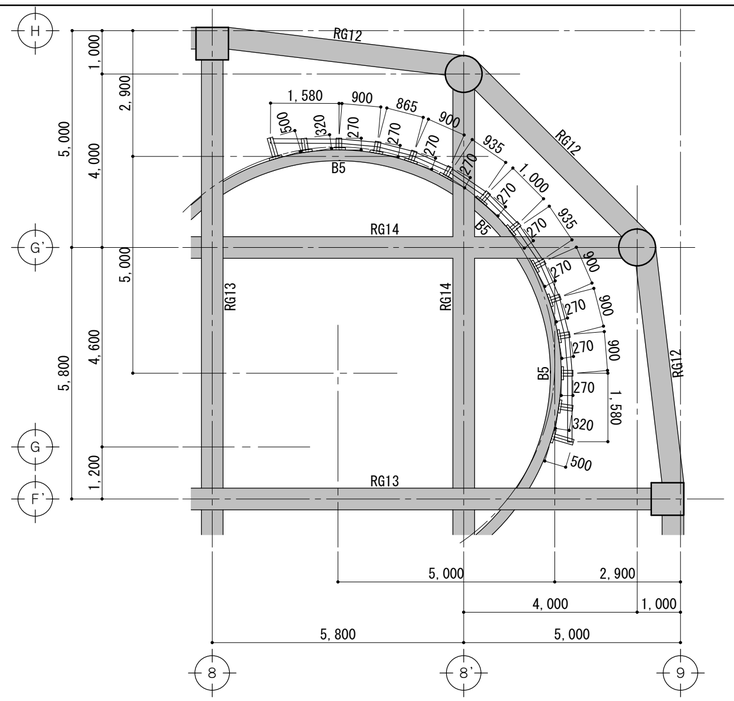


D断面図

断面詳細図　1/30

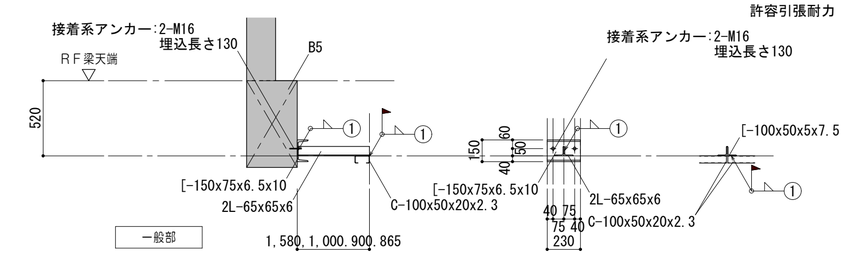
サッシ新設詳細図

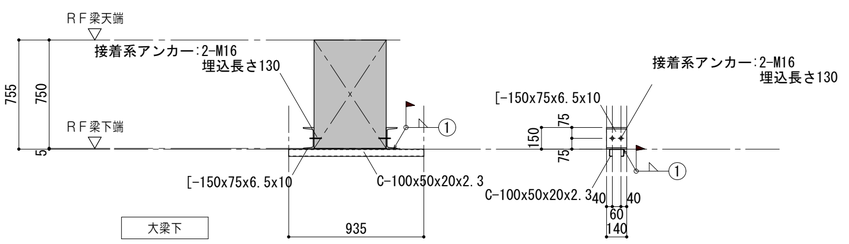
1/100.1/30

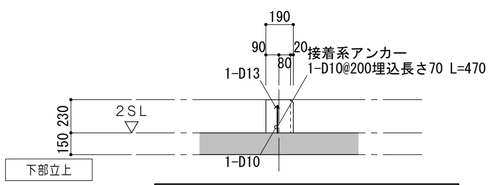


梁伏図　1/100

許容引張耐力　M16：36kN
D10：13kN





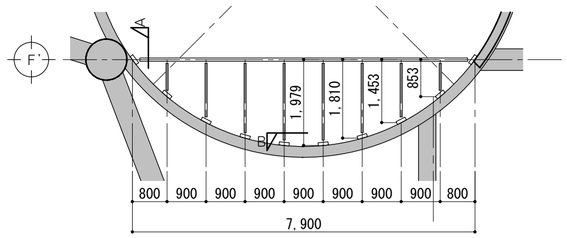


断面詳細図　1/30

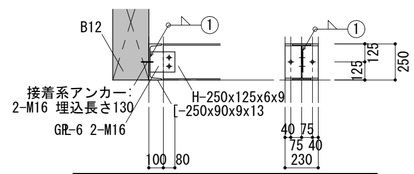
２階天井受鉄骨新設詳細図

1/30.100

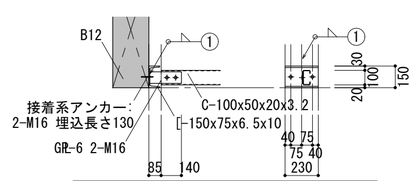
許容引張耐力　M16：36kN



３階伏図　1/100



A断面詳細図　1/30

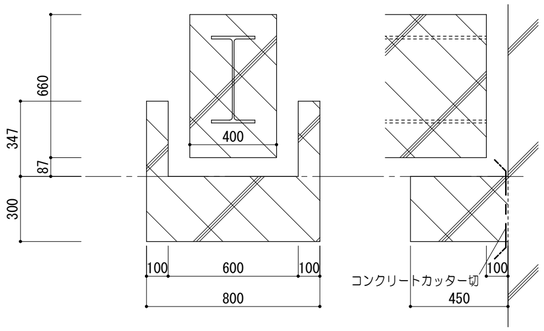


B断面詳細図　1/30

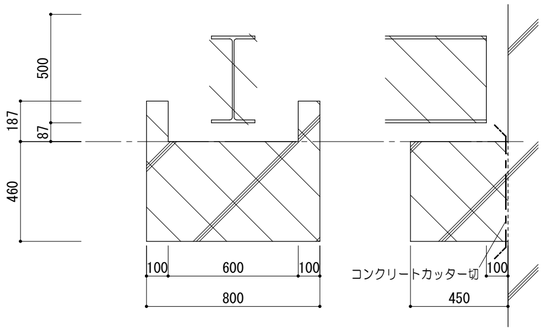
特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-045
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	各部詳細図No.4	縮尺	A2：1/30.100.300 A3：1/42.141.424

滑り支障撤去詳細図　1/20

F軸－3，4，5，6，7軸　5か所

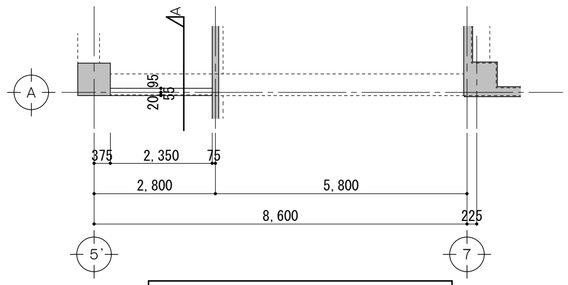


F軸－2軸／D，E軸－7軸　3か所

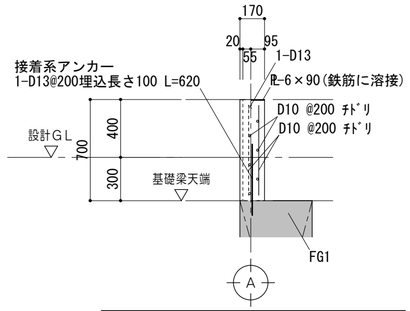


1階立上新設詳細図No.1　1/30.100

許容引張耐力　D13：29kN



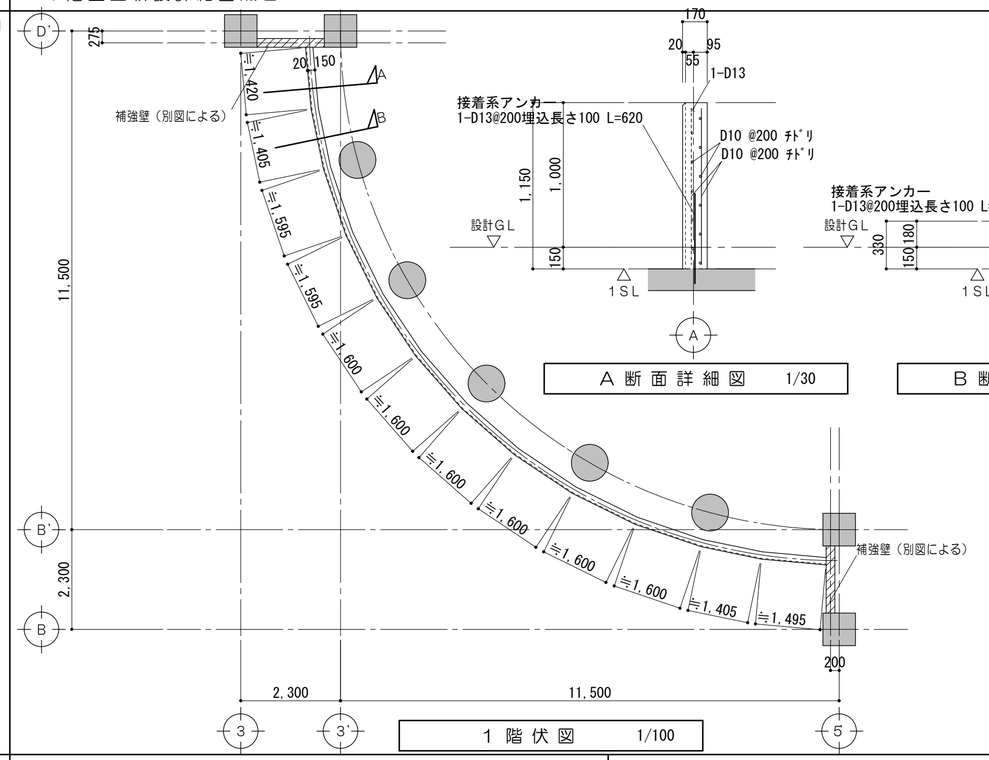
1階伏図　1/100



A断面詳細図　1/30

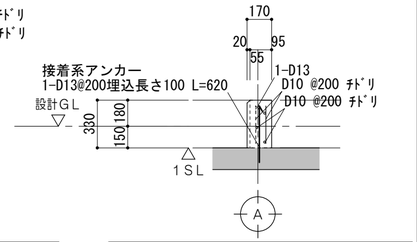
1階立上新設詳細図No.2　1/30.100

許容引張耐力　D13：29kN



1階伏図　1/100

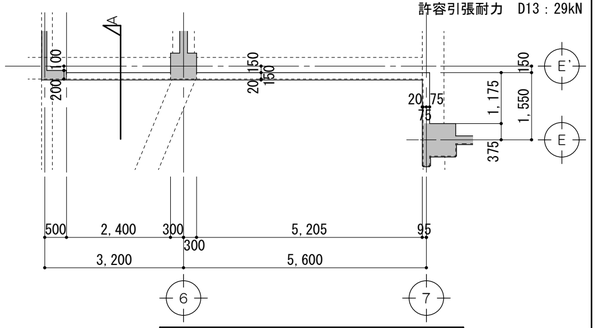
A断面詳細図　1/30



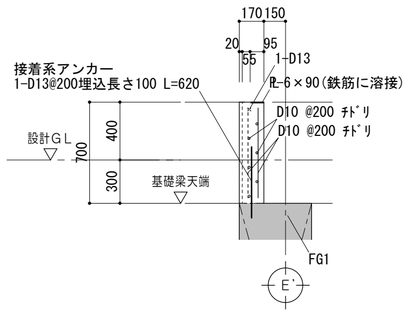
B断面詳細図　1/30

1階立上新設詳細図No.3　1/30.100

許容引張耐力　D13：29kN



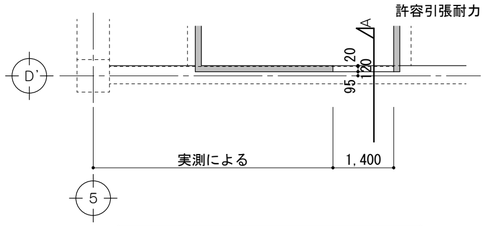
1階伏図　1/100



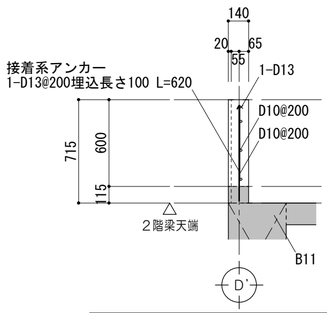
A断面詳細図　1/30

2階立上新設詳細図No.1　1/30.100

許容引張耐力　D13：29kN



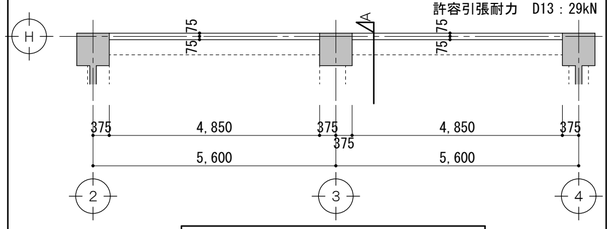
2階伏図　1/100



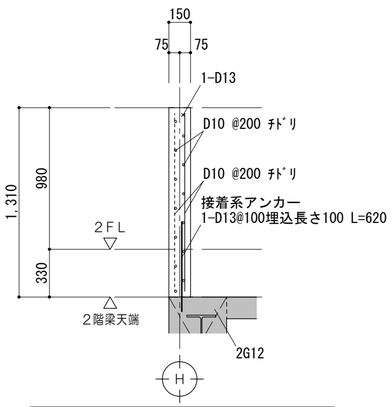
A断面詳細図　1/30

2階立上新設詳細図No.2　1/30.100

許容引張耐力　D13：29kN

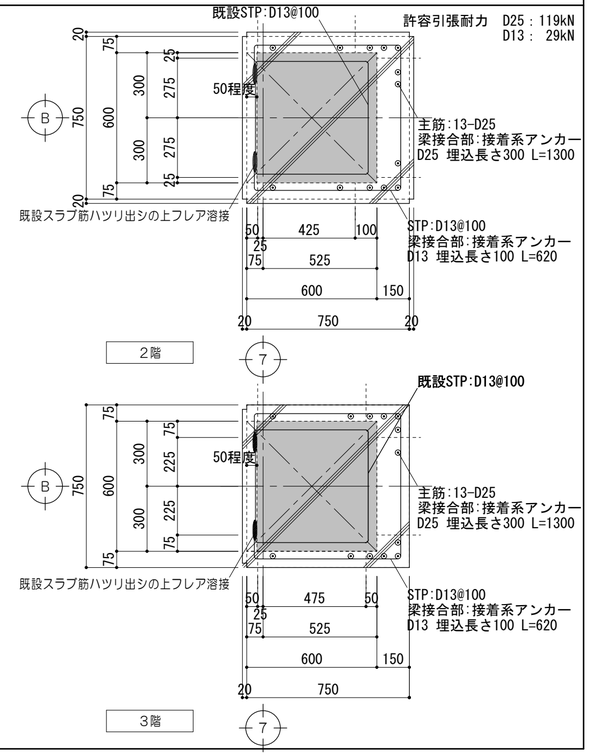


2階伏図　1/100



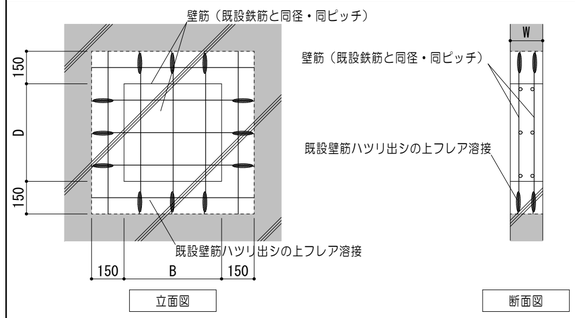
A断面詳細図　1/30

柱増打詳細図　1/20



特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-046
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	各部詳細図No.5	縮尺	A2：1/30.100 A3：1/42.141

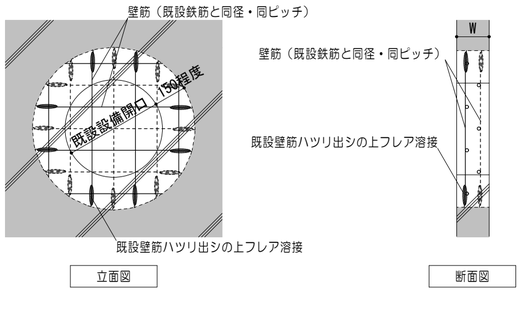
既設壁設備開口閉塞No.1　1/20.50



壁リスト　1/50

符号		W18
壁厚 W		180
断面		
タテ筋	外側	D10 @150
	内側	D10 @150
ヨコ筋	外側	D10 @150
	内側	D10 @150
設備開口寸法		B×D=450×450
備考		3階G通8’軸～9軸　1か所

既設壁設備開口閉塞No.2　1/20.50



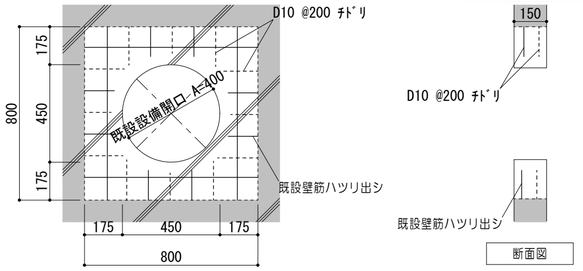
壁リスト　1/50

符号		DW25	W15
壁厚 W		ｱ250	ｱ150
断面			
タテ筋	外側	D16 @150	D10 @200 ﾁﾄﾞﾘ
	内側	D13 @150	D10 @200 ﾁﾄﾞﾘ
ヨコ筋	外側	D16 @200	D10 @200 ﾁﾄﾞﾘ
	内側	D13 @200	D10 @200 ﾁﾄﾞﾘ
設備開口寸法		A=200	A=450
備考		1階4通H軸～2か所	1階D’／4軸～B’／5軸　R壁3か所

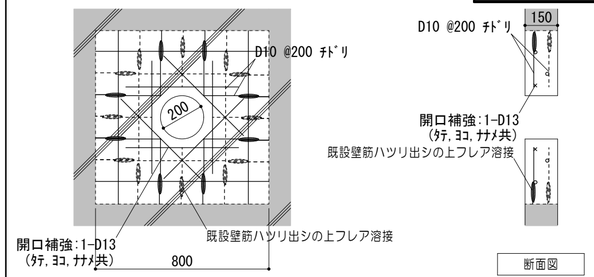
既設壁設備開口閉塞No.3　1/20

1階D’／4軸～B’／5軸　R壁　2か所

改修前

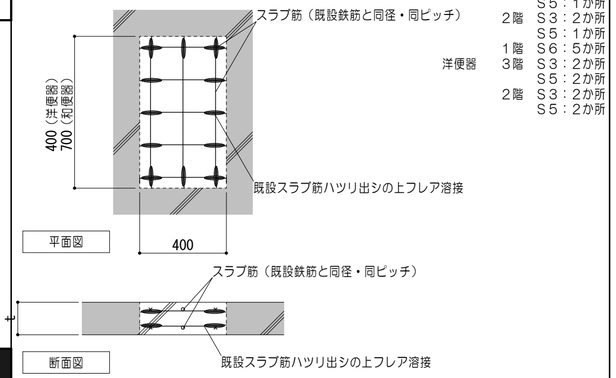


改修後



既設便器部閉塞詳細図　1/20

和便器　3階　S3：2か所
　　S5：1か所
　2階　S3：2か所
　　S5：1か所
　1階　S6：5か所
洋便器　3階　S3：2か所
　　S5：2か所
　2階　S3：2か所
　　S5：2か所

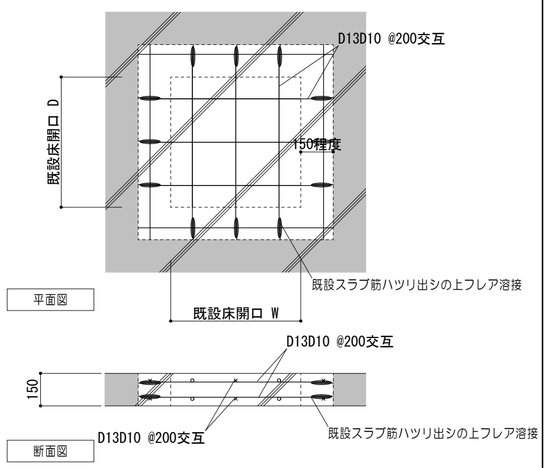


既設スラブリスト

符号	版厚t	位置	主筋（短辺方向） 端部	主筋（短辺方向） 中央	配力筋（長辺方向） 端部	配力筋（長辺方向） 中央
S3	200	上筋	D13D10 @200交互		D13D10 @200交互	
		下筋	D13D10 @200交互		D13D10 @200交互	
S5	150	上筋	D13D10 @200交互		D10 @200	
		下筋	D10 @200		D10 @200	
S6	150	上筋	D13D10 @200交互		D13D10 @200交互	
		下筋	D13D10 @200交互		D13D10 @200交互	

既設床設備開口閉塞No.1　1/20

設備開口WXD=1，400X1，000　3階　G’～H　軸間／8～8’軸間　1か所
設備開口WXD=　200X　300　3階　G’～H　軸間／8～8’軸間　1か所

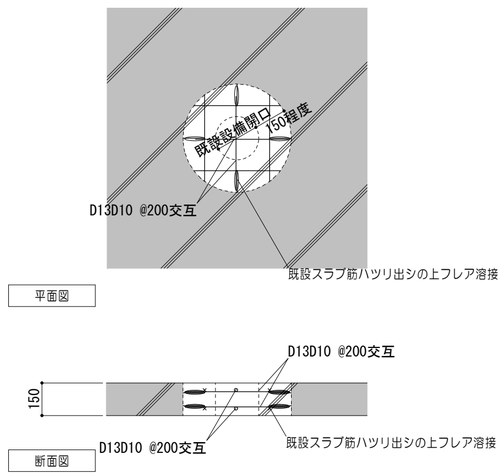


既設スラブリスト

符号	版厚t	位置	主筋（短辺方向） 端部	主筋（短辺方向） 中央	配力筋（長辺方向） 端部	配力筋（長辺方向） 中央
S5	150	上筋	D13D10 @200交互		D10 @200	
		下筋	D10 @200		D10 @200	

既設床設備開口閉塞No.2　1/20

既設設備開口A=250　3階　G　～G’　軸間／8’～9軸間　1か所
　　G’～H　軸間／8～8’軸間　1か所
既設設備開口A=200　3階　G’　～H軸間／8’～9軸間　1か所

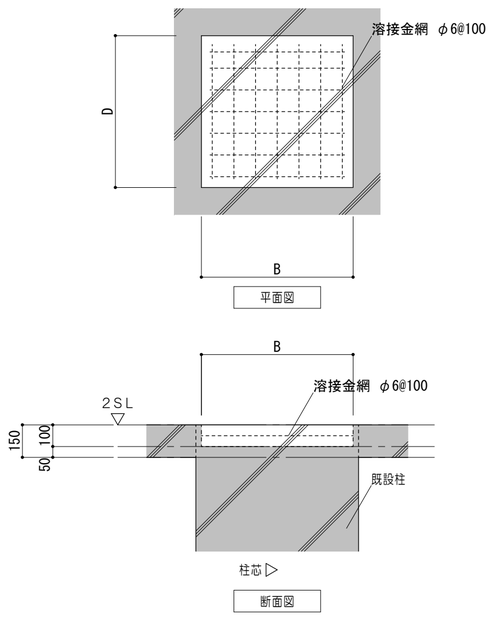


既設スラブリスト

符号	版厚t	位置	主筋（短辺方向） 端部	主筋（短辺方向） 中央	配力筋（長辺方向） 端部	配力筋（長辺方向） 中央
S5	150	上筋	D13D10 @200交互		D10 @200	
		下筋	D10 @200		D10 @200	

柱天端コンクリート詳細図　1/20

BXD=700X700　2階　B’～D’軸－3’～5’軸　9か所
BXD=600X700　2階　5’通／C・D軸　2か所
BXD=750X500　2階　D’軸－3軸、5’軸－A・B軸　3か所



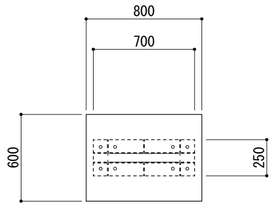
特記事項	

一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝

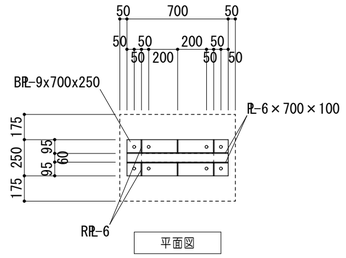
担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-047
担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	各部詳細図No.6	縮尺	A2：1/20.50 A3：1/48.71

サイン基礎詳細図No.１　1/30

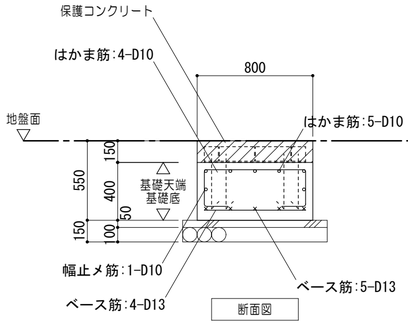
OS１　1か所
OS２　1か所



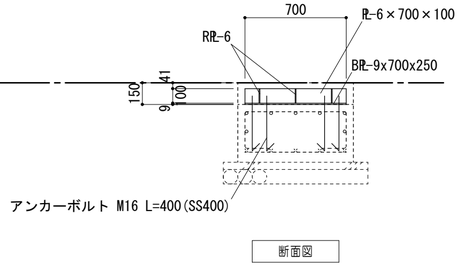
平面図



平面図



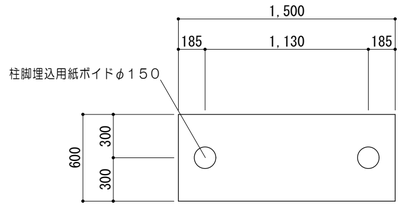
断面図



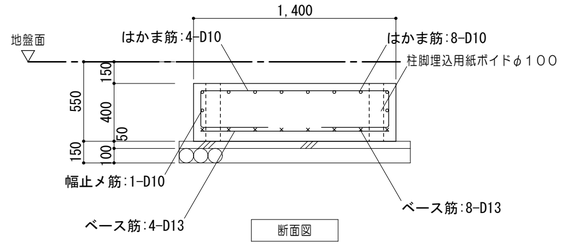
断面図

サイン基礎詳細図No.２　1/30

OS３　1か所



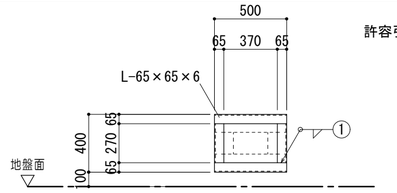
平面図

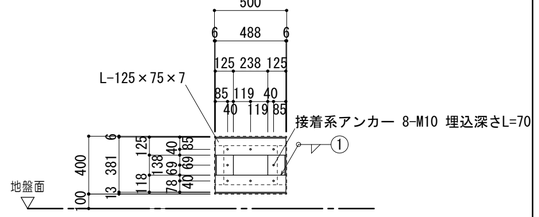


断面図

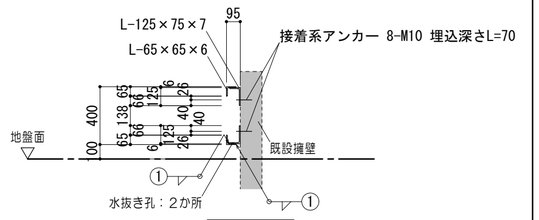
サイン基礎詳細図No.３　1/30

OS２　1か所
許容引張耐力　M10：13kN





立面図



断面図

※注記：鉄骨材はすべて溶融亜鉛めっきとする

特記事項		一級建築士事務所　三重県知事登録　第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士　一級建築士　第320204号　前野　将輝	担当	一級建築士　第117489号 前野　初像	担当	一級建築士　第360917号 前田　祐作	設計年月日	工事名称	阿児健康福祉センター大規模改修工事	図面番号	S-048
			担当	一級建築士　第307846号 三橋五百子	担当	一級建築士　第378328号 加藤　早妃	令和4年6月24日	図面名称	外構詳細図	縮尺	A2：1/30 A3：1/48.71